清武町埋蔵文化財調査報告書 第21集

NUMERIKAWA

滑川第1遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2006

清武町教育委員会

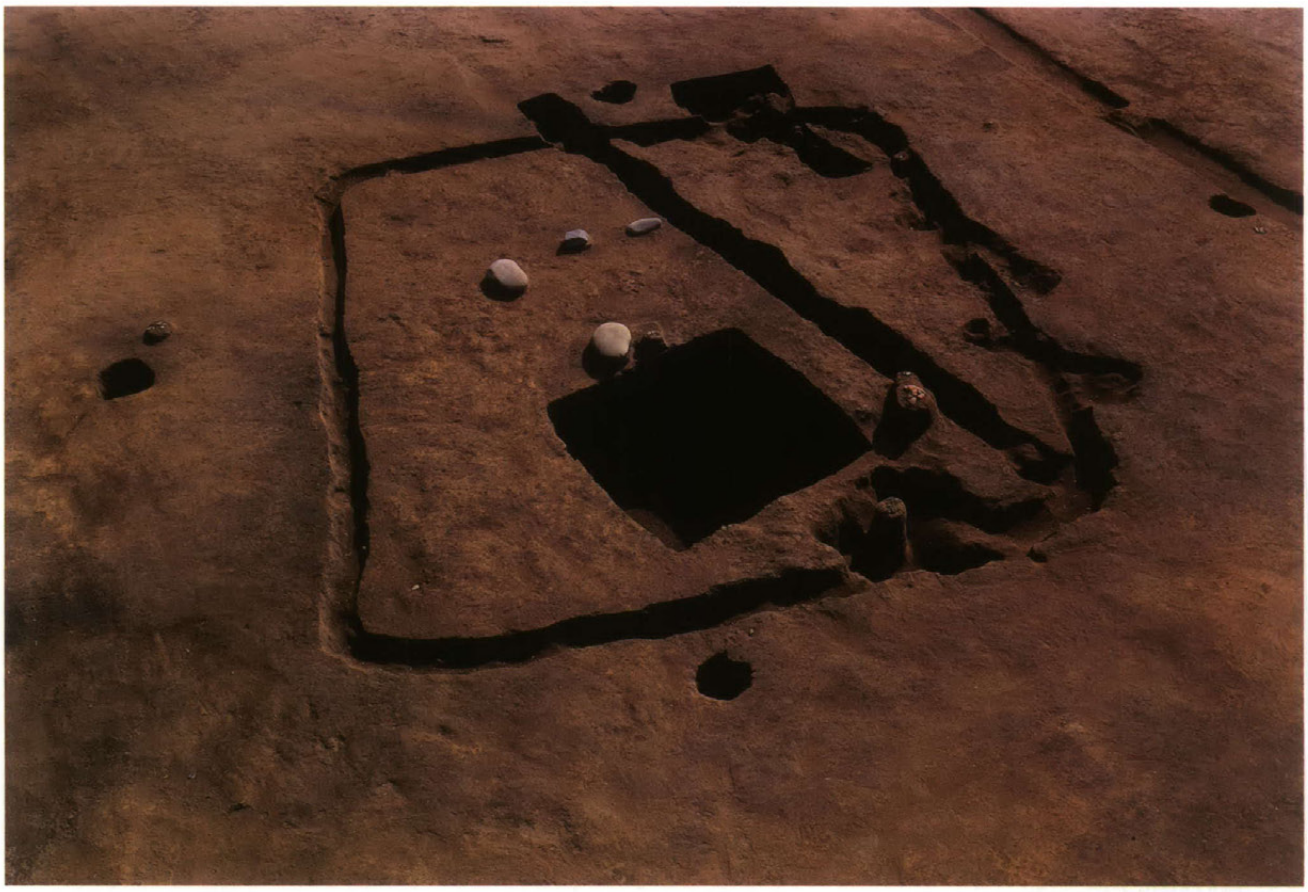
平成９年度調査区

平成 10 年度調査区

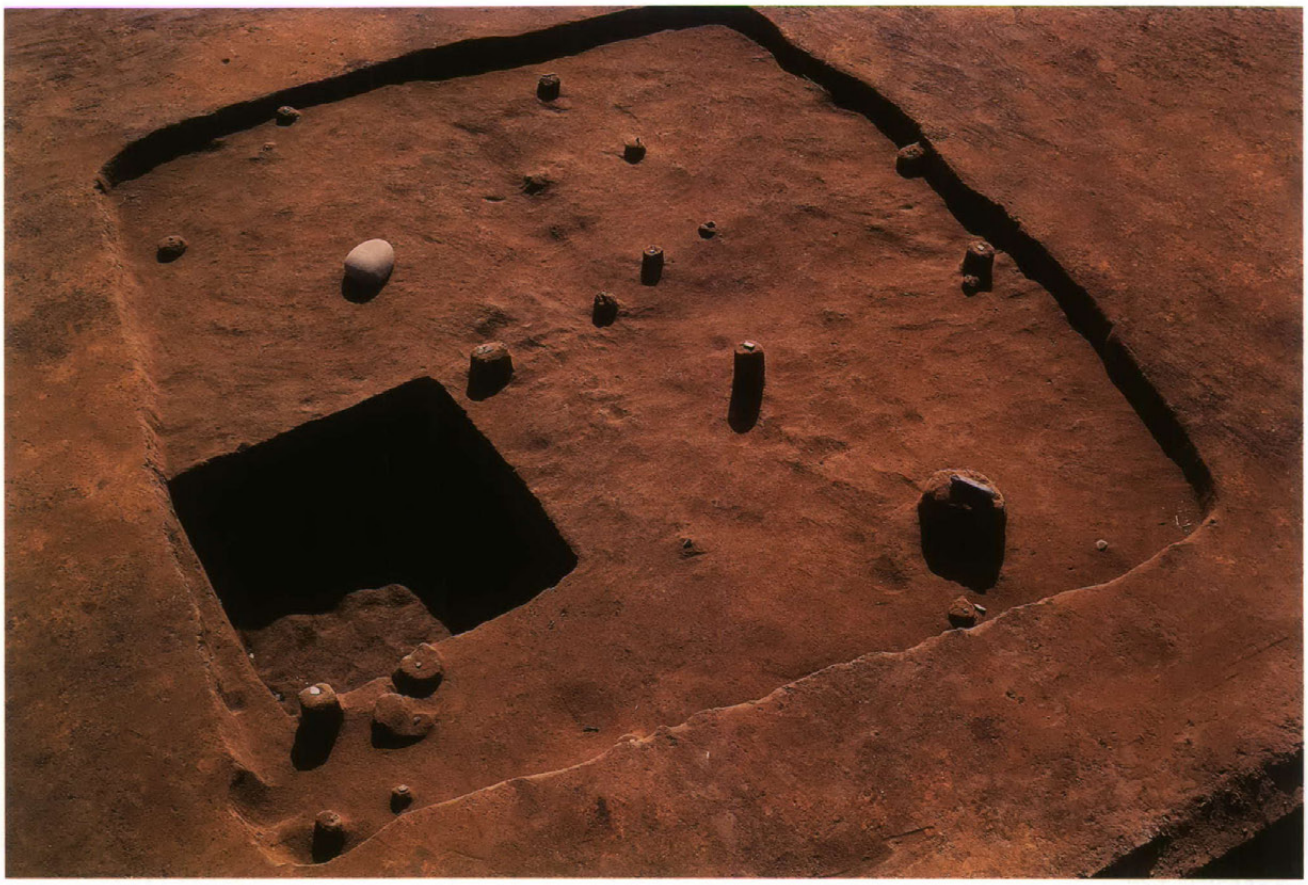
SI-36《^{14}C年代：8380±70年BP》・SI-38《^{14}C年代：8410±70年BP》

SI-26《^{14}C年代：5470±80年BP》

巻頭カラー2



SA-1《遺物出土状況》



SA-2《遺物出土状況》

曽畑式土器（滑石混入） 第Ⅲ章 No. 132

曽畑式土器（滑石混入）　第Ⅲ章　No. 131

曽畑式土器（滑石混入）　第Ⅲ章　No. 114

姫島産黒曜石製石器（第５図Ⅲ層出土）

蛇紋岩製磨製石斧（第５図Ⅲ層出土）

序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成９・10年度事業区で実施した滑川第１遺跡の発掘報告書です。

本遺跡の所在する船引台地では、近年発掘調査が相次いでおり、旧石器時代から中世にいたる幅広い時期の資料が数多く確認されています。なかでも今回調査を実施した滑川第１遺跡では、今から約8000年前に蒸し焼き料理を行った直径2.1ｍを超える集石遺構やツルツルとした滑石を含む曽畑式土器、そして重さ825ｇもある大分県姫島産の黒曜石を石材とした石核など県内でもほとんど発見例のない貴重な資料が幾つも得られています。

これら土の中で眠っていた資料が、発掘調査により再び光に照らされることで、私たちに先人たちが残してくれた知恵や文化に触れる機会を与えてくれます。そしてその出会いが、現代人が失いかけている心豊かな生活を見つめ直す大きなきっかけとなり、活力ある未来の創造へと繋がっていくことを信じ、今後も文化財保護行政に真摯に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様並びに関係各局に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成18年9月

清武町教育委員会

教育長　水元　三千夫

例　言

1. 本書は、県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、平成９・10年度に実施された滑川第１遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査における測量･実測については、井田篤･松原一哉及び実測補助員が行った。
実測補助員：　（50音順）

3. 遺物･図面の整理及び報告書作成業務については、一部を平成９・10年度に清武町文化財管理事務所で実施し、残りを平成18年度に清武町埋蔵文化財センターで実施した。
平成９・10年度
担　　当：伊東但、井田、松原
整理作業員：　（50音順）
平成18年度
担　　当：井田、秋成雅博、今村結記
整理作業員：
（50音順）

4. 本書で使用した写真については、調査に関するものは井田･松原が撮影し、報告書掲載遺物については井田･秋成･今村が撮影した。又、空中写真については㈱スカイサーベイに委託した。

5. 放射性炭素年代測定については、㈱古環境研究所に委託した。分析結果については、本書P130からP132に掲載している。尚、本書で使用している放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正^{14}C年代である。

6. 石器実測及びトレースについては、一部をアイシン精機株式会社新規事業企画室に委託した。なおこれらの委託業務の監修については秋成が行った。

7. 本書で使用した土層及び土器等の色調については、『新版　標準土色帖(1997年後期版)』の土色に準拠した。

8. 本書では、磁北と座標北の２種類の方位を使用した。(座標北を用いる場合のみG･Nと表示している。)
又、標高については海抜絶対高である。

9. 本書に使用した記号は次のとおりである。
SI：集石遺構　SC：土坑（炉穴も含む）　SA：竪穴式住居跡　SX：不明遺構

10. 本書に使用した包含層出土遺物番号及び遺構内出土遺物番号については、章ごとに表記している。
(第Ⅱ章　包含層出土遺物：No.1～236、第Ⅲ章　遺構内出土遺物：No.1～16、包含層出土遺物:No.1～382)

11. 本書に使用した土層番号は、第５図（P10）の土層番号を使用している。

12. 本書の執筆と編集については井田･秋成･今村が担当し、文責については本文目次に記している。

13. 出土遺物その他諸記録は、清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

第Ⅰ章　はじめに　（文責）

第１節　調査に至る経緯と調査組織……1　井田
1.　調査に至る経緯……1　〃
2.　調査組織……1　〃
第２節　遺跡の環境……1　〃
1.　地理的環境……1　〃
2.　歴史的環境……1　〃
3.　周辺遺跡……5　〃
第３節　調査の経過と方法……5　〃
1.　調査の経過……5　〃
2.　調査の方法……5　〃
第４節　基本土層……7　〃

第Ⅱ章　縄文時代早期についての調査

第１節　遺構……9　井田
1.　集石遺構……9　〃
2.　炉穴……19　〃
3.　土坑……19　〃
第２節　包含層出土遺物……25
1.　土器……25　井田
2.　石器……36　秋成

第Ⅲ章　アカホヤ火山灰層上位についての調査

第１節　遺構……60
1.　集石遺構……60　井田
2.　竪穴式住居跡……63　今村
3.　土坑……68　井田・今村
第２節　包含層出土遺物……74
1.　縄文土器……74　井田
2.　弥生時代以降の土器……95　今村
3.　石器……97　秋成

第Ⅳ章　まとめ

集石遺構の使用時期と土器形式別出土状況の関係について……128　井田
アカホヤ火山灰降灰前後の石器の比較……129　秋成
滑川第１遺跡における自然科学分析……130～132

調査抄録……133

挿　図　目　次

第 1 図	遺跡位置図	S=1/25000…… 2
第 2 図	滑川第 1 遺跡周辺地形図	S=1/5000……3・4
第 3 図	調査区グリッド図	S=1/1500…… 6
第 4 図	土層断面図①《谷部》	S=1/100…… 8
第 5 図	土層断面図②《平坦部》	S=1/30…… 8
第 6 図	縄文時代早期集石遺構実測図①	S=1/30……12
第 7 図	縄文時代早期集石遺構実測図②	S=1/30……13
第 8 図	縄文時代早期集石遺構実測図③	S=1/30……14
第 9 図	縄文時代早期集石遺構実測図④	S=1/30……15
第 10 図	縄文時代早期集石遺構実測図⑤	S=1/30……16
第 11 図	縄文時代早期集石遺構実測図⑥	S=1/30……17
第 12 図	縄文時代早期集石遺構実測図⑦	S=1/30……18
第 13 図	縄文時代早期炉穴実測図①	S=1/30……20
第 14 図	縄文時代早期炉穴実測図②	S=1/30……21
第 15 図	縄文時代早期土坑実測図①	S=1/30……22
第 16 図	縄文時代早期土坑実測図②	S=1/30……23
第 17 図	縄文時代早期遺構配置図	S=1/1250……24
第 18 図	縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図	S=1/1250……27
第 19 図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①	S=1/3……28
第 20 図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②	S=1/3……29
第 21 図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③	S=1/3……30
第 22 図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④	S=1/3……31
第 23 図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤	S=1/3……32
第 24 図	縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥	S=1/3……33
第 25 図	縄文時代早期遺物包含層出土主要石器（器種別）分布図	S=1/1200……37
第 26 図	縄文時代早期遺物包含層出土主要石器（石材別）分布図	S=1/1200……38
第 27 図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①	S=2/3……39
第 28 図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②	S=2/3……40
第 29 図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③	S=2/3……41
第 30 図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④	S=1/2……42
第 31 図	縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤	S=1/2……43
第 32 図	アカホヤ火山灰層上位検出遺構配置図	S=1/1250……61
第 33 図	アカホヤ火山灰層上位検出集石遺構実測図	S=1/30……62
第 34 図	SA － 1 実測図	S=1/60……64
第 35 図	SA － 2 実測図及び住居址内出土遺物実測図①	S=1/60・1/3・2/3……65
第 36 図	住居址内出土遺物実測図②	S=1/3・1/4……66
第 37 図	SC － 195 実測図	S=1/30・1/3……68
第 38 図	SC － 23・SC － 196 実測図	S=1/30……69
第 39 図	SX － 1 実測図	S=1/60……70

第40図　アカホヤ火山灰層上面検出土坑（ピットと切り合うタイプ）実測図①　S=1/30……72
第41図　アカホヤ火山灰層上面検出土坑（ピットと切り合うタイプ）実測図②　S=1/30……73
第42図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器分布図　S=1/1250……77
第43図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図①　S=1/3……78
第44図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図②　S=1/3……79
第45図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図③　S=1/3……80
第46図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図④　S=1/3……81
第47図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑤　S=1/3……82
第48図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑥　S=1/3……83
第49図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑦　S=1/3……84
第50図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑧　S=1/3……85
第51図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑨　S=1/3……86
第52図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑩　S=1/3……87
第53図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑪　S=1/3……88
第54図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑫　S=1/3……89
第55図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器（弥生時代以降）実測図　S=1/3……96
第56図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土主要石器（器種別）分布図　S=1/1200……98
第57図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図①　S=2/3……99
第58図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図②　S=2/3…… 100
第59図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図③　S=2/3…… 101
第60図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図④　S=1/2…… 102
第61図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図⑤　S=1/2…… 103
第62図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図⑥　S=1/2…… 104

写真図版目次

写真図版1　土層断面①（谷部）……7
写真図版2　土層断面②（平坦部）……7
写真図版3　縄文時代早期遺構①……46
写真図版4　縄文時代早期遺構②……47
写真図版5　縄文時代早期遺構③……48
写真図版6　縄文時代早期遺構④……49
写真図版7　縄文時代早期遺物包含層出土土器①……50
写真図版8　縄文時代早期遺物包含層出土土器②……51
写真図版9　縄文時代早期遺物包含層出土土器③……52
写真図版10　縄文時代早期遺物包含層出土土器④……53
写真図版11　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤……54
写真図版12　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥……55
写真図版13　縄文時代早期遺物包含層出土石器①……56
写真図版14　縄文時代早期遺物包含層出土石器②……57
写真図版15　縄文時代早期遺物包含層出土石器③……58

写真図版 16　縄文時代早期遺物包含層出土石器④……59
写真図版 17　アカホヤ火山灰層上位検出遺構①……106
写真図版 18　アカホヤ火山灰層上位検出遺構②……107
写真図版 19　アカホヤ火山灰層上位検出遺構③……108
写真図版 20　アカホヤ火山灰層上位検出遺構内出土遺物……109
写真図版 21　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器①……110
写真図版 22　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器②……111
写真図版 23　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器③……112
写真図版 24　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器④……113
写真図版 25　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑤……114
写真図版 26　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑥……115
写真図版 27　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑦……116
写真図版 28　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑧……117
写真図版 29　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑨……118
写真図版 30　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑩……119
写真図版 31　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑪……120
写真図版 32　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑫……121
写真図版 33　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器（弥生時代以降）……122
写真図版 34　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器①……123
写真図版 35　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器②……124
写真図版 36　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器③……125
写真図版 37　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器④……126
写真図版 38　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器⑤……127

表　目　次

第 1 表　集石遺構（縄文時代早期）観察表……11
第 2 表　炉穴観察表……20
第 3 表　滑川第 1 遺跡及び近隣遺跡における縄文時代早期土器の形式別出土割合表……26
第 4 表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表……33 ～ 35
第 5 表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表……44・45
第 6 表　集石遺構（アカホヤ火山灰層上位検出）観察表……60
第 7 表　SI － 21 出土土器観察表……60
第 8 表　住居址内出土遺物観察表……67
第 9 表　SC － 195 出土土器観察表……68
第 10 表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器観察表……90 ～ 94
第 11 表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器 (弥生時代以降) 観察表……95
第 12 表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器計測分類表①……97
第 13 表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器計測分類表②……105
第 14 表　滑川第 1 遺跡出土石器製品の割合……129
第 15 表　滑川第 1 遺跡出土石鏃の使用石材の割合……129

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯と調査組織

1. 調査に至る経緯

平成７年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、事業区に滑川第１遺跡の一部が含まれることが宮崎県教育委員会文化課の試掘結果等により明らかになった。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会文化課、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会など関係各局で協議を重ねた結果、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区について、宮崎県中部農林振興局からの委託を受けた清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

調査は平成９年度・10年度の２ヶ年度にわたって行われ、それぞれの調査期間は平成９年度が平成９年５月６日から平成９年10月14日、平成10年度が平成10年５月６日から平成11年３月31日であった。

尚、調査面積については、平成９年度が8,320㎡で平成10年度が9,300㎡、計17,620㎡であった。

2. 調査組織

調査主体　　清武町教育委員会

調　査（平成９年度）		調　査（平成10年度）		整理作業（平成18年度）	
事　務　局		**事　務　局**		**事　務　局**	
教育長	湯地　敏郎	教育長	湯地　敏郎	教育長	水元　三千夫
教育次長	谷口　忠誓	教育次長	清　俊郎	教育次長	小城　員久
社会教育課長	戸高　輝利	社会教育課長	戸高　輝利	生涯学習課長	落合　兼雄
〃補佐兼文化係長	落合　兼雄	〃補佐兼文化係長	落合　兼雄	〃　補佐	窪田　清士
〃　主任	川越　健	〃　主任	川越　健	〃　係長	伊東　但
調　査　員		**調査員**			
社会教育課主任	伊東　但	社会教育課主任	伊東　但	生涯学習課主任	井田　篤
社会教育課主事	井田　篤	社会教育課主事	井田　篤	生涯学習課主事	秋成　雅博
		社会教育課嘱託	松原　一哉	生涯学習課嘱託	今村　結記
				生涯学習課嘱託	平山　景将

第２節　遺跡の環境

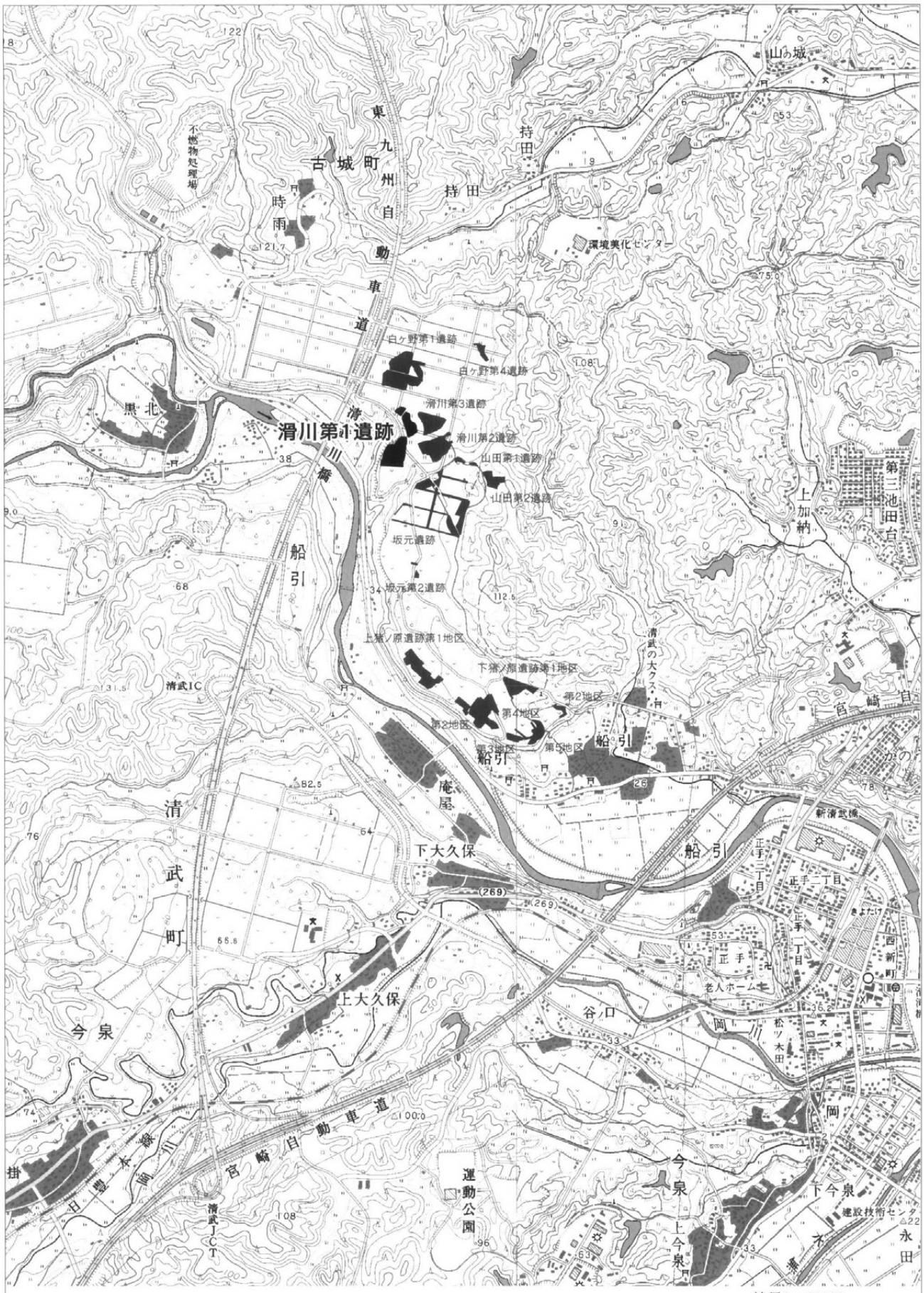
1. 地理的環境

清武町は、県内最大の宮崎平野の南端に位置し、県都宮崎市の南西に隣接している。町内ほぼ中央には清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられその上位には台地が発達している。

滑川第１遺跡は、町内西方の標高約80m～85mの台地上に位置している。この台地は、大淀川南岸丘陵とよばれる四万十層群からなる標高200m～400m丘陵が、高岡方面から東に向かってしだいに低くなり平坦な台地地形へと変化したもので、地質は宮崎平野の基盤である宮崎層群の上位にシラスなどの火山灰等が堆積して形成されたものである。尚、このシラス台地上及び崖面には、湧水点が数多く点在しており、遺跡が立地するうえでの好条件の一つであった考えられる。

2. 歴史的環境

滑川第１遺跡は、清武町内船引地区に所在する。船引の名が歴史上に登場するのは古代末から中世にかけて



*旧日本測地系による

縮尺1：25000

0　0.5　1.0km

第１図　遺跡位置図（S=1/25000）

第２図　滑川第１遺跡周辺地形図（S=1/5000）

である。建久８（1197）年鎌倉幕府が各国の現地役人に命じて作成させた『建久の図田帳』には、「船曳五十町、右宮崎郡内　弁済使法印、不知實名、」とあり、平安末には宇佐八幡宮と強い結びつきをもった荘園がこの地に存在していたのではないかと推測される。

室町・戦国期においては、この地は主に伊東氏の所領であったが、豊臣秀吉の九州征伐後高橋元種の所領となり、江戸時代初期には幕府領（天領）となっている。加納・木原・今泉といった清武町内の他の地区は、秀吉により伊東祐兵に与えられ江戸時代を通じて飫肥藩領であったため、現在の清武町においては船引地区だけが異なる支配体制のもと近世という時を刻んだこととなる。

明治維新後は、船引村として清武郡治所の管轄下となり、明治24（1891）年には清武村、昭和25（1950）年には清武町の一地区として、現在も発展を続けている。

又、江戸時代の中期には定着していた“船引神楽”は、主に稲作豊穣と子孫繁栄を祈願して春（春分の日）に奉納される作祈祷神楽であるが、数多くの番数が今も尚伝承されていることから、県の無形民俗文化財に指定されている。

3. 周辺遺跡

滑川第1遺跡が立地する台地上では、平成３年頃から県営農地保全整備事業（時屋工区）、東九州自動車建設、県営農地保全整備事業（船引工区）などの大型公共工事が相次いでいる。

それに伴い発掘調査が実施された遺跡は20遺跡を数え（平成17年度現在）、旧石器から近世まで貴重な資料が多数確認されている。特に、台地上という地形からか、狩猟･採集を主な生業としていた縄文時代早期の遺構･遺物がすべての遺跡で確認されている。

第３節　調査の経過と方法

1. 調査の経過

重機による表土の剥ぎ取り後、まずアカホヤ火山灰層残存範囲において、遺物の取り上げ作業と遺構の検出作業を行った。アカホヤ火山灰層上位の遺物包含層からは、縄文時代前期の遺物を中心に縄文時代から古代にかけての遺物が出土した。又、遺構については、縄文時代前期から中期の集石遺構や弥生時代の竪穴式住居跡などが検出されため、遺物の取上げ作業と並行して遺構の記録作業を実施した。

縄文時代前期以降についての調査終了後、重機によりアカホヤ火山灰層を除去、つづいて縄文時代早期及び草創期についての調査を実施した。検出された遺構としては、集石遺構、炉穴、土坑などが挙げられるが、特に集石遺構については当台地最大級のものも検出され、記録にはかなりの時間と労力を費やすこととなった。

又、草創期については、遺物が数点出土したが、この時期の遺構として断定できるようなものは確認されなかった。

尚、基本的な調査過程については、平成９年度･10年度いずれもほぼ上記のとおりである。

2. 調査の方法

表土等の剥ぎ取り：調査員の指示のもと重機を使用して実施した。

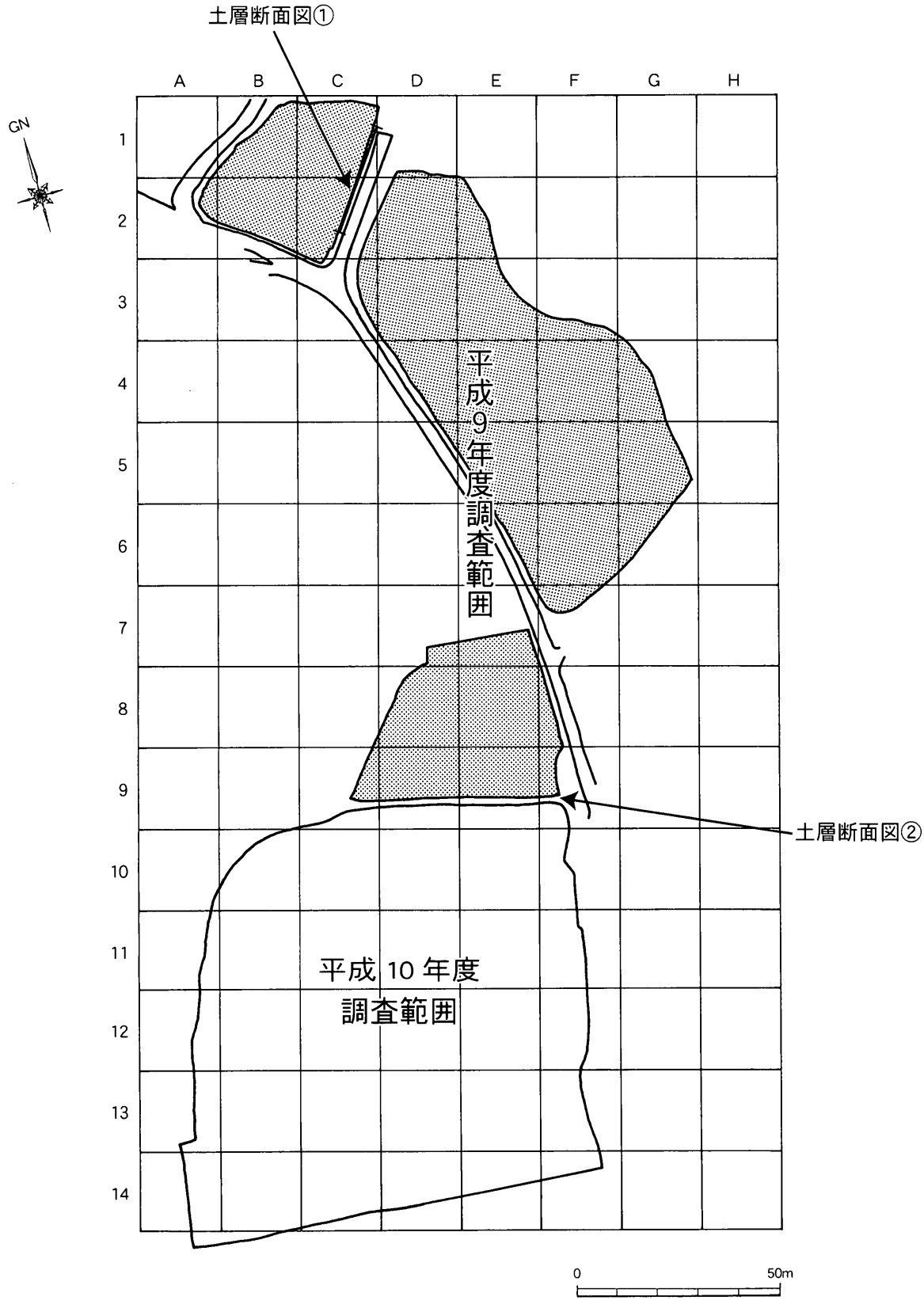
基準杭の設定：ほとんどは業者に委託し、補助的な部分は調査員が行った。

遺物包含層の掘り下げ作業：主にジョレン・ねじり鎌で行なった。包含層中に存在する遺構の検出作業も兼ねているので、一枚一枚包含層を剥ぐ意識を作業員に徹底させ丁寧に行なった。

遺構実測：遺構のサイズに応じて1/10又は1/20で作図した。

測量関係：光波測量器及びデータコレクタを使用し、現場でデータを収集した後、清武町文化財管理事務所（現清武町埋蔵文化財センター）において、AUTOCAD を利用してデジタルデータとして整理・管理した。

写真撮影：6×6・6×9版モノクロ・リバーサル、35mmモノクロ・リバーサル写真を併用し空中写真については業者に委託した。



第３図　調査区グリッド図（S=1/1500）

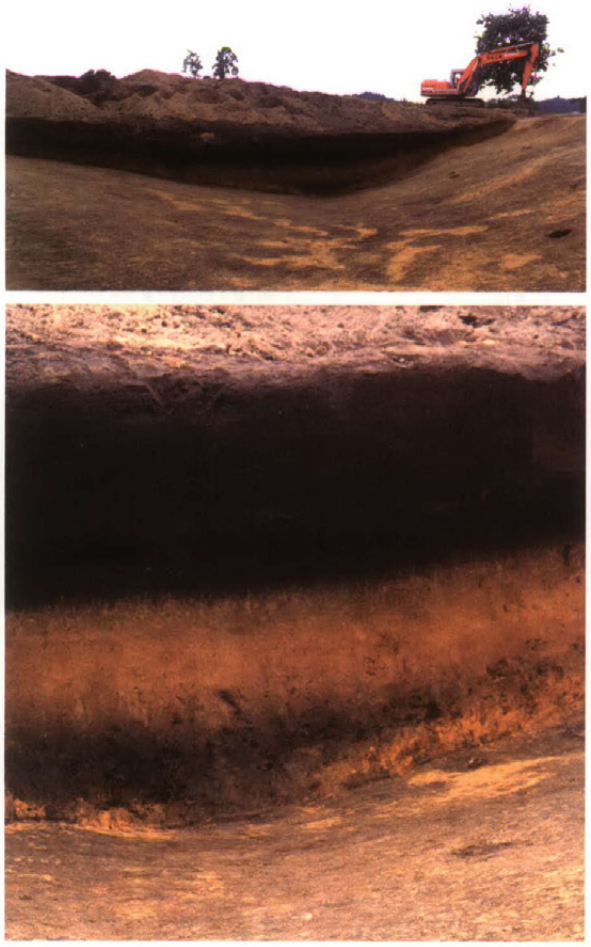
第４節　基本土層

今回の調査では、谷部と平坦部という異なる地形の２地点で基本土層の記録作業を行った（第３図　調査区グリッド図参照）。

谷部の堆積状況については、主に表土からアカホヤ火山灰層の間の土層に注目し（写真図版１　土層断面図①、第４図　土層断面図①　参照）観察･記録作業を行い、平坦部については、主にアカホヤ火山灰層からシラス層までの土層に注目し（写真図版２　土層断面図②、第５図　土層断面図②　参照）観察･記録作業を行った。これは当台地における「旧地形が平坦な場所は、現代耕作の影響等によりアカホヤ火山灰層上位の（残存する）堆積が薄く、谷部はアカホヤ火山灰層上位が堆積し易くなおかつ削られにくい」という堆積状況が当遺跡でも確認されたためである。

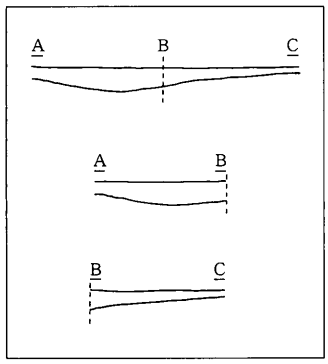
又、先述のとおり（第Ⅰ章･第３節･１．調査の経過）当遺跡ではアカホヤ火山灰層上位において、縄文時代前期から中期にかけての集石遺構や弥生時代の竪穴式住居跡が検出されたが、集石遺構の掘り込み内の埋土については第４図Ⅳ層が、竪穴式住居跡の埋土については第４図Ⅲ層が主たる土質となるのではないかと考えられる。

又、集石遺構や炉穴などの縄文時代早期遺構の埋土については、第５図Ⅵ層が主たる土質ではないかと推測されるが、なかにはⅤ層やⅨ層（霧島･小林火山灰）の小ブロックが入り込んでいるケースも確認されている。



写真図版1　土層断面①（谷部）

写真図版2　土層断面②（平坦部）



Ⅰ：耕作土　　**Ⅱ：茶黒色シルト質ローム層**

(1)　白色パミスを含む。

(2)　(1)よりも多くの白色パミスを含む。＝ジャリジャリした質感有り。

(3)　(2)とⅢ層の混土。

(4)～(7)　Ⅱ層のなかでは、やや黒め。白色パミスを含むが、各層若干の差有り。

Ⅲ：茶褐色シルト質ローム層

(1)　白色パミスを多く含む。又、炭化粒を含む。

(2)～(4)　やや黄褐色気味。パミスをわずかに含むが、各層若干の差有り。又、炭化粒を含む。

(5)　白色パミスを極わずかに含む。又、炭化粒を含む。

Ⅳ：黒色シルト質ローム層

(1)　やや軟質。

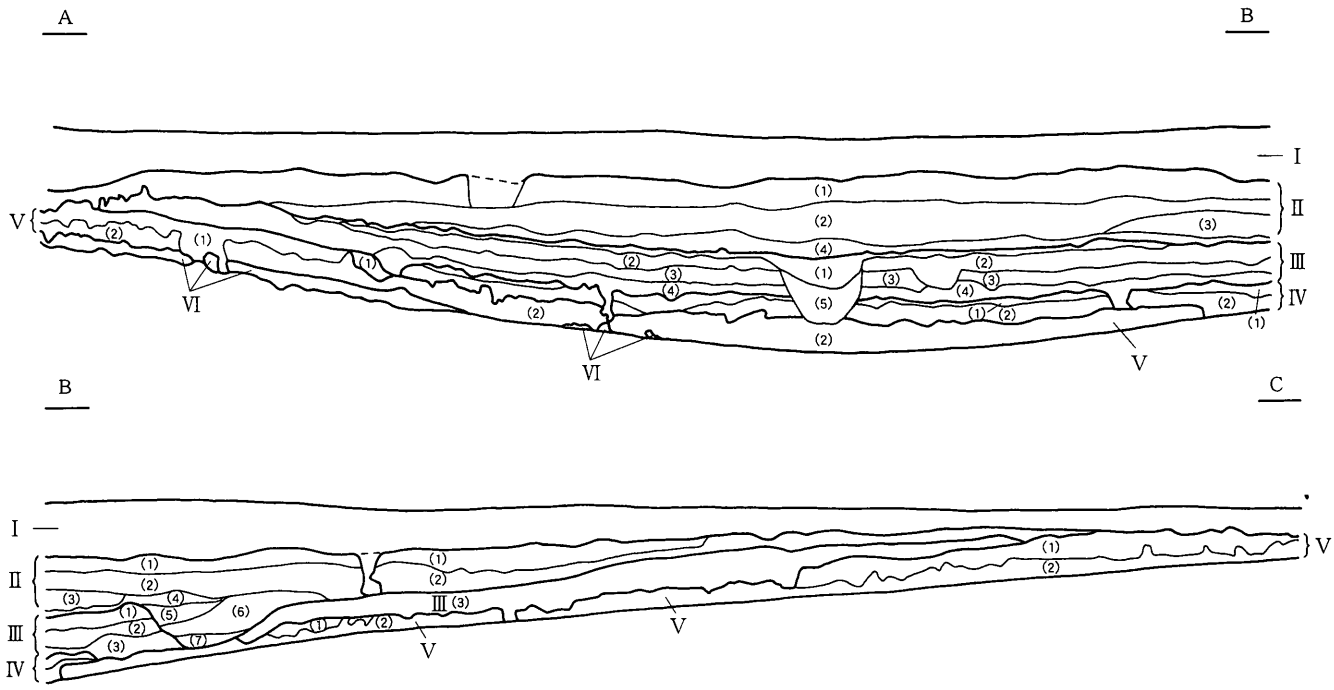
(2)　硬質。炭化粒を含む。

Ⅴ：アカホヤ火山灰層

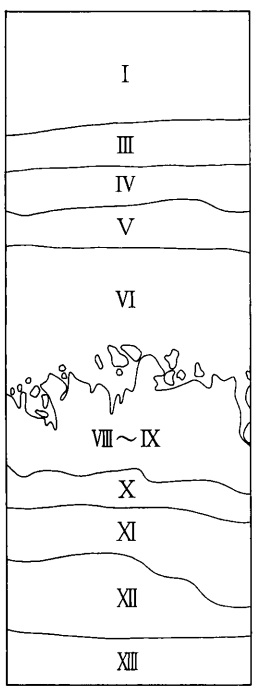
(1)アカホヤ火山灰風化層

(2)アカホヤ火山灰層

Ⅵ：黒褐色シルト質ローム層（＝第５図　Ⅴ層と同層）



第4図　土層断面図①《谷部》(S=1/100)



Ⅰ：耕作土

Ⅲ：アカホヤ火山灰風化層（＝通称「2次アカ」）

Ⅳ：アカホヤ火山灰層　7.5YR5/6（明褐色）

Ⅴ：黒褐色シルト質ローム層　10YR3/2（黒褐色）　やや硬質

Ⅵ：褐色シルト質ローム層　10YR4/4（褐色）

Ⅷ～Ⅸ：Ⅸは霧島・小林火山灰層で、Ⅷはその風化層

＊かなり硬質で、クラックにⅥ層が入り込む

Ⅹ：暗褐色シルト質ローム層

ⅩⅠ：褐色シルト質ローム層

ⅩⅡ：ⅩⅠにシラスを含む

ⅩⅢ：シラス

(注1)　Ⅱ・Ⅶ層については、当台地基本土層と整合性を持たせるため設けていない。

(注2)　当報告書における土層番号の表記は、基本的に第５図土層断面②《平坦部》の番号である。
ただし、例外がある場合はその都度表記している。

第5図　土層断面図②《平坦部》(S=1/30)

第Ⅱ章　縄文時代早期についての調査

第1節　遺　構

今回の調査において確認された縄文時代早期の遺構は、集石遺構33基、炉穴４基、土坑９基である。

記録図面については、調査期間などの諸条件を考慮して、集石遺構が使用礫･掘り込みともに「平面図」+「両断面図」（SI-38のみは例外で「平面図」+「両断面見通し図」）、炉穴･土坑が「平面図」+「両断面見通し図」、という内容で作成した。

1.　集石遺構

集石遺構については計33基検出されたが、検出状況としては以下のとおりである。

①表土剥ぎ取り後既にⅤ層～Ⅵ層が露出(現代耕作の影響)していた範囲で、集石遺構の一部が破壊される状態で検出された。《SI- １～９･13･16･19･20･27～31･33～36･38･41～43･45･50》

②アカホヤ火山灰層を除去したところ、円礫が数個集中している範囲が確認できた。《SI-12》

③Ⅴ層～Ⅵ層にかけて遺物の取り上げ作業を行っていたところ、ぼんやりと黒い円形のシミがあらわれ、そのシミを慎重に確認したところ集石遺構が検出された。《SI-14･15･17･18》

SI-13

Ⅵ層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫については、かなり磨耗していて他の集石遺構より小ぶりなものがほとんどで、掘り込みの中央付近に集中していた。又、埋土については、炭化粒を多く含んでいるためかやや粘り気のある黒色土であった。又、埋土中より採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、9280±140年 BP という使用推定時期の根拠となるデータが得られた。

SI-34･43･45･41

いずれもⅥ層上位から中位にかけて検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫については、亜円礫や角礫がほとんどで、充填状況はやや疎らであった。埋土については、炭化物を含む茶黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、SI-34（8480±80年 BP）･SI-43（8440±80年 BP）･SI-45（8420±70年 BP）･SI-41（8360±70年 BP）という使用推定時期の根拠となるデータが得られた。尚、SI-45からは、山形押型文土器の胴部片が１点出土している。

SI-36･38

両集石遺構は、Ⅵ層（上位～中位）において切り合う状態で検出された。SI-38については、掘り込みの形状は平面が円形で断面はＶ字状、その規模については当台地でも最大級である。使用礫については、他の集石遺構と比較すると円礫や亜円礫の割合が多い（最も多いのは角礫ではあるが）ため、使用礫１個あたりの質量もやや重めとなっている。使用礫の充填状況については、極めて密な状況で、又、掘り込みの壁面に礫が貼り付ける様にして置かれている状況は当台地ではこの集石遺構以外確認されていない。尚、掘り込み底部には人頭大の扁平な礫（底石）が４個配置されていた。SI-36については、掘り込みの形状が平面は円形で断面が皿状、使用礫については小ぶりな角礫がほとんどで、充填状況はやや疎らであった。両遺構とも埋土は炭化物を含む茶黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、SI-36（8380±70年 BP）･SI-38（8410±70年 BP）という使用推定時期の根拠となるデータが得られた。この分析結果や使用礫の充填状況（断面）をふまえた上で両遺構の関係について考えてみると、SI-38への礫の補填のためにSI-36がすぐ隣に構築された（＝同時期に使用した）可能性もあるのではないかと推測されるが、これはあくまでも私見の域を出ないので、今後近隣遺跡の資料とともに検討を重ねていきたい。

SI-19･20

両集石遺構は、Ⅵ層(上位～中位)において切り合う状態で検出された。SI-19については、掘り込みの形状は平面が円形(やや歪な形状ではあるが)で断面はＶ字状、使用礫については他と比較すると円礫･亜円礫の割合がやや多く、充填状況については掘り込み中央部がやや密であった。尚、掘り込み底部には人頭大の扁平な礫(底石)が４個配置されていた。SI-20については、掘り込みの形状は平面形が円形で断面は皿状、使用礫は円礫･亜円礫が多く、充填状況は疎らであった。両遺構とも埋土は炭化物を含む茶黒色土で、SI-20では埋土中から炭化材が採取できたため、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、8400±80年 BP という使用推定時期の根拠となる

データが得られた。尚、両遺構の関係については、考察できる状況がほとんど確認されていないので不明である。

SI-31・33

両集石遺構は、Ⅵ層(上位～中位)において切り合う状態で検出された。SI-31については、掘り込みの形状は平面が円形で断面がＶ字状、使用礫は亜円礫・角礫が多く、充填状況はかなり密であった。又、掘り込みの底部には人頭大の扁平な礫(底石)が３個配置されていた。SI-33については、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状、使用礫は亜円礫・角礫が多く、充填状況はやや疎らであった。両遺構とも埋土は炭化物を含む茶黒色土で、SI-31では埋土中から炭化材が採取できたため、放射性炭素年代測定分析を実施したところ、8360±90年 BP という使用推定時期の根拠となるデータが得られた。尚、SI-31からは、楕円押型文土器の底部片が１点出土している。又、両遺構の関係については、使用礫の充填状況からみて、SI-31が先に使用されその後 SI-33が使用されたのではないか(＝別時期に使用した)と推測される。

SI-28・30・42

いずれもⅥ層上位から中位にかけて検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がＶ字状である。使用礫については、亜円礫・角礫が多く、充填状況はかなり密で（SI-38と比べるとやや疎らであるが)、掘り込み底部には人頭大の扁平な礫（底石）が配置されていた。埋土については、炭化物を含む茶黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、SI-28（8310±120年 BP）・SI-30（8310±70年 BP）・SI-42（8220±80年 BP）という使用推定時期の根拠となるデータが得られた。

SI-27

Ⅵ層（上位から中位）で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がＶ字状である。使用礫については、種類や充填状況などは他の“掘り込みの断面がＶ字状の大型の集石遺構”とほぼ同じであるが、底石の配置が確認されていない。埋土については、炭化物を含む茶黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、8250±70年 BP という推定使用時期の根拠となるデータが得られた。

SI-8

Ⅵ層（上位から中位）で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫については、亜円礫・角礫が多く、充填状況はやや密で、掘り込み底部には人頭大の扁平な礫（底石）が１個配置されていた。埋土については、炭化物を含む茶黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、8270±70年 BP という推定使用時期の根拠となるデータが得られた。

SI-6

Ⅵ層(上位から中位)で検出され、掘り込みの形状は平面が楕円形(やや歪な形状ではあるが)で断面が浅皿状である。使用礫については、亜円礫・角礫が多く、充填状況はやや疎らであった。埋土については、炭化物を含む茶黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、7570±70年 BP という推定使用時期の根拠となるデータが得られた。

SI-12

アカホヤ火山灰層直下で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫については、他と比較すると円礫の割合が多く（全体の40%)、掘り込みにギッシリ詰った状態で検出された。埋土については、炭化物を含む黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、6770±60年 BP という推定使用時期の根拠となるデータが得られた。

SI-1・3・9・15

いずれもⅥ層上位から中位にかけて検出され、掘り込みは確認されていない。集石遺構の周りに散在する礫群のなかで、“やや礫が集中する範囲”で、なおかつ“礫下位の地面に炭化粒が確認できる範囲”を今回集石遺構として記録した。尚、使用礫はほとんどが亜円礫か角礫であった。

SI-4・5

いずれもⅥ層（上位から中位）で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が（浅）皿状である。使用礫については、亜円礫・角礫が多く、充填状況はやや疎らで、掘り込み底部には人頭大の扁平な礫（底石）が配置されていた。尚、埋土については炭化物を含む茶黒色土であった。

SI-2・16・17・18・29・50

いずれもⅥ層（上位から中位）で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が（浅）皿状である。使用礫については、亜円礫・角礫が多く、充填状況は疎らであった。尚、埋土については炭化物を含む茶黒色土であった。

SI-7

Ⅵ層(上位から中位)で検出され、掘り込みの形状は平面が円形(やや歪な形状ではあるが)で断面が(浅)皿状である。但し、掘り込みの断面形状については、検出作業が十分に検証されずに終了してしまった可能性があり、実測図(第11図　縄文時代早期集石遺構実測図⑥)も含めてやや不十分な記録となったことは否めない。使用礫については、円礫や亜円礫が多く、充填状況はやや密であった。尚、埋土については炭化物を含む茶黒色土であった。

SI-14

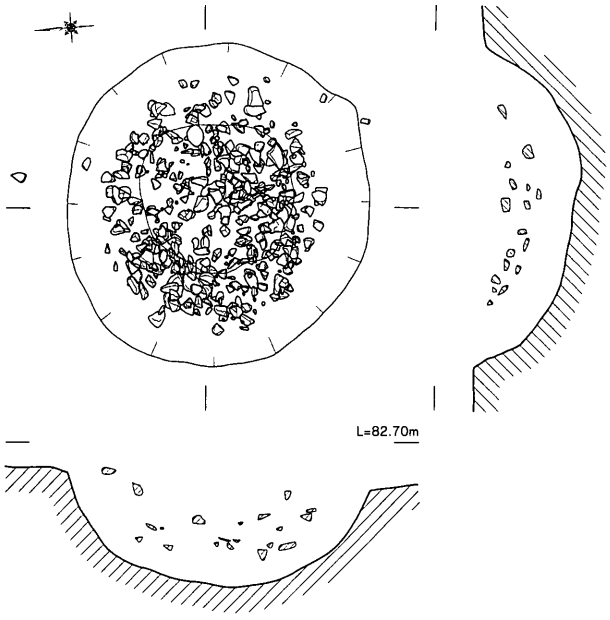
Ⅵ層(上位から中位)で検出され、掘り込みの形状からみて２基の集石遺構の切り合っている可能性も高いと推測されるが、今回は平面が円形(やや歪な形状ではあるが)で断面が(浅)皿状の１基の集石遺構として記録した。使用礫については、亜円礫や角礫が多く、充填状況はやや疎らであった。尚、埋土については炭化物を含む茶黒色土であった。

SI-35

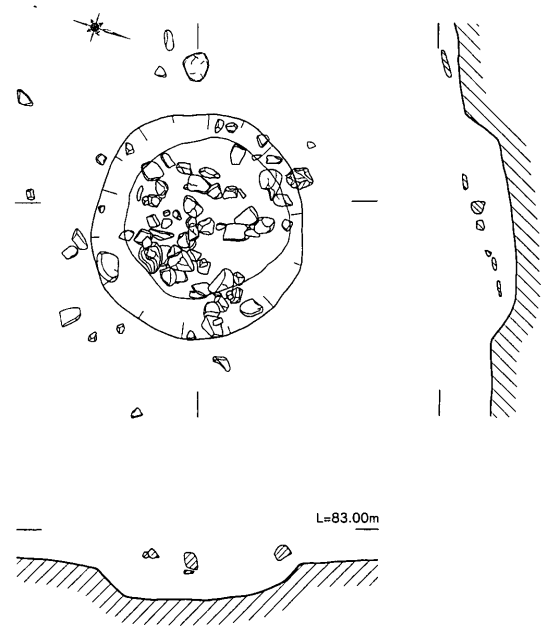
Ⅵ層(上位から中位)で検出されたが、他の集石遺構と比較すると掘り込みのプランが検出しにくい状況であった。掘り込みの形状は平面が円形で断面が(浅)皿状であった。使用礫については、亜円礫・角礫が多く、充填状況はやや密であった。尚、埋土については炭化物を含む茶黒色土であった。

第１表　集石遺構(縄文時代早期)観察表

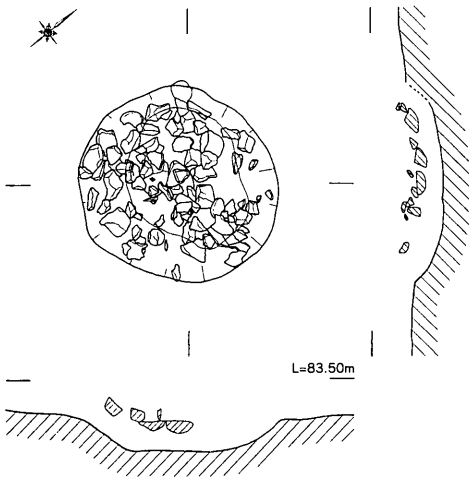
	遺構番号	検出層	^{14}C 年代(年 BP)	使用礫				掘込み				底石の有無	炭化物の有無	共伴遺物の有無	備考
				礫分布範囲<長軸×短軸>(m)	総礫数(個)	総重量(kg)	礫１個あたりの重量(kg)	有無	断面形状	直径(m)	深さ(m)				
1	SI-13	Ⅵ層中位	9280±140	1.00×0.93	507	21.5	0.04	有	ボウル状	1.3	0.50	無	有	無	
2	SI-34	Ⅵ層上位～中位	8480±80	0.78×0.70	81	14.0	0.17	有	(浅)皿状	0.8	0.15	無	有	無	
3	SI-43	Ⅵ層上位～中位	8440±80	0.86×0.84	84	11.0	0.13	有	(浅)皿状	0.9	0.20	無	有	無	
4	SI-45	Ⅵ層上位～中位	8420±70	1.10×0.90	209	10.5	0.05	有	(浅)皿状	1.0	0.25	無	有	有	
5	SI-38	Ⅵ層上位～中位	8410±70	1.92×1.86	2572	782.5	0.30	有	V字状	2.1	1.15	有	有	無	SI-36と切り合い関係
6	SI-20	Ⅵ層上位～中位	8400±80	0.48×0.46	87	14.5	0.17	有	皿状	0.7	0.20	無	有	無	SI-19と切り合い関係
7	SI-36	Ⅵ層上位～中位	8380±70	0.82×0.72	317	19.6	0.06	有	皿状	1.1	0.35	無	有	無	SI-38と切り合い関係
8	SI-41	Ⅵ層上位～中位	8360±70	0.73×0.70	－	－	－	有	(浅)皿状	0.7	0.10	無	有	無	
9	SI-31	Ⅵ層上位～中位	8360±90	1.66×1.66	1802	336.1	0.19	有	V字状	1.8	0.60	有	有	有	SI-33と切り合い関係
10	SI-28	Ⅵ層上位～中位	8310±120	1.45×1.30	733	95.0	0.13	有	V字状	1.4	0.70	有	有	無	
11	SI-30	Ⅵ層上位～中位	8310±70	1.34×0.93	693	52.0	0.08	有	V字状	1.4	0.70	有	有	有	
12	SI-8	Ⅵ層上位～中位	8270±70	1.00×0.80	152	50.0	0.33	有	皿状	1.0	0.30	有	有	無	
13	SI-27	Ⅵ層上位～中位	8250±70	1.36×1.26	1469	197.5	0.13	有	V字状	1.5	0.75	無	有	無	
14	SI-42	Ⅵ層上位～中位	8220±80	1.26×1.16	468	114.0	0.24	有	V字状	1.5	0.80	有	有	有	
15	SI-6	Ⅵ層上位～中位	7570±150	0.87×0.70	167	20.7	0.12	有	(浅)皿状	1.0	0.20	無	有	無	掘り込みがやや不明瞭
16	SI-12	Ⅴ層上位(アカホヤ直下)	6770±60	0.90×0.80	41	20.3	0.50	有	ボウル状	0.9	0.40	(有)	有	無	
17	SI-1	Ⅵ層上位～中位	－	1.25×0.75	73	6.0	0.08	無	－	－	－	－	－	無	礫の下位に炭化粒有り
18	SI-2	Ⅵ層下位	－	0.70×0.66	39	7.2	0.18	有	(浅)皿状	1.0	0.15	無	炭化粒のみ	無	
19	SI-3	Ⅵ層上位～中位	－	0.70×0.56	44	5.4	0.12	無	－	－	－	－	無	無	
20	SI-4	Ⅵ層上位～中位	－	0.90×0.76	174	24.2	0.14	有	皿状	1.0	0.20	有	炭化粒のみ	無	
21	SI-5	Ⅵ層上位～中位	－	0.70×0.65	79	17.2	0.22	有	(浅)皿状	0.9	0.20	有	炭化粒のみ	無	
22	SI-7	Ⅵ層上位～中位	－	1.00×0.89	293	51.2	0.17	有	(浅)皿状	1.0	0.20	無	炭化粒のみ	無	
23	SI-9	Ⅷ層下位	－	0.60×0.40	10	－	－	無	－	－	－	－	無	無	集石の底のみ残存しているのではないか
24	SI-14	Ⅵ層上位	－	1.50×1.36	520	54.3	0.10	有	(浅)皿状	1.6	0.20	無	炭化粒のみ	無	
25	SI-15	Ⅵ層中位	－	0.63×0.60	33	5.0	0.15	無	－	－	－	－	無	無	
26	SI-16	Ⅵ層中位	－	0.62×0.60	52	4.0	0.08	有	(浅)皿状	0.9	0.25	無	炭化粒のみ	無	
27	SI-17	Ⅵ層上位～中位	－	1.00×0.74	91	8.6	0.09	有	(浅)皿状	1.0	0.25	無	炭化粒のみ	無	
28	SI-18	Ⅵ層上位～中位	－	1.19×1.00	123	9.5	0.08	有	(浅)皿状	1.0	0.25	無	炭化粒のみ	無	
29	SI-19	Ⅵ層上位～中位	－	0.87×0.86	410	87.5	0.21	有	V字状	1.1	0.40	有	有	無	SI-20と切り合い関係
30	SI-29	Ⅵ層上位	－	0.46×0.40	15	0.4	0.03	有	(浅)皿状	0.5	0.10	無	炭化粒のみ	無	
31	SI-33	Ⅵ層上位～中位	－	0.90×0.78	88	24.1	0.27	有	皿状	0.9	0.25	無	炭化粒のみ	無	SI-31と切り合い関係
32	SI-35	Ⅵ層上位～中位	－	1.59×1.50	899	77.2	0.09	有	(浅)皿状	1.5	0.25	無	炭化粒のみ	無	
33	SI-50	Ⅵ層上位～中位	－	1.10×0.64	－	－	－	有	皿状	1.5	0.30	無	炭化粒のみ	無	



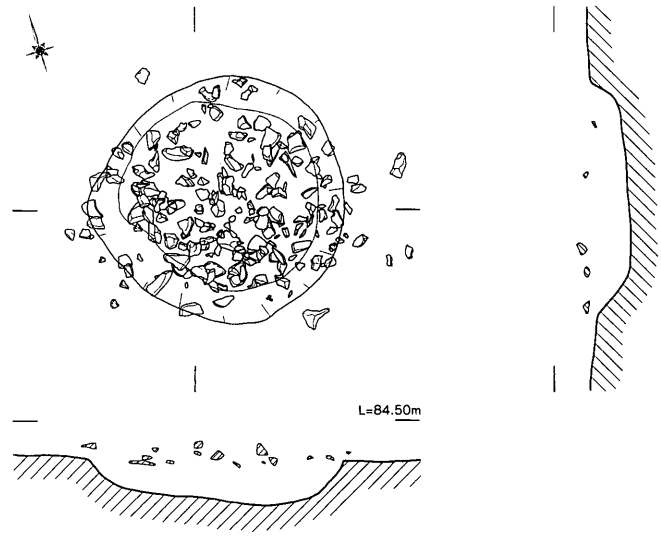
SI-13《^{14}C 年代：9280±140年 BP》



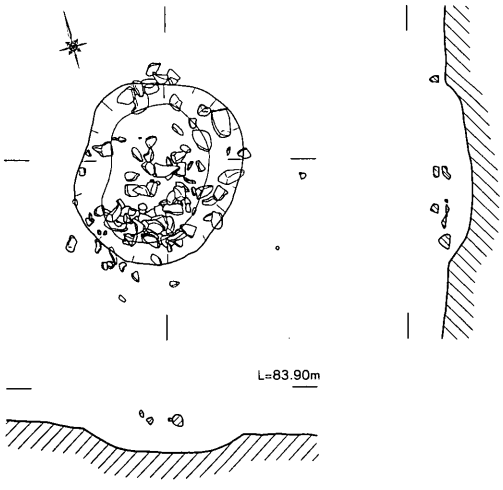
SI-43《^{14}C 年代：8440±80年 BP》



SI-34《^{14}C 年代：8480±80年 BP》

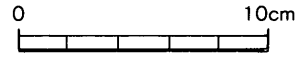


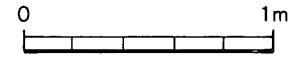
SI-45《^{14}C 年代：8420±70年 BP》



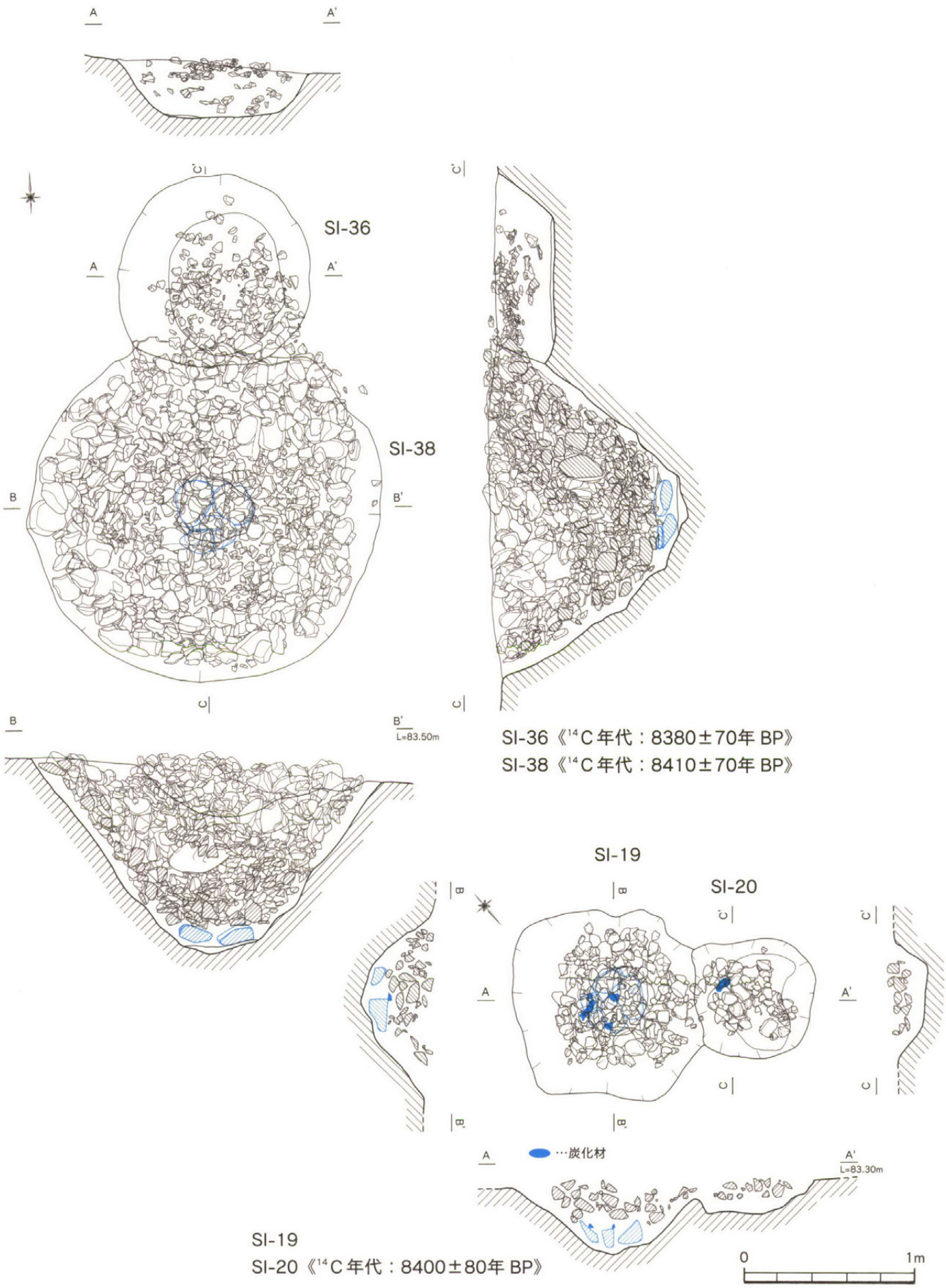
SI-41《^{14}C 年代：8360±70年 BP》

SI-45　出土土器　(S=1/3)

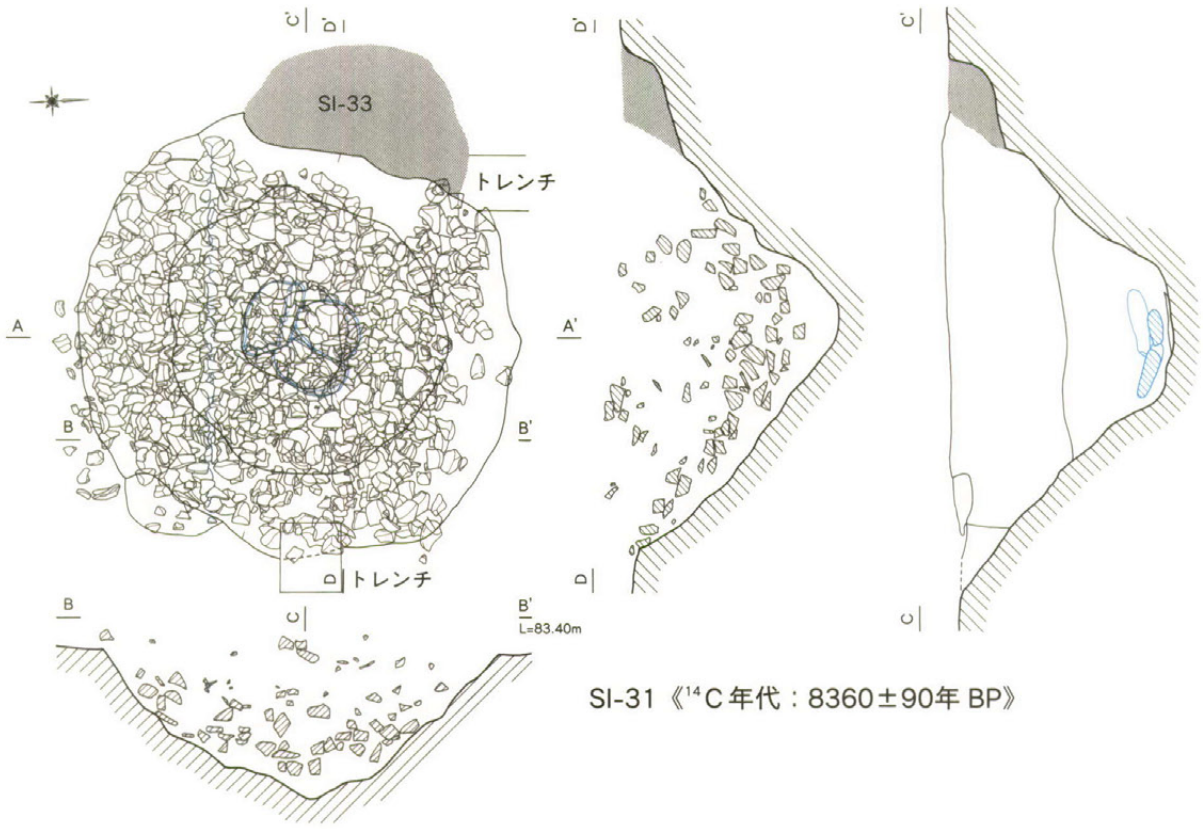




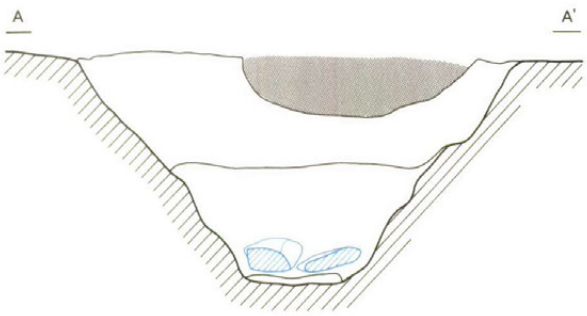
第６図　縄文時代早期集石遺構実測図①（S=1/30）



第７図　縄文時代早期集石遺構実測図②（S=1/30）

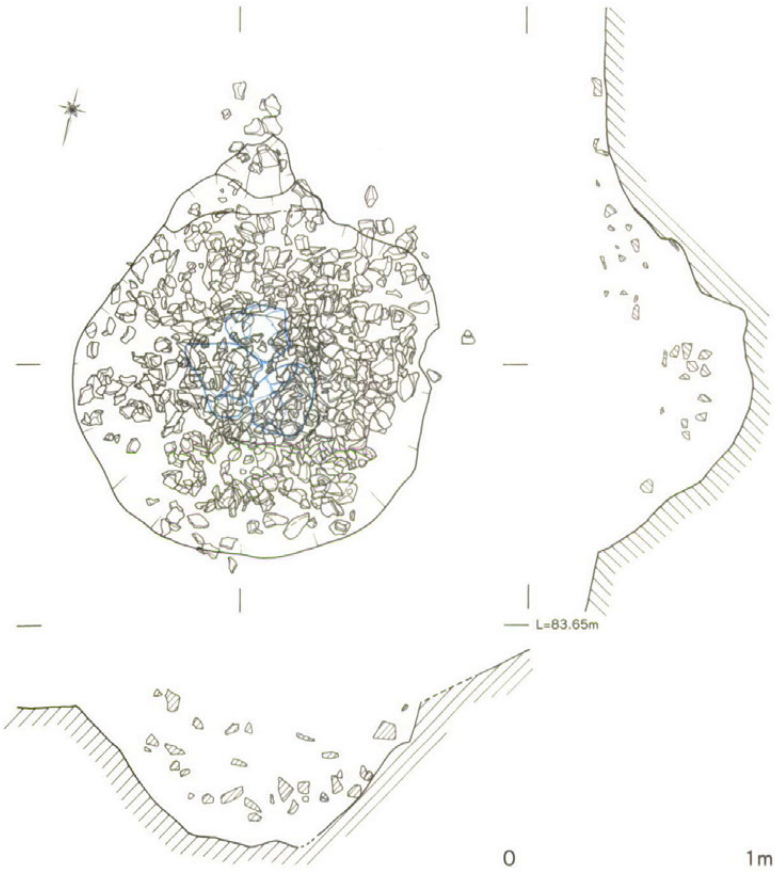


SI-31《^{14}C 年代：8360±90年 BP》



SI-31　出土土器　(S=1/3)

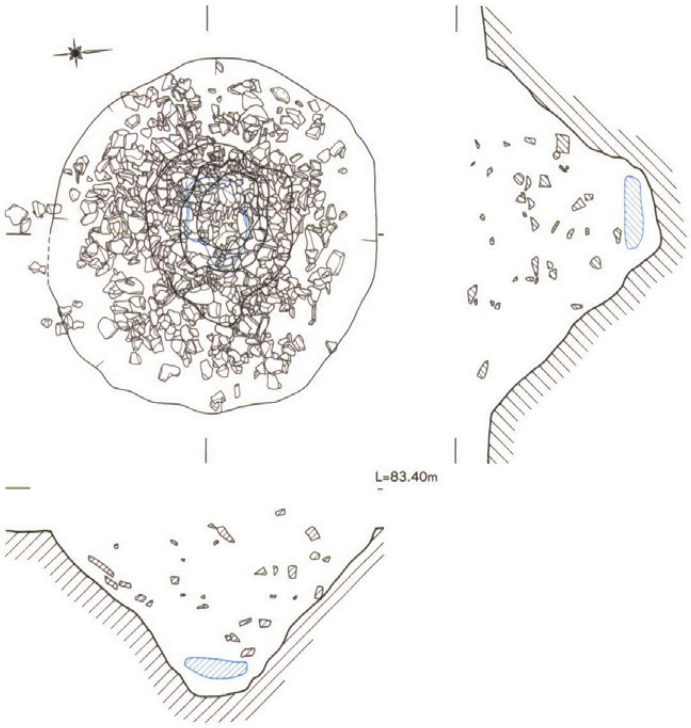
0　10cm



0　1m

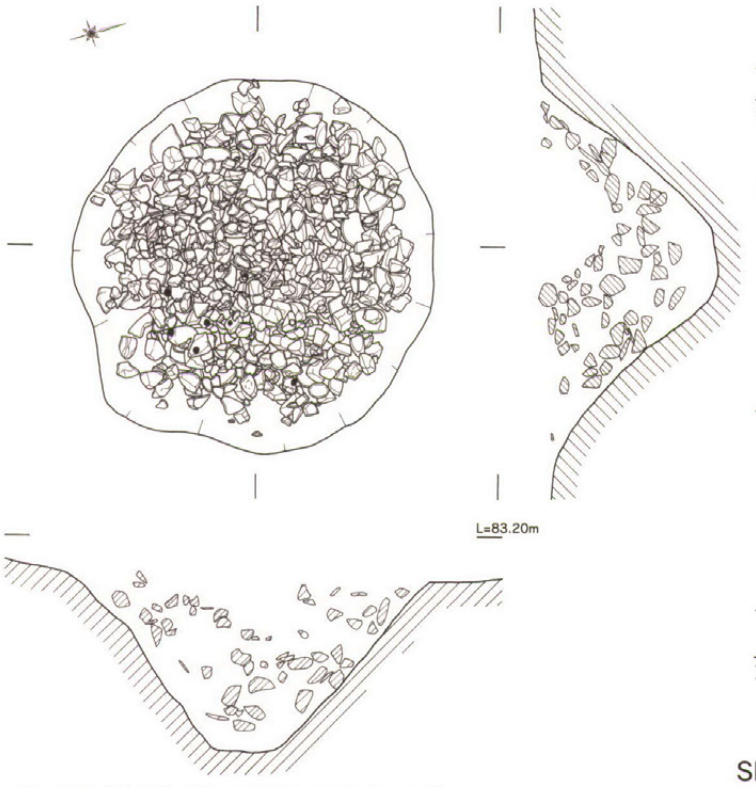
SI-28《^{14}C 年代：8310±120年 BP》

第8図　縄文時代早期集石遺構実測図③（S=1/30）

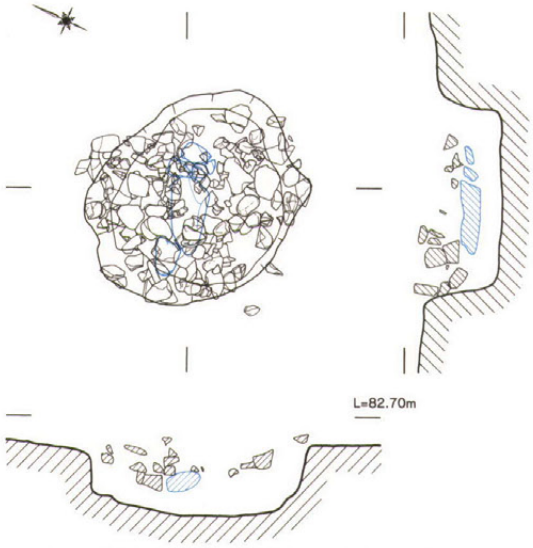


SI-30《^{14}C 年代：8310±70年 BP》

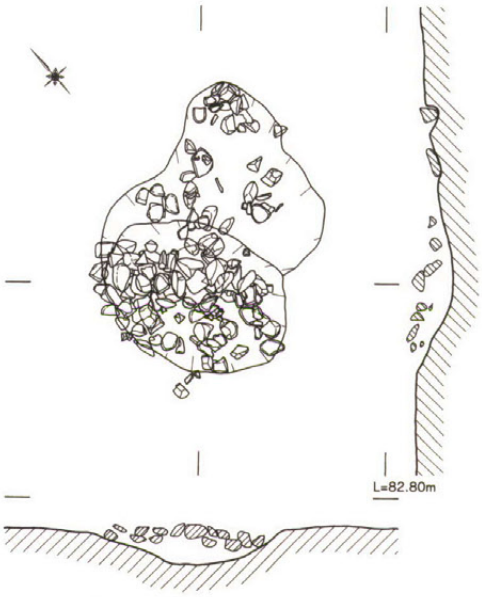
SI-30　出土土器　(S=1/3)



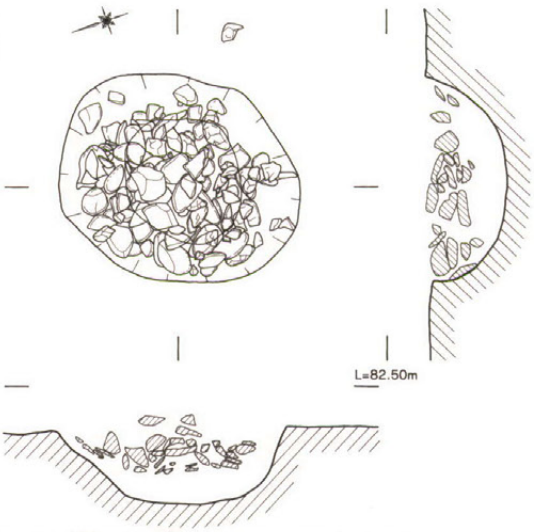
SI-27《^{14}C 年代：8250±70年 BP》



SI-8《^{14}C 年代：8270±70年 BP》

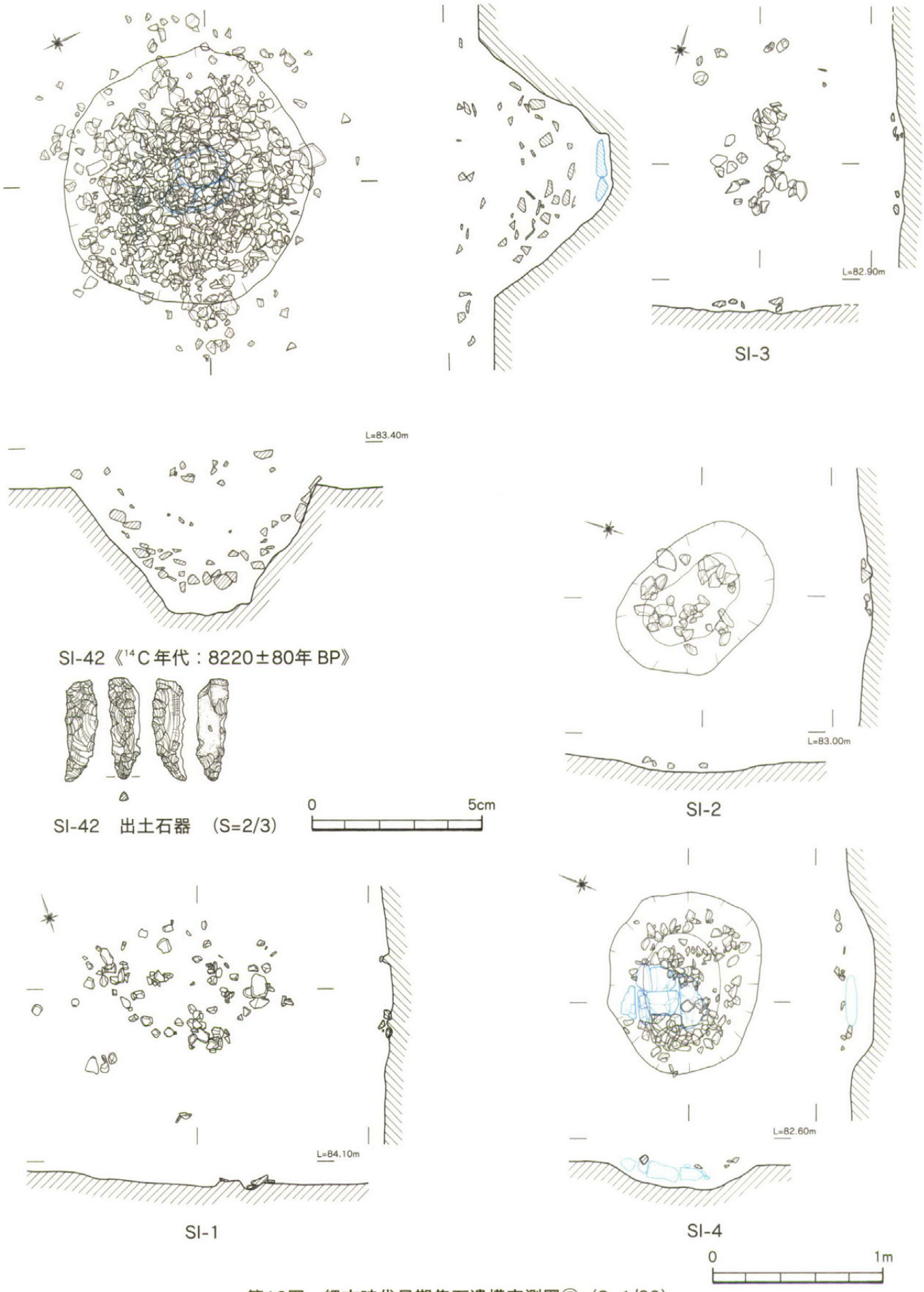


SI-6《^{14}C 年代：7570±150年 BP》

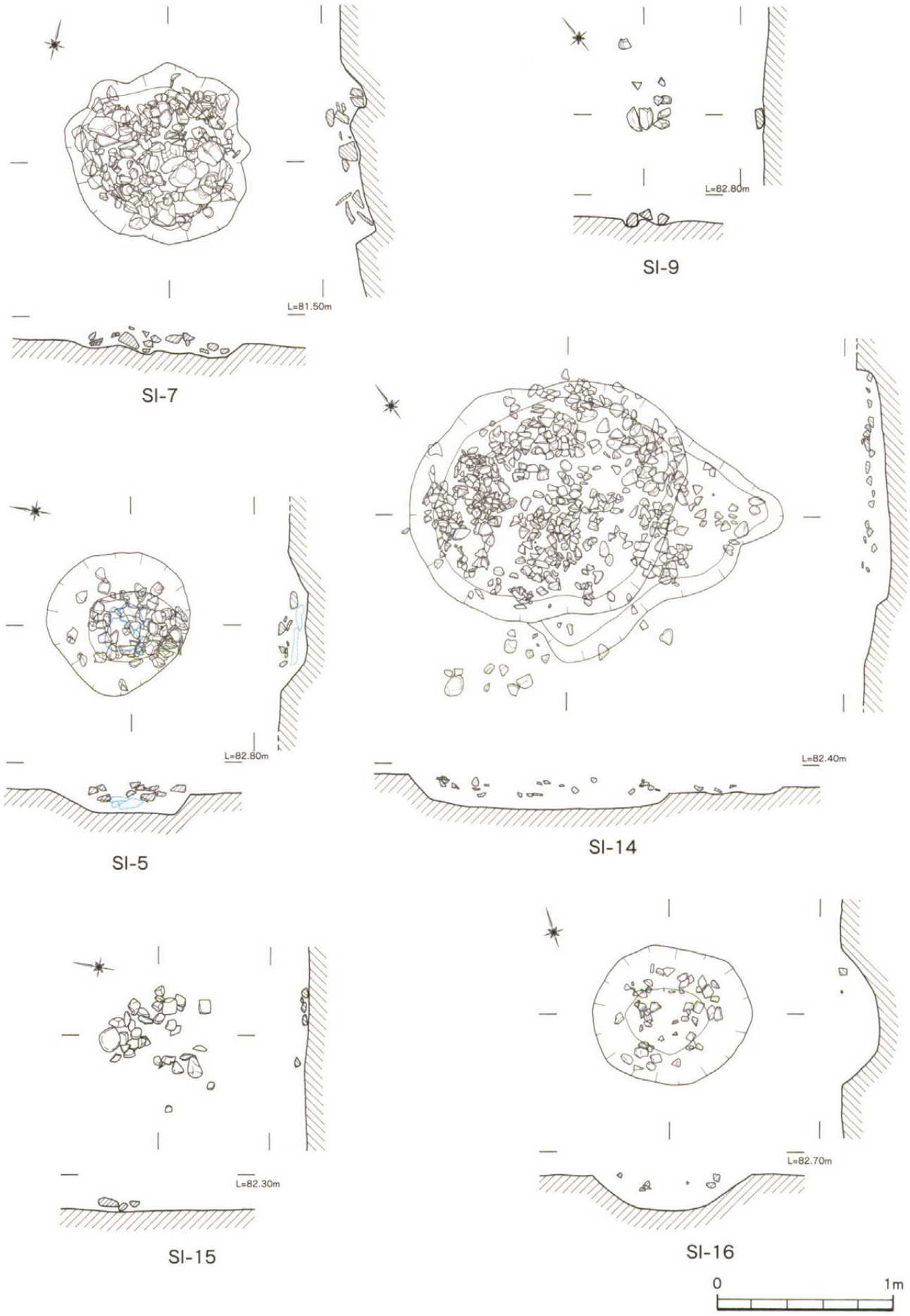


SI-12《^{14}C 年代：6770±60年 BP》

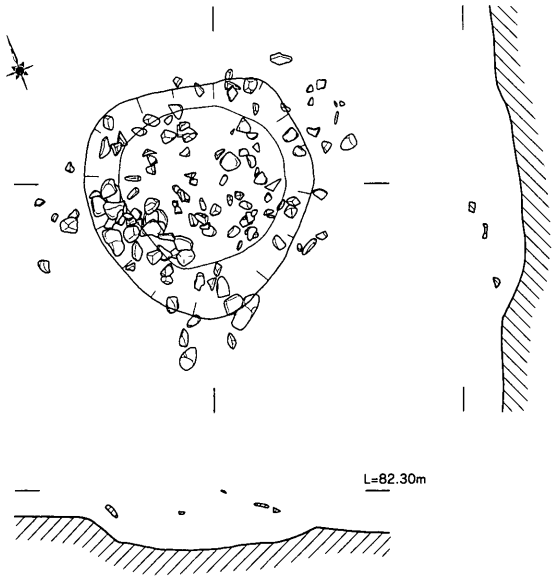
第９図　縄文時代早期集石遺構実測図④（S=1/30）



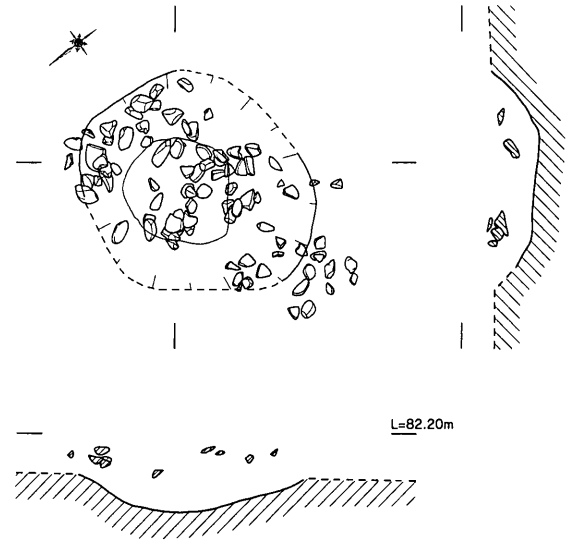
第10図　縄文時代早期集石遺構実測図⑤（S=1/30）



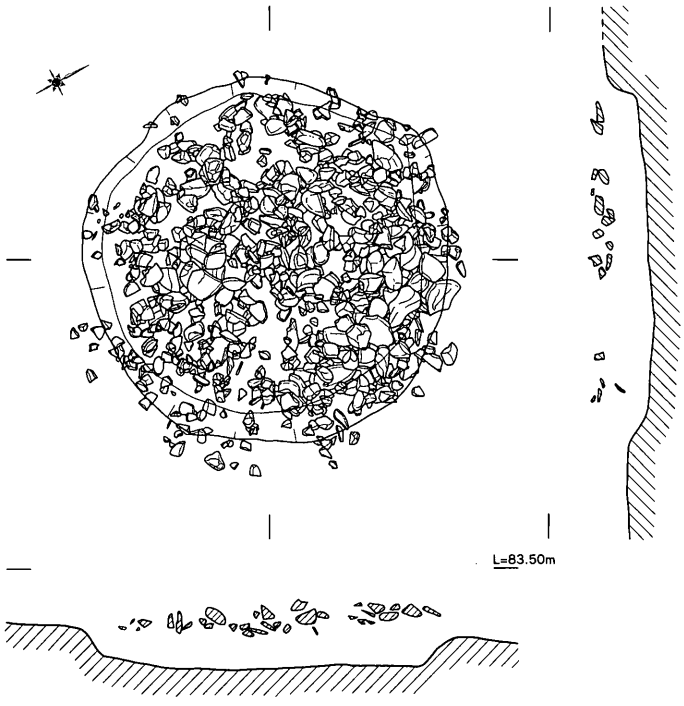
第11図　縄文時代早期集石遺構実測図⑥（S=1/30）



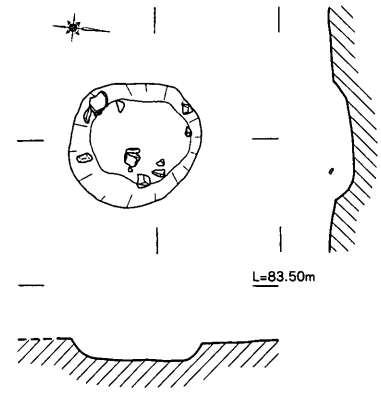
SI-18



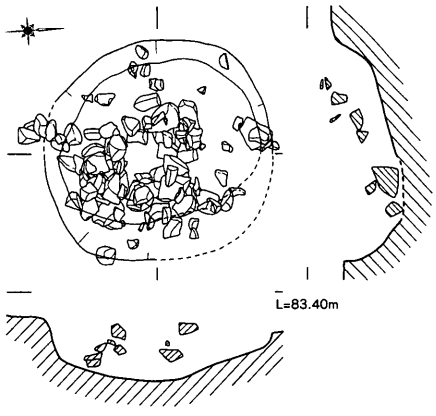
SI-17



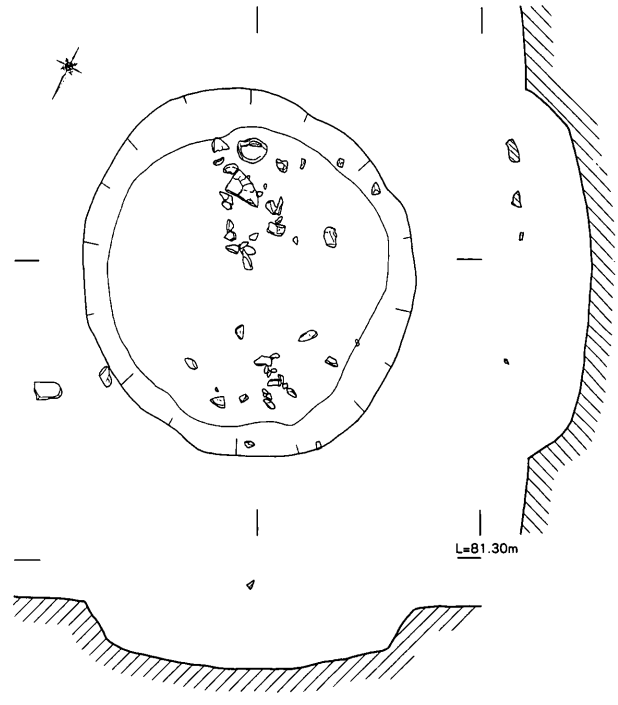
SI-35



SI-29



SI-33



SI-50

0 1m

第12図　縄文時代早期集石遺構実測図⑦（S=1/30）

2. 炉　穴

Ⅵ層上位から中位にかけて、遺物の取り上げ作業や集石遺構の記録作業などを行っていたところ、不整形な茶黒色のプラン３ヶ所を確認することできた。その茶黒色のプランからはパラパラと礫も出土したため、検出当初集石遺構として記録しようかとも考えたが、とりあえずある程度検出面を下げ、平面プランの確定を行ったほうが良いのではないかと判断し、礫を記録しながら検出面を徐々に下げていった。検出面が６層下位あたりまで下がったところで、平面プランもかなり明瞭に検出できるようになったため（この時点で集石遺構ではないと認識した)、慎重にプランの確認作業を行い、その後記録作業を行った。

SC-204・205

SC-204は、４基のなかで唯一ブリッジが残存している炉穴である。足場は、平面が長軸2.2m・短軸1.4mの楕円形を呈していて、検出面からの深さは1.4mである。煙道の最上部すなわち煙出口は、長軸0.9m・短軸0.4mの長楕円形を呈していて、煙道の傾斜については燃焼部付近ではほぼ垂直に立ち上がっているが、煙出口に近づくほど緩やかになっている。尚、燃焼部には焼土が残存していた。

SC-205については、平面プランは長軸3.9m、短軸1.2mの舟形を呈し、断面形状は足場から燃焼部にかけて緩やかに傾斜していて、検出面からの深さは最深（燃焼部）で0.9mである。ブリッジ及びブリッジ残存の痕跡は、SC-204と切り合っているため確認できない。又、煙道は一部残存しているが、燃焼部からの傾斜についてはSC-204と類似するのではないかと推測される。尚、煙道部にはごくわずかではあるが焼土が残存していた。

埋土については、両遺構とも炭化物・焼土粒を含むかなり硬質な茶黒色土で、ほぼ同質のため両遺構の関係を解明する手掛かりとはならなかった。そこで、埋土中より採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、SC-204（8240±70年 BP）・SC-205（8390±80年 BP）という使用推定時期の根拠となるデータが得られたが、両遺構のプランから考察して、ほぼ同時期に営まれなおかつ SC-205使用後にそれを利用して SC-204を構築したのではないかと推測される（分析結果については許容範囲を最大限に解釈した)。

SC-206（207）

SC-206については、平面プランが長軸3.05m、短軸0.9mの舟形を呈し、長軸の煙出口付近にはブリッジの痕跡であるくびれ部が確認できる。断面形状は足場から燃焼部にかけて緩やかに傾斜し、検出面からの深さについては燃焼部付近が最深で0.9mである。煙道の傾斜については、足場から燃焼部にかけての傾斜よりもやや急傾斜で、煙出口付近がやや緩やかになっており、燃焼部から煙道にかけては焼土が残存している。埋土については、炭化物・焼土粒を含むかなり硬質な茶黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、8190±80年 BP という使用推定時期の根拠となるデータが得られた。

SC-207については､SC-206となんらかの関係を持って構築された土坑であると推測されるが詳細は不明である。

SC-208

SC-208については、平面プランが長軸3.0m、短軸1.35mの舟形を呈し、長軸の煙出口付近にはブリッジの痕跡であるくびれ部が確認できる。断面形状は足場から燃焼部にかけて緩やかに傾斜し、検出面からの深さについては燃焼部付近が最深で0.6mである。煙道の傾斜については、足場から燃焼部にかけての傾斜よりもやや急傾斜で、燃焼部から煙道にかけては焼土及び炭化材が残存している。埋土については、炭化物・焼土粒を含むかなり硬質な茶黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、8290±80年 BP という使用推定時期の根拠となるデータが得られた。

3. 土　坑

９基の土坑の全てが、表土剥ぎ取り後すでにⅤ層～Ⅵ層が露出(現代耕作の影響)していた範囲で検出された。

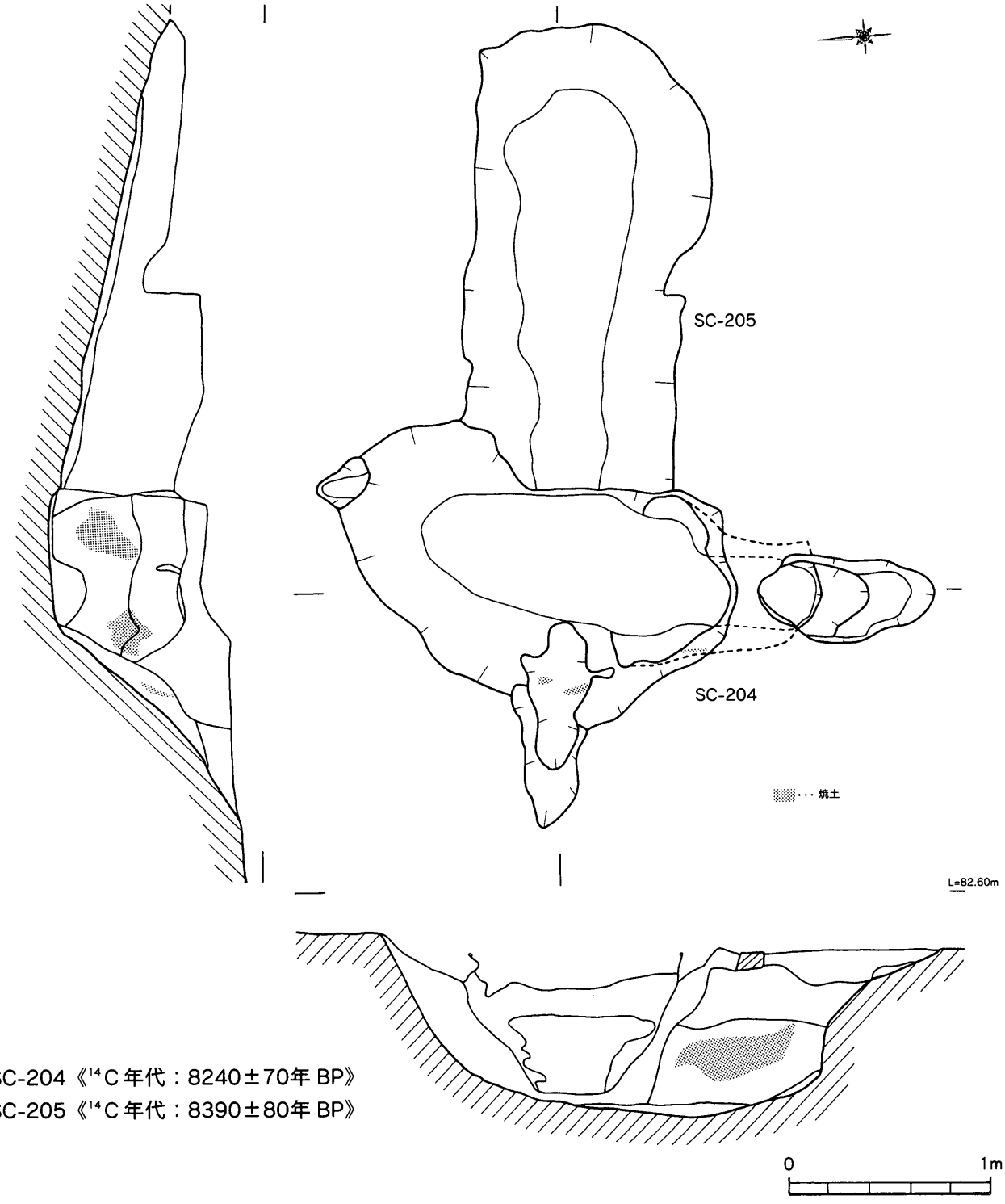
SC-15・21

両遺構については、検出当初の判断ミスがあり両遺構の新旧関係等を解明するための土層の確認等が不十分で、両遺構の関係についての詳細は把握できていない。

SC-21は、平面プランが長軸1.06m、短軸0.7mの長楕円形で、検出面からの深さは0.6mである。又、壁面はやや垂直に近い角度で立ち上がっている。SC-15は、平面プランが直径0.6m程の円形で、検出面からの深さが0.4mである。又、壁面はやや垂直に近い角度で立ち上がっている。尚、SC-21からは、チャート製の石鏃と頁岩製のスクレイパーが出土している。

SC-16

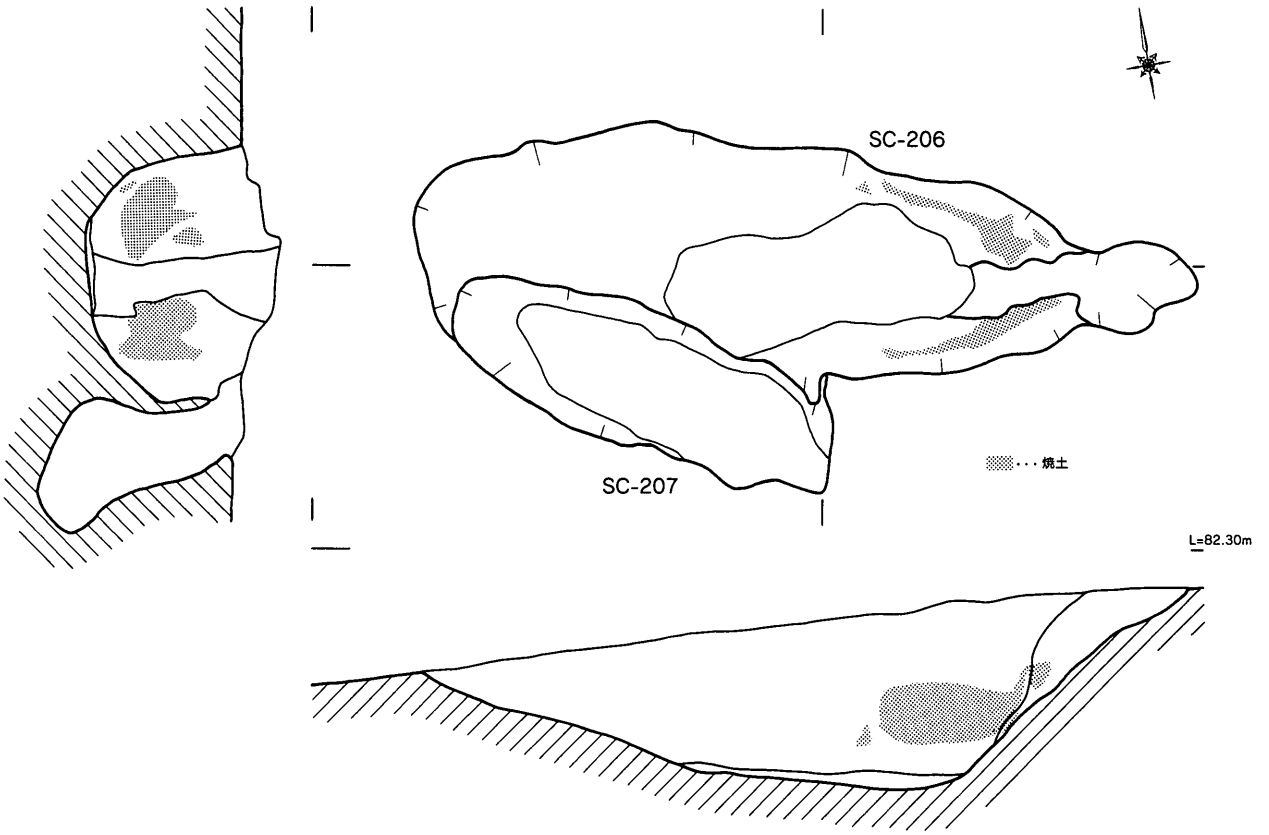
SC-16は、平面プランが長軸1.4m、短軸0.9mの長楕円形で、検出面からの深さは0.75mである。又、壁面はほ



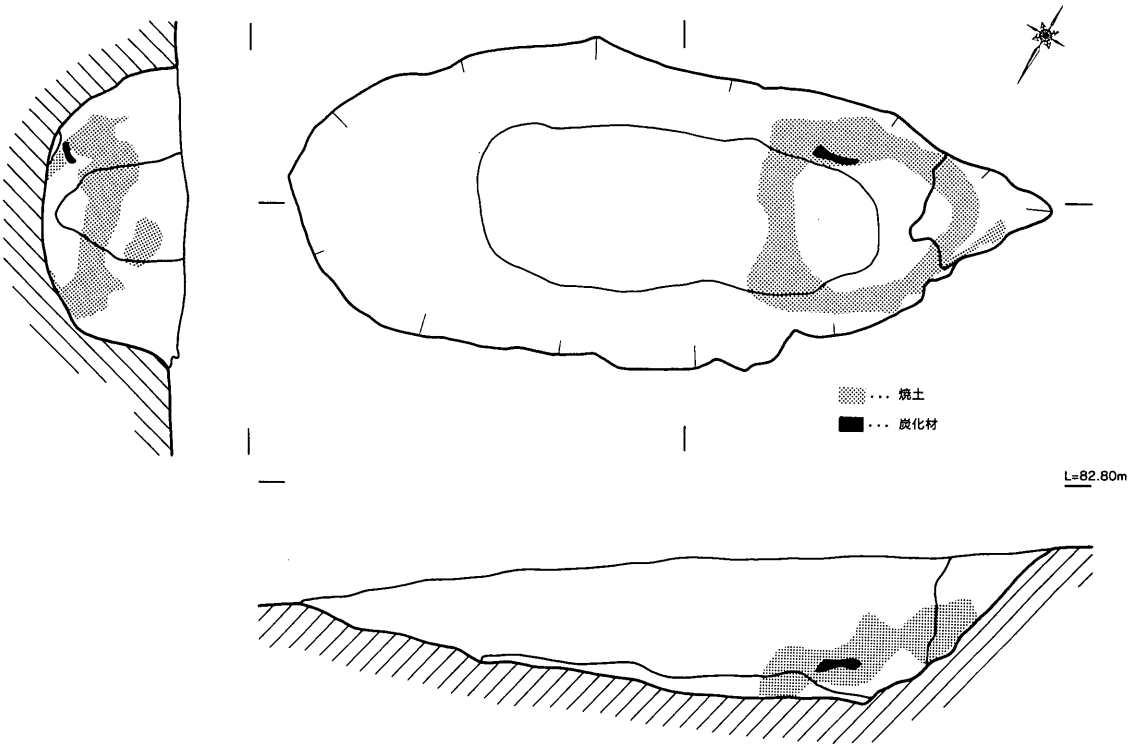
第13図　縄文時代早期炉穴実測図①（S=1/30）

第２表　炉穴観察表

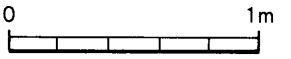
	遺構番号	検出層	^{14}C 年代（年 BP）	サイズ《長軸 × 短軸 × 深さ》(m)	平面形状	ブリッジ	焼土の位置	備　考
1	SC-204	Ⅵ層中位	8240±70	3.10×1.40×0.85	(舟形)	残存	燃焼部	SC-205と切り合い関係
2	SC-205	Ⅵ層中位	8390±80	3.85×1.20×0.90	舟形	崩落	端部	SC-204と切り合い関係
3	SC-206	Ⅵ層中位	8190±80	3.05×0.90×0.77	舟形	崩落	燃焼部	SC-207と切り合い関係
4	SC-208	Ⅵ層中位	8290±80	3.00×1.35×0.55	舟形	崩落	燃焼部	



SC-206《^{14}C 年代：8190±80年 BP》
SC-207



SC-208《^{14}C 年代：8290±80年 BP》



第14図　縄文時代早期炉穴実測図②（S=1/30）

ぼ垂直に近い角度で立ち上がっている。

SC-17

SC-17は、平面プランが長軸1.9m、短軸0.85mの長楕円形で、検出面からの深さは0.75mである。又、壁面はほぼ垂直に近い角度で立ち上がっている。用途については、長軸と短軸の比率などから推測して陥し穴状遺構ではないかと思われるが、逆茂木痕が確認されていないので断定はできない。

SC-18

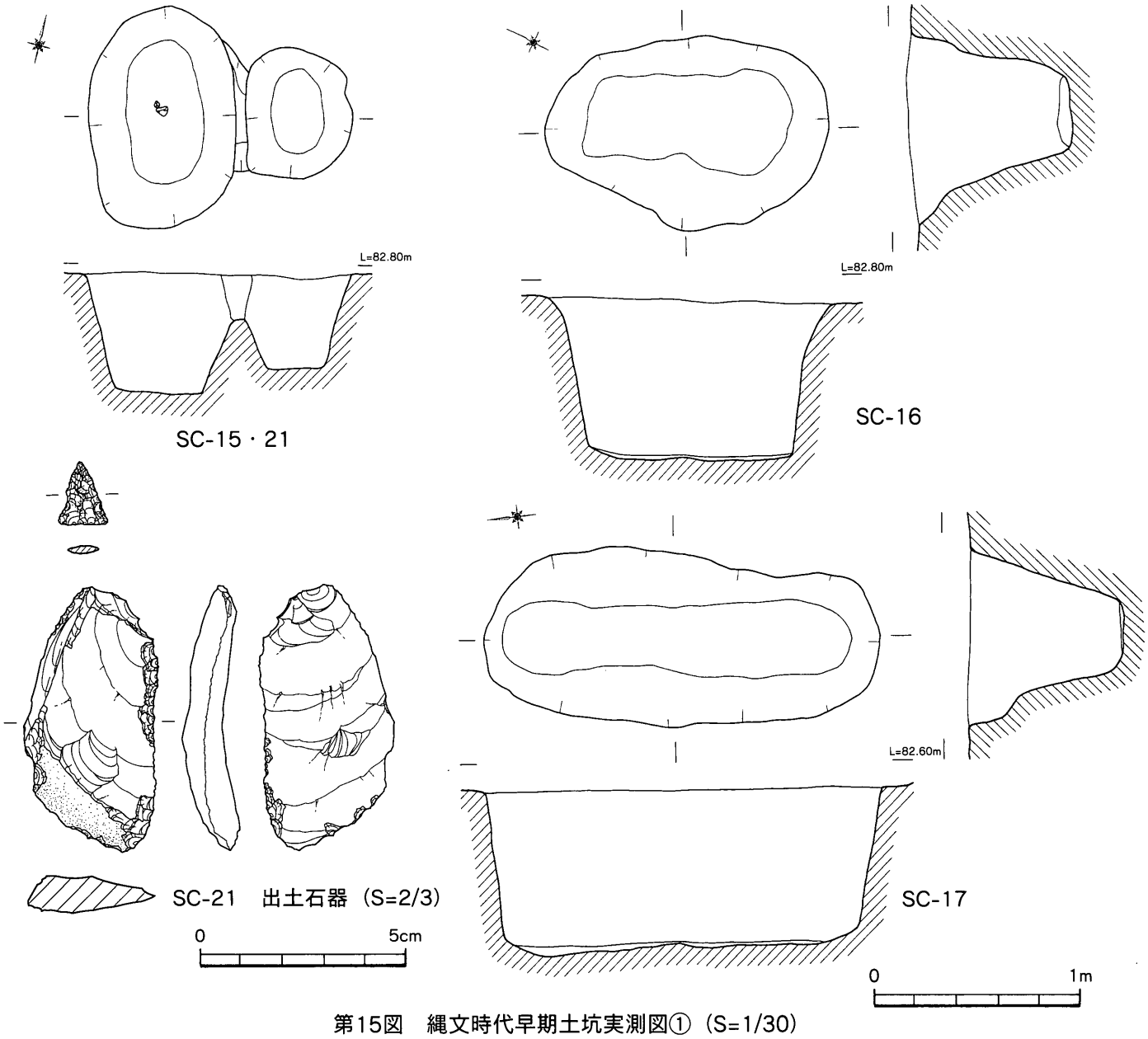
SC-18は、平面プランが長軸1.5m、短軸1.2mの長楕円形で、検出面からの深さは0.8mである。又、壁面は他の土坑と比較するとやや緩やかに立ち上がっている。

SC-19

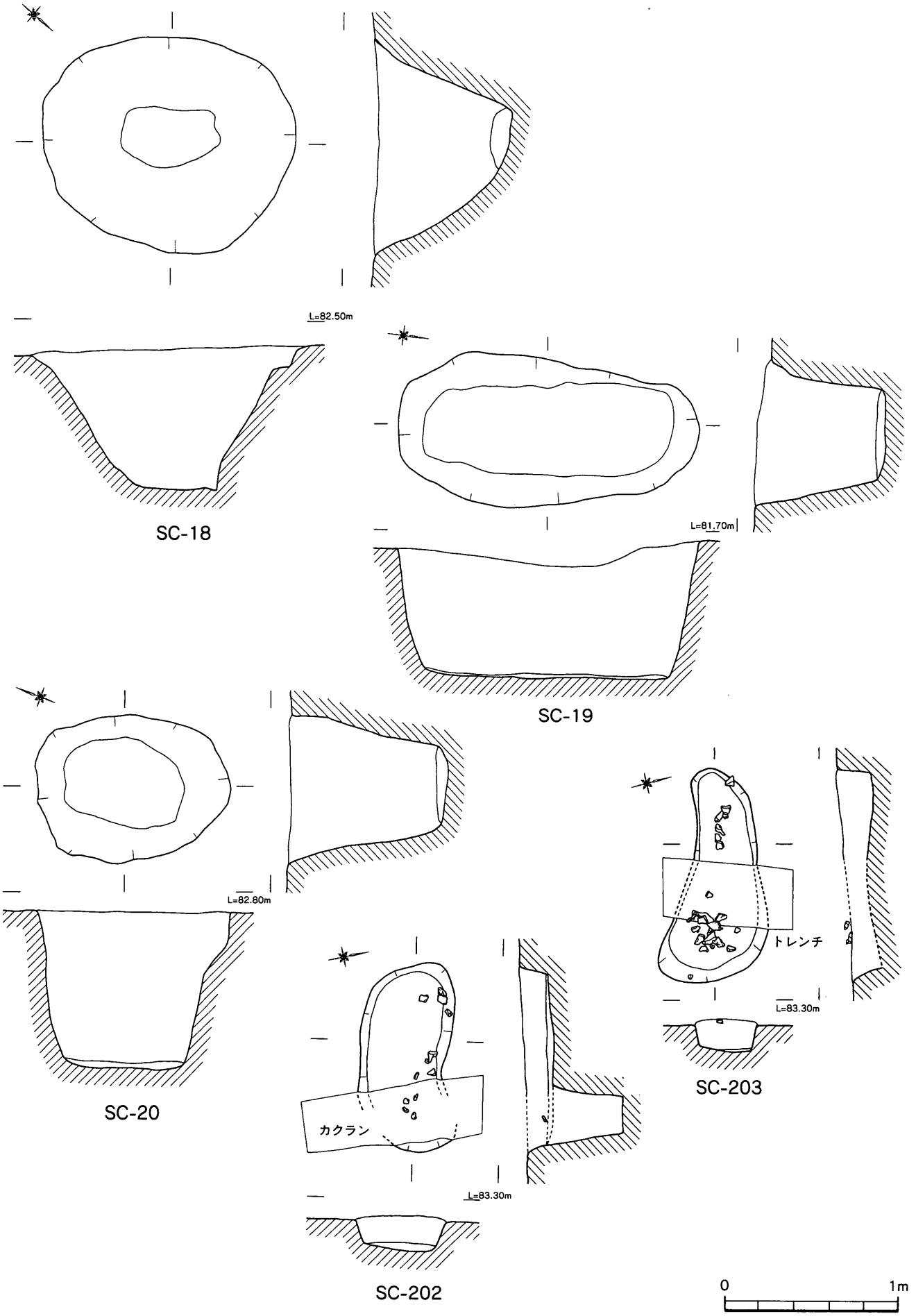
SC-19は、平面プランが長軸1.75m、短軸0.8mの長楕円形で、検出面からの深さは0.8mである。又、壁面はほぼ垂直に近い角度で立ち上がっている。用途については、長軸と短軸の比率などから推測して陥し穴状遺構ではないかと思われるが、逆茂木痕が確認されていないのでSC-17同様断定はできない。

SC-202・203

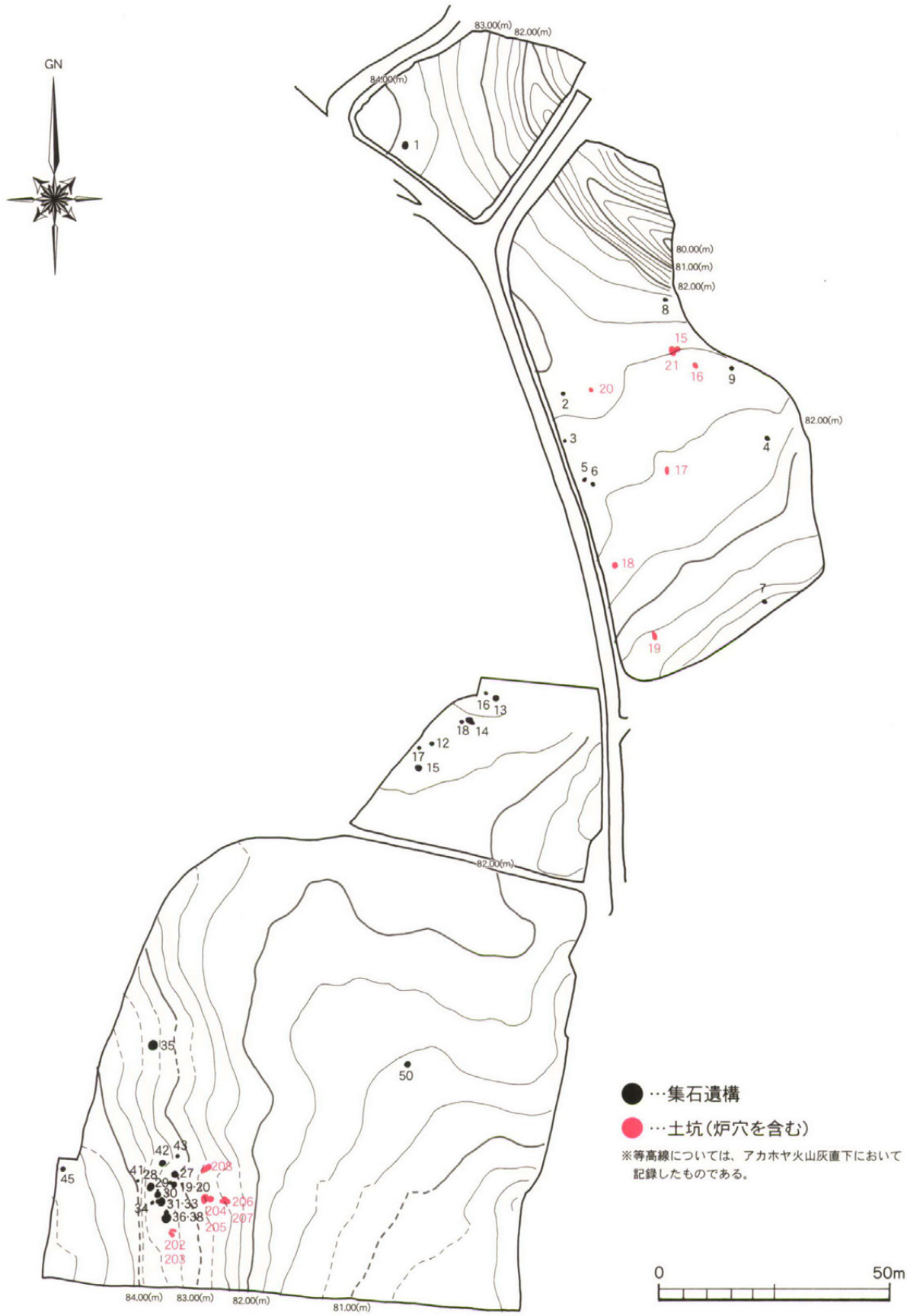
SC-202は、平面プランが長軸1.1m、短軸0.5mの長楕円形で、検出面からの深さは0.2mである。又、壁面はほぼ垂直に近い角度で立ち上がっている。SC-203は、平面プランが長軸1.2m、短軸0.5m程の長楕円形で、検出面からの深さは0.15mである。又、壁面はほぼ垂直に近い角度で立ち上がっている。



第15図　縄文時代早期土坑実測図①（S=1/30）



第16図　縄文時代早期土坑実測図②（S=1/30）



第17図　縄文時代早期遺構配置図（S=1/1250）

第２節　包含層出土遺物

縄文時代早期(草創期も含む)の遺物は主にⅤ・Ⅵ層から出土した。ただし、工事計画における切り土と盛り土の調整が調査区のなかでも異なったため、遺物包含層の削平幅に違いが生じたことや、現代耕作により包含層が既に削平されている範囲があったことなどから、調査区内の全てのⅤ・Ⅵ層の完全な掘り下げ作業には至っていない。

1. 土　器

１・２は爪形文を施した草創期の土器であるが、草創期の土器の出土点数がこの２点のみであったため、今回は当節に掲載することとする。１は口縁部片で、口縁部外面に爪形文を施し、口唇部を内面にやや斜行するように仕上げそこに棒状工具によると思われるキザミを施している。２は胴部片で外面に爪形文を施している。

貝殻円筒形土器（３～25）

貝殻円筒形土器は23点全て資料化している。

3～5は口縁部片で、口唇部直下には貝殻条痕文を施し、その下位には貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行っている。又、平坦な口唇部外面には貝殻を使った刺突文を施している。6は口縁部片で、外面には横位の貝殻条痕文を施している。7～10は胴部片で、外面には貝殻条痕文を施していて、胎土及び文様からみて6と同形式であろう。11は口縁部片で、外面には縦位の貝殻条痕文を施している。12～15は胴部片で、外面には縦位及び斜位の貝殻刺突文を施している。16～19は胴部片で、外面には貝殻刺突文とハの字状の短沈線文を施している。20～23は胴部片で、外面にはハの字状の短沈線文を施している。24は胴部片で、外面には貝殻刺突文を施している。25は口縁部片で、外面には貝殻条痕による流水文を施している。尚、内面調整については、3～25いずれもナデ調整を行っている。

押型文土器（26～40）

押型文土器は30点出土し、そのうち15点を資料化している。

26～35は山形押型文土器の胴部片で（26は口縁部にむけて外反する付近)、外面には縦位･斜位･横位の山形押型文を施し、内面はナデ調整を行っている。又、器形については、いずれも小破片であるため詳細は把握できない。36～40は楕円押型文土器の胴部片で、外面には斜位･横位の楕円押型文を施し、内面はナデ調整を行っている。又、器形については、山形押型文同様いずれも小破片であるため詳細は把握できない。

妙見式･平栫式土器（41～109）

妙見式･平栫式土器は144点出土し、そのうち69点を資料化している。

41～50は同一固体もしくは同形式の土器であろう。口縁部片である41と胴部片である44からみて、胴部がやや張り口縁部がやや外反する深鉢で、口唇部直下外面には三角形の小型の突帯を３条巡らしている。その突帯には棒状工具によるキザミを施していて、又、胴部には細い棒状工具や小枝による沈線文及び貝殻押引文を施している。51～63は口唇部下に断面三角形状の突帯を巡らした口縁部片で、全てが平口縁である。51は、突帯に棒状工具による沈線文と刺突文及びキザミを施し、突帯下位にも同様工具により沈線文と刺突文を施している。又、52～61･63は、突帯に縦位や斜位の沈線文を施しているが、これはいわゆるキザミ的な意味合いを持つものであろう。62については、突帯にキザミが施されておらず、器形も深鉢（51～61･63）ではなく壺形土器である可能性も考えられる。64～69･71は64･65･68が波状口縁、66･67･69･71が平口縁の口縁部片で、幅広の肥厚帯を作り出していると思われるが、66･67については小破片のためいわゆる「みせかけの肥厚帯」なのかどうかは判断が難しい。尚、外面には細い棒状工具による沈線文や刺突文（連点文）を施している。70は波状口縁の口縁部片で、口縁部文様帯と頸部の間に小型のキザミ突帯を巡らし、先述の「みせかけの肥厚帯」を作り出している。尚、外面には64～69･71同様細い棒状工具による沈線文や刺突文（連点文）を施している。72～74は64～69･71同様口縁部に幅広の肥厚帯を作り出した口縁部片であるが、口唇部付近が破損しており口縁部形態などは不明である。外面には72が棒状工具による刺突文（連点文)、73･74が同工具による沈線文と刺突文（連点文）を施していて、74については肥厚帯下位にも刺突文が施されている。75～82は胴部から口縁部

へとラッパ状に外反する頸部片である。75～81いずれも頸部に突帯を１条巡らし、それに棒状工具によるキザミを施している。又、75･80･81･82は胴部に単節縄文を施し、なかでも75･82は単節縄文に加えて縦位の結節縄文も施している。83～89は沈線文と刺突文が施された胴部片で、器形的特徴については83がやや外側に張った胴部であること以外は、いずれも小破片のため詳細は不明である。尚、83～86については、縦位や横位の突帯を貼付けており、それに棒状工具によるキザミを施している。90～109は斜位や横位の単節縄文及び縦位の結節縄文を施した胴部片で、器形的特徴については91･92･96･104･105などからみて、先述の83同様やや外側に張った胴部である。又、108と109については、底部付近の部位である。

塞ノ神式土器（110～118）

塞ノ神式土器は32点出土し、そのうち９点を資料化している。

110･111はラッパ状に開いた口縁部片で、110は口唇部を平らに仕上げそこにキザミを施した波状口縁で、111については頸部付近に沈線文を巡らしている。112～114は沈線文や撚糸文を施している胴部片、115は沈線文で区画された範囲に縄文を施した胴部片で、器形的特徴についてはいずれも小破片のため詳細は不明である。116は外面に貝殻刺突文を施した口縁部片で、口唇部が尖り気味に仕上げられた平口縁である。117･118は外面に貝殻刺突文を施した胴部片で、小破片のため器形的特徴は把握しづらいが、胴部から口縁部へとやや外反する頸部付近ではないかと推測される。

貝殻条痕文土器（119～139）

貝殻条痕文土器は74点出土し、そのうち21点資料化している。

119～121は外面に貝殻条痕文を施した口縁部片で、平らに仕上げられた口唇部には棒状工具によるキザミを施している。又、内面調整については、119･120は貝殻条痕文を施した後にナデ調整を行っている（121については内面が一部剥離しており詳細は不明だが、おそらくナデ調整を行っている）。122～139は外面に貝殻条痕文を施した胴部片で、器形的特徴についてはいずれも小破片のため詳細は不明である。尚、内面調整については、125･126･132･136･137は貝殻条痕文を施した後ナデ調整を行っており、それ以外の土器片については、ナデ調整のみを行っている。

異形土製品

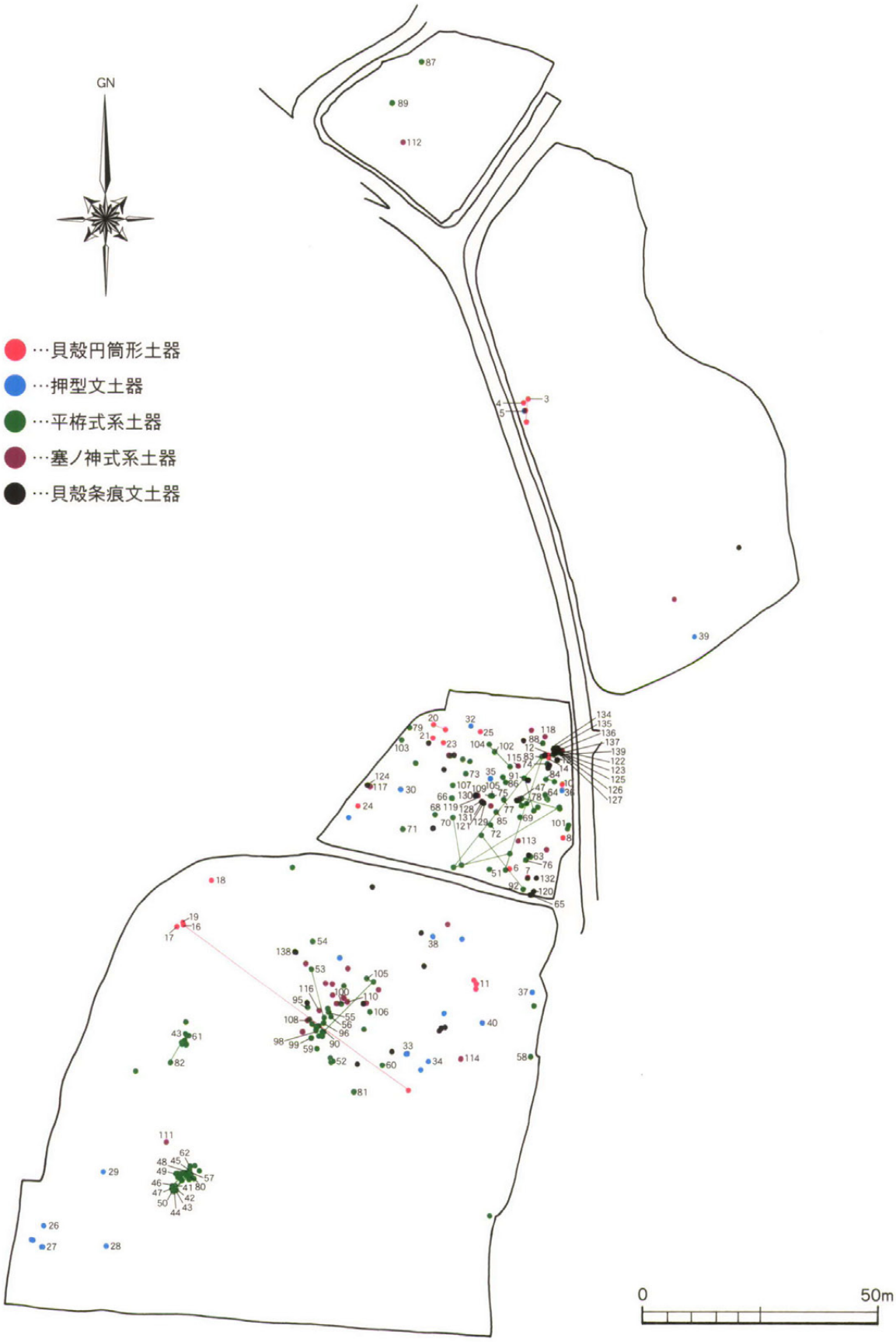
当遺跡ではⅥ層から異形土製品が１点（140）出土している。なんらかの突起物を思わせる形状だが、用途など詳細は不明である。

当遺跡で出土した縄文時代早期の土器は、平栫式系土器と貝殻条痕文土器いわゆる早期後葉から早期末のものがその大半を占めている。なかでも貝殻条痕文土器の出土数が他の遺跡と比較して多いのは、アカホヤ火山灰層上位で轟式土器や曽畑式土器などの縄文時代前期の土器が多く出土していることと関連があるものと考えられ、とても興味深い出土傾向である。

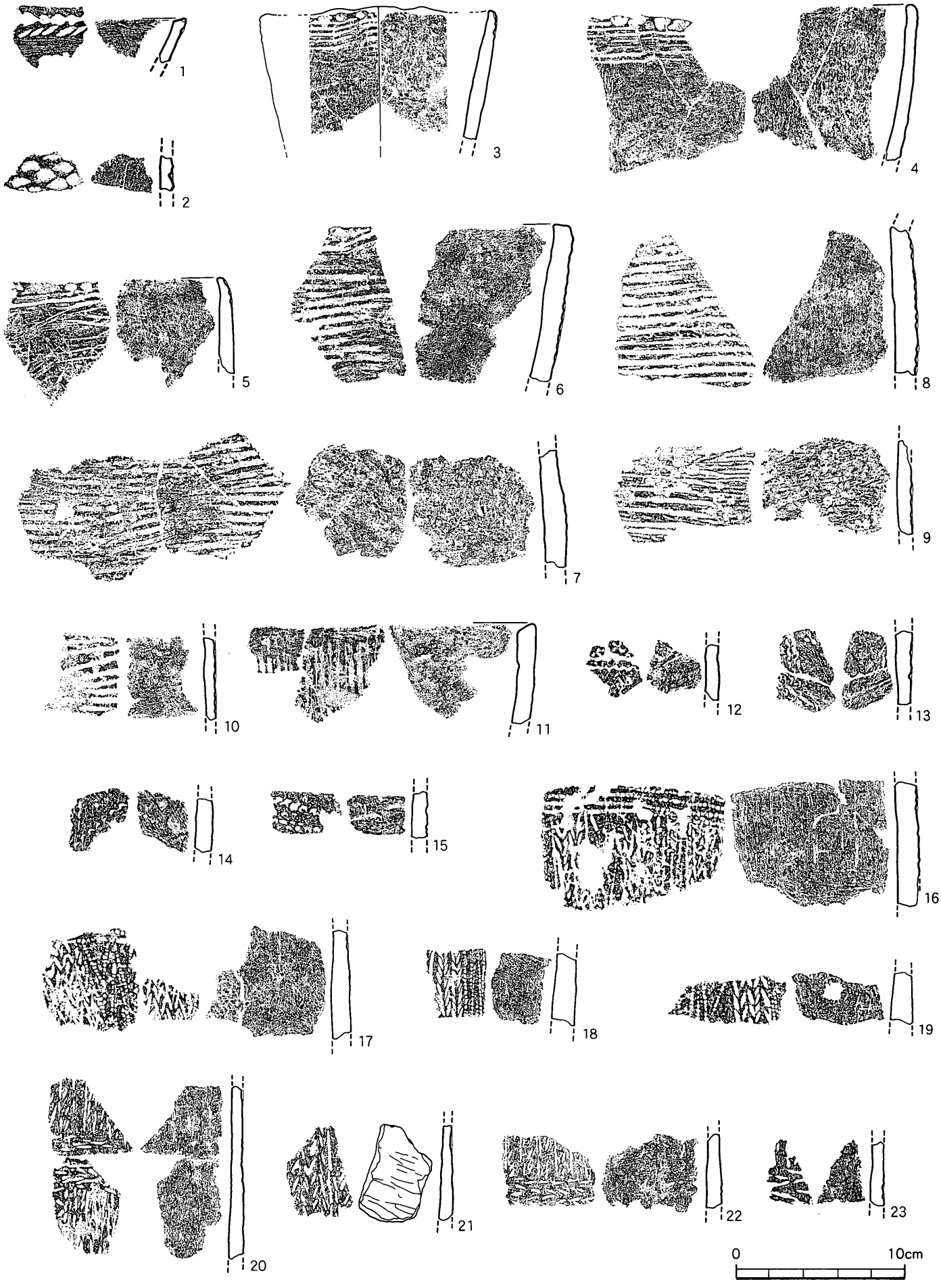
第３表　滑川第１遺跡及び近隣遺跡における縄文時代早期土器の形式別出土割合表

	貝殻円筒形土器		押型文土器		平栫式系土器		塞ノ神式系土器		貝殻条痕文土器		分類可能な全土器片数
	出土数	全分類可能土器片に対する割合	出土数	全分類可能土器片に対する割合	出土数	全分類可能土器片に対する割合	出土数	全分類可能土器片に対する割合	出土数	全分類可能土器片に対する割合	
☆滑川第1遺跡	23	8%	30	10%	144	48%	32	10%	74	24%	303
白ヶ野第1遺跡	3	8%	9	23%	23	59%	4	10%	0	0%	39
白ヶ野第4遺跡	23	35%	14	21%	3	5%	18	27%	8	12%	66
坂元遺跡（B区）	88	22%	210	53%	0	0%	100	25%	0	0%	398
坂元遺跡（E区）	192	64%	52	17%	2	1%	55	18%	0	0%	301
山田第1遺跡	146	4%	607	17%	194	6%	2496	72%	41	1%	3484
山田第2遺跡	379	62%	15	2%	15	2%	187	30%	19	3%	615

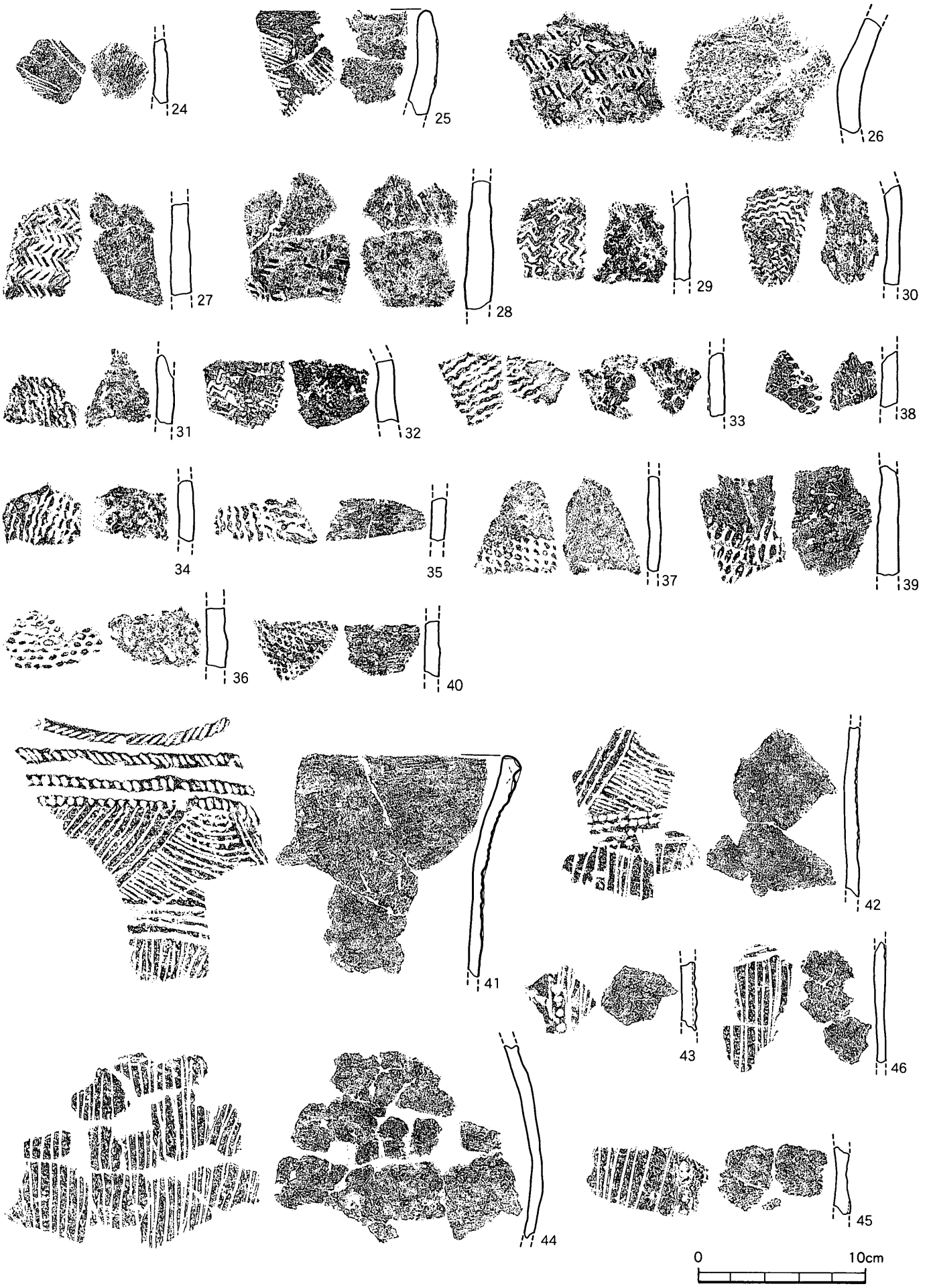
＊出土数が０の土器形式については、あくまでも明確に分類可能な土器片が確認されていないということである。



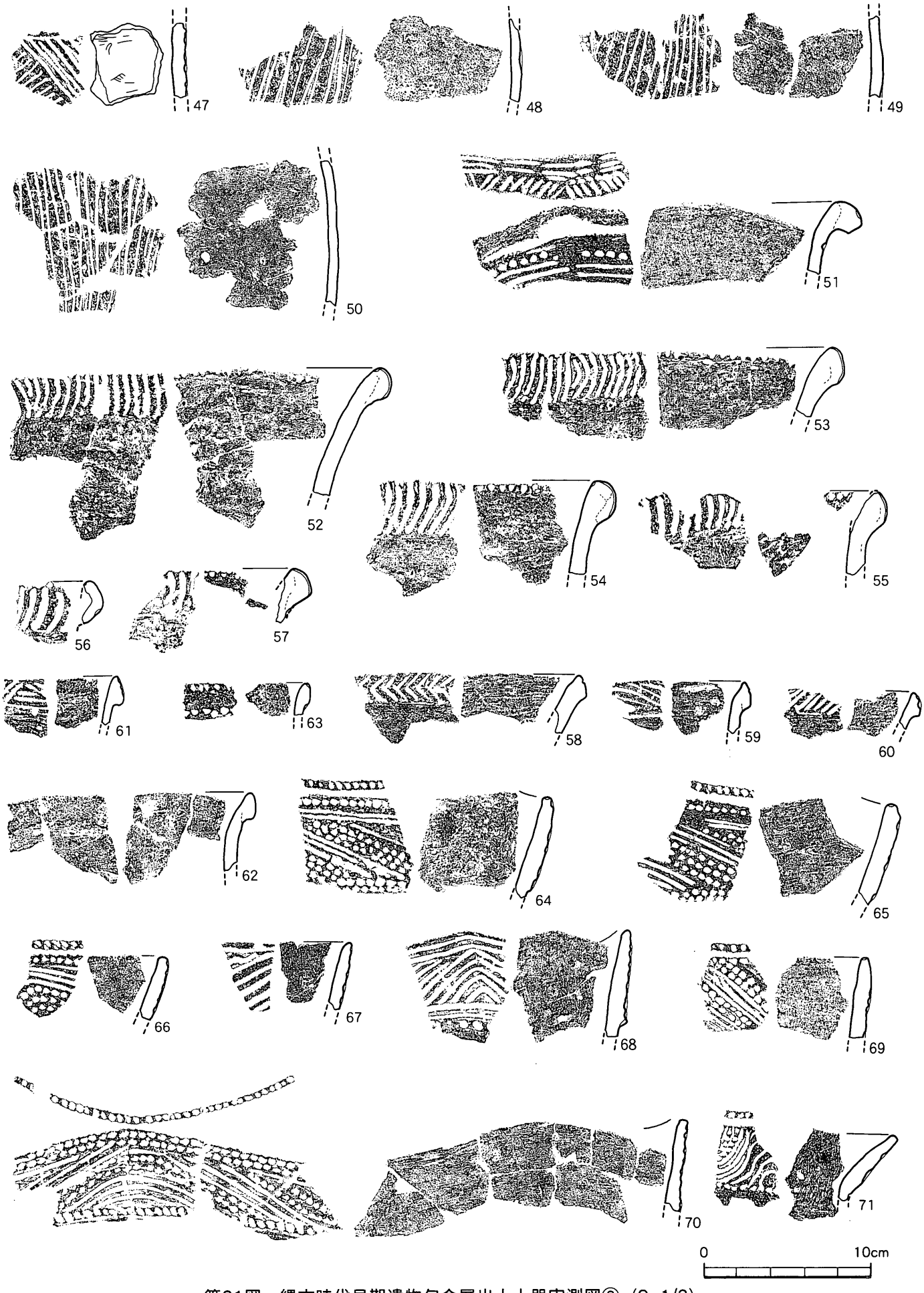
第18図　縄文時代早期遺物包含出土土器分布図（S=1/1250）



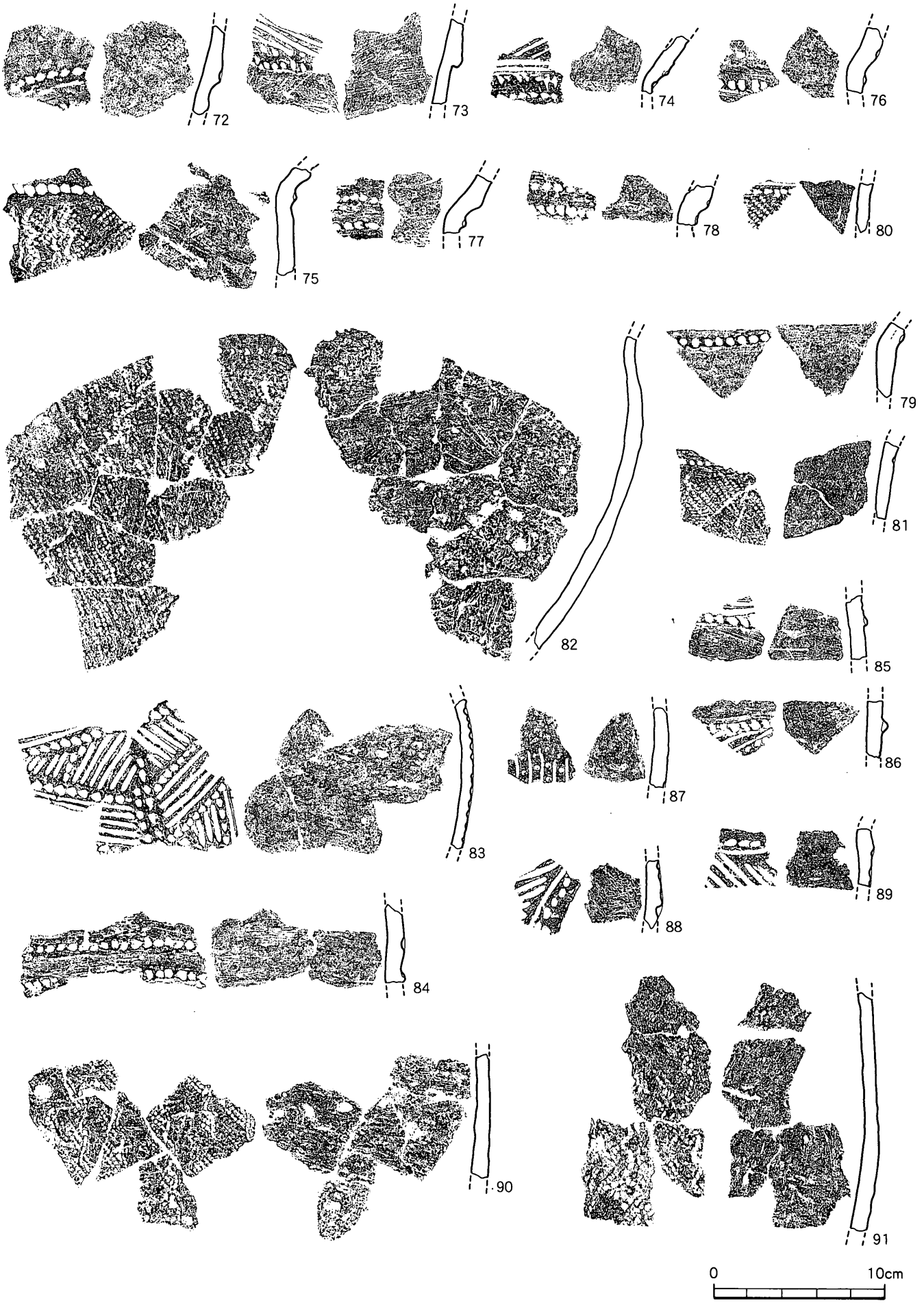
第19図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①（S=1/3）



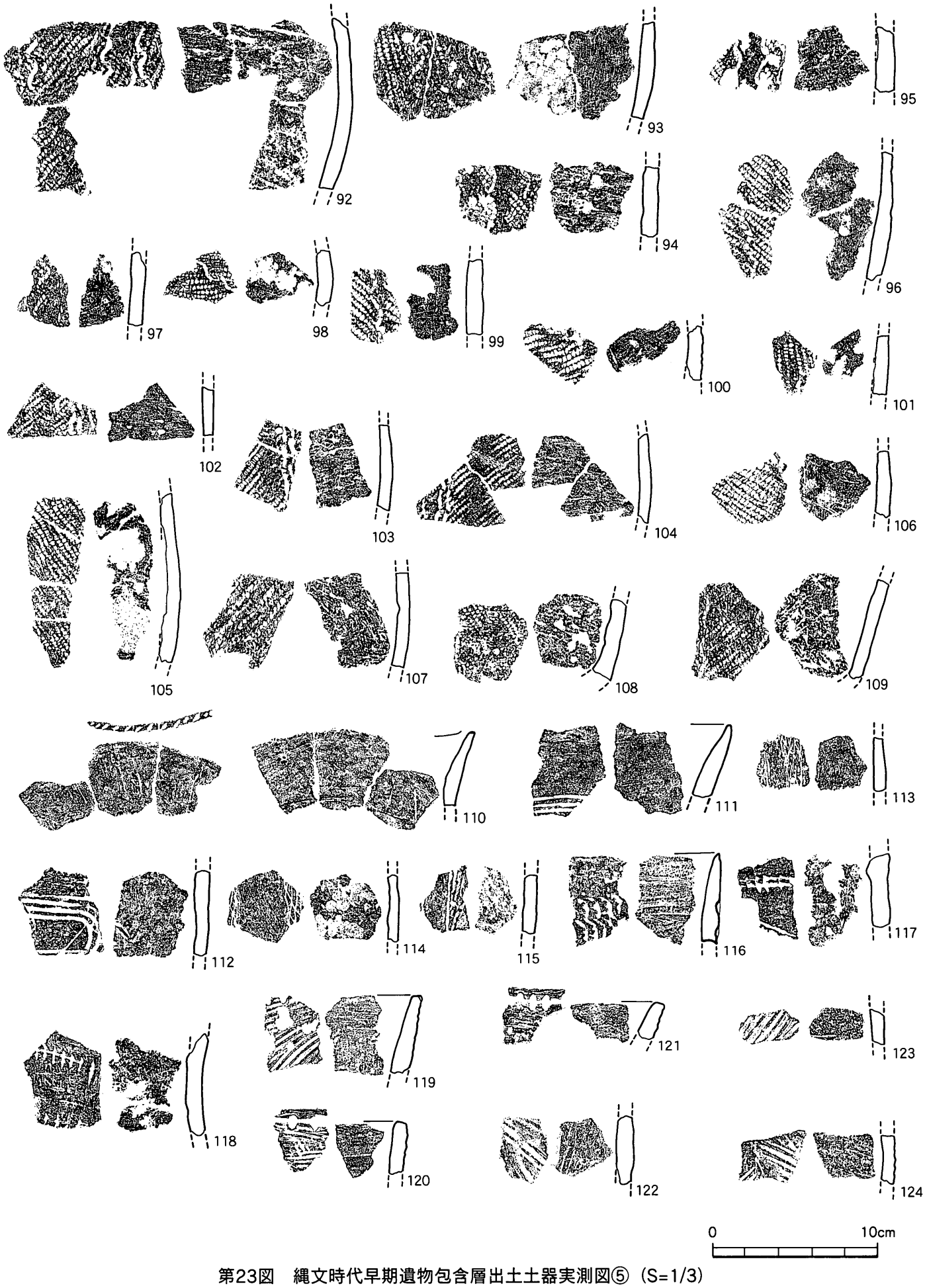
第20図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②（S=1/3）



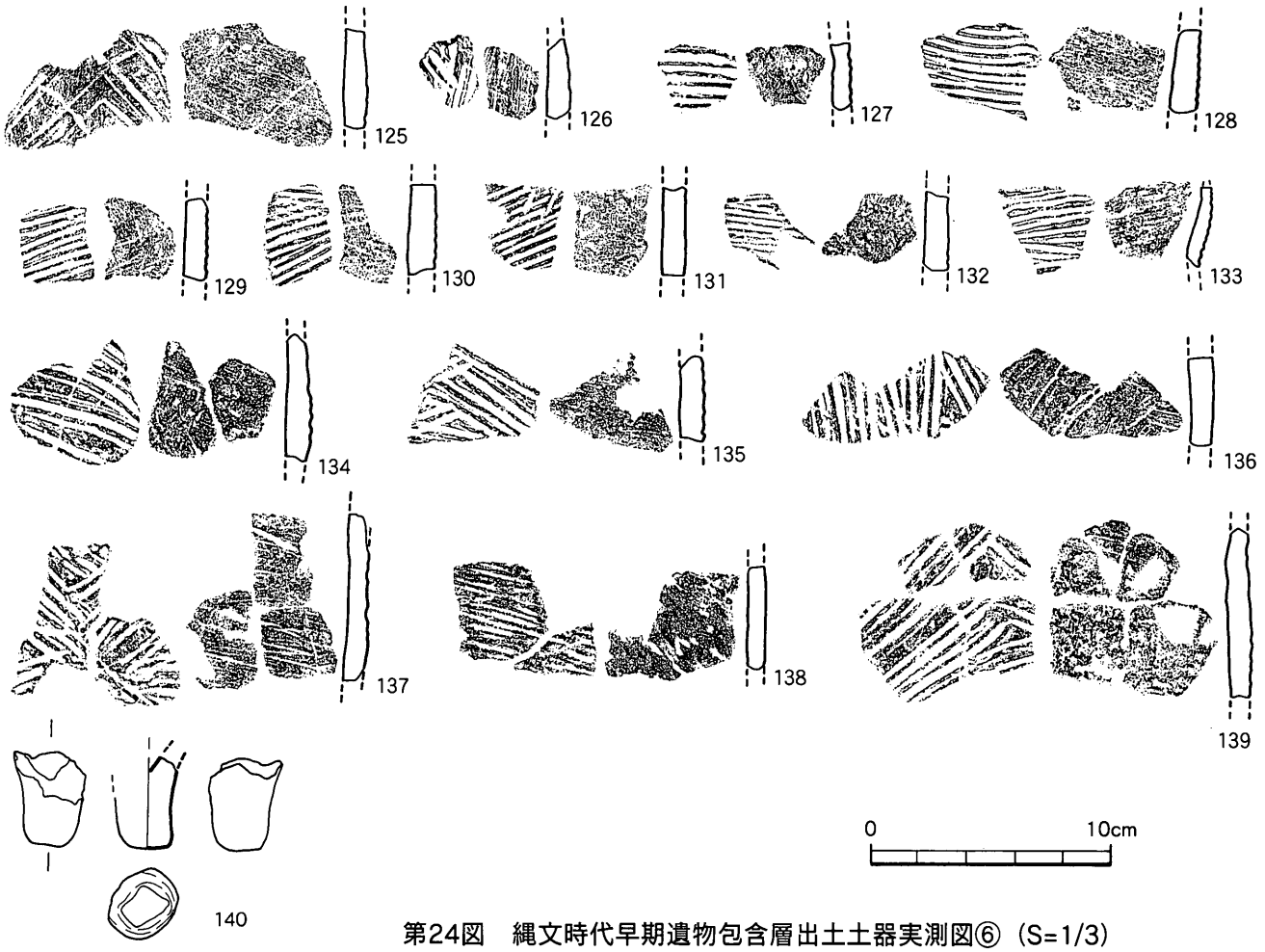
第21図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③（S=1/3）



第22図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④（S=1/3）



第23図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤（S=1/3）



第24図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥（S=1/3）

第４表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表

No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒	
1	Ⅵ層	鉢	口縁	爪形文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミを施している
2	Ⅵ層	鉢	胴部	爪形文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○1mm以下	
3	Ⅵ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/3（褐）	○	○			○	○5mm以下	
4	Ⅵ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・刺突文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○		○	○	○3mm以下	
5	Ⅵ層	深鉢	口縁	貝殻条痕文⇒ナデ・刺突文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○	○2mm以下	
6	Ⅵ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○	○5mm以下	
7	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○	○8mm以下	
8	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○	○8mm以下	
9		深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○			○	○4mm以下	
10		深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○	○3mm以下	
11	Ⅵ層	深鉢	口縁	貝殻条痕文	ナデ	2.5Y5/3(黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○			○4mm以下	
12		深鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○2mm以下	
13	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○2mm以下	
14		深鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR3/1(黒褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○					○2mm以下	
15		深鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○2mm以下	
16	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻刺突文・短沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○7mm以下	
17	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻刺突文・短沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm以下	
18	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻刺突文・短沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○				○	○2mm以下	
19	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻刺突文・短沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○3mm以下	
20	Ⅵ層	深鉢	胴部	短沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○			○3mm以下	
21	Ⅵ層	深鉢	胴部	短沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○3mm以下	
22		深鉢	胴部	短沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm以下	
23	Ⅵ層	深鉢	胴部	短沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)		○	○			○2mm以下	
24	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm以下	
25	Ⅵ層	深鉢	口縁	貝殻条痕文(流水文)	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○4mm以下	

No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒	
26	Ⅴ層	鉢	頸部	山形押型文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○	○			○2mm以下	
27	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○	○			○3mm以下	
28	Ⅴ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○			○	○2mm以下	
29	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○		○		○2mm以下	
30	Ⅴ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○			○3mm以下	
31		鉢	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	○	○		○2mm以下	
32	Ⅴ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)		○			○	○3mm以下	
33	Ⅴ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm以下	
34	Ⅴ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	○			○2mm以下	
35	Ⅴ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	○			○2mm以下	
36	Ⅴ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○	○2mm以下	
37		鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	2.5Y4/4(オリーブ褐)	10YR5/4(にぶい黄褐)	○	○				○2mm以下	
38	Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	2.5YR5/4(にぶい赤褐)	2.5Y5/1(黄灰)	○	○				○2mm以下	
39	Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○	○3mm以下	
40	Ⅴ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/3(にぶい黄褐9	○	○	○			○2mm以下	
41	Ⅴ層	深鉢	口縁～胴部	貼付突帯(キザミ有り)・沈線文・貝殻押引文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)		○				○6mm以下	
42	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻押引文・沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○3mm以下	
43	Ⅴ層	深鉢	胴部	貼付突帯(キザミ有り)・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○				○4mm以下	
44	Ⅴ.Ⅵ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	10YR6/3(にぶい黄橙)		○				○4mm以下	
45	Ⅴ層	深鉢	胴部	貼付突帯	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)		○				○5mm以下	
46	Ⅵ層	深鉢	胴部	貝殻押引文・沈線文	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○6mm以下	
47	Ⅴ層	深鉢	胴部	貝殻押引文・沈線文	ナデ	5YR7/1(明褐灰)	10YR4/1(褐灰)	○	○	○			○5mm以下	
48	Ⅴ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○5mm以下	
49	Ⅴ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	○			○5mm以下	
50	Ⅴ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	2.5Y4/1(黄灰)		○				○5mm以下	
51		深鉢	口縁	貼付突帯・刺突文・沈線文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○5mm以下	貼付突帯に刺突文・沈線文・キザミを施している
52	Ⅴ層	深鉢	口縁	貼付突帯	刺突文	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○3mm以下	貼付突帯に沈線文（キザミ?)を施している
53	Ⅴ層	深鉢	口縁	貼付突帯	刺突文	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○4mm以下	貼付突帯に沈線文（キザミ?)を施している
54	Ⅴ層	深鉢	口縁	貼付突帯	刺突文	5YR5/4(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○3mm以下	貼付突帯に沈線文（キザミ?)を施している
55	Ⅴ.Ⅵ層	深鉢	口縁	貼付突帯	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	2.5Y4/2(暗灰黄)	○	○				○4mm以下	貼付突帯に沈線文（キザミ?)を施している
56	Ⅴ層	深鉢	口縁	貼付突帯	剥離	10YR5/3(にぶい黄褐)	なし	○	○				○3mm以下	貼付突帯に沈線文（キザミ?)を施している
57	Ⅴ層	深鉢	口縁	貼付突帯	刺突文	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○4mm以下	貼付突帯に沈線文（キザミ?)を施している
58		深鉢	口縁	貼付突帯	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○	○2mm以下	貼付突帯に沈線文（キザミ?)を施している
59	Ⅴ層	深鉢	口縁	貼付突帯	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	2.5Y4/2(暗灰黄)	○	○			○	○2mm以下	貼付突帯に沈線文（キザミ?)を施している
60	Ⅵ層	深鉢	口縁	貼付突帯	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	2.5Y5/1(黄灰)	○	○				○1mm以下	貼付突帯に沈線文（キザミ?)を施している
61	Ⅵ層	深鉢	口縁	貼付突帯	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR4/1(褐灰)	○					○1mm以下	貼付突帯に沈線文（キザミ?)を施している
62	Ⅴ層	壺(?)	口縁	貼付突帯	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○				○3mm以下	
63	Ⅴ層	深鉢	口縁	貼付突帯	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)			○			○2mm以下	貼付突帯に刺突文を施している。
64	Ⅴ層	深鉢	口縁波状	肥厚帯	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○2mm以下	肥厚帯に刺突文(連点)・沈線文を施している。
65	Ⅴ層	深鉢	口縁波状	肥厚帯	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○			○	○1mm以下	肥厚帯に刺突文(連点)・沈線文を施している。
66	Ⅴ層	深鉢	口縁	肥厚帯	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)		○				○2mm以下	肥厚帯に刺突文(連点)・沈線文を施している。
67		深鉢	口縁	肥厚帯	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○1mm以下	肥厚帯に沈線文を施している。
68	Ⅴ層	深鉢	口縁	肥厚帯	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)		○	○			○2mm以下	肥厚帯に刺突文(連点)・沈線文を施している。
69	Ⅴ層	深鉢	口縁	肥厚帯	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/4(にぶい黄褐)		○	○			○3mm以下	肥厚帯に刺突文(連点)・沈線文を施している。
70	Ⅴ.Ⅵ層	深鉢	口縁	貼付突帯(キザミ有り)・刺突文・沈線文	ナデ	5YR4/4(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○			○2mm以下	みせかけの肥厚帯か?
71	Ⅴ層	深鉢	口縁	肥厚帯・刺突文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○		○			○2mm以下	肥厚帯に刺突文(連点)・沈線文を施している。
72	Ⅴ層	深鉢	胴部	肥厚帯	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	○			○2mm以下	肥厚帯に沈線文を施している。
73	Ⅴ層	深鉢	口縁	肥厚帯	ナデ	7.5YR4/3(褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○			○3mm以下	肥厚帯に刺突文(連点)・沈線文を施している。
74	Ⅵ層	深鉢	頸部	肥厚帯・刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○			○3mm以下	肥厚帯に沈線文を施している。
75	Ⅴ層	深鉢	頸部～胴部	貼付突帯(キザミ有り)・縄文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○			○3mm以下	
76	Ⅴ層	深鉢	頸部	貼付突帯(キザミ有り)・刺突文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○		○			○3mm以下	
77	Ⅴ層	深鉢	頸部	貼付突帯(キザミ有り)・刺突文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○		○			○2mm以下	
78	Ⅴ層	深鉢	頸部	貼付突帯(キザミ有り)・刺突文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	2.5YR5/4(にぶい赤褐)	○		○			○5mm以下	
79	Ⅵ層	深鉢	頸部	貼付突帯(キザミ有り)	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○	○1mm以下	
80	Ⅴ層	深鉢	頸部	貼付突帯(キザミ有り)・縄文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○2mm以下	

No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒	
81	Ⅵ層	深鉢	頸部～胴部	貼付突帯(キザミ有り)・縄文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○2mm以下	
82	Ⅵ層	深鉢	頸部～胴部	貼付突帯(キザミ有り)・縄文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○1mm以下	
83		深鉢	胴部	貼付突帯(キザミ有り)・刺突文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○			○2mm以下	
84	Ⅵ層	深鉢	胴部	貼付突帯(キザミ有り)・沈線文	ナデ	5YR4/4(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○			○3mm以下	
85	Ⅴ層	深鉢	胴部	貼付突帯(キザミ有り)・沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○			○3mm以下	
86	Ⅴ層	深鉢	胴部	貼付突帯(キザミ有り)・刺突文・沈線文	ナデ	5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/3(褐)	○		○			○2mm以下	
87	Ⅴ層	深鉢	胴部	沈線文・刺突文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○	○3mm以下	
88	Ⅴ層	深鉢	胴部	沈線文・刺突文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○				○1mm以下	
89		深鉢	胴部	沈線文・刺突文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○1mm以下	
90	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm以下	
91		深鉢	胴部	縄文	ナデ	5YR6/2(灰褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○			○4mm以下	
92	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○			○2mm以下	
93	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm以下	
94		深鉢	胴部	縄文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○2mm以下	
95	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○3mm以下	内面剥離著しい
96	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○				○2mm以下	
97	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)			○			○2mm以下	
98	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○5mm以下	
99	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○5mm以下	
100	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○	○8mm以下	
101	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○4mm以下	
102	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)	○					○3mm以下	
103	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○1mm以下	
104	Ⅴ.Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○2mm以下	
105	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm以下	内面剥離著しい
106	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○				○3mm以下	
107	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)			○			○4mm以下	
108	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm以下	
109	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○			○2mm以下	
110	Ⅴ層	鉢	口縁	ナデ	ナデ	5YR7/2(明褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミを施している
111	Ⅴ層	鉢	口縁	ナデ・沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○	○2mm以下	
112	Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○				○2mm以下	
113		鉢	胴部	撚糸文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○2mm以下	
114	Ⅴ層	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○	○2mm以下	
115	Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文・縄文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	○			○2mm以下	
116		鉢	口縁	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○			○	○2mm以下	スス付着
117	Ⅵ層	鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○	○2mm以下	
118	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○2mm以下	
119	Ⅴ層	鉢	口縁	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○4mm以下	口唇部にキザミを施している
120	Ⅴ層	鉢	口縁	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○					○1mm以下	口唇部にキザミを施している
121	Ⅴ層	鉢	口縁	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○				○	○1mm以下	口唇部にキザミを施している
122	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○	○5mm以下	
123	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y6/2(灰黄)	○	○			○	○2mm以下	
124	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○2mm以下	
125	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○				○2mm以下	
126	Ⅵ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○				○1mm以下	
127	Ⅵ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○	○1mm以下	
128	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○	○			○	○2mm以下	
129	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	2.5YR4/4(にぶい赤褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○	○			○	○1mm以下	
130	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○	○2mm以下	
131	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○2mm以下	
132	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○			○	○2mm以下	
133	Ⅴ層	鉢	口縁	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○3mm以下	
134	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○1mm以下	
135	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○	○1mm以下	
136	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○		○		○2mm以下	
137	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○				○1mm以下	
138	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○			○	○3mm以下	
139	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/2(灰黄褐)	○	○		○		○1mm以下	
140	Ⅵ層	異形土製品		ナデ	ナデ	7.5YR7/2(明褐灰)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○	○1mm以下	

2. 石器

縄文時代早期の遺物としてはⅤ層～Ⅵ層にかけて総数511点の石器が出土した。なお、出土状況としてはほとんどが土器の分布と重なる状況であるが、出土土器については複数の形式にわたる土器が集中して出土しているような状況の為、明確に時期を特定する根拠は見出すことはできなかった。ここでは製品を中心に実測図を提示して、説明を加える。

石鏃及びその未製品（141～213）

石鏃は未製品欠損品も含め、総数90点が出土した。本遺跡では以下のⅠ類～Ⅷ類に分類することができた。尚この分類は滑川第一遺跡の整理作業においての分類であり、他の遺跡の資料に用いられるものではない。

Ⅰ類（141～150）：総数で12点出土している。長さと幅が1.5cm 以下で、長幅比がおおむね1:1に収まるもの。桑ノ木津留産黒曜石の使用が目立つ。

Ⅱ類（151～160）：総数で11点出土している。特徴的な脚部を持ついわゆる鍬形鏃と呼ばれるもの。チャートの使用が目立つ。

Ⅲ類（161～169）：総数で10点出土している。体部が直線的に流れ、抉りはないか浅いもので全体の形状が二等辺三角形を呈するもの。

Ⅳ類（170～174）：刃縁が鋸歯状を呈し、脚部に突出部をもつもの。西北九州産及び姫島産黒曜石やサヌカイトが使用されている。

Ⅴ類（175・176）：胴下半部に最大幅を持ち、その付近から屈曲し全体の形状が5角形を呈する帖地型石鏃と呼ばれるもの。玉髄が使用されている。

Ⅵ類（177～179）：局部磨製を施すもの。177は姫島産黒曜石製で先端部付近が擦れており、稜線がはっきりと見えなくなっている。これが研磨によるものであるかわからないが、一応ここに含めて分類しておく。製作時、又は使用時に脚部が欠損したため、石錐として転用した結果、稜線がつぶれてしまった可能性も指摘しておく。

Ⅶ類（180）：胴下半部に最大幅持つが、屈曲が強く抉りが深いもの。チャートを使用する。Ⅴ類と胴下半部に最大幅を持つ点は共通するものの全体の形状を比較すると同じ形には見ることができない。

Ⅷ類（181～211）：上記Ⅰ～Ⅶ類に当てはまらないものをここにまとめた。総数で39点が出土している。一応抉りの深いものと浅いものや素材剥片の形状を大きく残すもの（184・185・197）など細分することは可能であると考えられる。

未製品（212・213）：総数で5点が出土している。2次調整が素材剥片の全周縁に施されておらず、尖端部も明確に作り出されていないもの。185も未製品の可能性が考えられる。

尖頭状石器（214～216）

3点が出土している。欠損品ばかりで石鏃と比べると調整が粗く、尖端部も鈍い。先端部の破片（215・216）は尖頭器の破片の可能性も考えられるが、調整の粗さからここに分類した。石鏃の未製品の可能性も考えられる。

尖頭器（217・218）

2点が出土している。217は安山岩製でスリムな形態をしている。218は玉髄製の両面調整体である。該当器種が見当たらなかったので、一応尖端部の欠損している尖頭器の基部という解釈で分類をおこなった。場合によっては他の器種が該当する可能性も考えられる。

石匙（219～221）

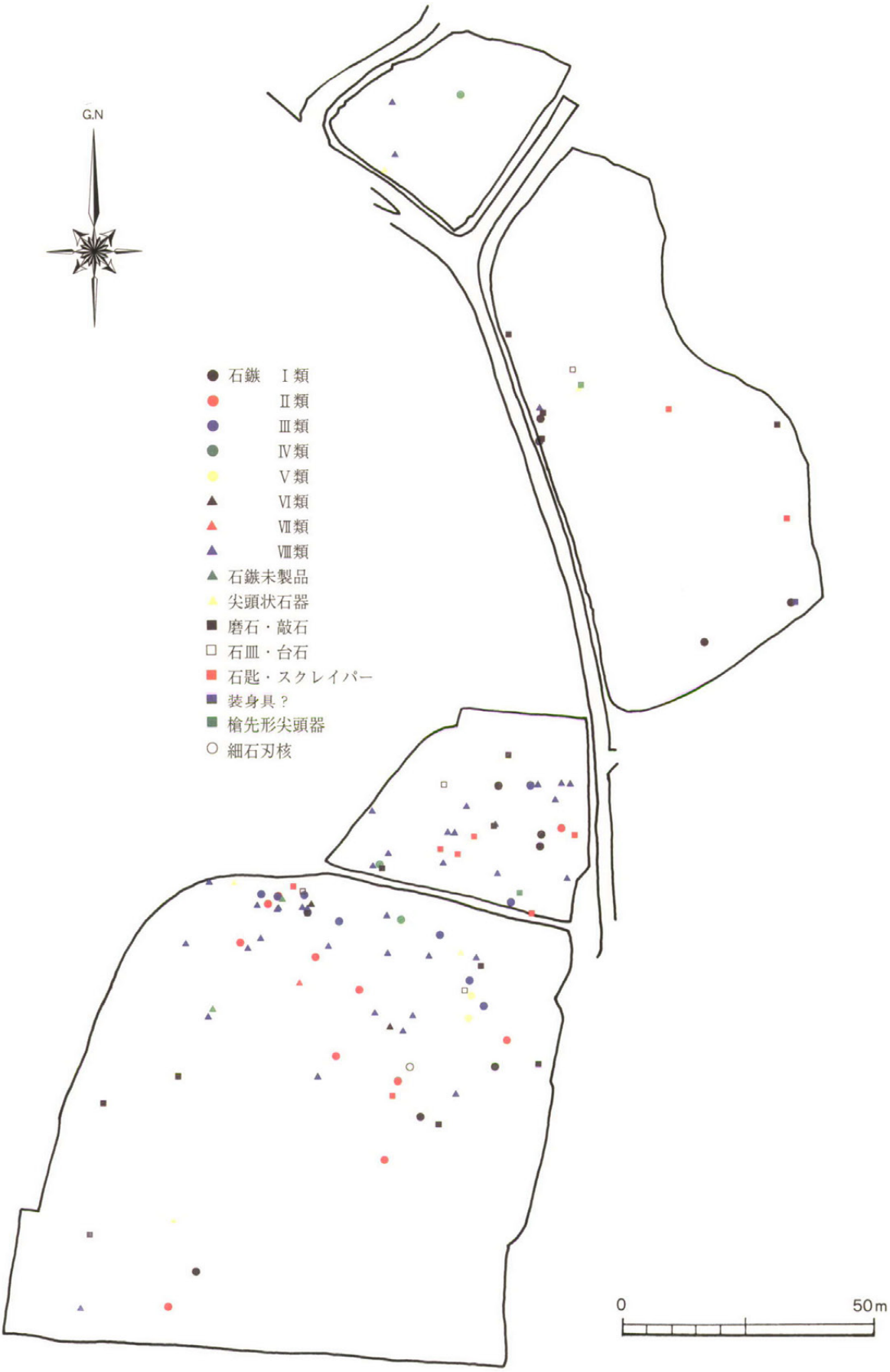
5点が出土している。図示した3点は全て縦型のものであるが、姫島産黒曜石製の横型の物も一点出土している。いずれも素材剥片の形状を大きく残すものである。

スクレイパー（222～224）

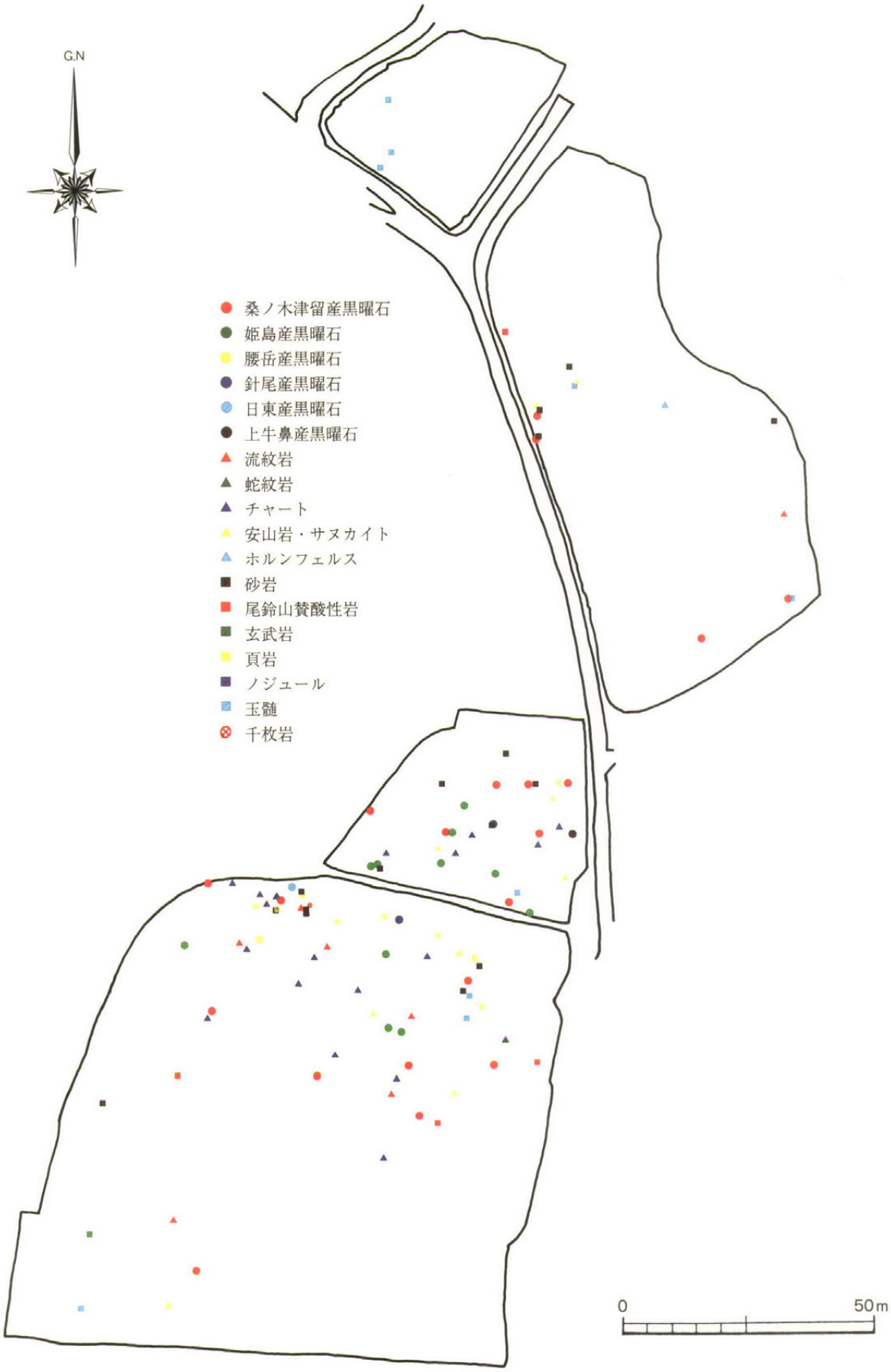
5点が出土している。流紋岩・チャート・ホルンフェルスが使用されている。222は刃部の稜線が鈍くなっており、使用の痕跡と考えられる状況が確認される。223・224は両面から丁寧な刃部調整をおこなっている。

剥片・砕片（226・228）

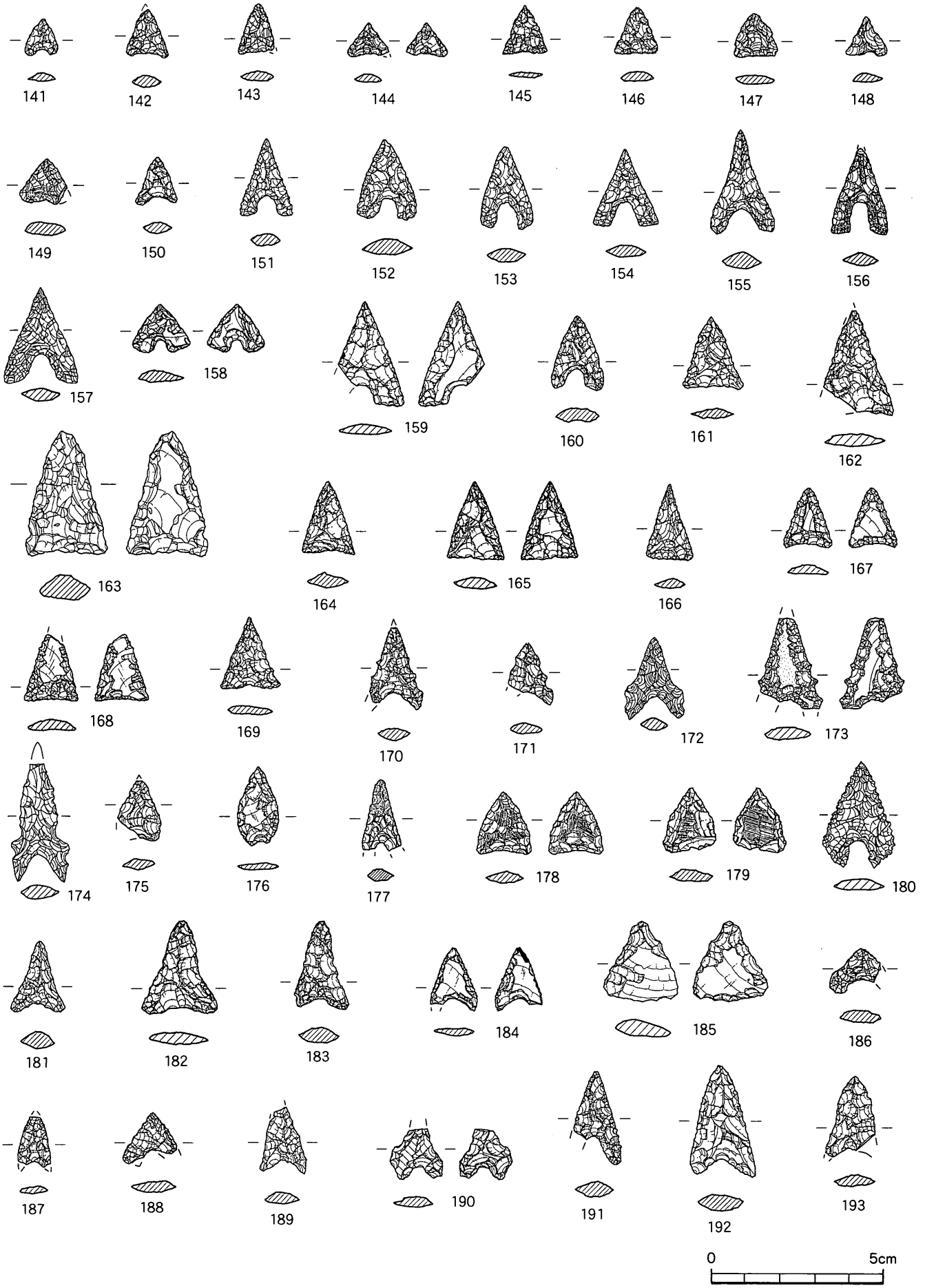
総数で357点が確認されている。様々な石材が使用されており、黒曜石についても様々な産地のものが出土している。砂岩・頁岩・流紋岩・珪化木・腰岳産黒曜石・桑ノ木津留産黒曜石については石核も見つかっている。しかし、その他の石材については製品・剥片・砕片のみで石核は出土していない。砂岩・頁岩・流紋岩は大振りの剥片が多いが、その他の石材については小規模の剥片が中心となっている。



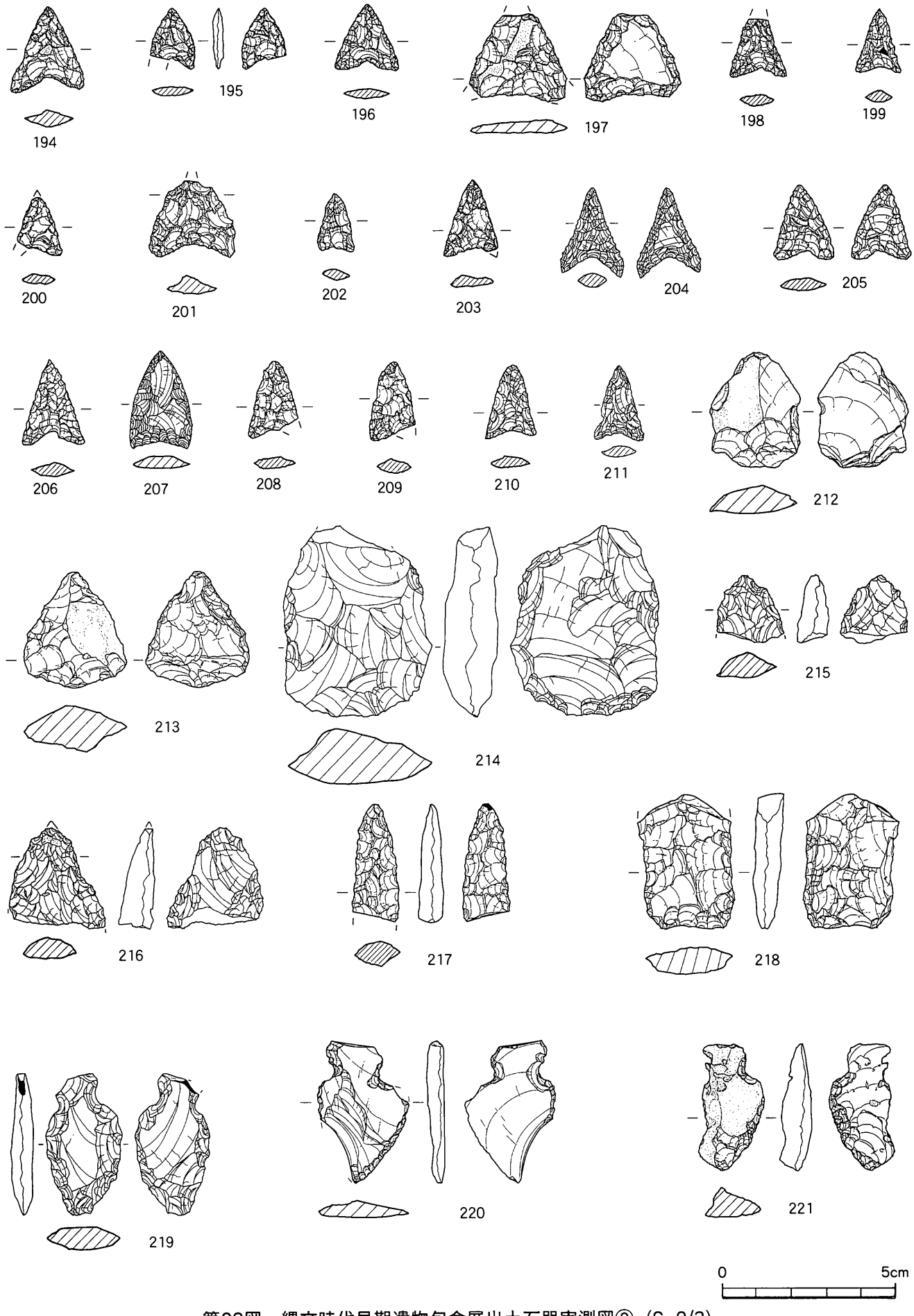
第25図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器（器種別）分布図（S=1/1200）



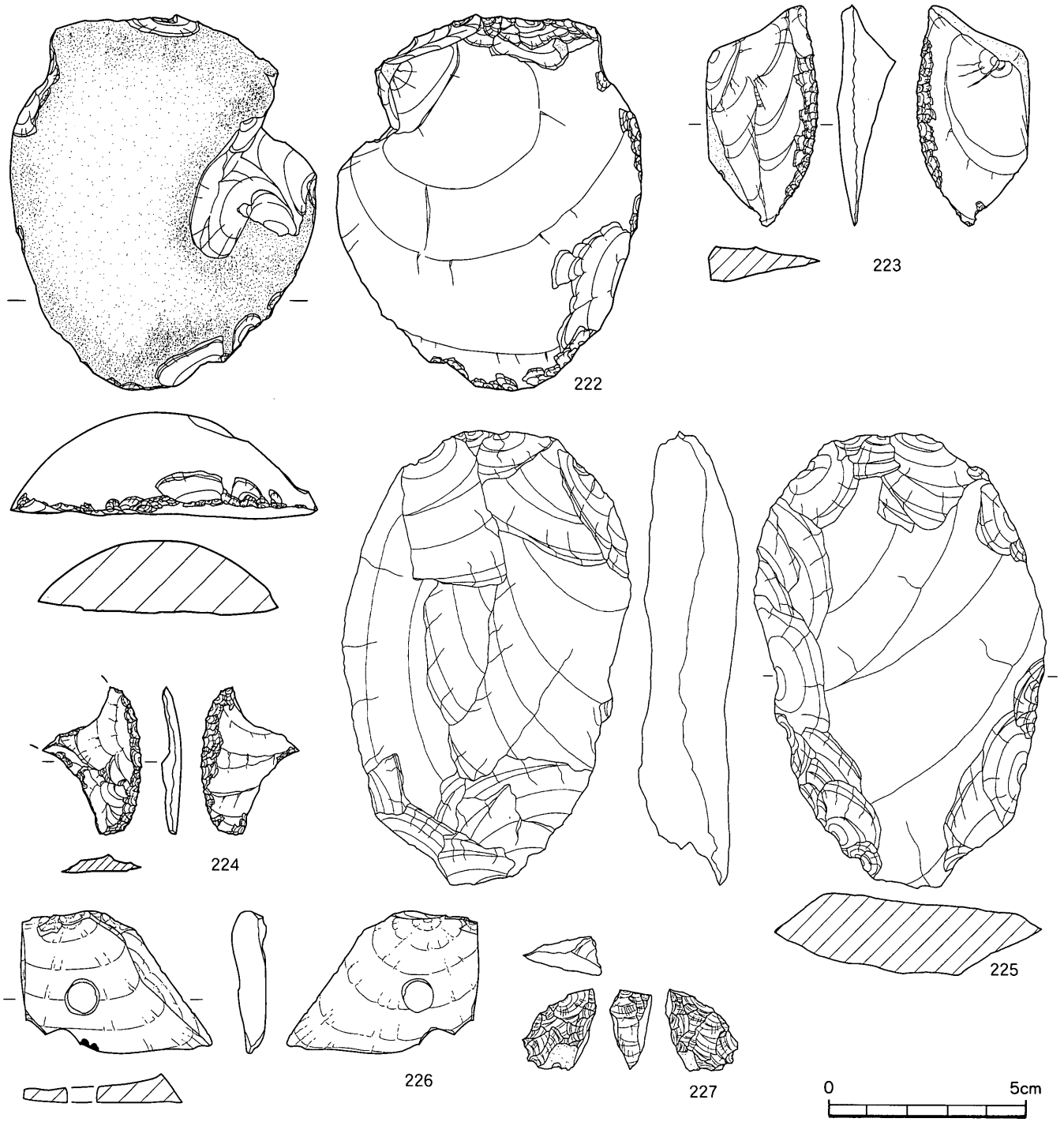
第26図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器（石材別）分布図（S=1/1200）



第27図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①（S=2/3）



第28図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②（S=2/3）



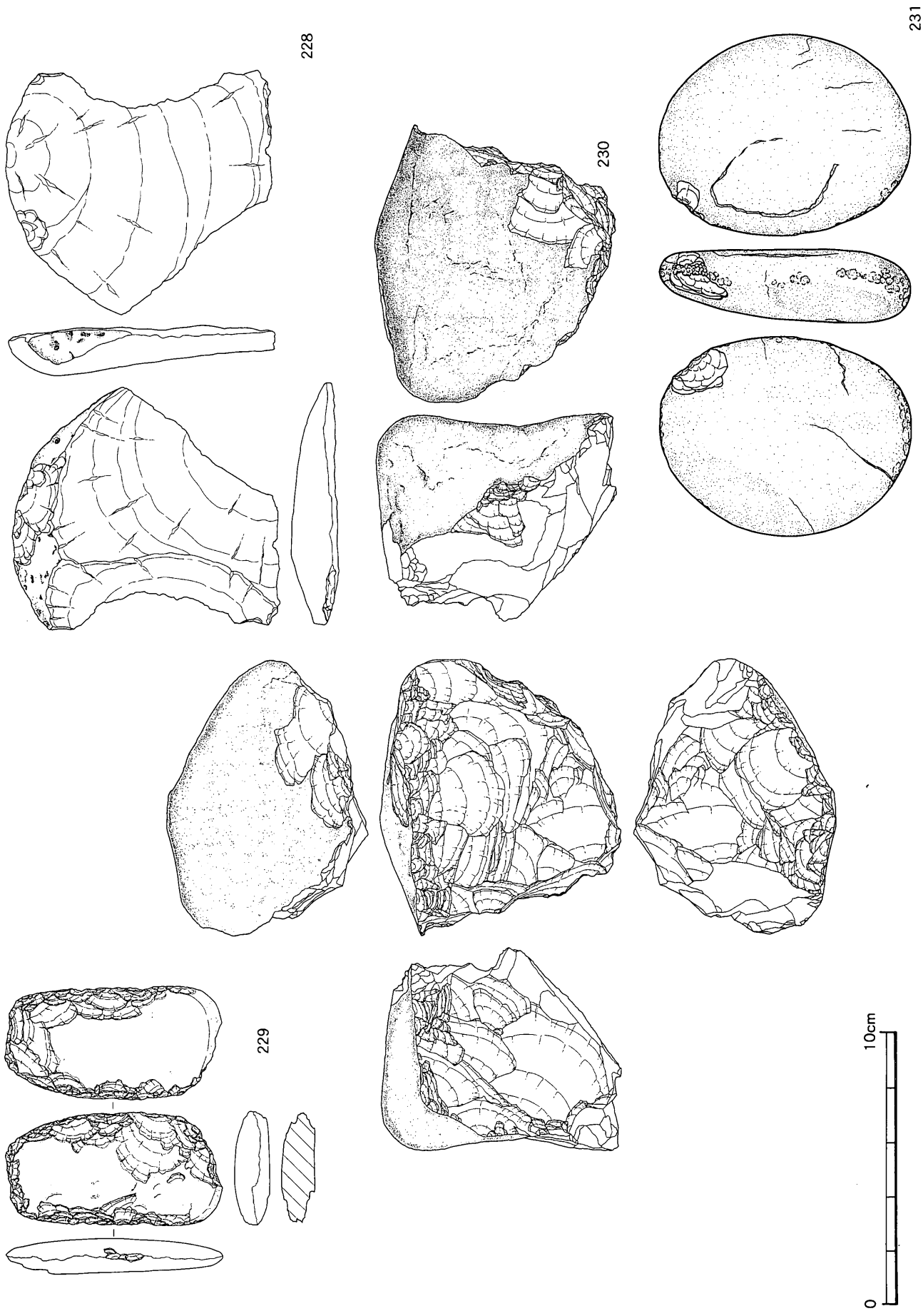
第29図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③（S=2/3）

そのうち特徴的な２点を図示した。226は流紋岩製の不定形な横長剥片である。中央部に穴が開いており、その下の縁辺の一部を打ち欠いてわずかな抉りを入れている。観察した印象では紐を通して結ぶことを想定させるような状況を示す資料である。一応装身具の可能性も指摘しておく。228は尾鈴山酸性岩製の不定形な縦長剥片である。

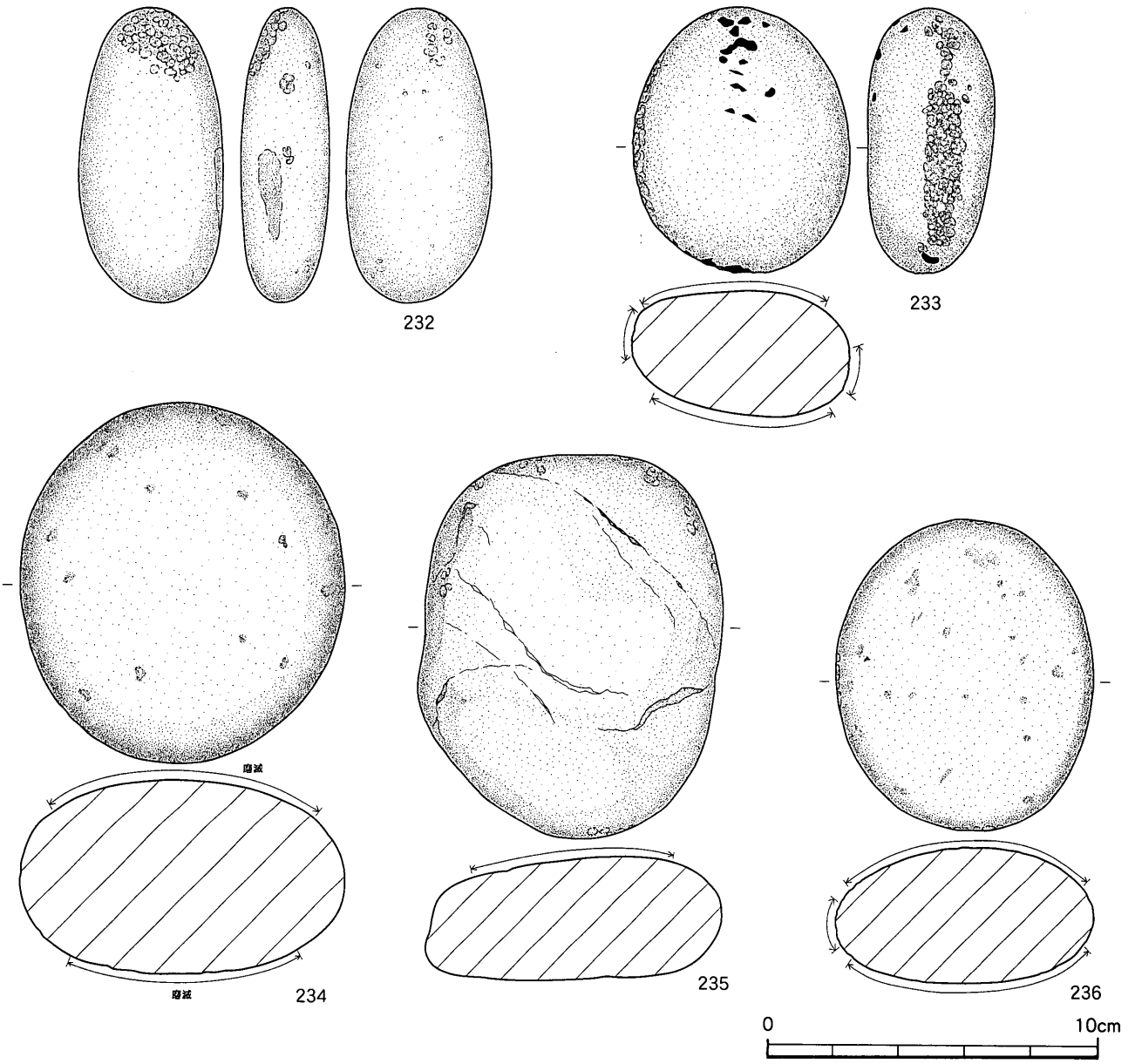
石核（230）

総数で27点が出土している。前述のとおり6種類の石材に限られている。剥片同様砂岩・頁岩・流紋岩については大振りの石核が出土しているが、黒曜石製のものは小規模のものばかりである。

そのうち１点を図示した。流紋岩製の石核で作業面を４面もつ。打面調整はおこなわず、平坦な自然面を打面として設定し、剥片剥離をおこなっている。



第30図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④（S=1/2）



第31図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤（S=1/2）

局部磨製石斧（229）

両刃で平面形は短冊形を呈する。体部の中央付近まで研磨が認められているが、基部には磨製は施されていない。刃縁の一部は欠損している。

敲石（231～233）

総数で４点が出土している。いずれも砂岩製で円礫の端に打撃痕が確認される。233は磨石としても使用しているようである。重量は150g から270g 程度のものである。

磨石（234～236）

総数で12点が出土している。砂岩礫が圧倒的に多く尾鈴山酸性岩製のものは２点しか出土していない。重量は210g から970ｇとかなり幅がある。

石皿（写真図版16の下段）

図示しなかったが総数で４点が出土している。いずれも砂岩製のものである。

細石刃核（227）

１点のみ縄文時代早期の遺物包含層から出土している。桑ノ木津留産黒曜石の小礫または分割礫を素材とするもので、両面調整体の小口部分を作業面として細石刃剥離をおこなっている。

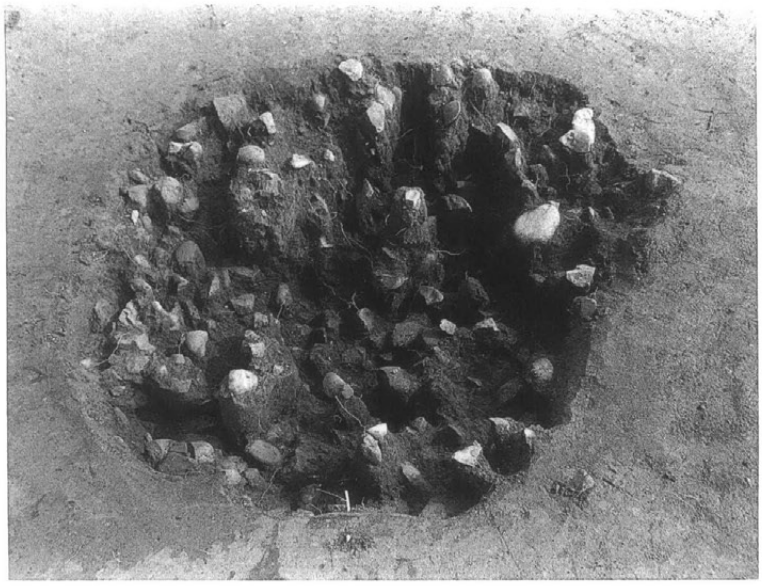
第５表　縄文時代早期包含層出土石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
141	80	打製石鏃	C13	V	黒曜石（桑/木津留）	1.05	0.95	0.25	0.20	Ⅰ類
142	92	打製石鏃	E11	V	黒曜石（桑/木津留）	(1.40)	1.20	0.40	(0.40)	Ⅰ類　先端部欠損
143	35	打製石鏃	E11	－	黒曜石（桑/木津留）	1.50	(1.05)	0.30	(0.30)	Ⅰ類　脚部欠損
144	53	打製石鏃	E8	－	黒曜石（桑/木津留）	0.95	(1.20)	0.25	(0.20)	Ⅰ類　脚部欠損
145	90	打製石鏃	E8	V	黒曜石（桑/木津留）	1.40	1.25	0.15	0.20	Ⅰ類
146	89	打製石鏃	E8	V	黒曜石（桑/木津留）	1.40	1.25	0.30	0.40	Ⅰ類
147	30	打製石鏃	D4	Ⅵ	黒曜石（桑/木津留）	1.25	1.25	0.25	0.30	Ⅰ類
148	36	打製石鏃	F6	Ⅵ	黒曜石（桑/木津留）	1.15	2.15	0.25	0.20	Ⅰ類
149	91	打製石鏃	E11	V	黒曜石（桑/木津留）	1.35	(1.30)	0.40	(0.50)	Ⅰ類　脚部欠損
150	133	打製石鏃	－	Ⅵ	玉髄	1.45	1.20	0.30	0.30	Ⅰ類
151	124	打製石鏃	E10	Ⅵ	チャート	2.20	1.50	0.35	0.70	Ⅱ類
152	129	打製石鏃	－	Ⅵ	チャート	2.30	1.75	0.45	1.20	Ⅱ類
153	120	打製石鏃	D11	Ⅵ	チャート	2.35	1.50	0.40	1.00	Ⅱ類
154	131	打製石鏃	－	Ⅵ	チャート	2.20	1.90	0.35	0.80	Ⅱ類
155	85	打製石鏃	D10	V	チャート	3.00	1.85	0.50	1.30	Ⅱ類
156	81	打製石鏃	C14	V	チャート	(2.45)	1.65	0.40	(0.90)	Ⅱ類　先端部欠損
157	2	打製石鏃	D11	Ⅵ	チャート	2.70	2.10	0.30	1.20	Ⅱ類
158	134	打製石鏃	C10	Ⅵ	チャート	1.40	1.65	0.35	0.50	Ⅱ類
159	103	打製石鏃	D9	V	流紋岩	3.00	(1.90)	0.30	(1.20)	Ⅱ類　脚部欠損
160	82	打製石鏃	D8	V	安山岩	2.15	1.50	0.40	1.00	Ⅱ類
161	98	打製石鏃	－	V	チャート	2.05	1.75	0.30	0.80	Ⅲ類
162	100	打製石鏃	－	V	チャート	(3.00)	(2.00)	0.35	(1.60)	Ⅲ類　先端部・脚部欠損
163	142	打製石鏃	C10	Ⅵ	流紋岩	3.55	2.35	0.75	5.30	Ⅲ類
164	115	打製石鏃	C10	Ⅵ	流紋岩	2.10	1.50	0.45	0.90	Ⅲ類
165	136	打製石鏃	C10	Ⅵ	流紋岩	2.25	1.60	3.50	1.00	Ⅲ類
166	125	打製石鏃	E10	Ⅵ	頁岩	2.20	1.35	0.30	0.70	Ⅲ類
167	138	打製石鏃	E10	Ⅵ	頁岩	1.75	1.40	0.30	0.50	Ⅲ類
168	137	打製石鏃	E9	Ⅵ	黒曜石（桑/木津留）	(2.00)	1.55	0.30	(0.70)	Ⅲ類　先端部欠損
169	95	打製石鏃	B12	V	黒曜石（桑/木津留）	2.10	1.75	0.30	0.60	Ⅲ類
170	99	打製石鏃	－	V	黒曜石（針尾）	(2.40)	(1.50)	0.35	(0.90)	Ⅳ類　先端部・脚部欠損
171	50	打製石鏃	－	－	黒曜石（姫島）	1.85	(1.30)	0.30	(0.45)	Ⅳ類　脚部欠損
172	3	打製石鏃	D9	V	黒曜石（姫島）	2.40	1.80	0.30	0.80	Ⅳ類
173	51	打製石鏃	A11	－	黒曜石（針尾）	(2.65)	(1.85)	0.40	(1.20)	Ⅳ類　先端部・脚部欠損
174	4	打製石鏃	－	V	サヌカイト	(3.40)	1.60	0.40	(1.50)	Ⅳ類　先端部欠損
175	126	打製石鏃	E10	Ⅵ	玉髄	(1.75)	(1.25)	0.35	(0.50)	Ⅴ類　先端部・脚部欠損
176	127	打製石鏃	E10	Ⅵ	玉髄	2.30	1.20	0.20	0.60	Ⅴ類
177	86	打製石鏃	D11	V	黒曜石（姫島）	(2.05)	(1.10)	0.40	(0.50)	Ⅵ類　脚部欠損
178	104	打製石鏃	－	V	安山岩	1.85	1.60	0.30	0.70	Ⅵ類
179	52	打製石鏃	E8	－	千枚岩	1.90	1.50	0.30	0.80	Ⅵ類
180	164	打製石鏃	－	V	チャート	3.00	2.10	0.30	1.50	Ⅶ類
181	119	打製石鏃	D10	Ⅵ	チャート	2.05	1.55	0.45	0.90	Ⅷ類
182	130	打製石鏃	－	Ⅵ	流紋岩	2.70	2.20	0.35	1.50	Ⅷ類
183	96	打製石鏃	－	V	黒曜石（桑/木津留）	2.60	1.60	0.45	1.00	Ⅷ類
184	139	打製石鏃	E11	Ⅵ	安山岩	1.85	1.40	0.20	0.40	Ⅷ類
185	135	打製石鏃	C10	Ⅵ	砂岩	2.35	2.15	0.50	1.90	Ⅷ類
186	94	打製石鏃	－	V	黒曜石（桑/木津留）	1.30	(1.55)	0.35	(0.50)	Ⅷ類　脚部欠損
187	88	打製石鏃	D11	V	黒曜石（桑/木津留）	(1.50)	(0.95)	0.20	(0.30)	Ⅷ類　先端部・脚部欠損
188	93	打製石鏃	E10	V	黒曜石（腰岳）	1.50	(1.55)	0.35	(0.40)	Ⅷ類　脚部欠損

（　　）の値は残存値を示す

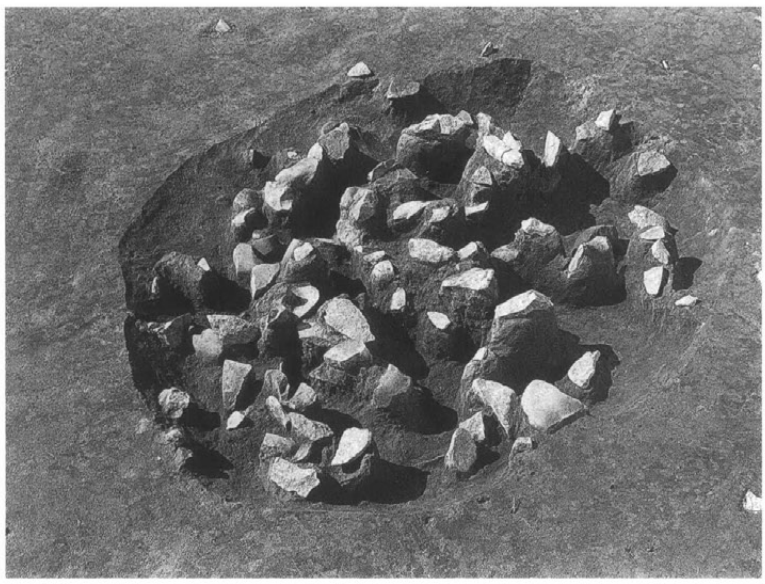
遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
189	87	打製石鏃	D11	V	黒曜石(姫島)	(1.95)	1.35	0.35	(0.60)	Ⅷ類　先端部欠損
190	101	打製石鏃	D8	V	黒曜石(姫島)	(1.45)	1.50	0.30	(0.50)	Ⅷ類　先端部欠損
191	83	打製石鏃	D9	V	黒曜石(姫島)	2.70	(1.40)	0.45	(0.90)	Ⅷ類　脚部欠損
192	84	打製石鏃	D10	V	安山岩	3.20	1.90	0.50	2.00	Ⅷ類
193	122	打製石鏃	E8	Ⅵ	安山岩	(2.35)	(1.45)	0.35	(0.90)	Ⅷ類　脚部欠損
194	128	打製石鏃	－	Ⅵ	玉髄	2.45	2.10	0.45	1.40	Ⅷ類
195	112	打製石鏃	B1	Ⅵ	玉髄	1.75	(1.30)	0.30	(0.50)	Ⅷ類　脚部欠損
196	97	打製石鏃	－	V	チャート	1.90	1.80	0.30	0.70	Ⅷ類
197	102	打製石鏃	D9	V	流紋岩	(2.50)	(2.80)	0.40	(2.70)	Ⅷ類　先端部・脚部欠損
198	121	打製石鏃	E8	Ⅵ	流紋岩	(1.65)	1.60	0.30	(0.70)	Ⅷ類　先端部欠損
199	117	打製石鏃	D10	Ⅵ	流紋岩	1.90	1.30	0.35	0.50	Ⅷ類
200	132	打製石鏃	F5	Ⅵ	流紋岩	(1.65)	(1.30)	0.30	(0.50)	Ⅷ類　先端部・脚部欠損
201	114	打製石鏃	C10	Ⅵ	流紋岩	(2.20)	2.45	0.55	(2.40)	Ⅷ類　先端部欠損
202	29	打製石鏃	D4	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.65	1.05	0.30	0.40	Ⅷ類
203	116	打製石鏃	D8	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	2.20	(1.50)	0.35	(0.80)	Ⅷ類　脚部欠損
204	159	打製石鏃	D8	V	黒曜石(姫島)	2.50	1.80	0.40	1.00	Ⅷ類
205	140	打製石鏃	－	Ⅵ	黒曜石(姫島)	2.10	1.70	0.35	0.90	Ⅷ類
206	118	打製石鏃	D10	Ⅵ	黒曜石(姫島)	2.40	1.80	0.40	1.00	Ⅷ類
207	5	打製石鏃	D8	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	2.80	1.75	0.35	1.50	Ⅷ類
208	123	打製石鏃	E8	Ⅵ	安山岩	2.20	(1.45)	0.35	(0.80)	Ⅷ類　脚部欠損
209	113	打製石鏃	C10	Ⅵ	安山岩	2.25	(1.35)	0.40	(1.00)	Ⅷ類　脚部欠損
210	43	打製石鏃	－	Ⅵ	安山岩	2.10	1.45	3.50	0.70	Ⅷ類
211	158	打製石鏃	F9	V	サヌカイト	2.80	1.90	0.40	1.50	Ⅷ類
212	141	打製石鏃未製品	－	Ⅵ	頁岩	3.25	2.60	0.80	7.10	
213	719	打製石鏃未製品	－	Ⅵ	流紋岩	(5.40)	4.30	1.60	(33.00)	先端部欠損
214	105	尖頭状石器	－	V	チャート	3.30	2.95	1.30	9.70	
215	720	尖頭状石器	E10	Ⅵ	流紋岩	(1.90)	(1.90)	0.90	(2.70)	基部欠損
216	721	尖頭状石器	B2	Ⅵ	玉髄	(2.80)	(2.80)	1.10	(5.00)	先端部・基部欠損
217	143	槍先形尖頭器	D4	Ⅵ	安山岩	(3.35)	1.35	0.70	(3.10)	基部欠損
218	144	槍先形尖頭器	E9	Ⅵ	玉髄	(3.85)	2.80	0.90	(10.00)	先端部欠損
219	724	石匙	D9	V	サヌカイト	4.00	2.20	0.70	(5.10)	つまみ部欠損
220	106	石匙	D9	V	黒曜石(姫島)	4.10	2.60	0.50	3.80	
221	145	石匙	E9	Ⅵ	黒曜石(上牛鼻)	3.60	1.90	0.85	4.52	
222	108	スクレイパー	E8	V	流紋岩	9.20	7.60	2.50	184.10	
223	107	スクレイパー	D11	V	頁岩	5.40	2.80	1.30	13.80	
224	109	スクレイパー	－	V	チャート	(3.70)	(2.50)	0.50	(2.40)	上半部欠損
225	723	スクレイパー	E4	Ⅵ	ホルンフェルス	11.30	7.30	2.50	195.10	
226	147	剥片	G5	Ⅵ	頁岩	3.55	4.80	0.85	10.40	装身具の可能性有
227	727	細石刃核	E11	V	黒曜石(桑ノ木津留)	2.00	2.00	1.00	2.40	
228	71	剥片	E4	Ⅵ	尾鈴山酸性岩	11.10	9.95	2.00	159.10	
229	146	打製石斧(局部磨製)		Ⅵ	ホルンフェルス	9.10	4.75	1.50	88.50	
230	74・75	石核	E4	Ⅵ	頁岩	10.10	11.4	8.45	979.40	
231	150	敲石	E8	Ⅵ	砂岩	9.250	7.25	2.70	227.40	
232	111	敲石	E8	V	凝灰岩	8.80	4.40	2.70	152.30	
233	77	敲石	D4	Ⅵ	砂岩	7.90	6.65	3.85	273.05	磨石としても使用
234	110	磨石	F11	V	凝灰岩	10.70	9.80	5.80	926.10	
235	149	磨石	E9	Ⅵ	砂岩	11.55	9.25	3.70	580.30	
236	148	磨石	B12	Ⅵ	尾鈴山酸性岩	9.35	7.80	4.05	426.98	

(　　)の値は残存値を示す



SI-13《^{14}C 年代：9280±140年 BP》

SI-34《^{14}C 年代：8480±80年 BP》

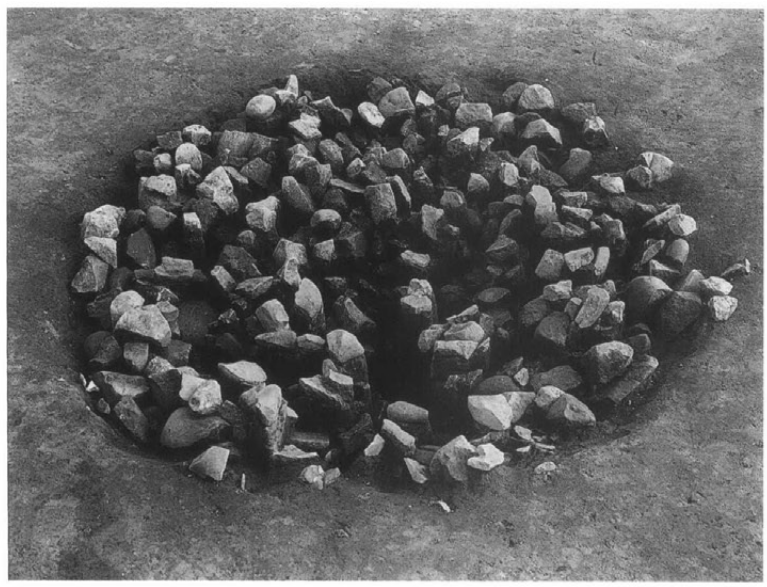


SI-45《^{14}C 年代：8420±70年 BP》

写真図版３　縄文時代早期遺構①

SI-19・20《^{14}C 年代：8400±80年 BP》

SI-28《^{14}C 年代：8310±120年 BP》



SI-27《^{14}C 年代：8250±70年 BP》

写真図版４　縄文時代早期遺構②

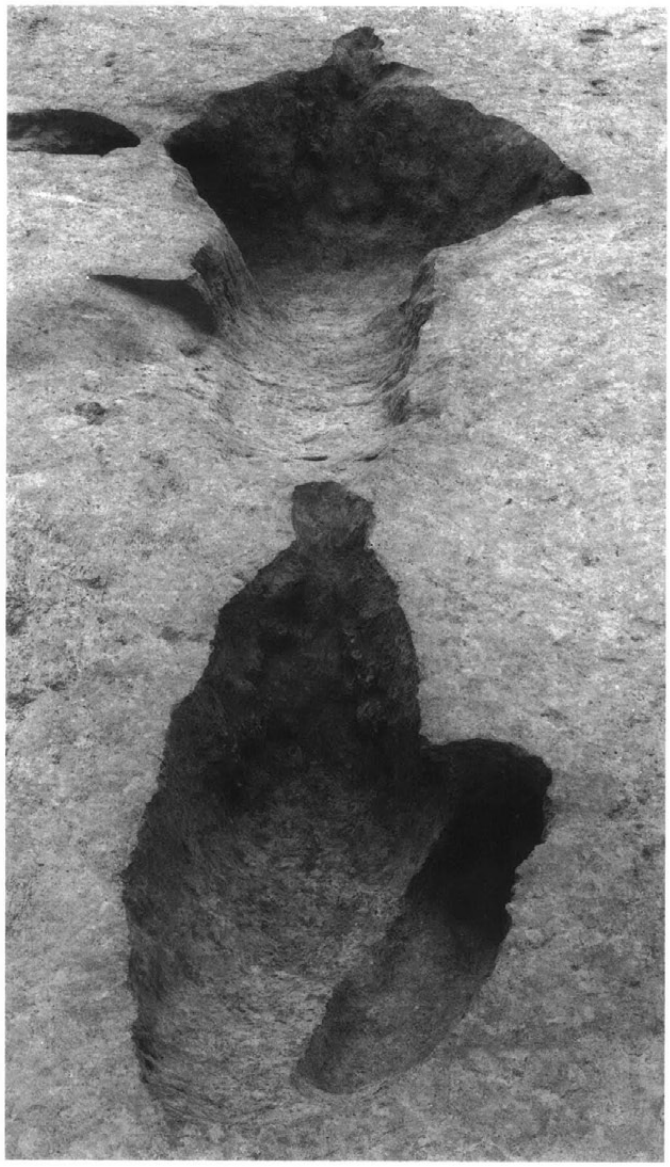
SI-42《^{14}C 年代：8220±80年 BP》

SI-33《礫充填状況》

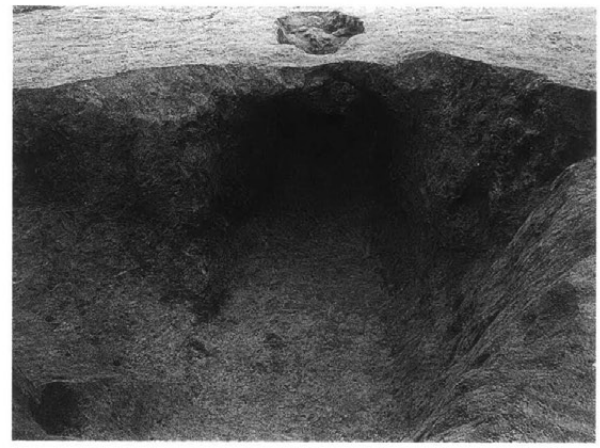
SI-6《^{14}C 年代：7570±150年 BP》

写真図版５　縄文時代早期遺構③

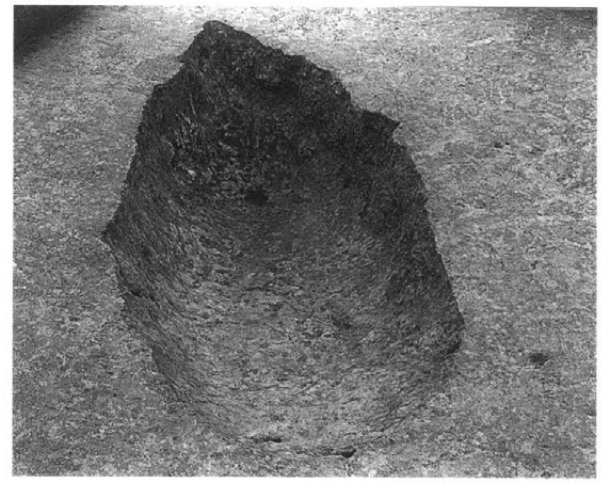
SI-12《^{14}C 年代：6770±60年 BP》



SC-204～207

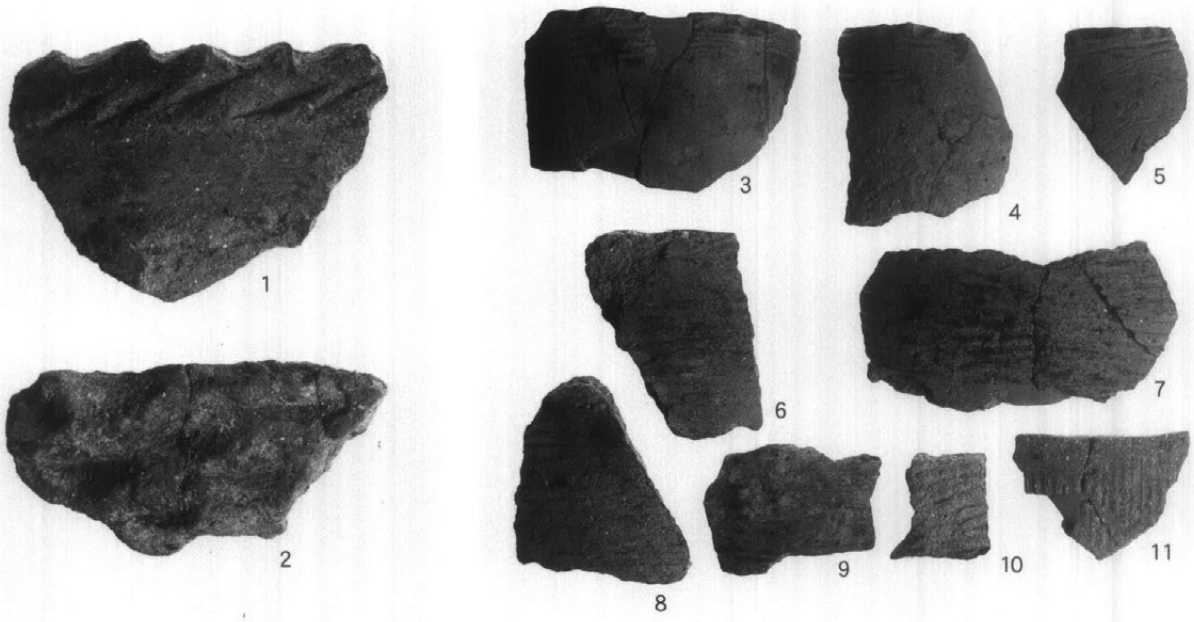


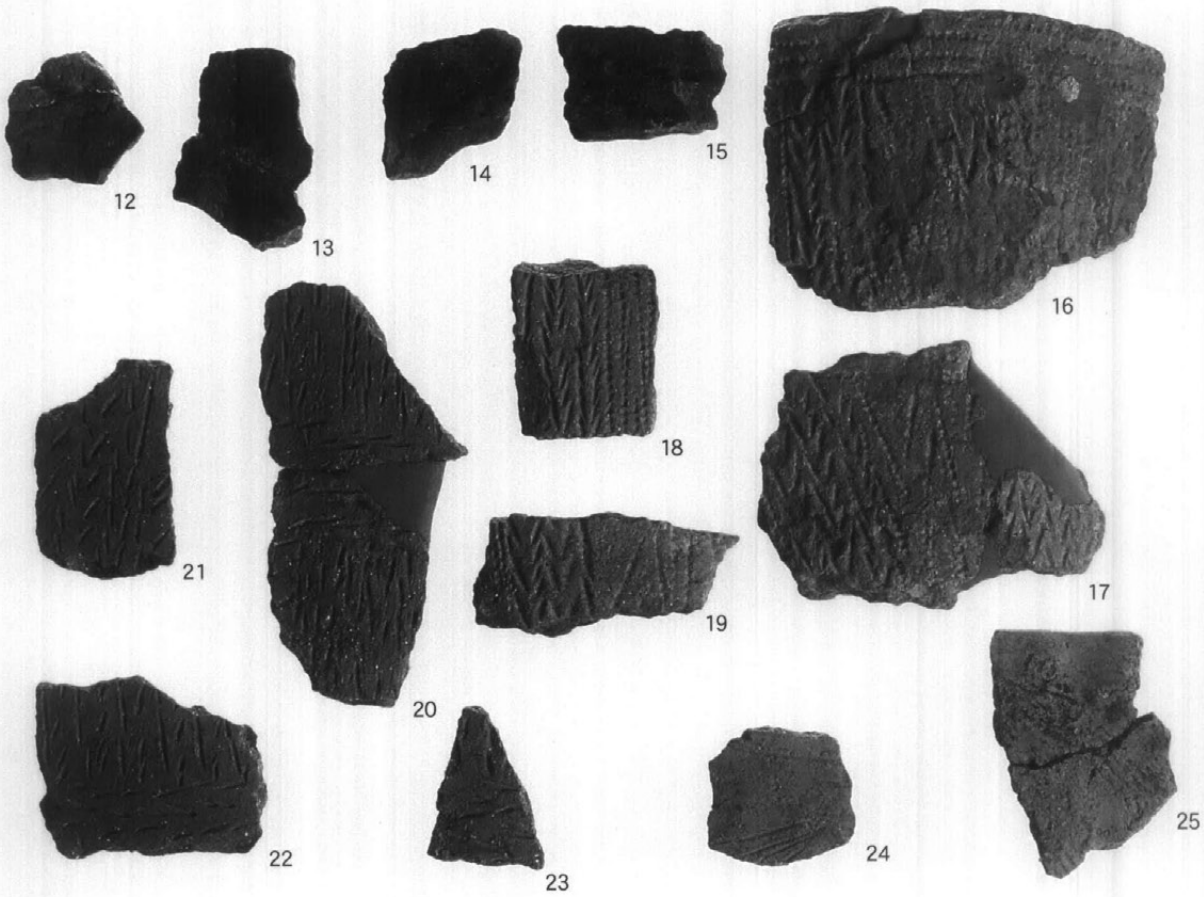
SC-204（ブリッジ部）



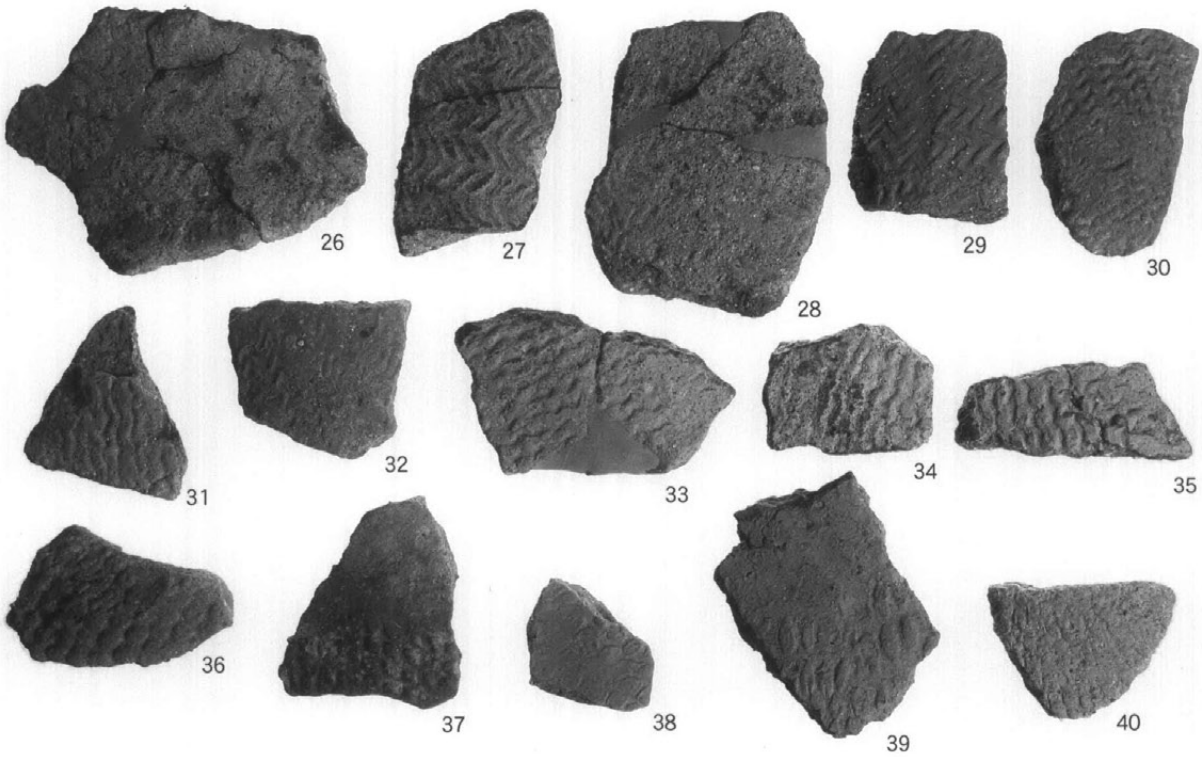
SC-208

写真図版６　縄文時代早期遺構④

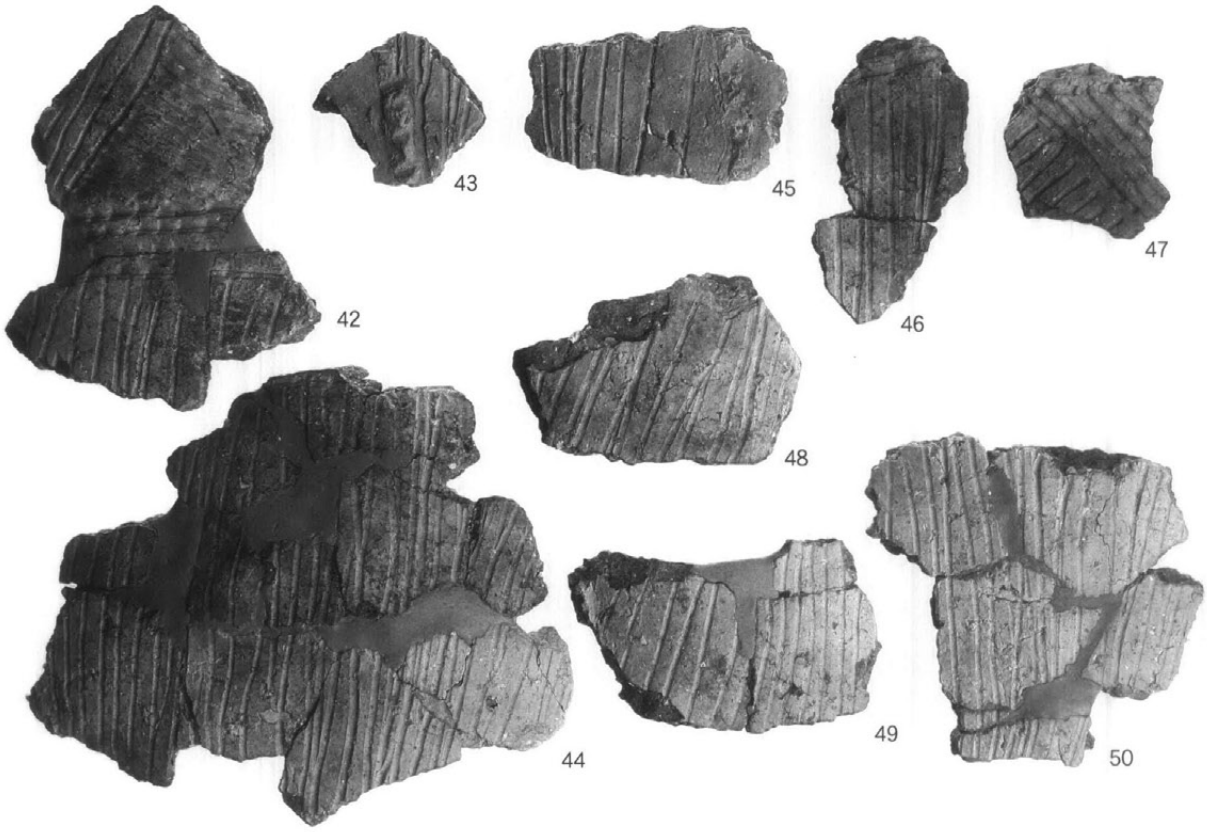


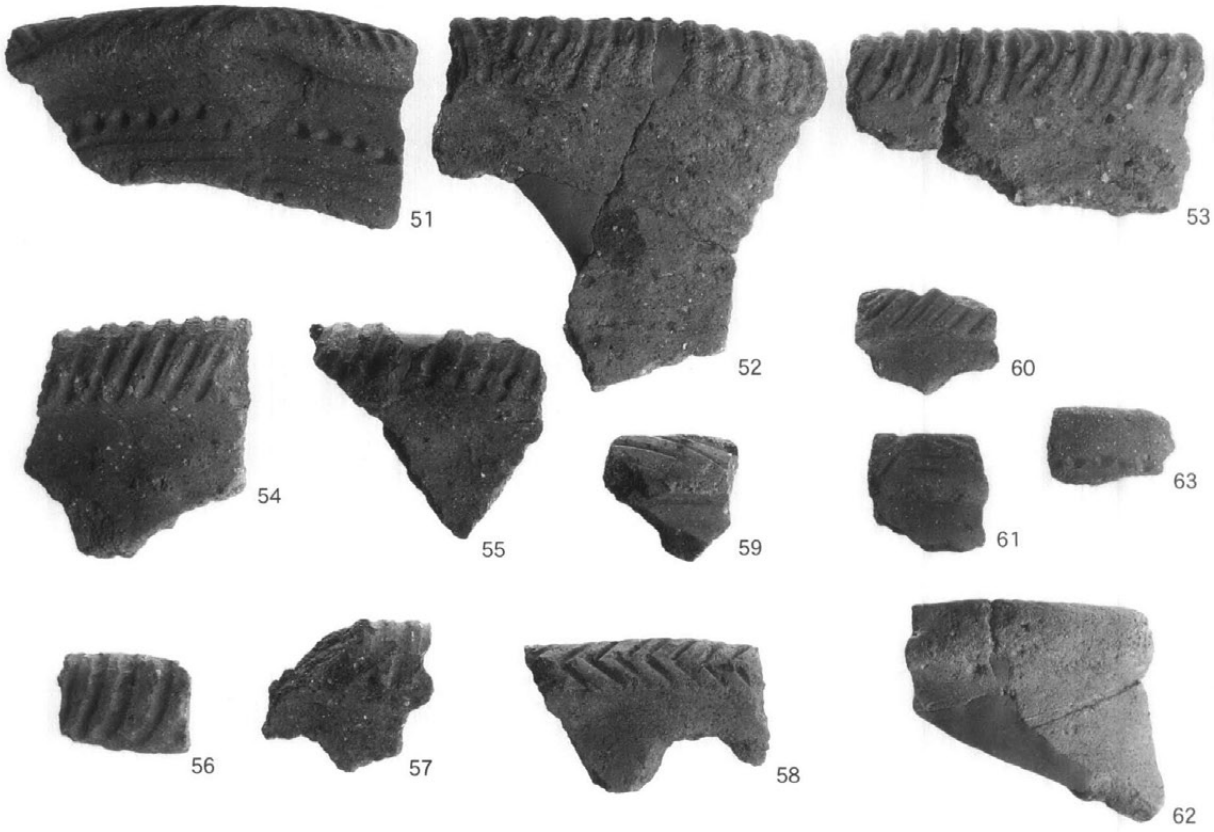


写真図版７　縄文時代早期遺物包含層出土土器①

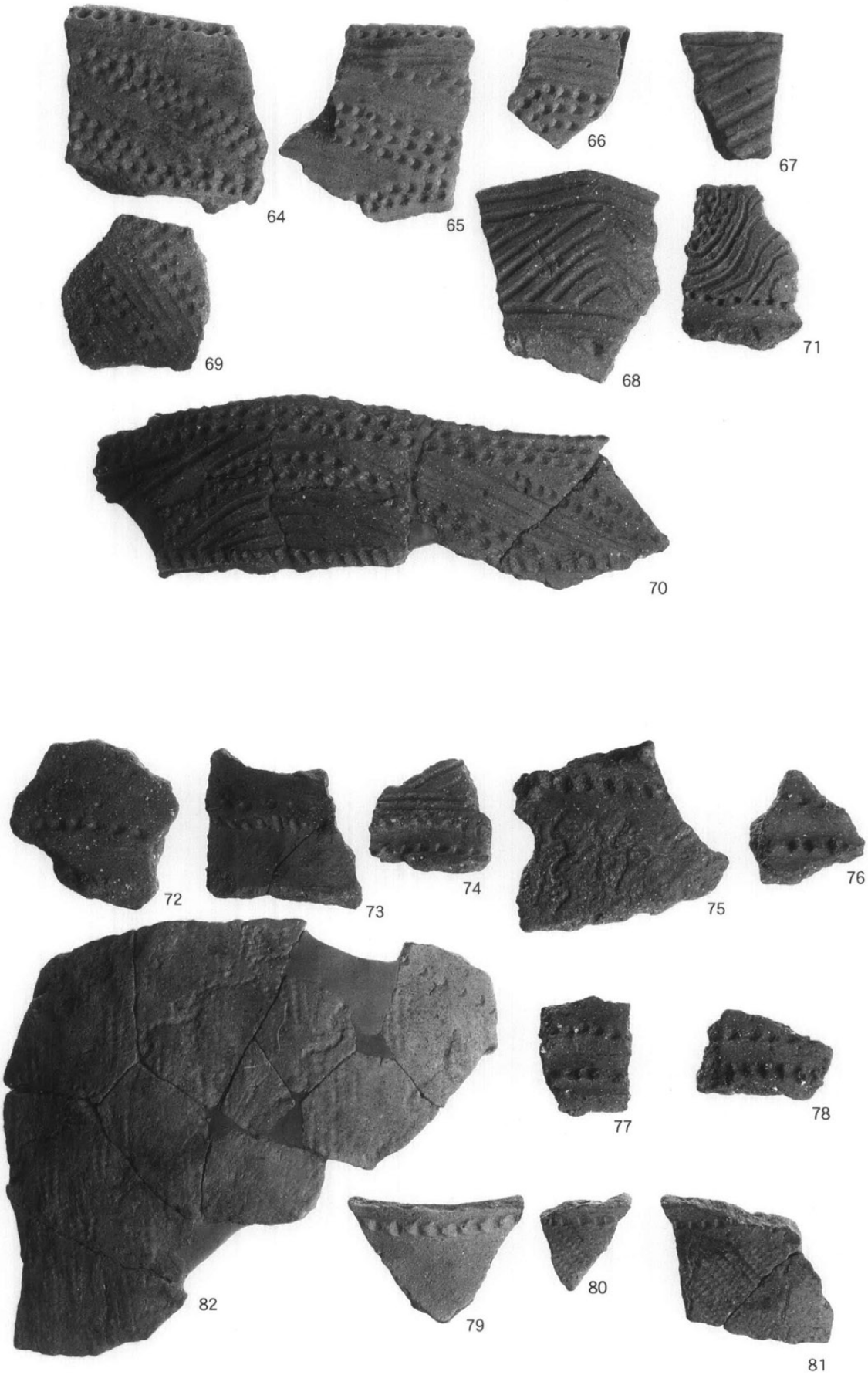


写真図版８　縄文時代早期遺物包含層出土土器②

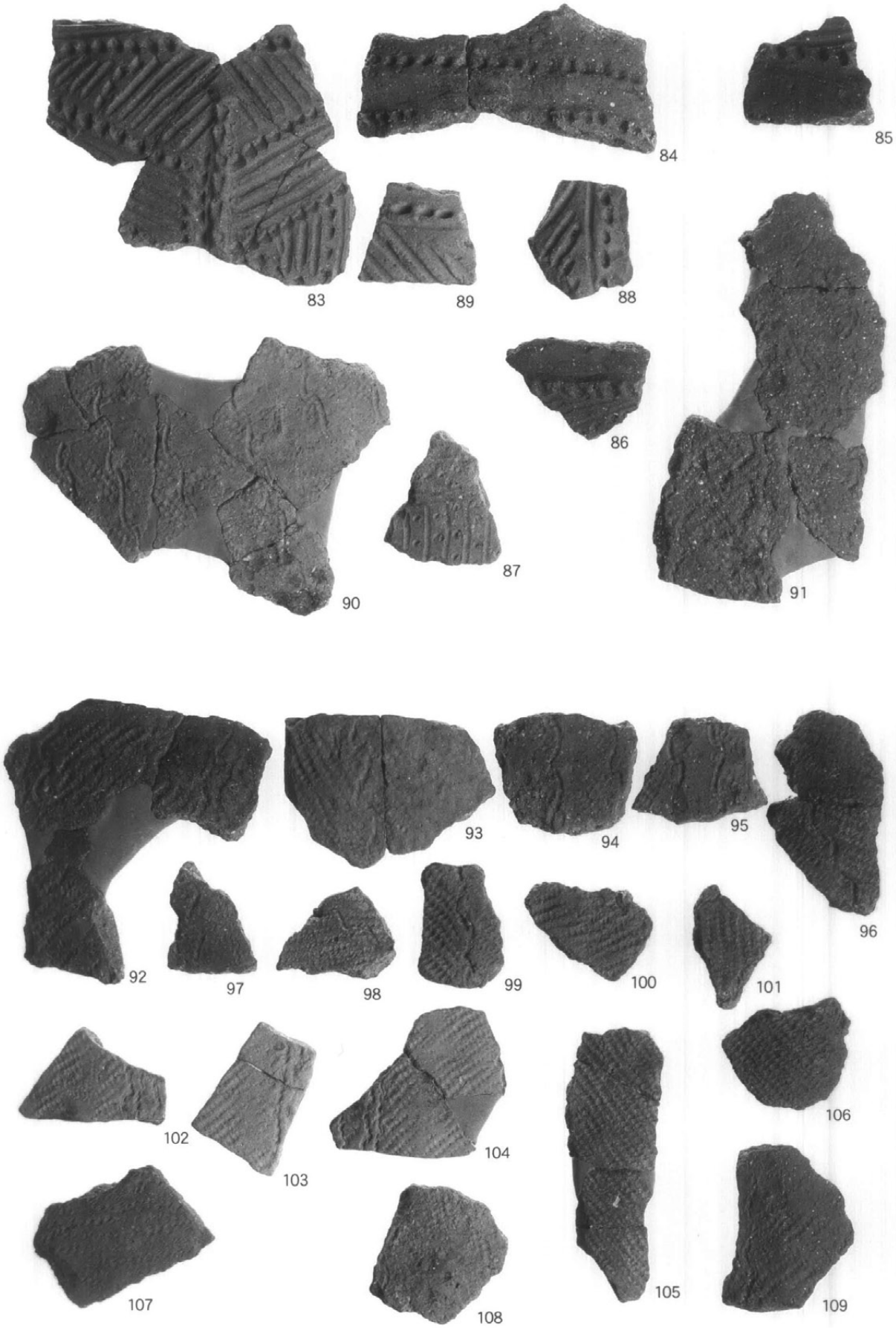




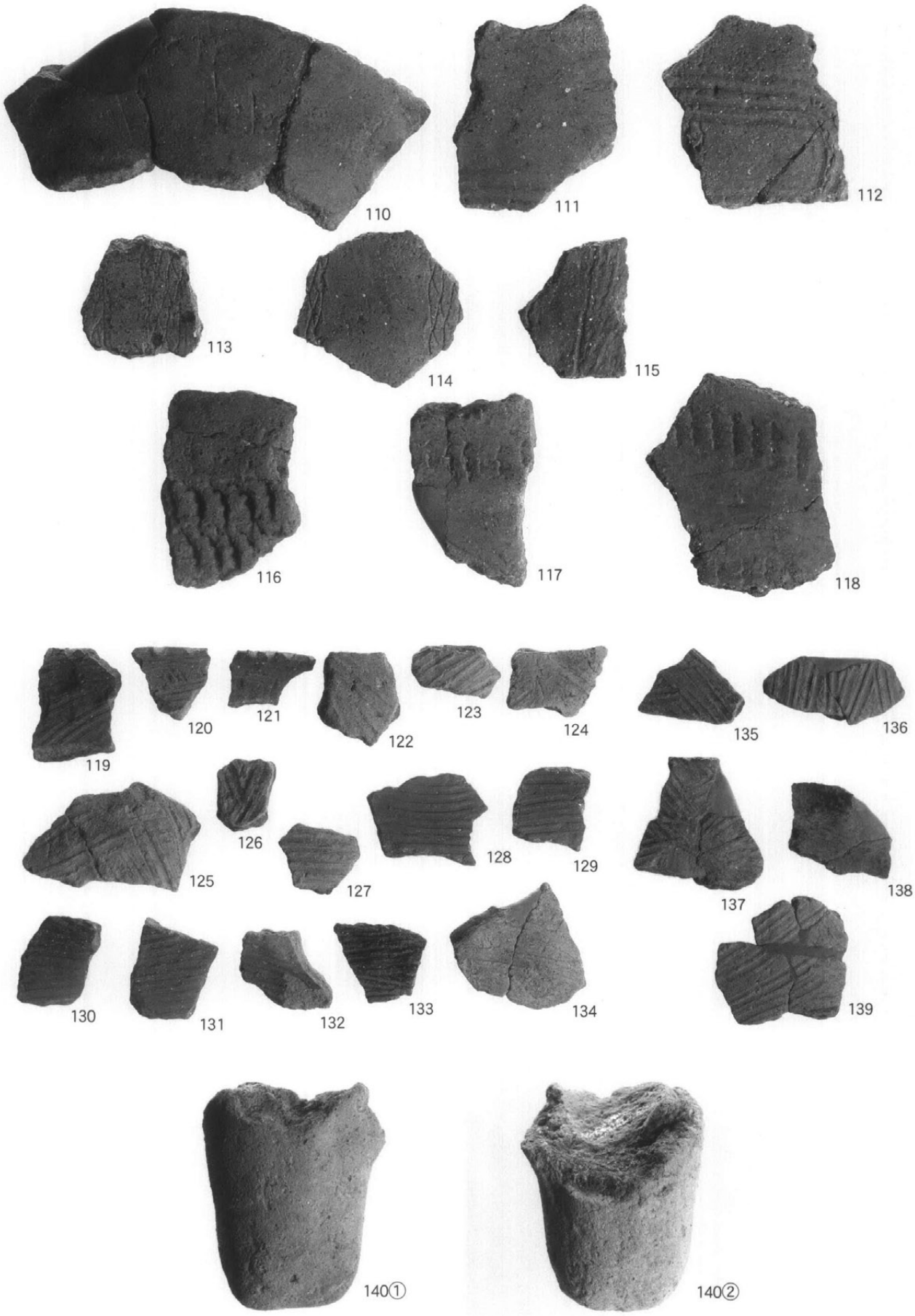
写真図版９　縄文時代早期遺物包含層出土土器③



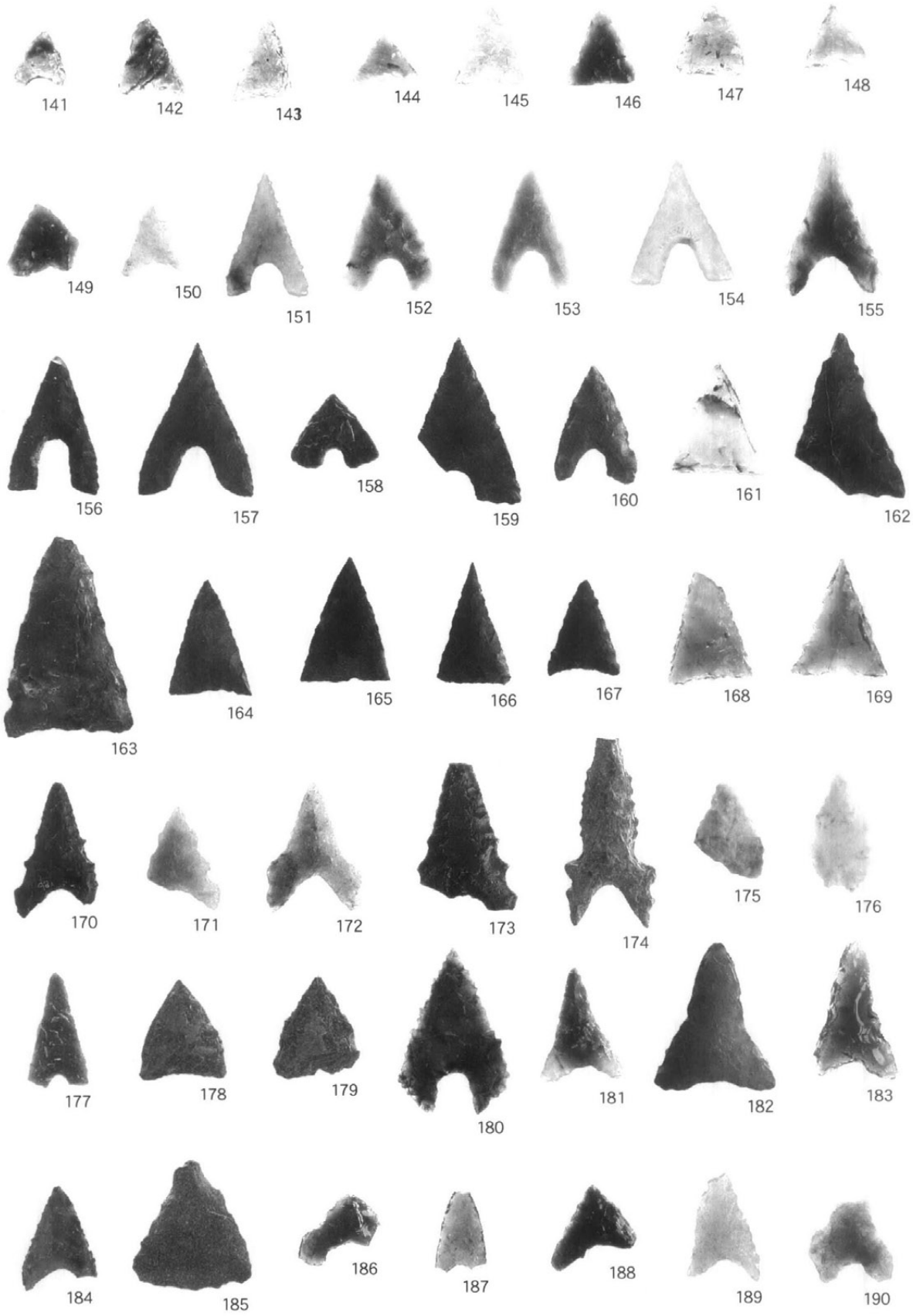
写真図版10　縄文時代早期遺物包含層出土土器④



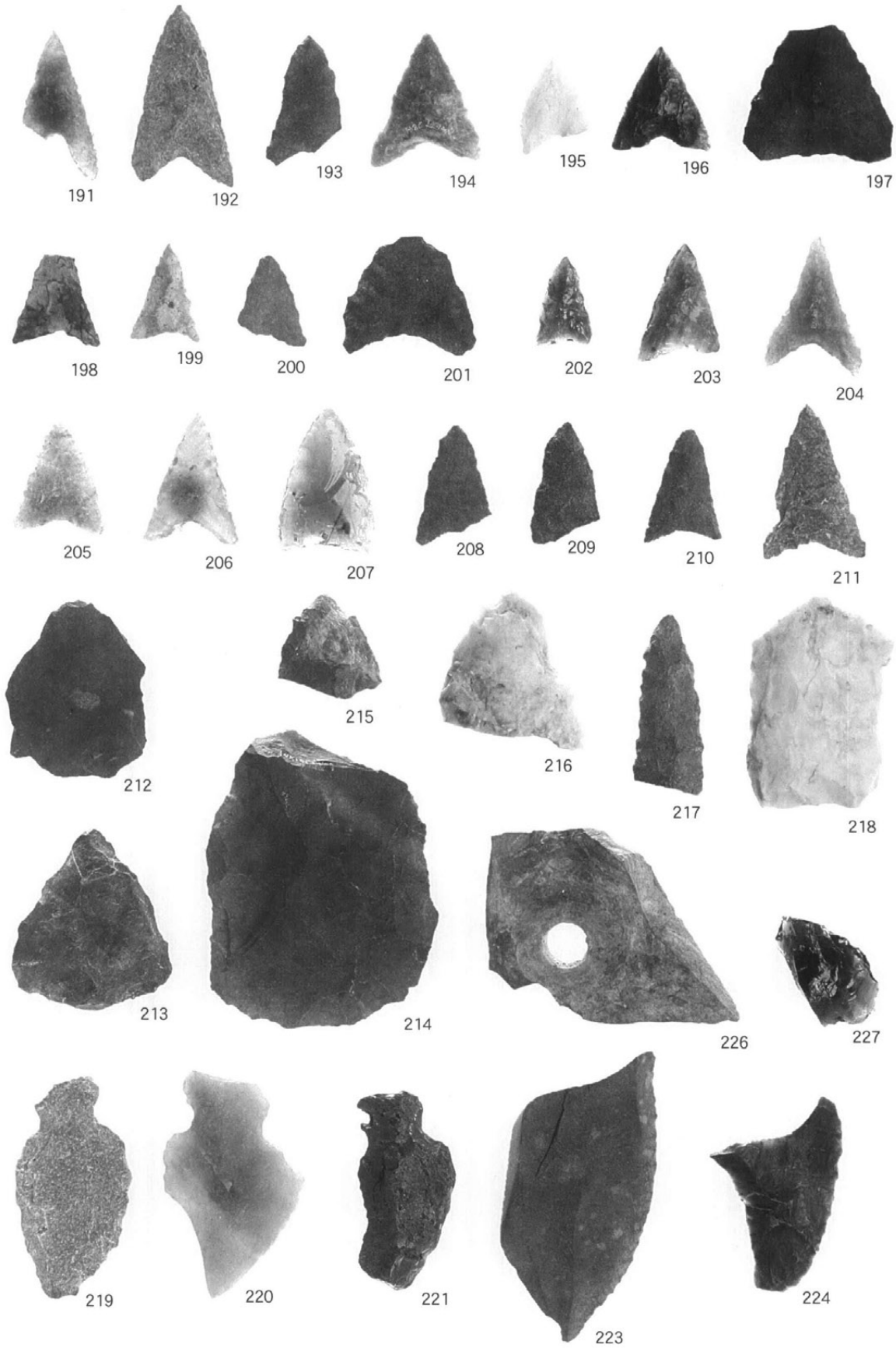
写真図版11　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤



写真図版12　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥



写真図版13　縄文時代早期遺物包含層出土石器①



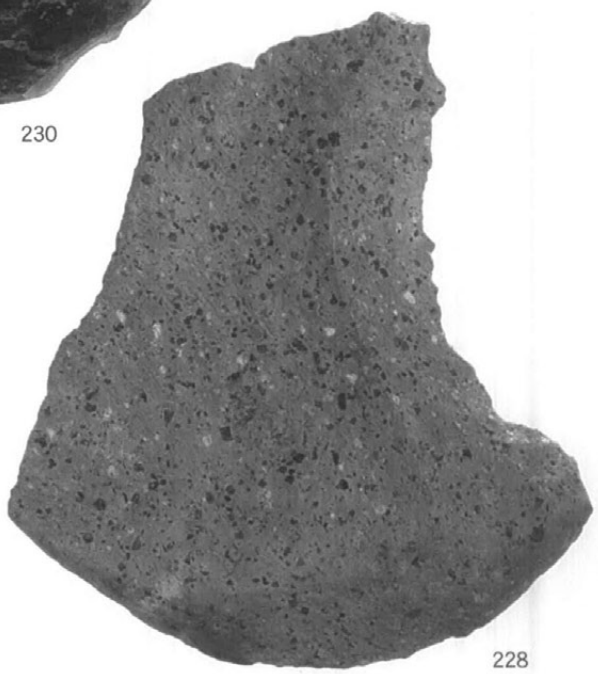
写真図版14　縄文時代早期遺物包含層出土石器②

222

225

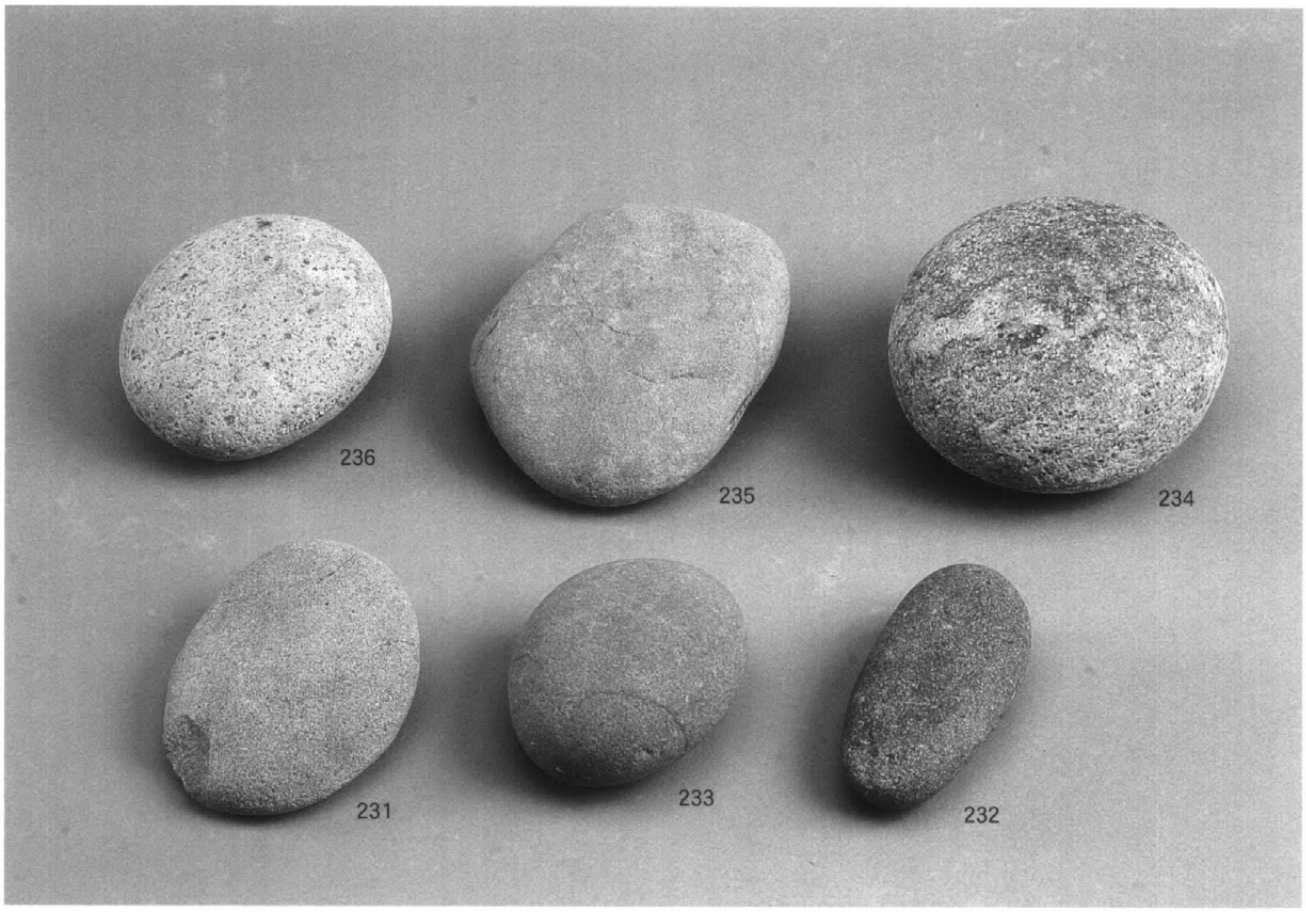
230

229



228

写真図版15　縄文時代早期遺物包含層出土石器③



写真図版16　縄文時代早期遺物包含層出土石器④

第Ⅲ章　アカホヤ火山灰層上位についての調査

第1節　遺　構

1. 集石遺構

SI-26

アカホヤ火山灰層上面で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫については、亜円礫･角礫が多く、充填状況は疎らであった。埋土については、炭化物を含む黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、5470±80年 BP という推定使用時期の根拠となるデータが得られた。

SI-22

アカホヤ火山灰層上面で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫については、亜円礫･角礫が多く、充填状況は疎らであった。埋土については、炭化物を含む黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、3460±50年 BP という推定使用時期の根拠となるデータが得られた。

SI-21

アカホヤ火山灰層上面で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫については、亜円礫･角礫が多く充填状況は疎らで、又、埋土については、炭化物を含む黒色土であった。尚、使用礫に混ざりこむようにして轟Ｂ式の口縁部片が４点、胴部片が１点出土している。

SI-23

アカホヤ火山灰層上面で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫については、亜円礫･角礫が多く充填状況は疎らで、又、埋土については、炭化物を含む黒色土であった。

SI-24･25

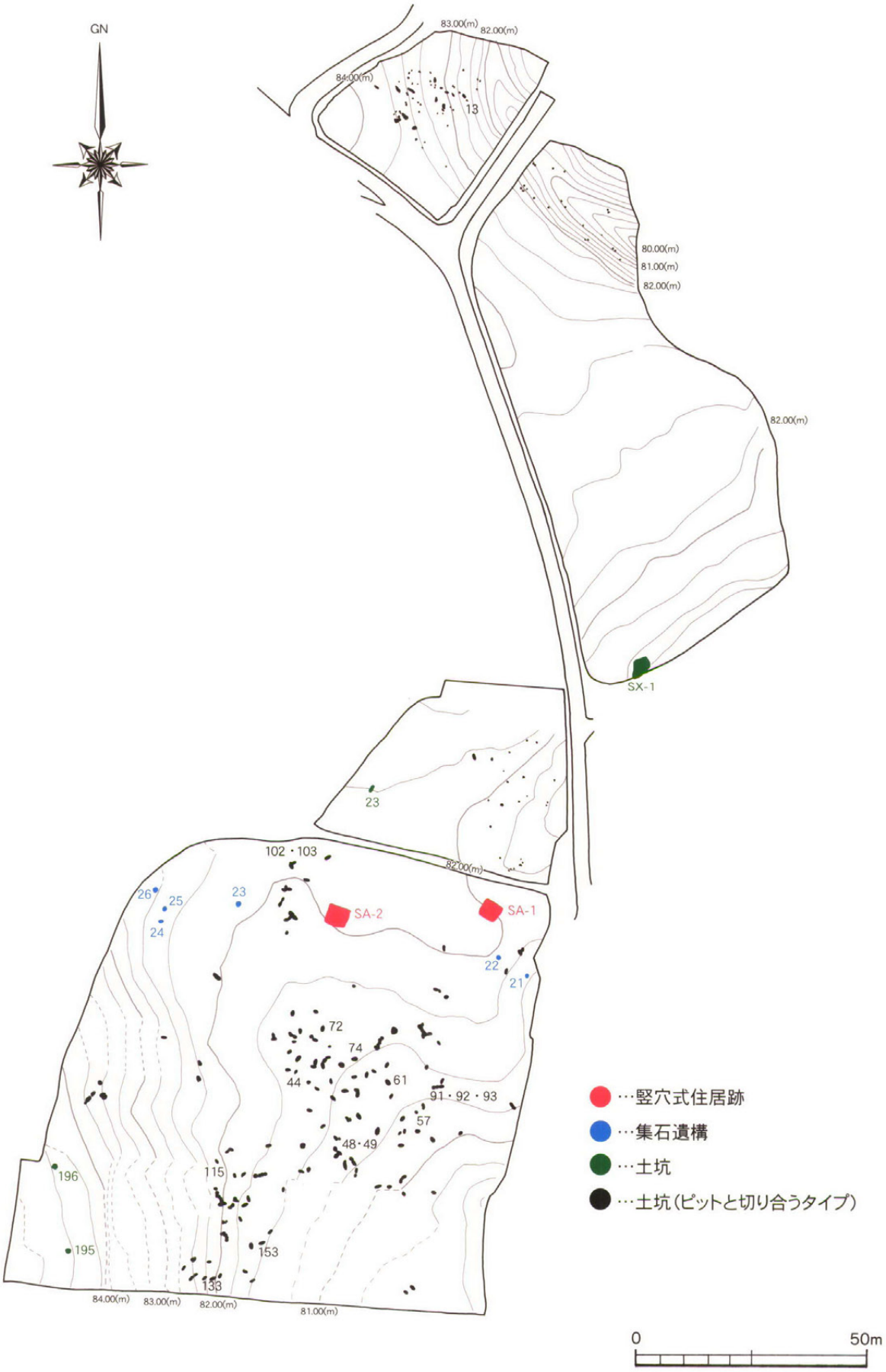
アカホヤ火山灰層上面で検出され、掘り込みは確認されていない。使用礫については、亜円礫や角礫がほとんどである。

第６表　集石遺構（アカホヤ火山灰層上位検出）観察表

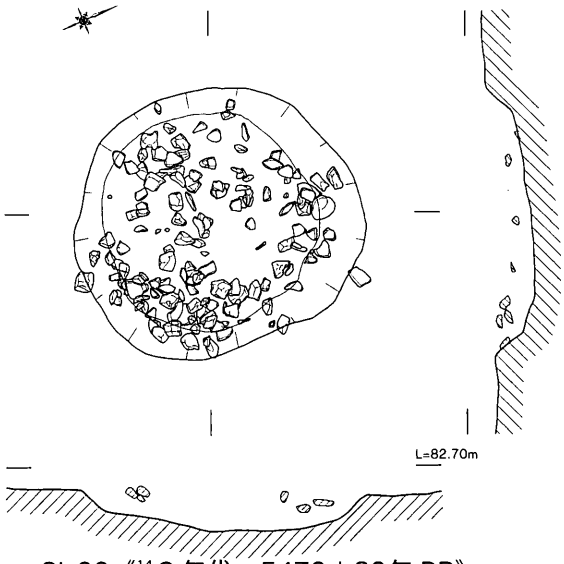
	遺構番号	検出層	^{14}C 年代（年 BP）	使用礫				掘込み				底石の有無	炭化物の有無	備　考
				礫分布範囲<長軸×短軸>(m)	総礫数(個)	総重量(kg)	礫１個あたりの重量(kg)	有無	断面形状	直径(m)	深さ(m)			
1	SI-26	Ⅳ層上面	5470±80	1.16×1.02	191	10.5	0.05	有	(浅)皿状	1.1	0.20	無	有	
2	SI-22	Ⅳ層上面	3460±50	0.85×0.80	151	12.5	0.08	有	(浅)皿状	1.0	0.15	無	有	
3	SI-21	Ⅳ層上面	－	0.80×0.64	98	4.5	0.05	有	皿状	0.9	0.25	無	炭化粒のみ	土器出土
4	SI-23	Ⅳ層上面	－	0.78×0.64	135	8.0	0.06	有	(浅)皿状	1.0	0.50	無	炭化粒のみ	
5	SI-24	Ⅳ層上面	－	0.86×0.59	132	12.1	0.09	無	－	－	－	－	無	
6	SI-25	Ⅳ層上面	－	0.62×0.53	35	5.6	0.16	無	－	－	－	－	無	

第７表　SI-21出土土器観察表

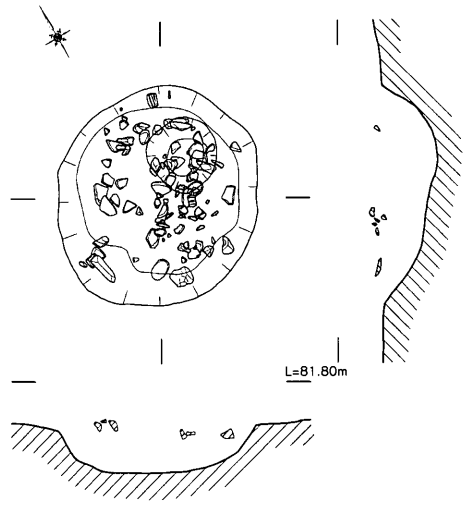
遺物番号	器形	部位	文様及び調整		色　調		胎　土						備考
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	ｷﾝｳﾝﾓ	ｸﾛｳﾝﾓ	角閃石	砂粒	
1	深鉢	口縁	隆起帯文	貝殻条痕文 ナデ	7.5YR4/2 (灰褐)	10YR4/2 (灰黄褐)	○	○				○ 1mm以下	
2	深鉢	口縁	隆起帯文	ナデ	7.5YR4/2 (灰褐)	7.5YR5/3 (にぶい褐)	○	○			○	○ 1.5mm以下	
3	深鉢	口縁	隆起帯文(貼付) 貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/2 (灰褐)	7.5YR5/3 (にぶい褐)	○	○			○	○ 1.5mm以下	
4	深鉢	口縁	隆起帯文	ナデ	7.5YR4/2 (灰褐)	7.5YR5/3 (にぶい褐)	○	○			○	○ 4mm以下	
5	深鉢	胴部	隆起帯文	ナデ	2.5Y4/2 (暗灰黄)	10YR5/2 (灰黄褐)	○	○			○	○ 2mm以下	



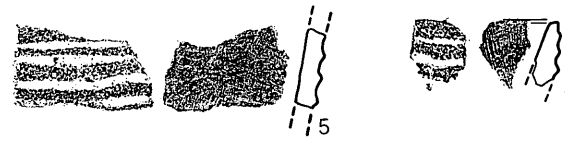
第32図　アカホヤ火山灰層上位検出遺構配置図（S=1/1250）



SI-26《^{14}C 年代：5470±80年 BP》

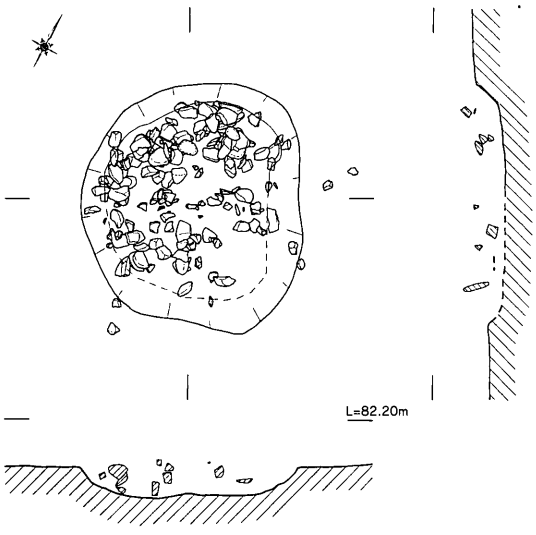


SI-21

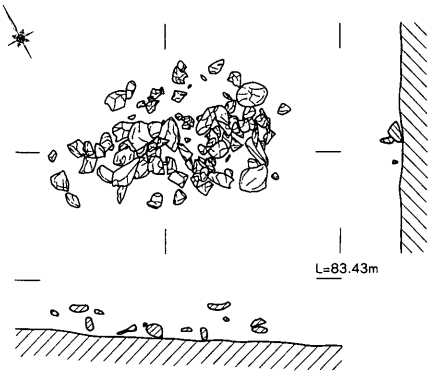


SI-21出土土器（S=1/3）

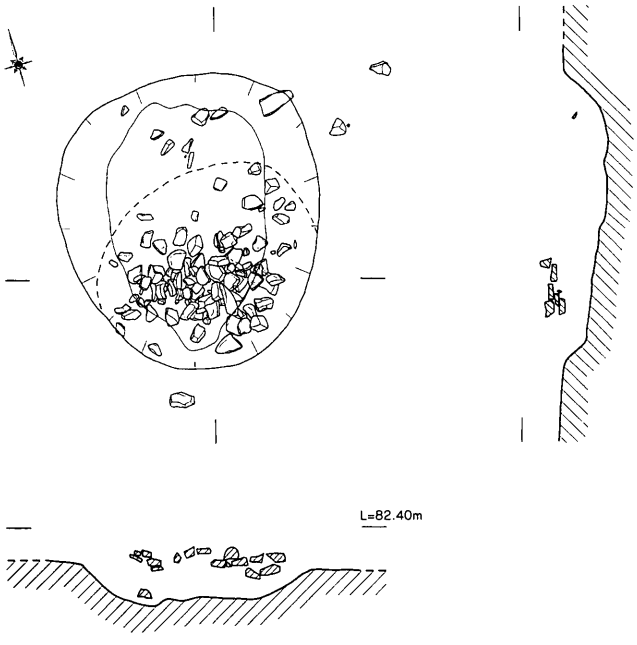
0　10cm



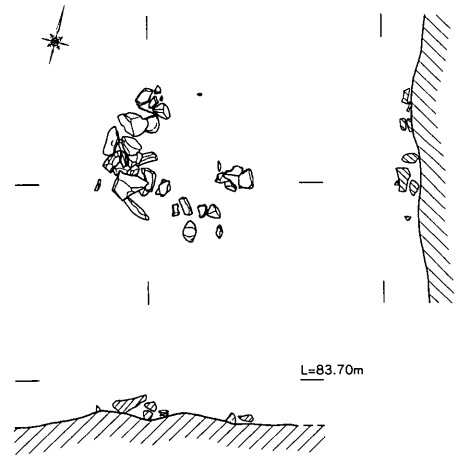
SI-22《^{14}C 年代：3460±50年 BP》



SI-24



SI-23



SI-25

0　1m

第33図　アカホヤ火山灰層上位検出集石遺構実測図（S=1/30）

2. 竪穴式住居跡

アカホヤ火山灰上面において、平成10年度調査範囲の北側より竪穴式住居跡が2軒検出された。住居が営まれる地形をみてみると概ね平坦面であり、SA-2により30m、SA-1より55mの地点に西側の崖面にあたる傾斜変換点が存在する。

以下、住居ごとに詳述する。なお、住居より出土した遺物の観察表･計測表については、第８表に示す。

(1) SA －1

平成10年度調査区の北東部、グリッドE-9とE-10の境界に位置する。平面プランは略正方形を示す形態である。規模は長軸4.20m、短軸3.73m、検出面から掘り込み面までの深さは0.17mである。住居内から、柱穴の検出はなかった。しかし、もともと存在していなかったのではなく、住居内にある多数の撹乱坑により、柱穴が消失した可能性がある。また、住居外ではあるが規則的に配置された柱穴が、4基検出された。P-1は長軸0.37m、短軸0.34mの不整楕円形で、深さは0.42mである。P-2は長軸0.33m、短軸0.32mの不整楕円形で、深さは0.45mである。P-3は長軸0.28m、短軸0.23mの楕円形で、深さは0.53mである。P-4は長軸0.29m、短軸0.28mの不整楕円形で、深さは0.38mである。これらの柱穴は、規則的に配置されていることや柱穴の規模がほぼ類似することなどから、SA-1の上屋構造を形成する柱穴であった可能性が考えられる。

住居内の埋土①は、Ah火山灰層･5層ブロックを含む褐色の非常に硬化した層であり、貼床と考えられる。なお、掘り込み面は貼床を必要としないようなフラットな状態で検出された。しかし、近隣の山田第一遺跡の住居では、工具による掘り込みの跡と思われる凹凸面をそのまま残し、その上に床を貼り付けている。そのため、SA-1の掘り込み面に関しては、調査時にやや掘りすぎてしまった可能性がある。

住居に付帯する施設として壁帯溝が検出された。規模は、幅18～25cm、深さ6～12cmであり、住居内を全周する。この壁帯溝は、貼床と考えられる埋土①を切るかたちで構築されており、住居構築時の掘り込み面をさらに掘り込んで溝を構築している状況は確認できなかった。検出された壁帯溝の構築手順として、以下の3つの方法が可能性として挙げられる。

① 竪穴を掘る→貼り床を全面に施す→壁際を掘り下げて溝を構築する
② 竪穴を掘る→壁際を残し、貼床を施す→壁際を整形し、溝を構築する
③ 竪穴を掘る→壁際さらに掘り下げて溝を構築する→溝を残し、貼床を施す

SA-1の場合は、住居構築時の掘り込み面をさらに掘り込んで溝を構築している状況ではなかったため③の可能性はない。①の方法の場合でも、住居構築時の掘り込み面をさらに掘り込んでしまうことがあるため、可能性は低いだろう。よって、住居構築時の掘り込み面をさらに掘り込むことのない②の方法で構築された可能性が最も高いと推測される。また、①と②の方法を比較したとき、①より②の方法がより効率的で労力が少ない。このことも、②の方法で構築されたと推察されるひとつの材料になるものと思われる。

住居内から縄文土器・弥生土器片と石器が数点出土した。しかし、出土した土器は細片がほとんどであり、図化できるものが少なかった。遺物の出土したレベルはほぼ検出面と同じレベルである。住居が検出された時、すでに貼床より上の層がとばされた状況であったため、出土した遺物の位置が床面直上なのか、貼床の中なのか、後世に堆積した埋土中なのか判然としない。なお、出土遺物の分布状況は第34図に示したとおりである。住居内中央付近より石皿・敲石等の石器が、住居南西のコーナー付近より壺の底部片が出土している。

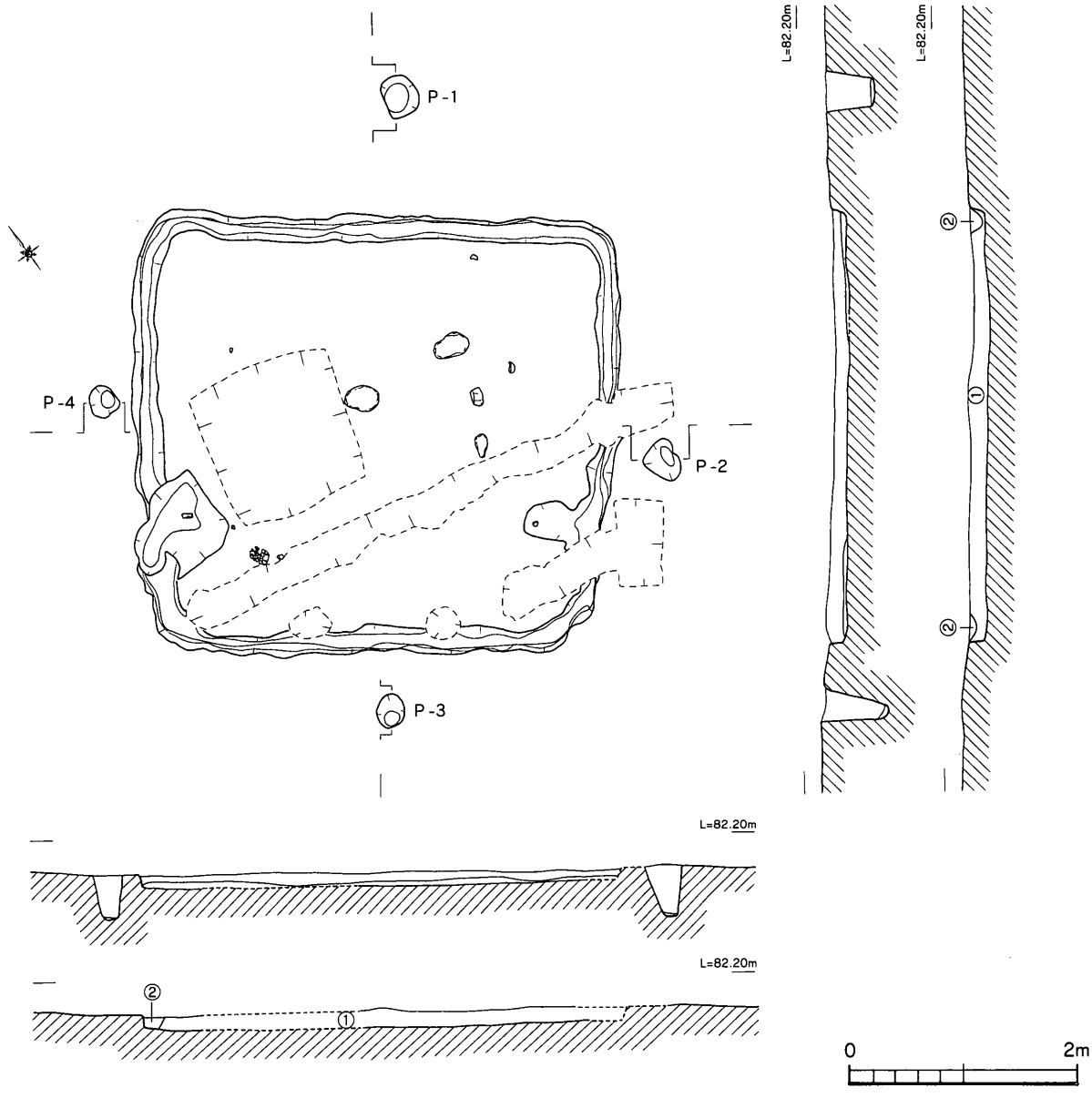
なお、SA-1より出土した炭化物を放射性炭素年代測定にかけた結果、2220±40年BPという結果が得られており、弥生時代前期頃と考えられる。しかし、後述するSA-1より出土した土器は弥生時代終末期～古墳時代前期頃と考えられるため、放射性炭素年代測定で得られた結果とは矛盾が生じる。また、包含層中より出土した遺物のうち、弥生時代前期に属する遺物は1点も出土していない。そのため、出土した炭化物は住居の年代を示すものではない可能性が高いと思われる。

SA-1より出土した遺物は第35図6、第36図10～12である。6は壺形土器の底部片である。底部形態はやや丸底に近いレンズ状の平底である。外面調整は、縦位もしくは斜位のミガキである。内面調整は、斜位の板状工具によるナデである。胎土は橙色を呈しており、3mm以下の小礫を多く含む粗い胎土である。また、胎土中には長石・石英・角閃石等の鉱物も含まれる。レンズ状の平底を持つ壺形土器の時期は、弥生時代終末期～古墳時代前期初頭にあたる。しかし、6の土器以外に時期が特定できる遺物の出土はなく、出土状況も判然としないため、この土器の時期が住居の時期を示すものとは断言できない。

10～12は石皿である。いずれも使用されている石材は砂岩である。10はやや小ぶりな川原石が使用されており、片面のみ中央部において平滑面がみられる。11・12は大ぶりな川原石が使用されている。11は、10同様片面のみ中央部において平滑面がみられる。12は片面中央部と右側面に平滑面がみられる。

(2) SA - 2

平成10年度調査区の北側中央部、グリッドD-10に位置する。SA-1より28m西にあたる地点より検出された。平面プランは略正方形示す形態である。規模は長軸4.65m、短軸4.15m、検出面から掘り込み面までの深さは0.32mである。住居内より、柱穴の検出はなかった。しかし、もともと存在していなかったのではなく、SA-1同様住居内にある撹乱坑により、柱穴が消失した可能性がある。また、住居周辺からも柱穴は検出されていない。



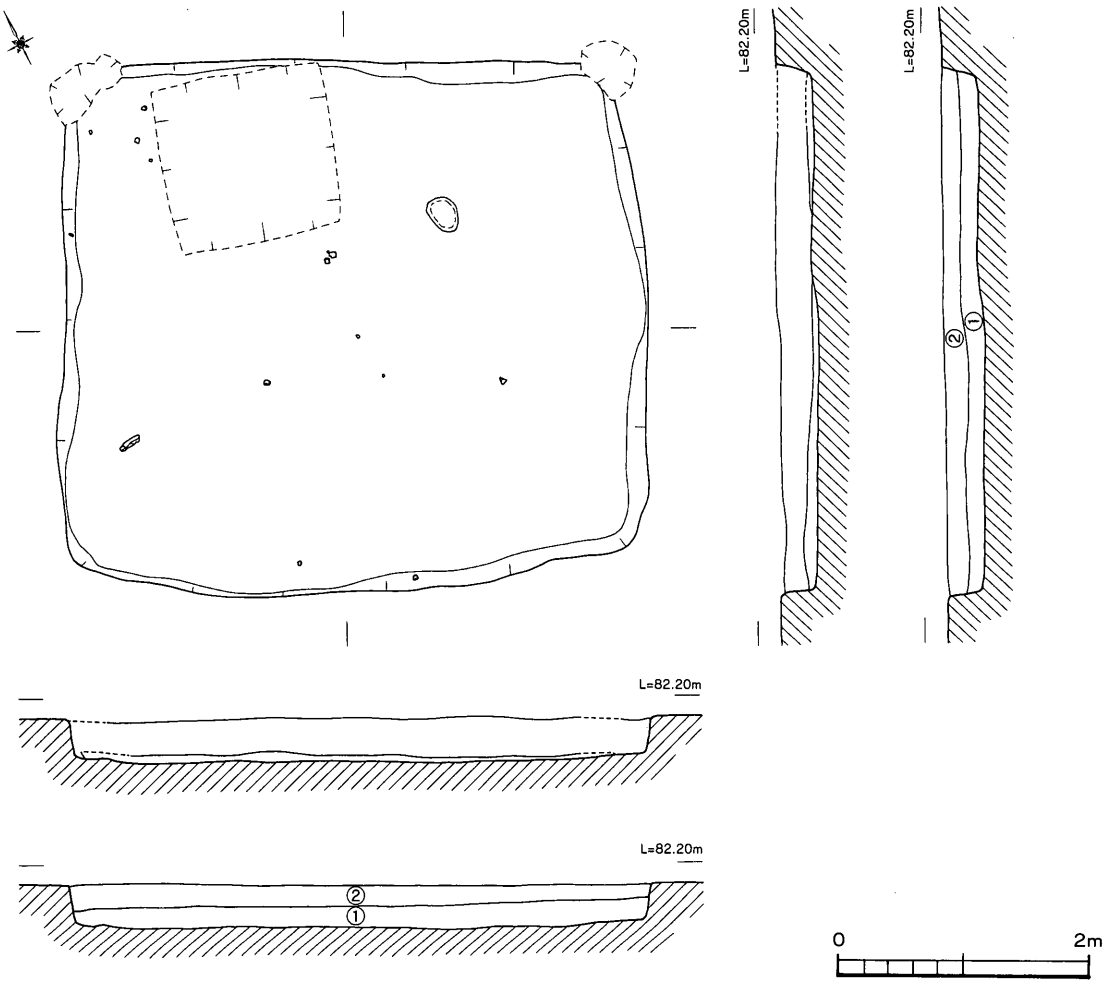
SA-1

SA －1土層注記

①褐色土　シルト質ローム　5層ブロック、Ahブロックを含む。貼床か？

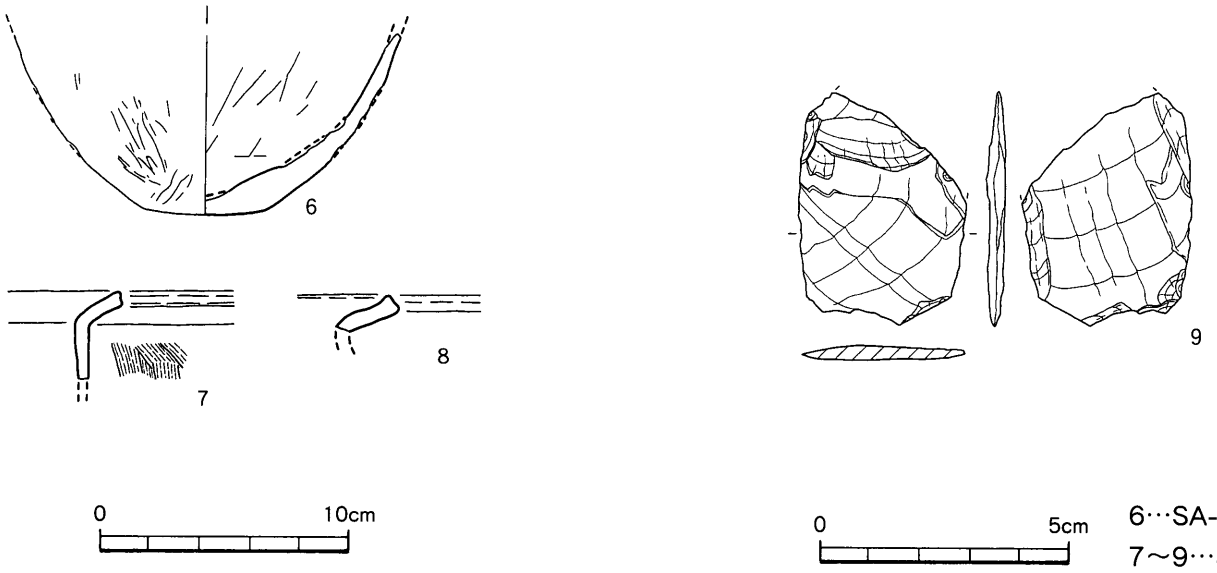
②褐色土　シルト質ローム　5層ブロック、Ahブロックを1%含む。炭化粒を微量含む。壁帯溝埋土。

第34図　SA-1実測図（S=1/60）



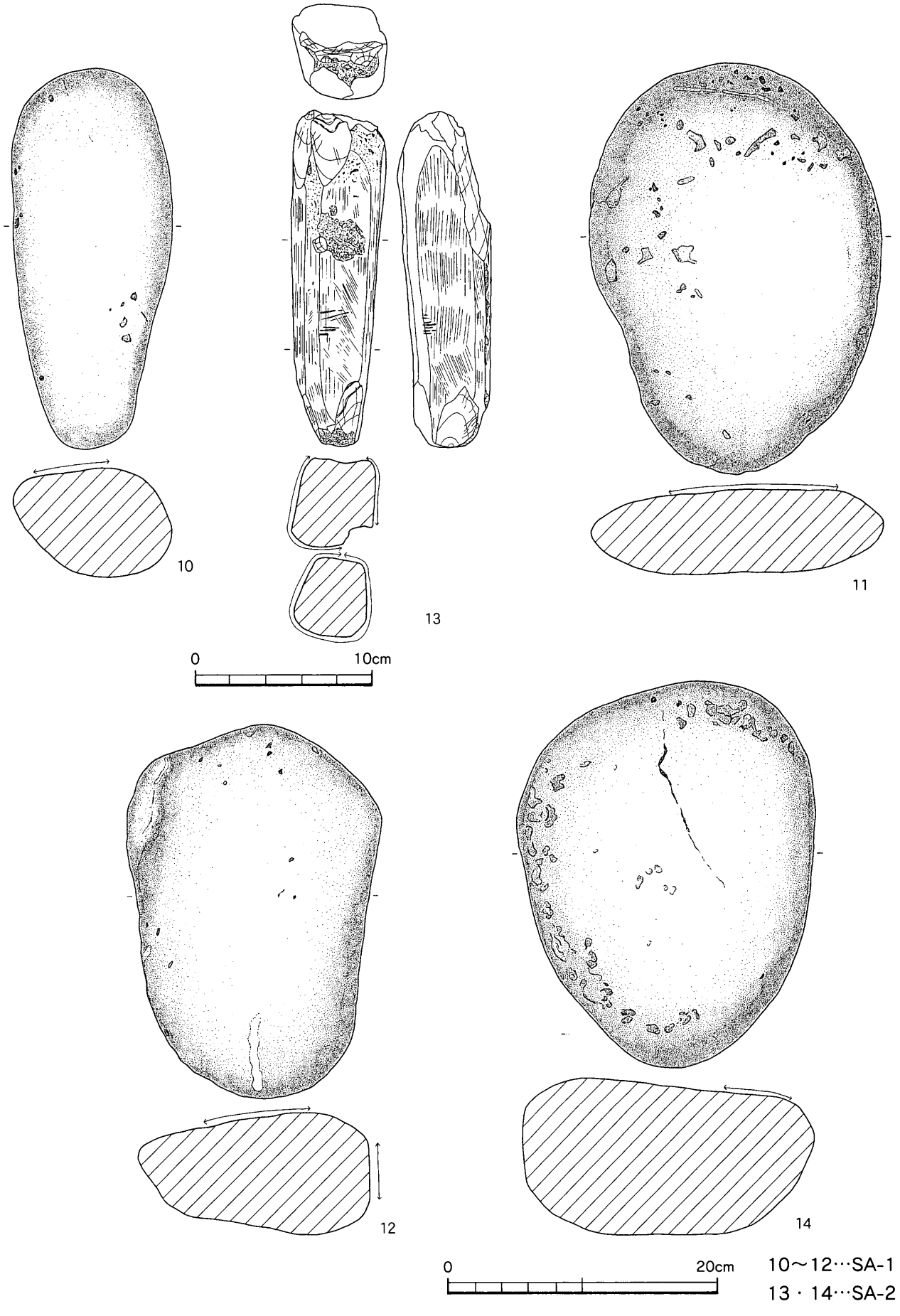
SA-2

SA －2土層注記
①褐色土　シルト質ローム　5層ブロック、Ahブロックを含む。貼床か？
②褐色土　シルト質ローム　5層ブロック、Ahブロックを1%含む。3層ブロックを5%程度含む。



6…SA-1
7～9…SA-2

第35図　SA-2実測図（S=1/60）及び住居址内出土遺物実測図①（S=1/3・2/3）



第36図　住居址内出土遺物実測図②（S=1/3・1/4）

住居内の埋土①は、Ah火山灰層・5層ブロックを含む、褐色の非常に硬化した層であり、貼床と考えられる。その上に堆積する埋土②は、①と比較するとAhブロック・5層ブロックの量が少なく、また2次堆積したAh層である3層ブロックを含む。なお、掘り込み面は、貼床を必要としないようなフラットな状態で検出された。これはSA-1同様、調査時の掘り方に問題があるものと思われる。

住居内から縄文土器・弥生土器片と石器が数点出土した。しかし、出土した土器は細片がほとんどであり、図化できるものが少なかった。遺物の出土したレベルは、14の石皿が床面直上より出土、そのほかの遺物はいずれも埋土中からの出土である。なお、出土遺物の分布状況は第35図に示したとおりである。住居内中央付近より甕の口縁部片（7･8）および石皿（14）、北側コーナー付近より磨製石鏃の未製品（9）、東側壁の近くより敲石（13）が出土している。

SA-2より出土した遺物は第35図7～9、第36図13・14である。7・8は、甕形土器の口縁部片である。7の口縁部形態は逆「L」字状を呈する。口唇部はわずかにくぼむ。外面調整は口縁部～頸部がヨコナデ、胴部が斜位のハケメである。内面調整はヨコナデである。外面にはススが付着している。胎土は3mm以下の小礫を含むが、つくりは非常に丁寧であり、器壁も薄い。また、胎土中には長石・石英等の鉱物が含まれる。色調は灰黄褐色である。8の口縁部形態も逆「L」字状を呈すると思われるが、残存部位が少ないため断言できない。口唇部内面はわずかに張り出す。調整は内外面ともナデである。胎土はにぶい黄橙色を呈し、2mm以下の小礫を多く含む。また、長石・石英等の鉱物を微量ではあるが含む。7・8の土器の時期は弥生時代後期頃と思われる。

9は磨製石鏃の未製品と思われる。石材は頁岩である。明確な研磨痕を観察することはできなかった。13は頁岩製の敲石である。全面に研磨痕がみられ、表面中央部及び端部に敲打痕が確認される。また、表面と右側面の中央部よりやや下にさがった部分で横に走る溝状の痕跡も確認された。13の石器は最終的に敲石として使用されたものであるが、全面にみられる研磨痕がどのような目的のもとで施されたものなのか判断できなかった。14は大ぶりな川原石を利用した砂岩製の石皿である。片面のみ、中央部において平滑面がみられる。

小結

本遺跡から検出された竪穴式住居跡は、2軒である。SA-1は、柱穴が住居内からは検出されず、住居外において4基の柱穴が検出された。近隣の地域で住居の周囲に柱穴を持つものは、宮崎市倉岡第2遺跡に存在する。しかし、柱穴の数や出土遺物の時期など異なる点もみられる。主柱穴の配置は、住居の時期を決定するひとつの材料となりうるので、今後の類例の増加に期待したい。

住居から出土した遺物の時期は、SA-1が弥生時代終末期～古墳時代前期初頭、SA-2が弥生時代後期頃と思われる。ただし、遺物量が少なく、出土状況も良好ではないため、出土した土器の時期をそのまま住居の時期に当てはめるのは危険である。また、同台地上に所在する山田第1遺跡で検出された弥生時代中期後半～古墳時代前期の住居群と比較しても、住居の平面プランや構造が異なるため、時期決定の材料とはならなかった。

第８表　住居址内出土遺物観察表

遺物No	出土層位	器種	残存部位	文様及び調整		色調		法量(cm)			備考	遺物整理No
				外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高		
6	SA1	弥生土器壺	胴部～底部	ヘラミガキ	板状工具によるナデ	5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐		4.6		反転復元	672
7	SA2	弥生土器甕	口縁～頸部	ナデ･ハケメ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐				外面にスス付着	670
8	SA2	弥生土器甕	口縁～頸部	ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙					671

遺物No.	整理No.	器種	遺構番号	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
9	3057	磨製石鏃未製品	SA－2	緑色頁岩	(4.3)	3.3	0.4	(6.7)	
10	3072	石皿	SA－1	砂岩	20.8	8.9	6.0	1200	
11	3073	石皿	SA－1	砂岩	30.1	21.6	7.3	6100	
12	3070	石皿	SA－1	砂岩	27.6	19.0	9.0	11000	
13	3060	敲石	SA－2	頁岩	18.4	5.3	5.2	699.8	
14	3069	石皿	SA－2	砂岩	28.6	22.0	11.5	7000	

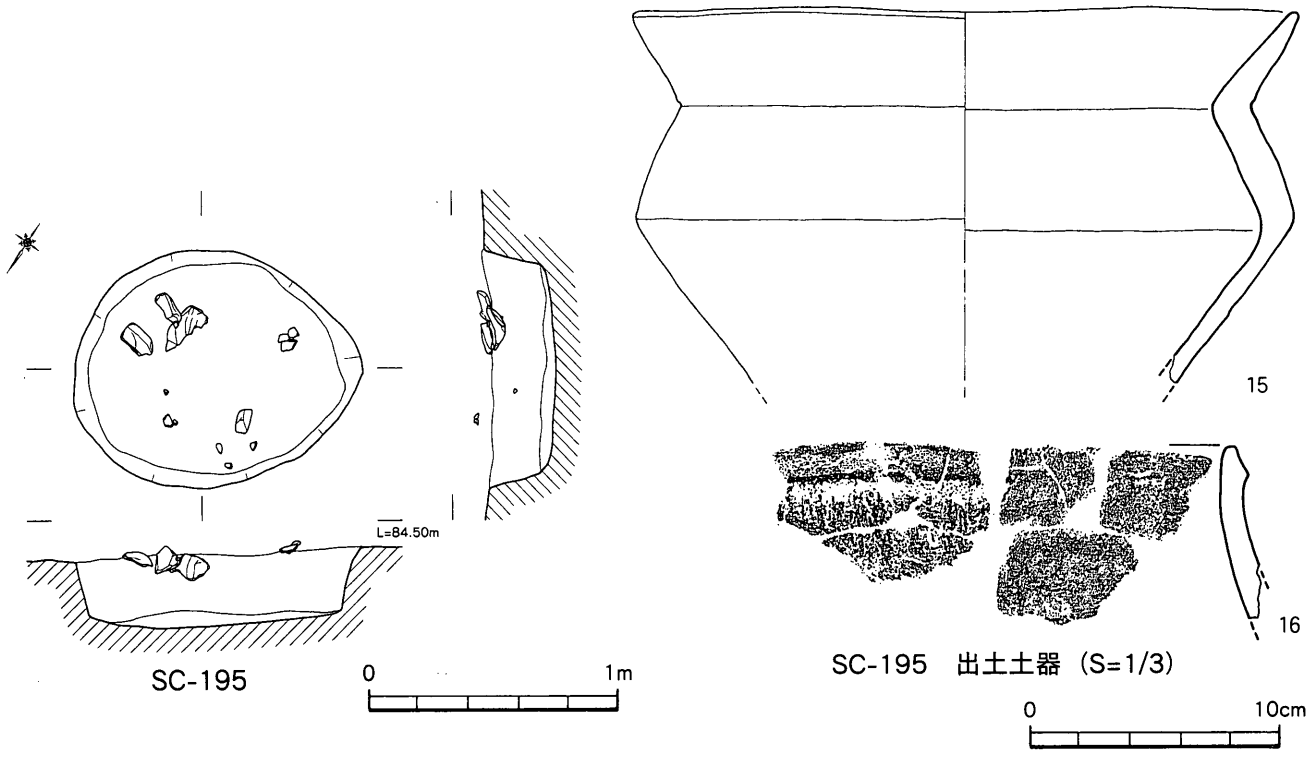
（　）の値は残存値を示す。

3. 土　坑

(1) ＳＣ-195

SC-195については、アカホヤ火山灰層直下（＝Ｖ層上面）で検出されたが、これは当土坑の埋土がアカホヤ火山灰を主とした黄褐色シルト質だったために、アカホヤ火山灰層上面での検出が出来なかったためである。

土坑のプランは、平面が長軸1.1m・短軸0.9mの楕円形で、検出面からの深さが0.3mであるが、埋土中から出土した縄文土器片（深鉢）２点からみて、この土坑がアカホヤ火山灰降下後（15･16の土器からみて縄文時代後期～晩期か）に構築されたことは間違いないと思われるので、掘り込み面からの深さについては「0.3m＋アカホヤ火山灰層の厚み＋α」となるであろう。尚、用途については不明である。



第37図　SC-195実測図（S=1/30・1/3）

第９表　SC-195出土土器観察表

遺物番号	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考
			外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒	
15	深鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○ 2mm以下	口縁径26cm
16	深鉢	口縁	貼付突帯 組織圧痕	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○			○	○ 3mm以下	

(2) SC-23

グリッドＤ-9の北西部に位置する。プランは不整隅丸長方形である。規模は長軸1.68m、短軸0.58m、検出面から掘り込み面までの深さ0.69m である。長軸方向は、南西-北東方向である。断面形態は箱状を呈する。床面はフラットに近い形態である。完掘後床面を精査したが、ピットは確認されなかった。埋土の状態は、軟質の褐色土が堆積した後、パミスを含む軟質の黄褐色土が堆積する自然堆積であった。また、土坑内から遺物の出土はなかった。

SC-23と同タイプの土坑は、近隣の山田第2遺跡等で確認されている。遺構の性格については形態から貯蔵穴や陥し穴、土坑墓などが推測される。陥し穴の可能性は、床面から逆茂木痕が検出されていないため低く、根拠に欠ける。土坑墓の可能性は、人骨や副葬品、赤色顔料や墓石といった墓の可能性を示すものがなく、埋土も人為的に埋め戻した土ではないため、低いと思われる。貯蔵穴の可能性も、ドングリなどの植物遺存体の出

土はなく、袋状やビーカー状といった貯蔵穴にみられる断面形態ではないため低く、断定できない。以上の点を考慮したうえで、遺構の性格については、不明としたい。

(3) SC-196

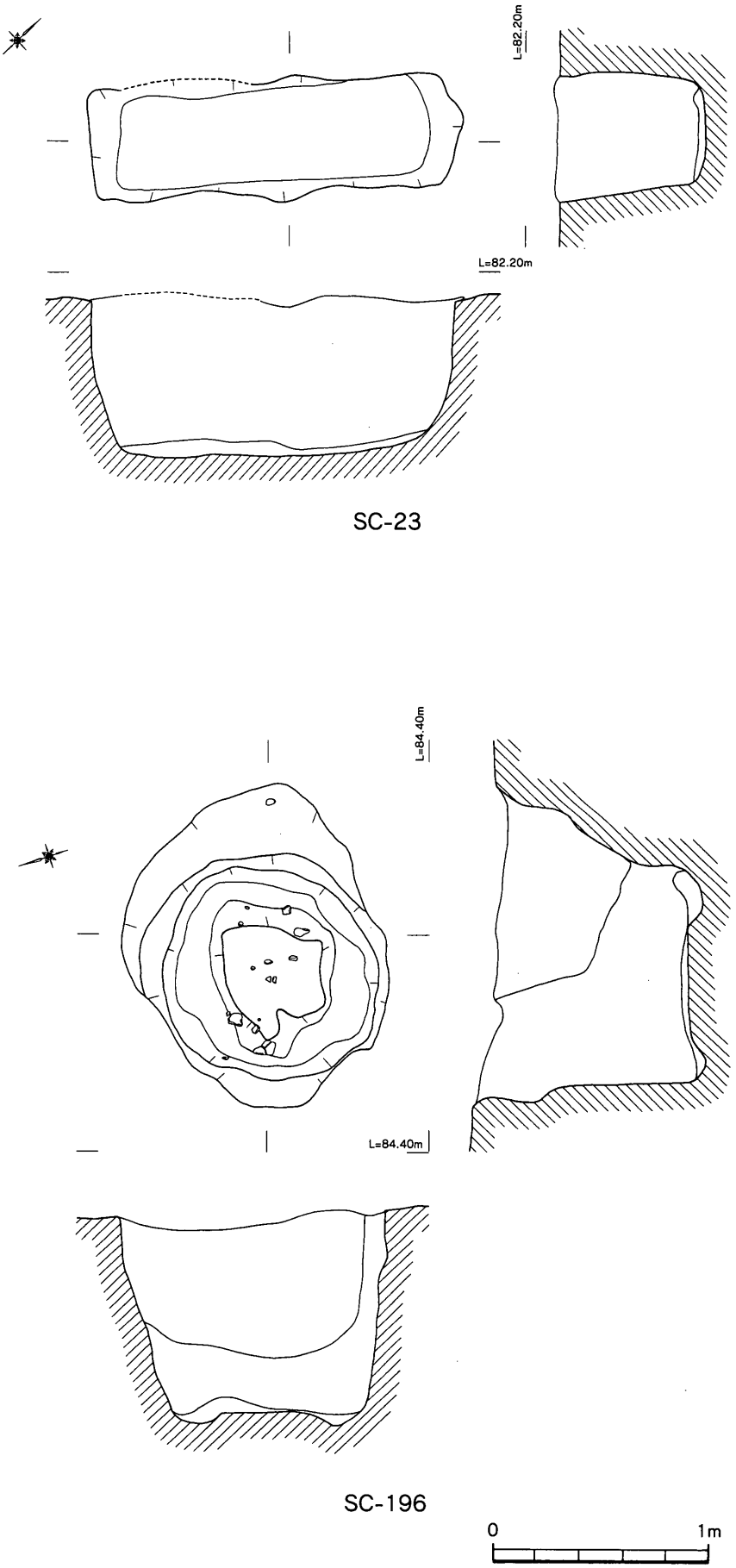
グリッドA-13の南東部に位置する。SC-196が検出された地点の地形は、西側へ下る斜面にあたる。プランは不整円形である。規模は1.48m、短軸1.20m、検出面から床面までの深さは0.90mである。長軸方向は、東西方向である。断面形態は台形である。床面はフラットではなく、中央部にやや盛り上がりがみられる。埋土は炭化粒を若干含む明褐色土である。

土坑内から縄文土器片と弥生土器片が出土したが、いずれも床面よりかなり浮いた状態での出土のあるため、土坑内に流れ込んだ遺物である可能性が高い。なお、出土した遺物は、全て細かい破片であったため、図化できなかった。

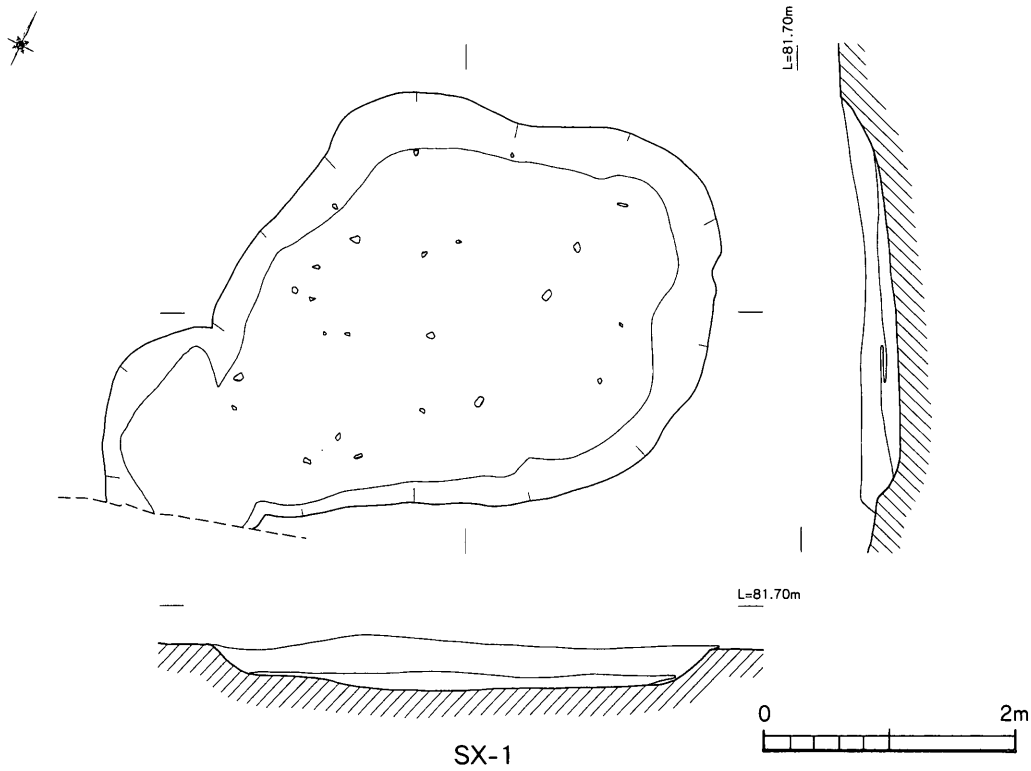
アカホヤ上面で検出された遺構で、掘り込みの深い、不整円形を呈する土坑は、近隣の上猪ノ原遺跡第5地区で確認されている。しかし、床面の形態など異なる点もあった。遺構の性格については形態から貯蔵穴や陥し穴などが推測されるが、明確な用途を推測するには至っていない。けれども、斜面上に位置することを考慮すると陥し穴の可能性が最も高いと思われる。

(4) SX-1

グリッドF-6とF-7の境界に位置する。SX-1が検出された地点は南側へ下る緩斜面にあたる。プランは不整形であり、遺構の南側の一部は調査区外にかかっていたため、平面プラン全形を検出することはできなかった。規模は長軸4.70m、短軸3.21m、検出面から掘り込み面まで



第38図　SC-23・SC-196実測図（S=1/30）



第39図　SX-1実測図（S=1/60）

の深さは0.35m である。長軸方向は東西方向である。断面形態は皿状を呈しており、床面はほぼフラットである。しかし、斜面上に位置するためか、床面のレベルも南へ向かうほど低く、傾斜している状況であった。完掘後、床面の精査を行ったが、床面よりピット等の検出はなかった。

埋土は、レンズ状に堆積しているため、自然堆積したものと思われる。埋土の色調は、暗褐色土であり、褐色を呈する住居や他の土坑の埋土とは異なる。加えて、Ah ブロックを含まない点も他の遺構とは異なる点であった。また、埋土中からではあるが、一部炭化粒も確認されている。

遺構内からは縄文土器・弥生土器が出土したがいずれも細片であり、図化できる遺物がなかった。出土した遺物は、いずれも埋土中からの出土であり、床面直上からの遺物の出土はなかった。なお、出土遺物の分布状況は第39図に示したとおりである。遺物が集中して出土するような状況はみられなかった。

遺構の性格については当初住居の可能性も考えたが、平面プランが不整形であることや柱穴が確認されなかったことなど、住居と積極的に肯定できる判断材料に欠けていた。そのため、本報告では用途不明の竪穴状遺構としたい。

(5) 端部などにピットを有するタイプの土坑

このタイプの土坑については、近隣遺跡の白ヶ野第１遺跡や山田第２遺跡でも検出され、それぞれの報告書（清武町埋蔵文化財調査報告書第13集『白ヶ野第１・第４遺跡』、同20集『山田第２遺跡』）においては“端部にピットを有するタイプの土坑”として掲載している。しかし当報告書においては、土坑の端部以外にもピットが切り合う状況が見られることに留意し、あえて「など」という表現を加えて考察を進めていくこととする。

ａ．立地条件

このタイプの土坑が検出された場所は、ややフカフカしたシルト質ローム土（第４図Ⅲ層に似た土質）が堆積している緩やかな谷部であった。尚、先述の両遺跡における立地条件もほぼ同様であった。

b．検出状況及び基数

検出状況は、大別すると単独で検出されるケースと複数の土坑が切り合って検出されるケースの２ケースであった。単独で検出された土坑は計83基で、プランの向きや間隔などに規則性は確認できない。又、複数の土坑が切り合って検出されたグループは計28グループで、内訳は次のとおりである。

２基が《Ｔ字状》に切り合っている。　‥　２グループ　（計４基）
２基が《直線的》に切り合っている。　‥　４グループ　（計８基）
２基が《への字状》に切り合っている。　‥　９グループ　（計18基）
２基が《Ｌ字状》に切り合っている。　‥　１グループ　（計２基）
２基が《並列》に切り合っている。　‥　２グループ　（計４基）
３基が《Ｋ字状》に切り合っている。　‥　１グループ　（計３基）
３基が《への字状》に切り合っている。　‥　２グループ　（計６基）
３基が《直線的》に切り合っている。　‥　２グループ　（計６基）
３基が《Ｈ字状》に切り合っている。　‥　１グループ　（計３基）
４基が《直線的》に切り合っている。　‥　１グループ　（計４基）
４・６・７・８基が《複雑》に切り合っている。‥　３グループ　（計25基）　総計83基

c．構　造

土坑の端部（まれに中央部）にピットが切り合う状態が基本的な構造であるが、それぞれの形状は次のとおりである。

【土　坑】平面プランが長軸0.8m～1.3m・短軸0.4m～0.7mの長楕円形を呈し、検出面から深さは0.2m～0.4mある。

【ピット】平面プランが直径0.2m～0.4mの円形呈し、検出面からの深さは0.5m～１mである。

d．埋土及び共伴遺物

埋土は、黄褐色（にぶい黄褐色もあり）のシルト質ローム土で、それにアカホヤ火山灰層やＶ層の小ブロック（１cm～２cm）、白色パミスなどが10％～20％ほど含まれていた。又、土坑とピットの埋土については、ピットの最深部付近がやや粘性があるなど若干の違いはあるもののほぼ同質の埋土であった。

共伴遺物については、埋土中に縄文時代早期から中世の遺物が混入していたが（縄文時代早期が５基・同前期が１基・同後晩期が１基・弥生時代が４基・古代及び中世が４基）、土坑の構築時期を考察でき得る遺物は出土していない。

e．自然科学分析

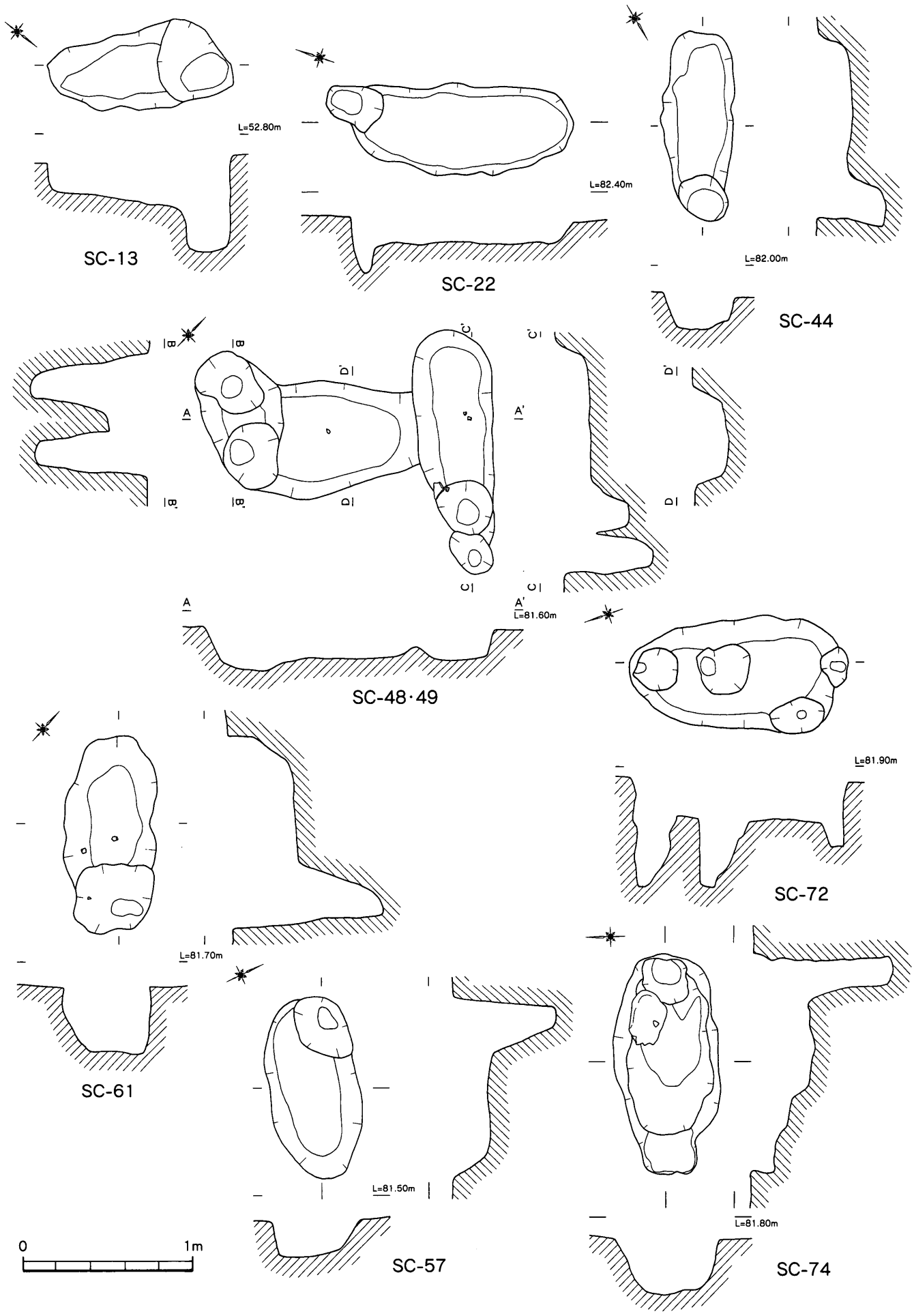
SC-189（６基の土坑が複雑に切り合う状態で検出されたなかの１基）の埋土中から採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、880±40年 BP という推定使用時期の根拠となるデータが得られた。

f．小　結

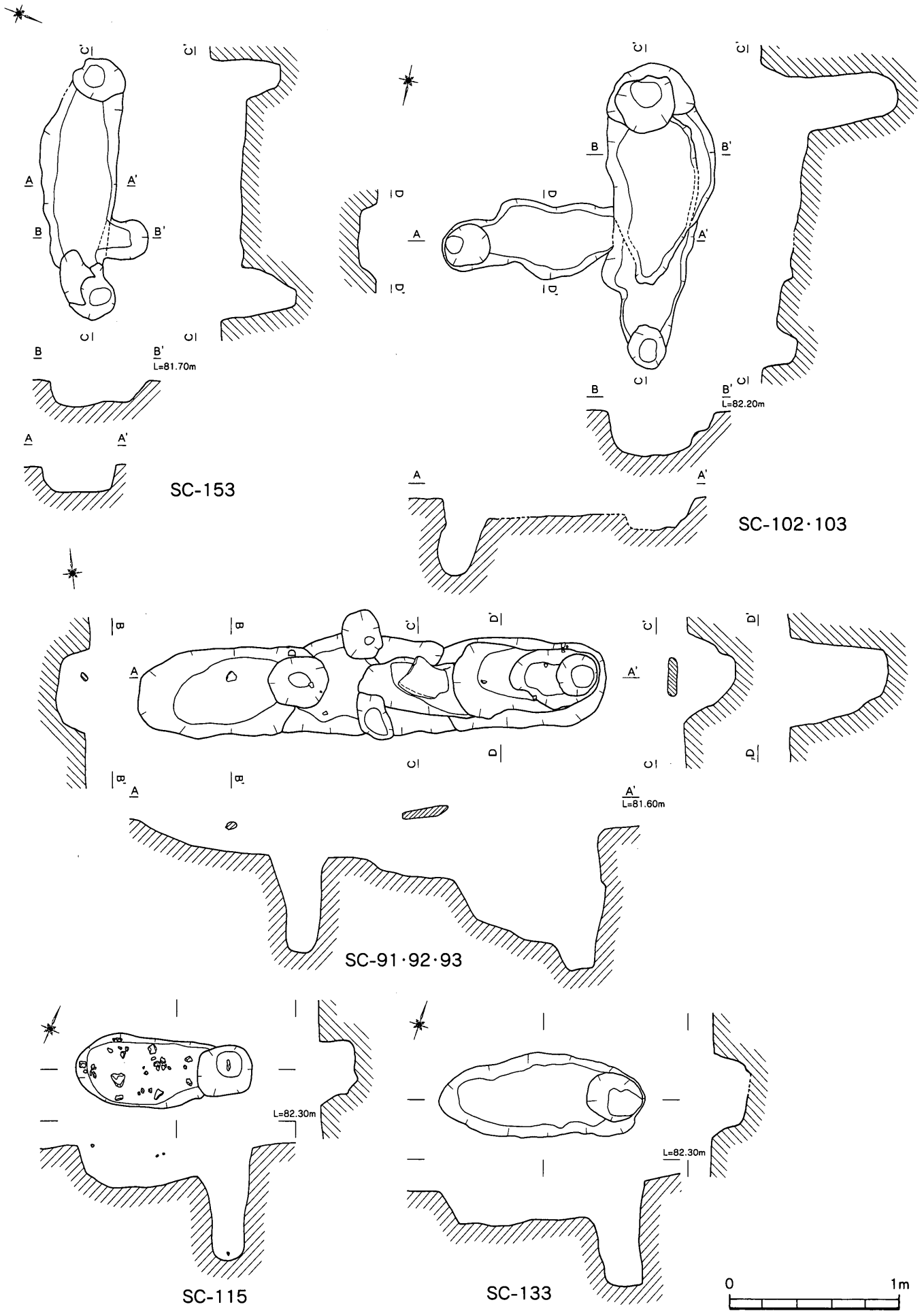
このタイプの土坑は、先述の白ヶ野第１遺跡や山田第２遺跡の他に天神河内第１遺跡（宮崎市田野町）でも検出されているが、その用途については未だに解明されていない。

調査当初は、土坑とピットの関係に注目し、互いの埋土を入念に検証する（「意図的な埋め戻しはないか」・「土坑とピットの埋土に違いはないか」など）ことに努めたが、用途を推測するだけの確証は得られなかった。その後、ピットの間隔やならび方、土坑の向きや間隔など土坑やピット単体というよりも分布範囲全体を視野に入れて考察を進めたが、これも規則的な配置状況等の確認には至っていない。

この様に、貯蔵穴や陥し穴などの用途が推測されるものの明確な証拠が得られず、又、地下茎植物採掘痕の可能性も十分に考えられるなど、用途についての見解が実に述べにくい土坑群ではあるが、今後はより細部に注目した調査及び検証を行いこのタイプの土坑の本来の姿を解明していきたい。



第40図　アカホヤ火山灰層上面検出土坑（ピットと切り合うタイプ）実測図①（S=1/30）



第41図　アカホヤ火山灰層上面検出土坑（ピットと切り合うタイプ）実測図②（S=1/30）

第2節　包含層出土遺物

1. 縄文土器

アカホヤ火山灰層上位では、Ⅲ層（通称2次アカ）が堆積している範囲から縄文土器が出土した。出土した縄文土器はそのほとんどが縄文時代前期のもので、極わずかに縄文時代中期～晩期のものが含まれていた。

尚、縄文土器が出土した調査グリッドは、D4·8·9～13、E4·5·7～13、F8～13（＊第3図　調査区グリッド図参照）であった。

貝殻条痕文土器·轟B式土器（1～91）

貝殻条痕文土器及び轟B式土器は166点出土し、そのうち91点を資料化している。

1～6は貝殻条痕文を施した口縁部片である。1·2は外面に斜位の貝殻条痕文を施し内面はナデ調整を行い、3は外面に斜位の貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行っている。又、4は内外面ともに横位の貝殻条痕文を施し、5·6は外面に斜位の貝殻条痕文を施したあとナデ調整、内面は横位や斜位の貝殻条痕文を施している。尚、1～6いずれも平らに仕上げた平口縁で、器形的特徴は小破片のため詳細は不明である。7～31は貝殻条痕文を施した胴部片である。施文的特徴としては、内外面ともに貝殻条痕文を施したもの（8～11·13·14·17·20·21·23～25·29）、内外面ともに貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行っているもの（7）、外面に貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行い、内面に貝殻条痕文を施しているもの（15·16·19·22·26·27）、外面に貝殻条痕文を施し、内面にナデ調整を行っているもの（12）、外面に貝殻条痕文を施し、内面は貝殻条痕文のあとにナデ調整を行っているもの（28·30）、などが見られる。又、18には穿孔が有り、31は底部付近の部位である。尚、器形的特徴については、口縁部同様小破片のため詳細は不明である。32～40は貝殻条痕文を施したあと、外面に刺突文を施した胴部片である。32·33·37は内外面ともに貝殻条痕文を施したあと、外面に細い棒状工具による刺突文（連点文）を施し、34·35は外面に貝殻条痕文を施したあとに外面に細い棒状工具による刺突文（連点文）を施し、内面は貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行っている。又、36·38～40は内外面に貝殻条痕文を施していて、外面には加えて先端がヘラ状の工具による刺突文も施している。41～48は隆起帯文をもつ口縁部片である。41は外面に貝殻条痕文を施したあと、細い棒状工具による刺突文（連点）を施し、加えて口縁部に直行する隆起帯文を3条口唇部から縦位に施している。尚、内面は貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行っている。42は外面に貝殻条痕文を施したあと、口縁部に平行な2条の隆起帯文とその下位に波状の隆起帯文を1条施し、内面は貝殻条痕文のあとナデ調整を行っている。43·44·46·47は外面に貝殻条痕文を施したあと、口縁部に平行な隆起帯文（43·44·46は1条、47は2条）を施し、内面は貝殻条痕文のあとナデ調整を行っている。45は外面に貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行い、加えて口縁部に平行な1条の隆起帯文を口唇部直下に施し、内面には貝殻条痕文を施している。48は外面に口縁部に平行な隆起帯文を5条施し、その隆起帯文におそらく貝殻腹縁を利用したと思われるキザミを施していて、内面はナデ調整を行っている。又、41～48はいずれも平口縁で、41～47は口唇部がやや尖り気味に仕上げられているが、48はやや平らに仕上げられている。尚、器形的特徴については小破片のため詳細は不明である。49～91は隆起帯文をもつ胴部片である。49～54·56·79は隆起帯文に棒状工具によるキザミを施したもので、外面地文には貝殻条痕文を施し（50·52はそのあとナデ調整。又、51は貝殻条痕文に加えて櫛状工具による沈線文）、内面にも貝殻条痕文を施している。尚、隆起帯文の断面形状については、49·53·54·56·79がやや台形で50～52が三角形である。57·59·60·65は隆起帯文（断面三角形）に加えて棒状工具による刺突文を施したもので、外面地文には貝殻条痕文を施し、内面にも貝殻条痕文を施している。55·61·84は隆起帯文（断面三角形）に加えて棒状工具による沈線文を施したもので、外面地文には貝殻条痕文を施し（55·61はそのあとナデ調整）、内面にも貝殻条痕文を施している（61はそのあとナデ）。58·62～64·66～78·80～83·85～91は隆起帯文（断面三角形）を施している。地文の施文パターンとしては、内外面ともに貝殻条痕文を施したもの（67～70·74·76·78·85·87·90·91）、内外面ともに貝殻条痕文を施したあとにナデ調整を行っているもの（62·66·83·88）、外面に貝殻条痕文を施し、内面は貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行っているもの（86·89）、外面に貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行い、内面はナデ調整を行っているもの（64·72·80）、外面に貝殻条痕文を施し、内面はナデ調整を行っているもの（63·73）、外面

に貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行い、内面には貝殻条痕文を施したもの（58·71·75·77·81·82）、などが見られる。尚、器形的特徴については口縁部同様小破片のため詳細は不明である。

野口式土器（92～113）

野口式土器は24点出土し、極小片の2点を除いた22点を資料化している。

92～97は外面に弧状や直線状の沈線文が施された口縁部片である（92·94·95·97は平口縁で、93·96は波状口縁）。92～97はいずれも口唇部を平らに仕上げそれにキザミを施していて、内面はナデ調整を行っている。又、94の沈線文から採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、5220±40年BPという使用推定時期の根拠となるデータが得られている。98～113は外面に弧状や直線状の沈線文が施された胴部片である。92～113の沈線文はいずれも細い棒状工具で施されたものであるが、110～113は他より細い棒状工具を使用している。

曽畑式土器（114～286）

曽畑式土器は、滑石が混入しているもの114点、混入していないもの174点、計288点出土し、そのうち滑石が混入しているもの94点、混入していないもの79点、計173点を資料化している。

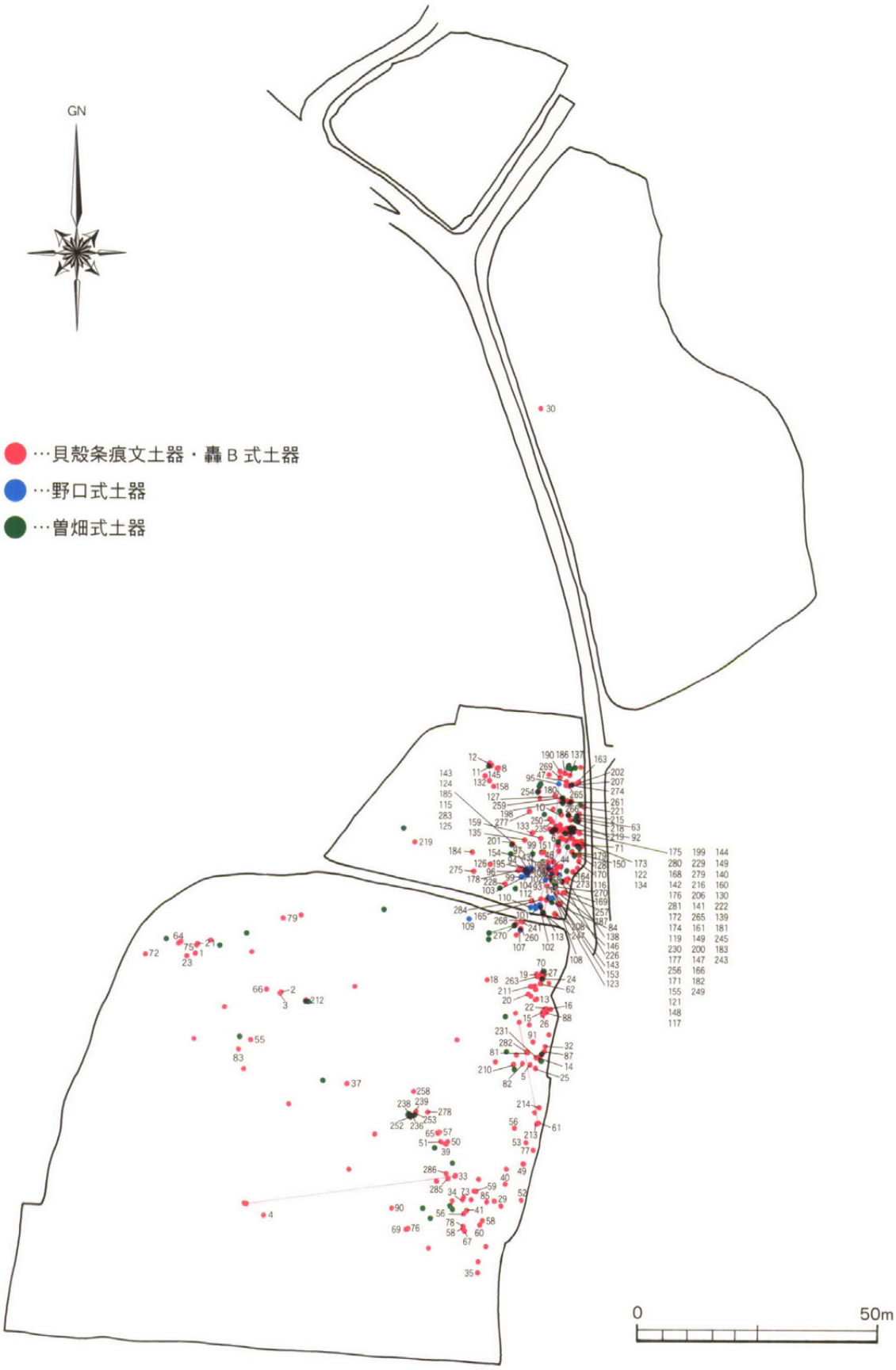
114～138は滑石が混入している曽畑式土器の口縁部片である。114は口唇部付近がやや外反する器形で、口唇部を平らに仕上げそこにキザミを施した波状口縁である。口唇部直下の外面には口縁部に平行な3段の竹管状工具による連続刺突文を施し、その下位には横位の沈線文（棒状工具）を、さらにその下位には縦位と横位の沈線文（棒状工具）や竹管状工具による刺突文（胴部から口唇部に向けて＝下から上へ縦に施文）を施している。内面はナデ調整が行われているが、口唇部で外反するあたりから口縁部に平行な2段の竹管状工具による連続刺突文を施している。115·116は口唇部付近がやや外反する器形で、口唇部を平らに仕上げそこに浅いキザミを施した平口縁である。口唇部直下の外面には口縁部に平行な竹管状工具による連続刺突文（115が3段、116が4段）を施し、その下位には波状の沈線文（棒状工具）を施している。117～120·123は施文的特徴が114～116とほぼ同様で、117が波状口縁で118～120·123が平口縁である。121·122·129～131は外面に口縁部下位から口唇部に向けて（＝土器片の下から上へ）羽状を意識した刺突文を施した口縁部片である。121·122は口唇部を内面にやや斜行するように仕上げそれにキザミを施していて、121が平口縁で122が波状口縁である。内面はいずれもナデ調整を行っているが、口唇部直下には外面と同様の文様を2段施している。尚、刺突文の施文具は竹管状工具である。129～131は口唇部を平らに仕上げた平口縁で、そこにキザミを施している。又、内面はナデ調整を施しているが、口唇部直下には刺突文を施している。尚、刺突文の施文具は棒状工具である。124·125·127は口唇部を内面に斜行するように仕上げそこにキザミを施していて、124·127は平口縁で125は波状口縁である。外面は櫛状工具による刺突文及び細い棒状工具による沈線文を施したあと、刺突文の施文範囲のみを丁寧にナデ調整を行っていて、内面はナデ調整を行っている。126は口唇部を平らに仕上げそこにキザミを施した平口縁で、口唇部直下に棒状工具による刺突文とその下位に沈線文を施している。128は口唇部をやや丸めに仕上げた平口縁で、内外面ともに細い棒状工具による刺突文を施している。132～135は口唇部を平らに仕上げそこに櫛状工具による刺突文を施していて、132が波状口縁で、133～135は平口縁である。外面は口唇部直下に斜位の沈線文を施し、その下位には横位や波状の沈線文を施している。又、内面はいずれもナデ調整が行われている。136～138は口縁部外面に縦位·横位·斜位の沈線文を施していて、137·138は平らに仕上げられた口唇部にキザミを施している。尚、内面はいずれもナデ調整である。139は129～131と同様、又144～148は114と同様の特徴を持つ口縁部片だと思われるが、いずれも口唇部付近が破損している。140～143·149～207は滑石が混入している曽畑式土器の胴部片である。140～142は外面に羽状の刺突文（小枝が施文具か）と棒状工具による沈線文を施し、143は外面に櫛状工具による刺突文と棒状工具による沈線文を施している。尚、内面はいずれもナデ調整を行っている。149～207は外面に棒状工具による刺突文を施しているが、その施文には、横位の緩やかな波状文（149～152·156·166·206）、横位の緩やかな波状文と横位の直線文（153～155·157～159·162·193·199·200）、直線文と曲線文（160·161·163·181·198）、直線文のみ（164·165·167～180·182～192·194～197·201～205·207）、などが見られる。尚、内面はいずれもナデ調整である。208～240は滑石が混入していない曽畑式土器の口縁部片である。211・212は口唇部を平らに仕上げそこにキザミを施した平口縁で、外面に細い棒状の工具による沈線文を羽状や山状を意識しながら施している。211については胴部では文様パターンが別にあったと考えられるが、それは口縁部から胴部にかけての部位に確認できる1条の隆

起帯文（キザミを施している）とその隆起帯文の下位にナデ調整が行われているためである。尚、いずれの内面も、ナデ調整が行われている。231は口唇部を平らに仕上げそこに櫛状工具による刺突文を施した平口縁で、外面には211·212とほぼ同じ文様が施文されているが、口唇部直下に1条の隆起帯文を施している。尚、内面には横位及び斜位の貝殻条痕文を施している。213·214は口唇部を平らに仕上げそこにキザミを施した平口縁で、外面に羽状を意識した刺突文（ヘラ状工具か）を施し、内面はナデ調整を行っている。229は口唇部を内面に斜行するように仕上げそこにキザミを施した波状口縁で、外面に羽状を意識した棒状工具による刺突文を施し、内面はナデ調整を行ったあと口唇部直下に棒状工具による刺突文を施している。208～210は口唇部を平らに仕上げた平口縁で、外面にヘラ状工具による刺突文を施し、内面は貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行っている。223·226·230は口唇部を内面に斜行するように仕上げそこに棒状工具による刺突文を施した平口縁で、外面に棒状工具による刺突文を施し、内面はナデ調整を行ったあと223·230は口唇部直下に棒状工具による刺突文を226は沈線文を施している。215·216は口唇部を内面に斜行するように仕上げそこに棒状工具による刺突文を施した波状口縁で、外面に棒状工具による刺突文と沈線文を施し、内面はナデ調整を行っている(215はそれに加えて内面口唇部直下に棒状工具による刺突文を施している)。又、215の沈線文から採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、5230±40年 BP という使用推定時期の根拠となるデータが得られている。222は口唇部をやや丸めに仕上げた波状口縁で、内外面の施文は215とほぼ同様である。225は口唇部を内面にやや斜行するよう仕上げそこに棒状工具による刺突文を施し、外面に櫛状工具による刺突文を施し、内面には沈線文を施している。217口唇部を平らに仕上げそこにキザミを施した平口縁で、外面に細い棒状工具（先端の尖った）による刺突文と沈線文を施し、内面はナデ調整を行ったあと沈線文を施している。218·220·224は口唇部を内側にやや斜行するように仕上げそこに棒状工具による刺突文を施した平口縁で、外面に棒状工具による刺突文と沈線文を施し、内面はナデ調整を行ったあと口唇部直下に棒状工具による刺突文を施している。219は口唇部を平らに仕上げそこに棒状工具による刺突文を施した平口縁で、外面に棒状工具による刺突文と沈線文を施し、内面は棒状工具による沈線文を施している。221は口唇部に口縁部と平行方向からの刺突文を施すために、口唇部を内面にわずかに斜行するように仕上げた平口縁で、外面に棒状工具による刺突文と沈線文を施し、内面はナデ調整を行っている。227·228は口唇部を内面にやや斜行するように仕上げそこにキザミを施した平口縁で、外面に棒状工具による刺突文（羽状）と沈線文を施し、内面は227がナデ調整で228が貝殻条痕文を施したあとナデ調整を行っている。232·233·237·240はやや丸めに仕上げた平口縁で、外面に沈線文を施し、内面はナデ調整を行っている。234は口唇部を平らに仕上げそこに断面逆三角形状の溝を施した平口縁で、外面に沈線文を施し、内面はナデ調整を行っている。235は口唇部を平らに仕上げそこにキザミを施した平口縁で、外面に沈線文を施し、内面はナデ調整を行っている。236·238·239は口唇部を平らに仕上げそこに極めて浅いキザミを施した平口縁で、内外面ともに棒状工具による沈線文を施している。241～286は滑石が混入していない曽畑式土器の胴部片である。241～246は外面に棒状工具による刺突文と沈線文を施していて、内面はいずれもナデ調整が行われているが、241は口唇部に近い部位のためか棒状工具による沈線文が施されている。247～286は外面に直線文や曲線文で構成された幾何学的な沈線文を施していて、その文様パターンも様々である。施文具についてはほとんどが棒状工具であるが、282～284などは櫛状工具を使用しているものと考えられる。内面は全ての胴部片でナデ調整を行っているが、247·254では地文の貝殻条痕文を確認することができる。又、255では、内面に指圧痕を確認することができる。器形的特徴については、241～286いずれも小破片のため詳細については不明である。尚、285の沈線文から採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、4960±40年 BP という使用推定時期の根拠となるﾃﾞｰﾀが得られている。

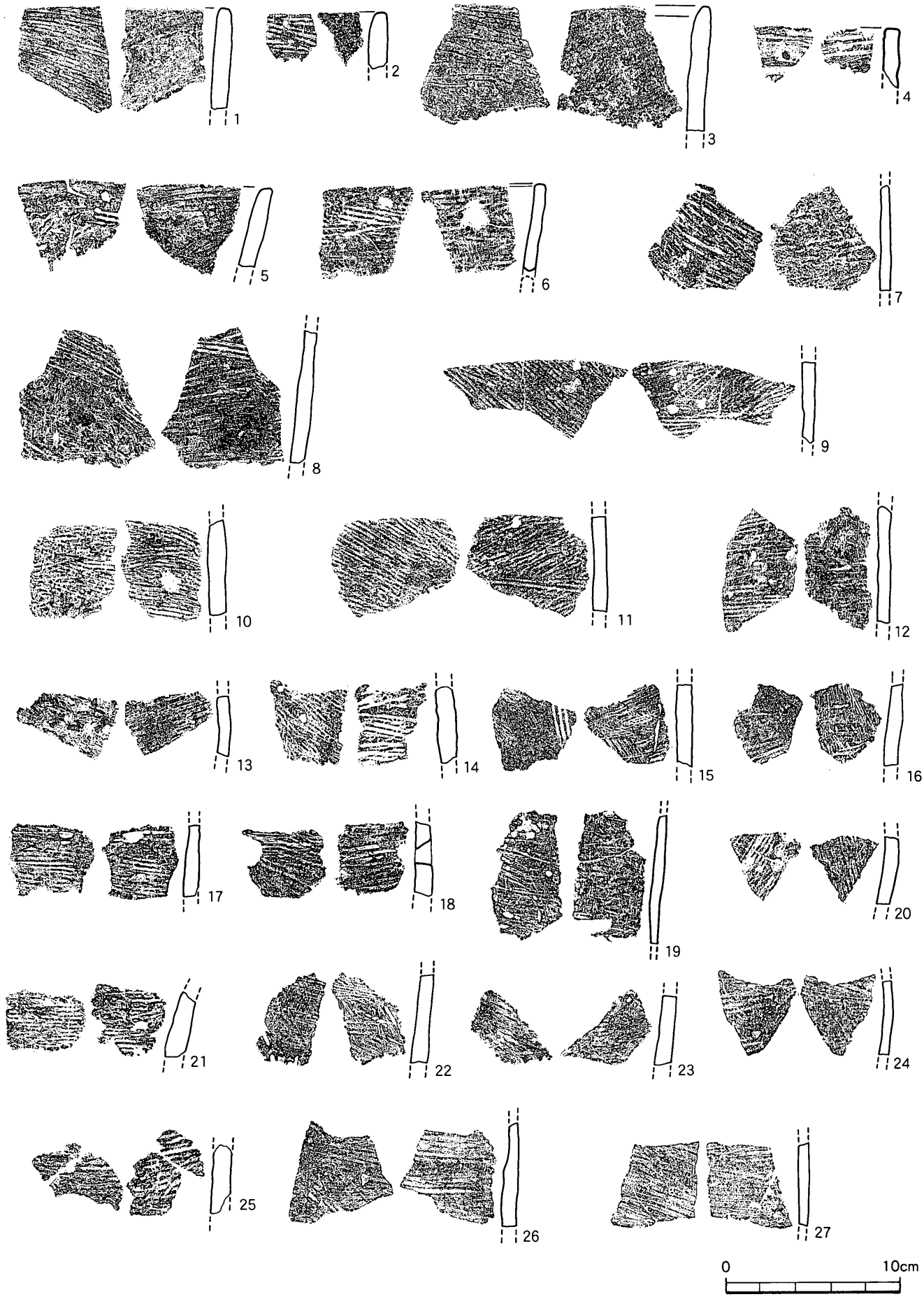
その他の土器（287～289）

287は里木式土器の口縁部（～頸部）片である。破損した口唇部から頸部にかけてくの字状に屈曲していて、屈曲部外面には縦位の縄文を施したあと細い棒状工具により曲線文や円文を施している(頸部外面はナデ調整)。又、内面は頸部から屈曲部まではミガキ、屈曲部から口唇部にかけてはナデ調整を施している。

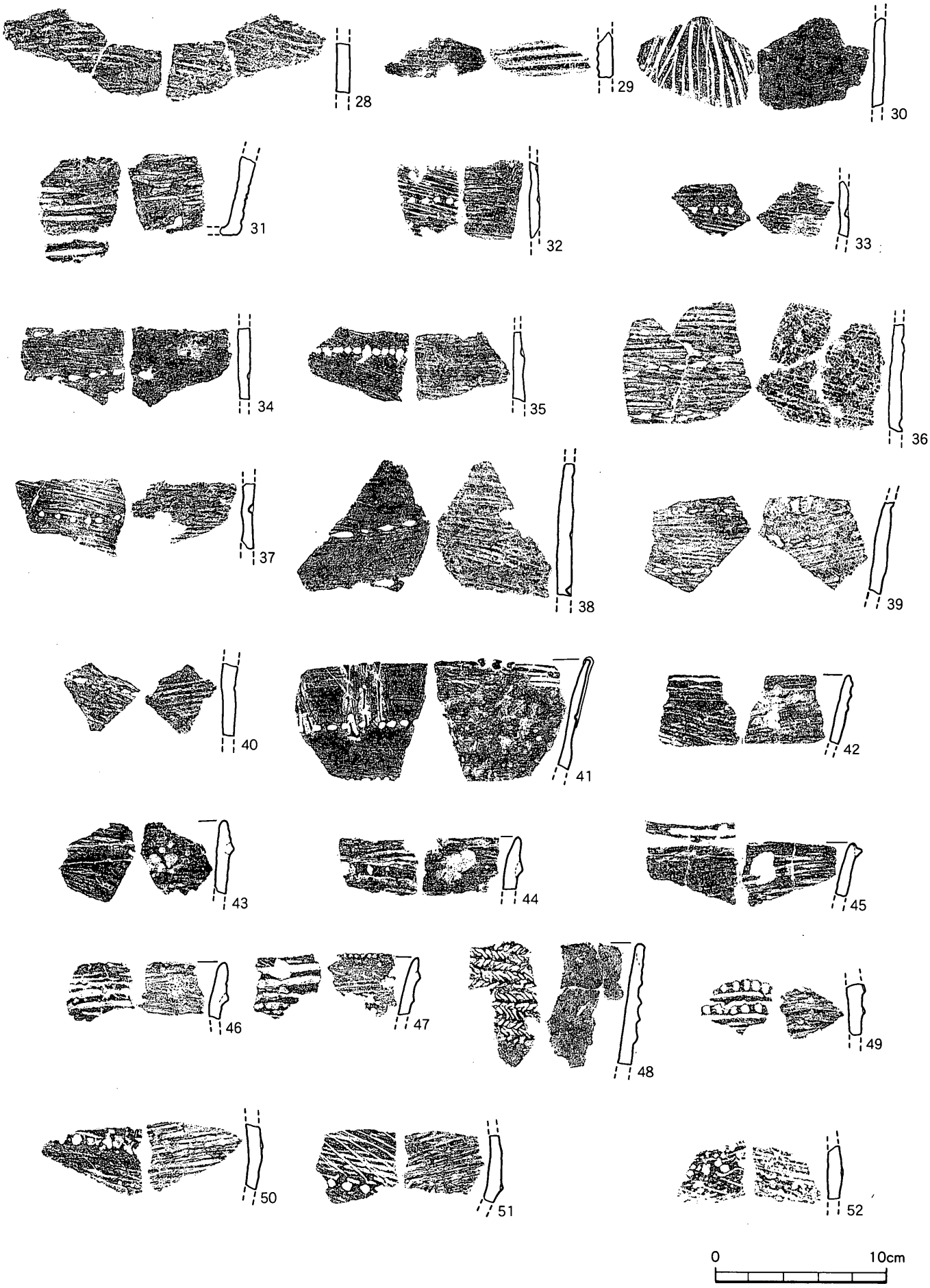
288·289は孔列文土器の口縁部片である。口縁部外面に棒状工具によりかなり深く穿たれてはいるものの未貫通の孔列を口縁部と平行に施し、それにより口縁部に薄手の突帯を貼り付けたようないわゆる“みせかけの肥厚帯”を作り出している。又、内外面ともに地文には貝殻条痕文を施している。



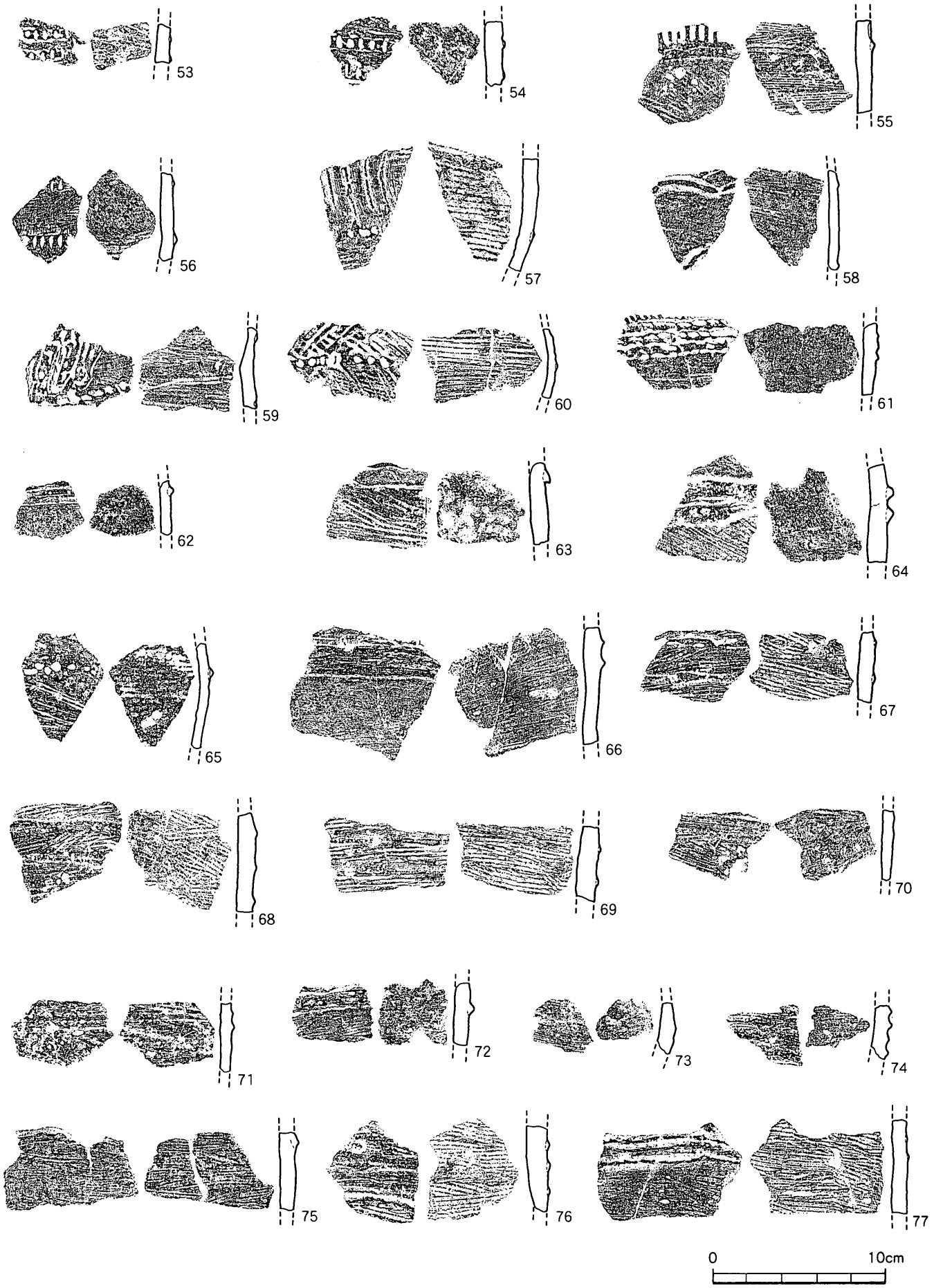
第42図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器分布図（S=1/1250）



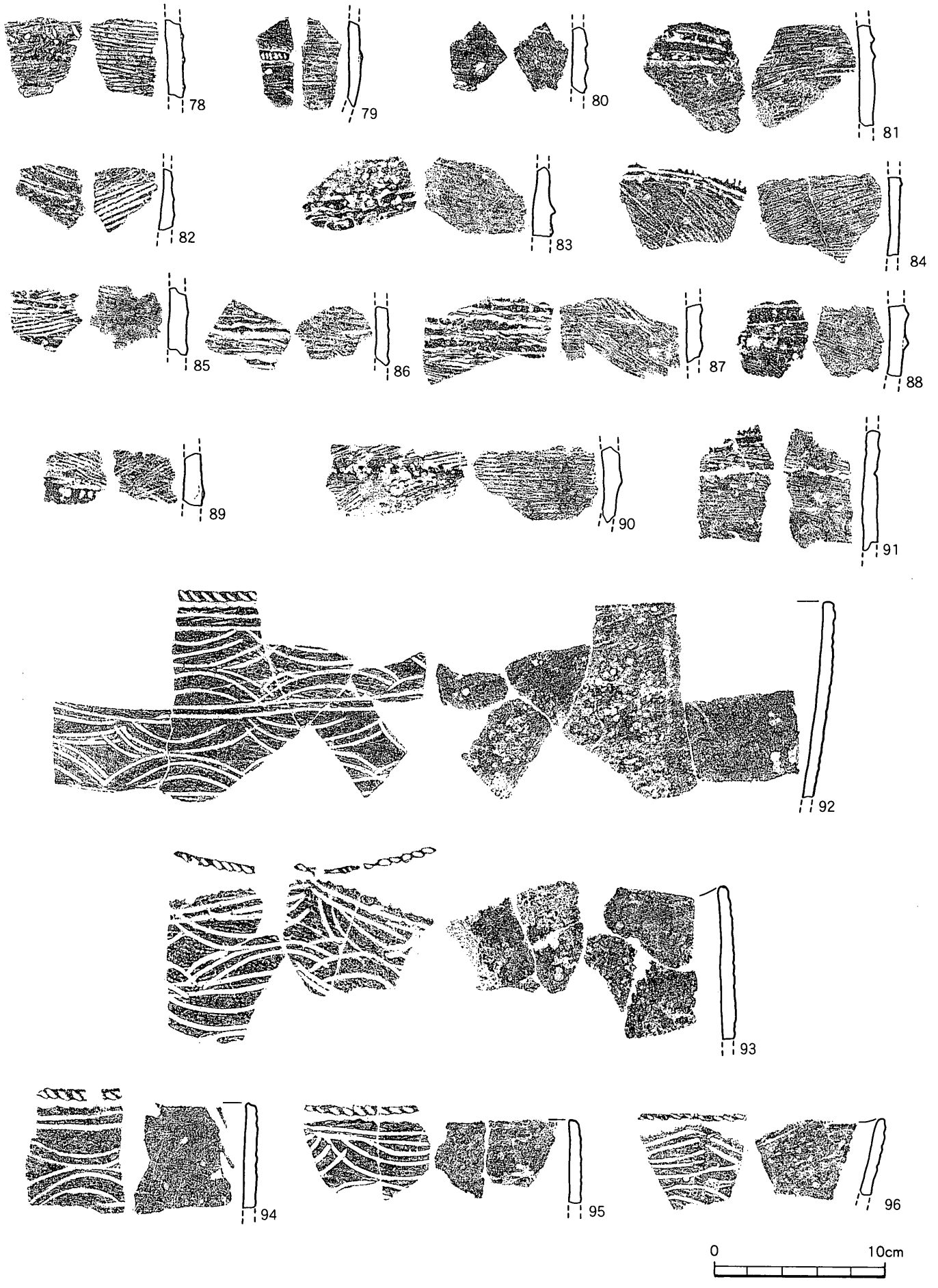
第43図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図①（S=1/3）



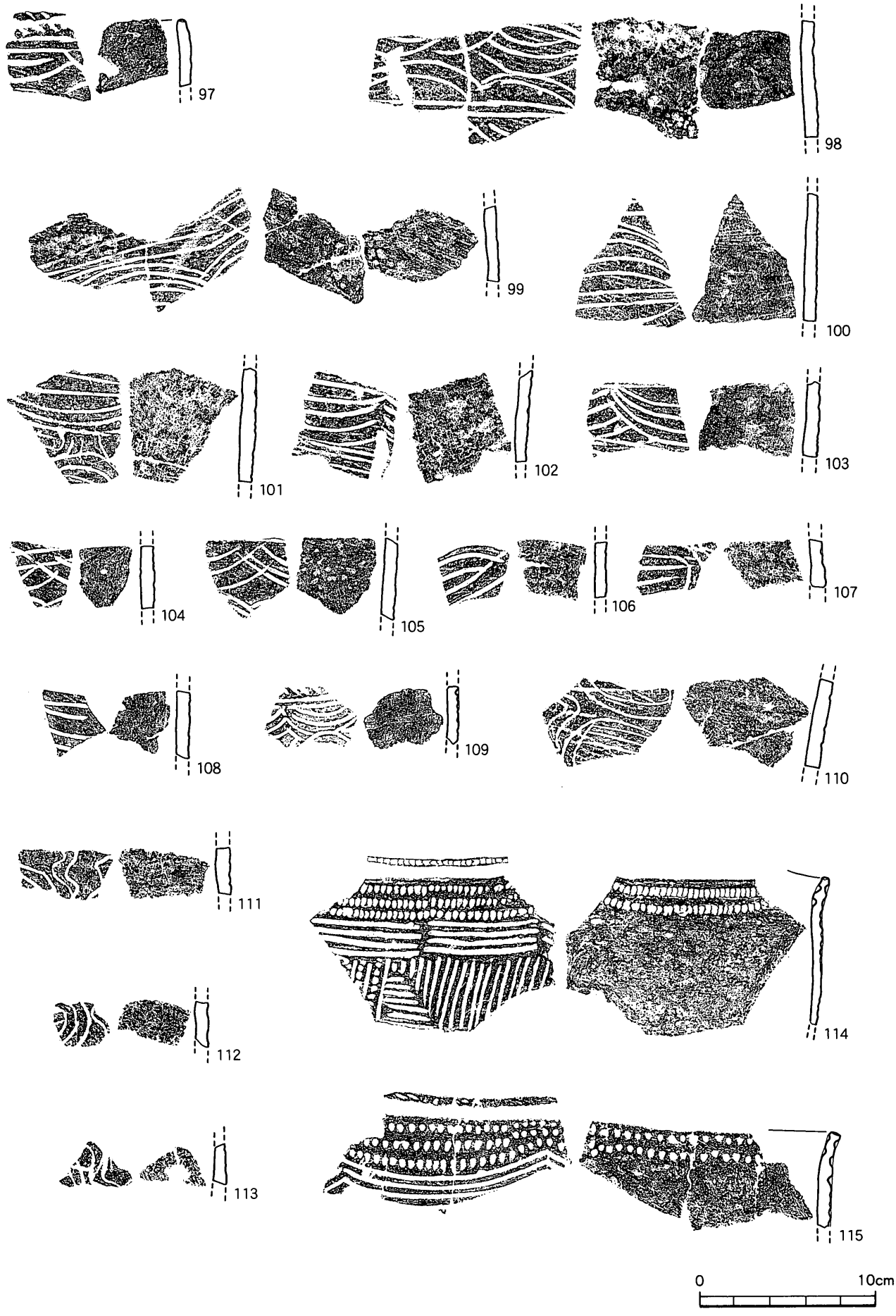
第44図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図②（S=1/3）



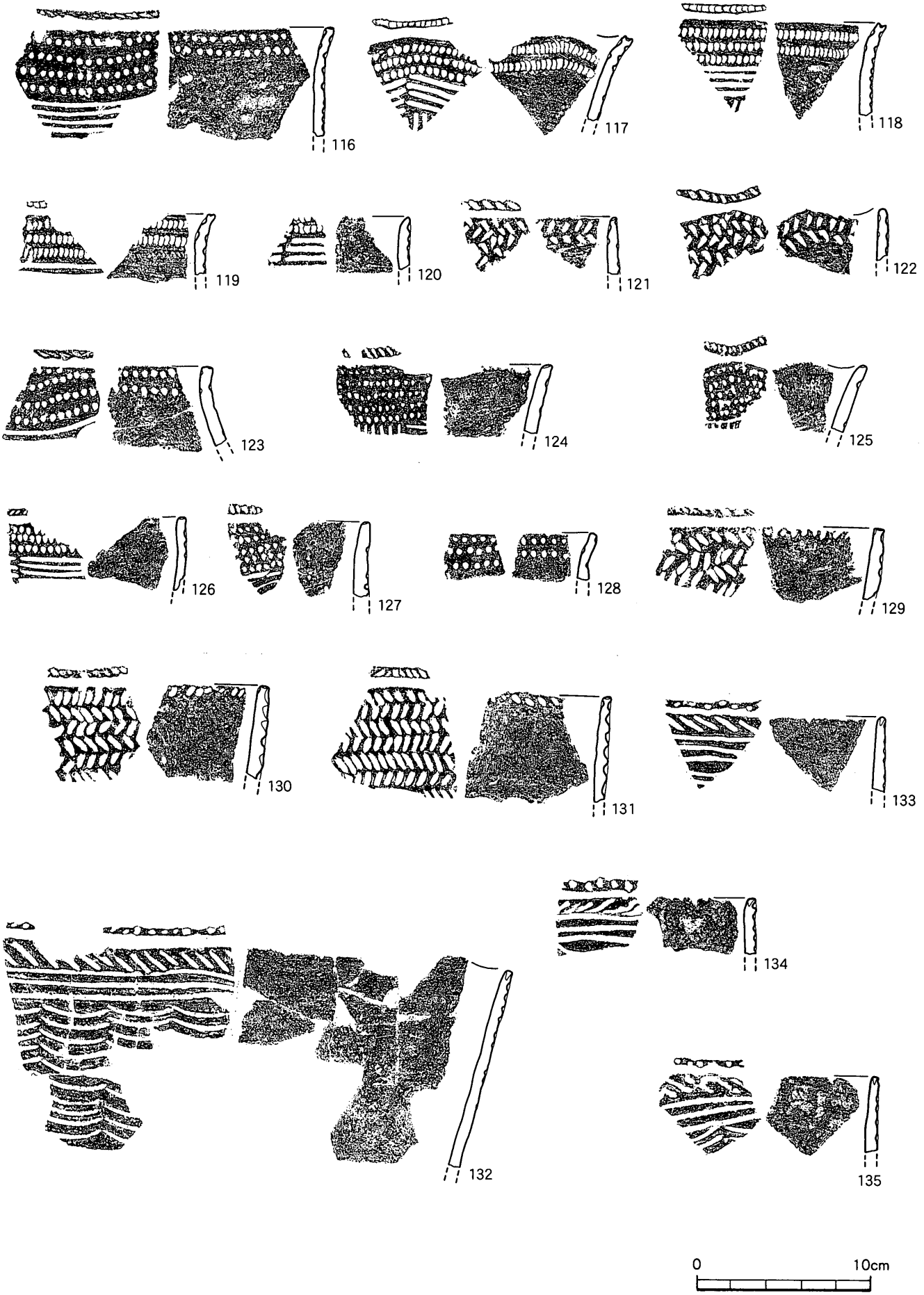
第45図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図③（S=1/3）



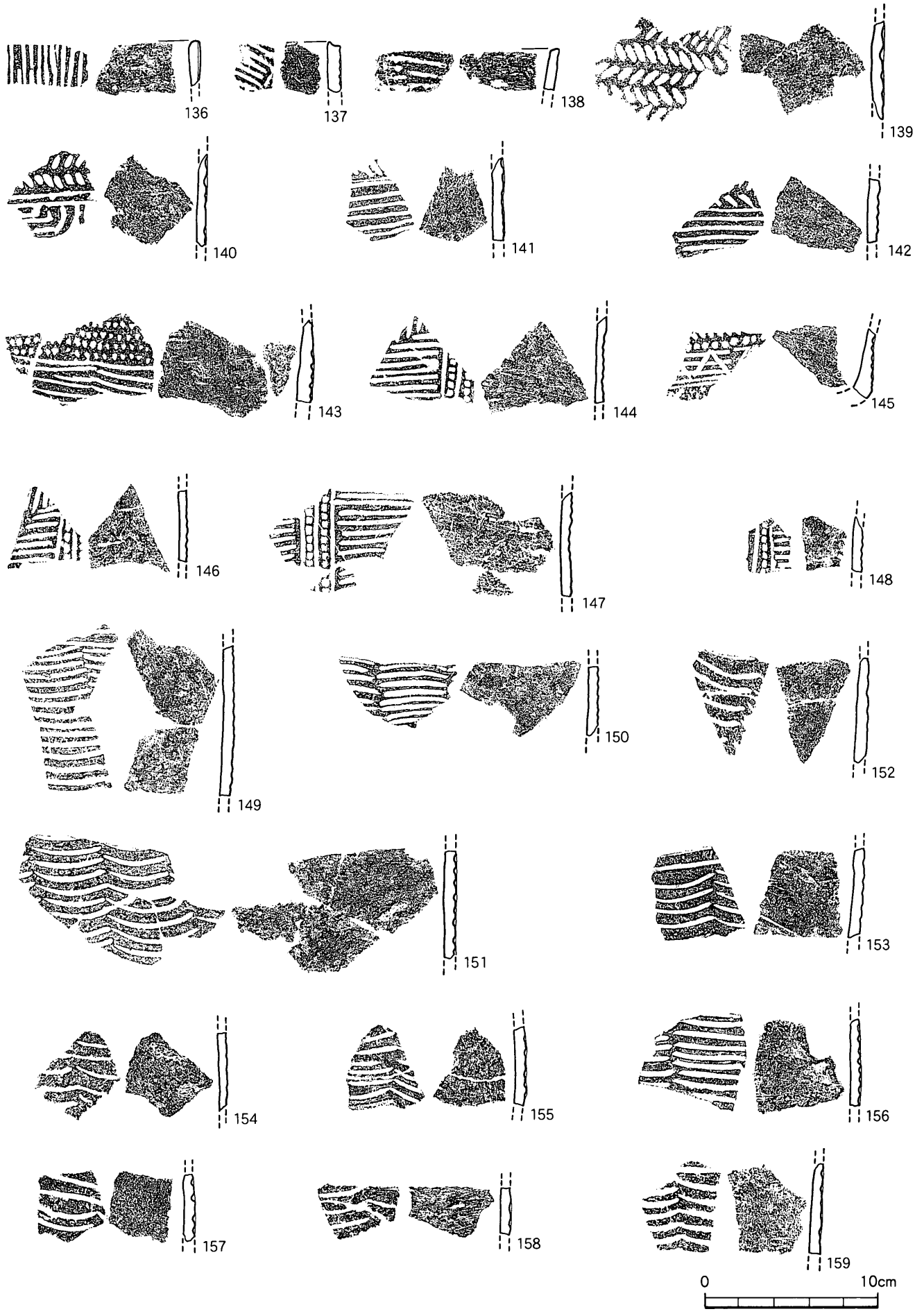
第46図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図④（S=1/3）



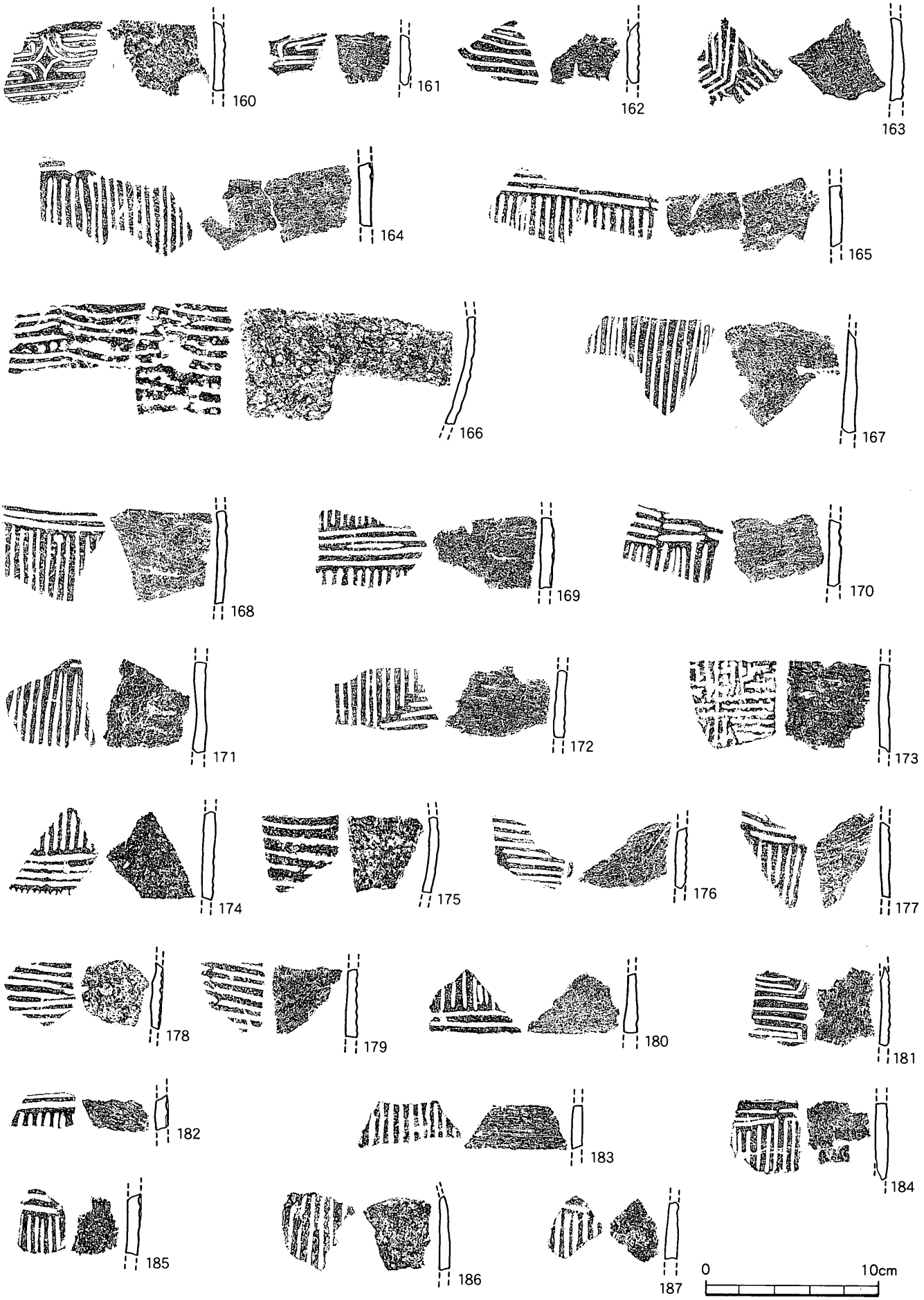
第47図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑤（S=1/3）



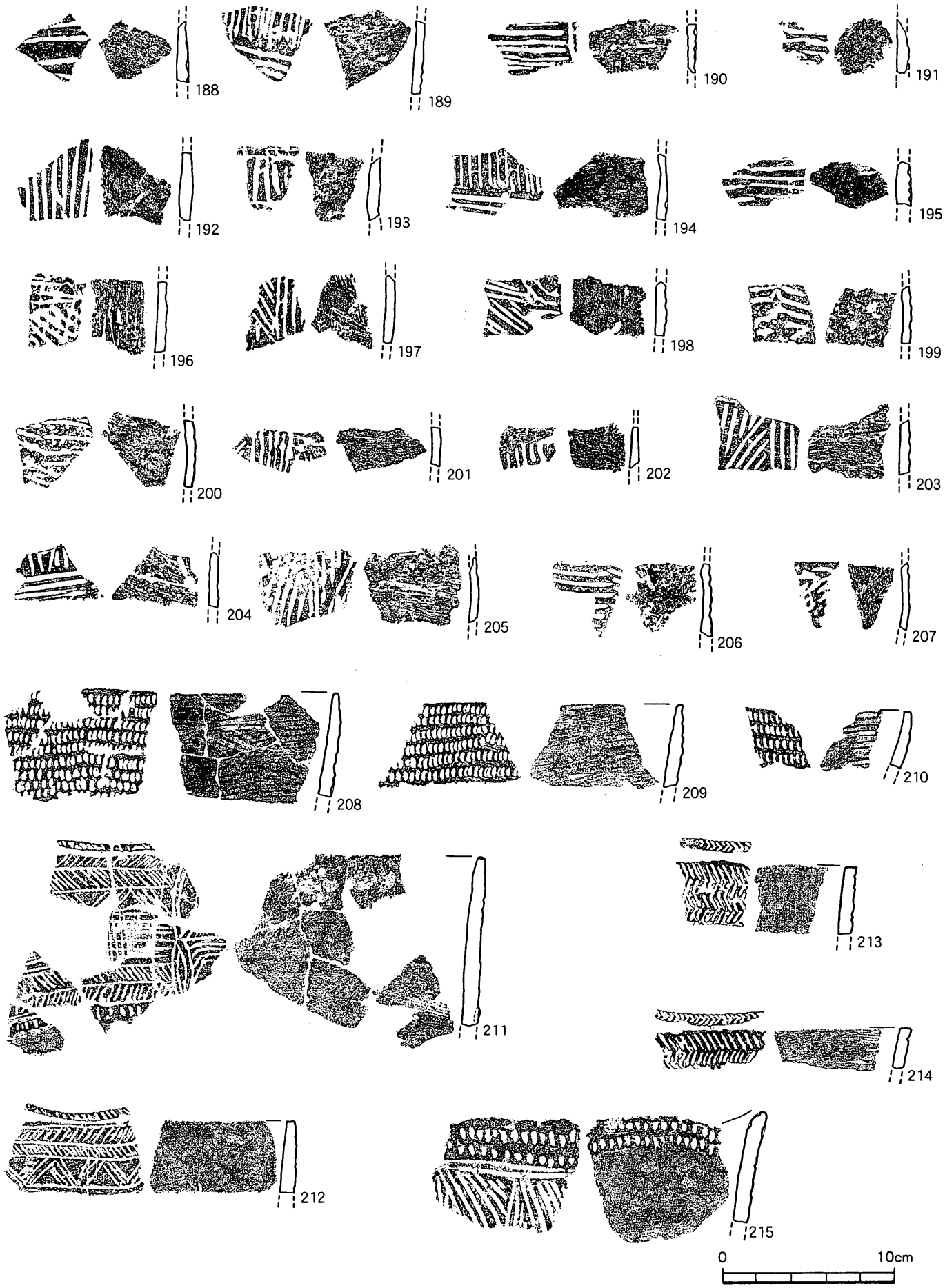
第48図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑥（S=1/3）



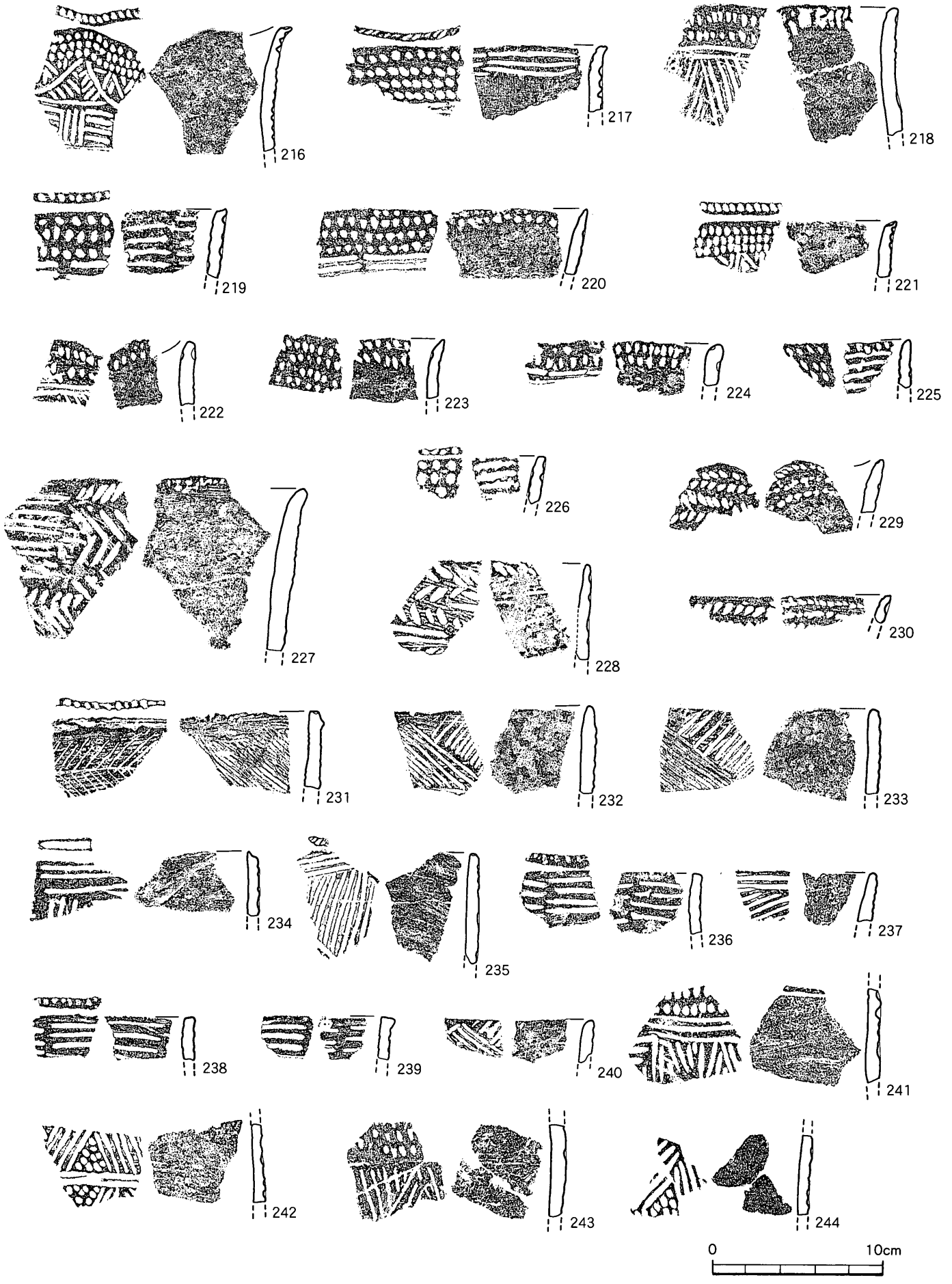
第49図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑦（S=1/3）



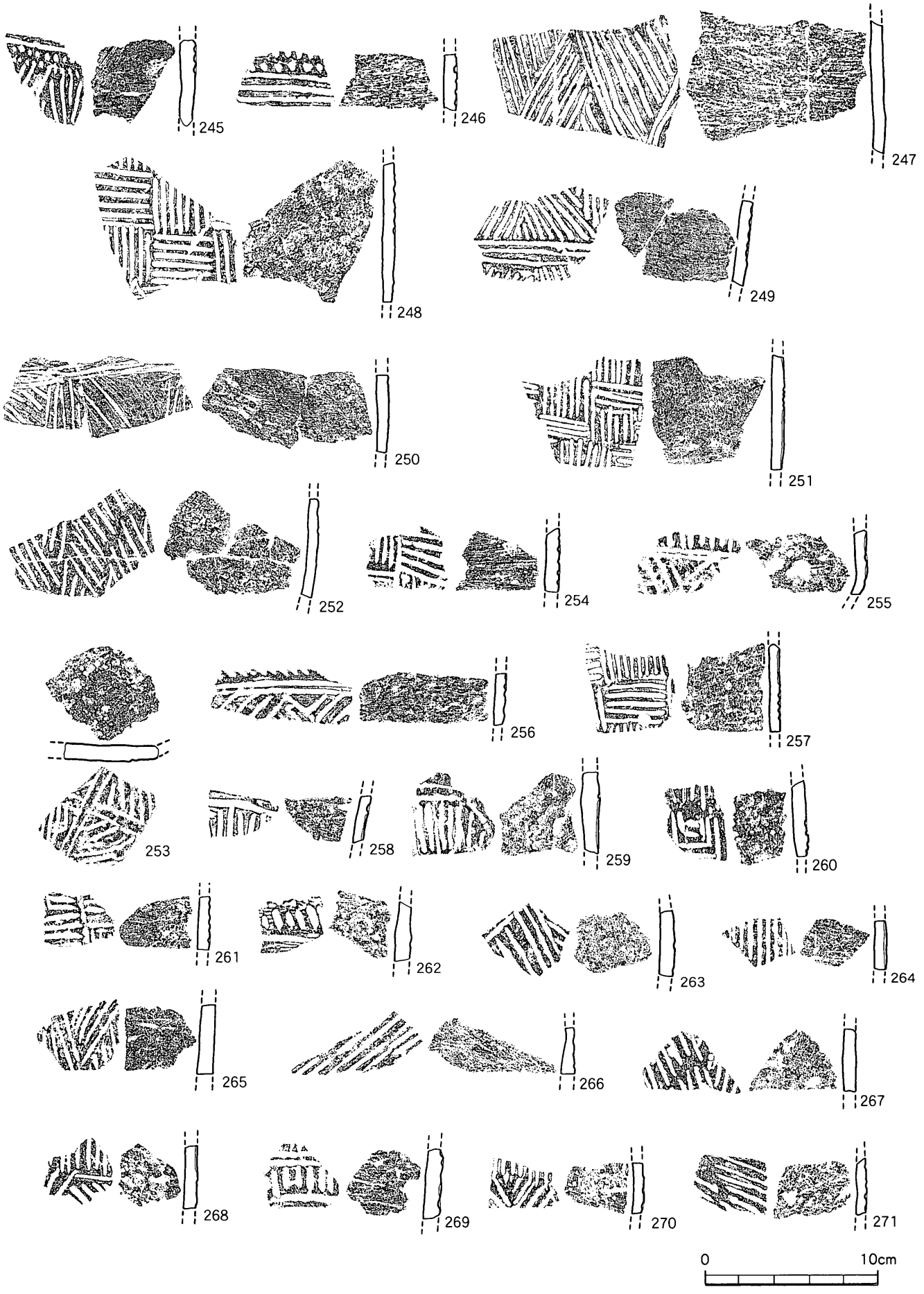
第50図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑧（S=1/3）



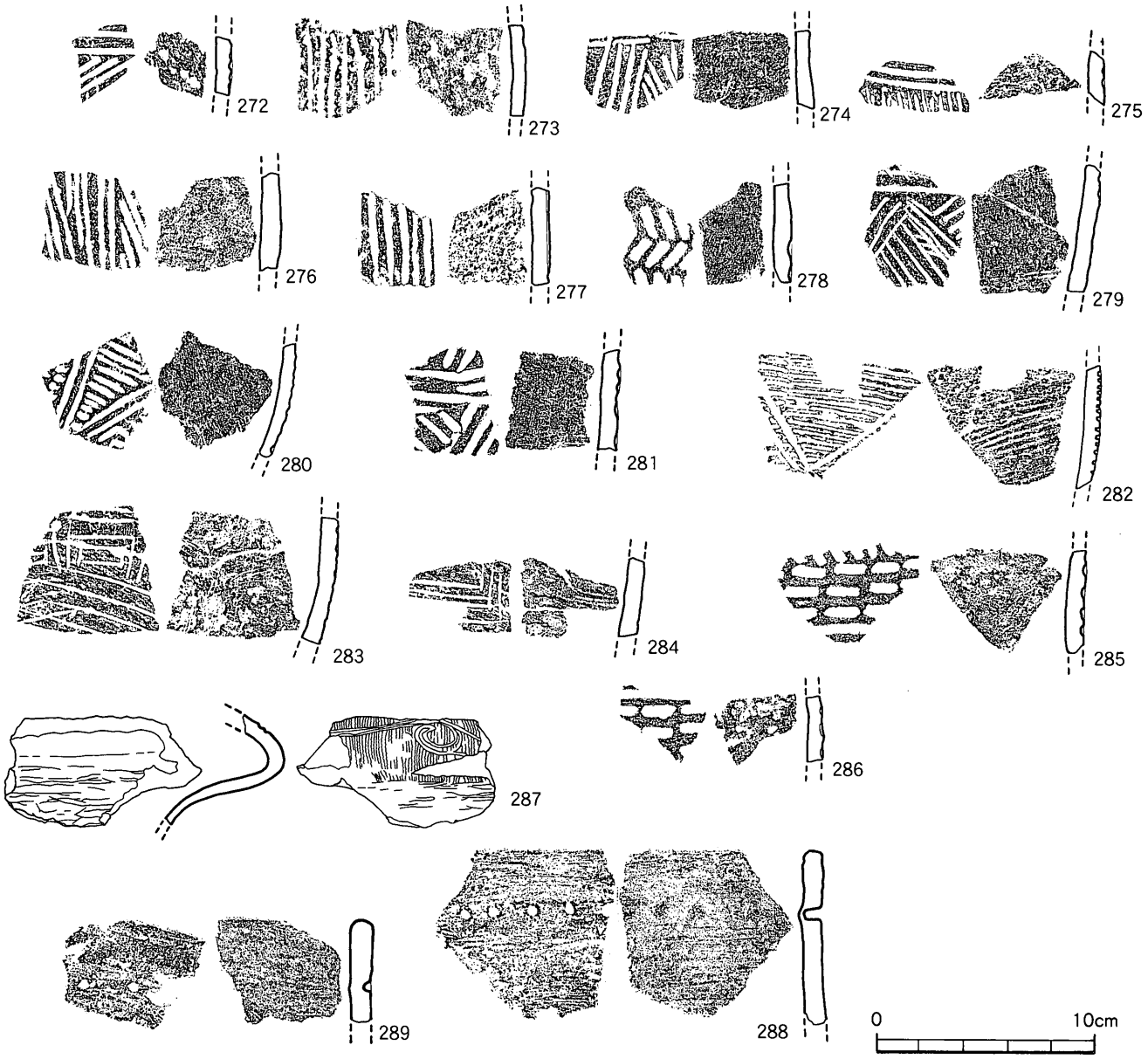
第51図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑨（S=1/3）



第52図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑩（S=1/3）



第53図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑪（S=1/3）



第54図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑫（S=1/3）

第10表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器観察表

No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土							備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	滑石	砂粒	
1	Ⅲ層	鉢	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR4/3(褐)	○	○					○3mm以下	スス付着
2	Ⅲ層	鉢	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○		○			○1mm以下	
3	Ⅲ層	鉢	口縁	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○2mm以下	
4	Ⅲ層	鉢	口縁	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR4/1(褐灰)	10YR6/1(褐灰)	○	○					○1mm以下	
5	Ⅲ層	鉢	口縁	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文	5YR5/3(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○					○1mm以下	
6	Ⅲ層	鉢	口縁	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○1mm以下	
7	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○		○			○2mm以下	
8	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○1mm以下	
9		鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	2.5Y4/1(黄灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)		○		○			○1mm以下	
10	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○					○1mm以下	
11	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○		○			○1mm以下	
12	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)		○			○		○1mm以下	
13	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○		○1mm以下	
14	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○		○2mm以下	
15	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○						○2mm以下	
16	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文	5YR7/2(明褐灰)	7.5YR7/1(明褐灰)	○	○					○1mm以下	
17	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR5/1(褐灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○		○			○1mm以下	スス付着
18	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○1mm以下	スス付着
19	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文	5YR7/2(明褐灰)	5YR5/4(にぶい赤褐)		○					○1mm以下	
20	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR7/1(明褐灰)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○					○1mm以下	
21	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○					○1mm以下	
22	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○					○1mm以下	
23	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	スス付着
24	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)		○					○1mm以下	スス付着
25	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○				○		○2mm以下	スス付着
26	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○					○1mm以下	
27	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文	10YR5/3(にぶい黄褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○					○1mm以下	スス付着
28	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○					○1mm以下	
29	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/4(にぶい黄橙)		○		○			○1mm以下	
30	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○					○1mm以下	
31	Ⅲ層	鉢	胴部~底部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	2.5YR5/3(にぶい赤褐)	2.5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○					○1mm以下	スス付着
32	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・刺突文	貝殻条痕文	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○					○1mm以下	
33	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・刺突文	貝殻条痕文	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)		○					○1mm以下	
34	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・刺突文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○1mm以下	
35	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・刺突文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/4(にぶい黄褐)	○	○					○1mm以下	
36	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・刺突文	貝殻条痕文	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○					○1mm以下	
37	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・刺突文	貝殻条痕文	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○					○1mm以下	
38	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○					○1mm以下	
39	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○					○1mm以下	
40	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○						○1mm以下	
41	Ⅲ層	鉢	口縁	貝殻条痕文・刺突文・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○		○2mm以下	
42	Ⅲ層	鉢	口縁	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○					○2mm以下	
43	Ⅲ層	鉢	口縁	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR4/3(褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○		○2mm以下	
44	Ⅲ層	鉢	口縁	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○						○3mm以下	
45	Ⅲ層	鉢	口縁	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR3/1(黒褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○			○		○2mm以下	
46	Ⅲ層	深鉢	口縁~頸部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○		○2mm以下	
47	Ⅲ層	深鉢	口縁	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○		○3mm以下	口唇部にキザミを施している
48	Ⅲ層	深鉢	口縁	隆起帯文(キザミ有り)	ナデ	7.5YR4/3(褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○3mm以下	
49	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文(キザミ有り)	貝殻条痕文	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)		○					○3mm以下	
50	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文(キザミ有り)	貝殻条痕文	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○				○		○1mm以下	
51	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文(キザミ有り)・沈線文	貝殻条痕文	10YR5/4(にぶい黄褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○					○1mm以下	
52	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文(キザミ有り)	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○		○2mm以下	
53	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文(キザミ有り)	貝殻条痕文	7.5YR4/3(褐)	10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○			○		○1mm以下	
54		深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文(キザミ有り)	貝殻条痕文	7.5YR4/3(褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○					○7mm以下	
55	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文・沈線文	貝殻条痕文	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○4mm以下	
56	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文(キザミ有り)	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○				○2mm以下	
57	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文・刺突文	貝殻条痕文	10YR4/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○3mm以下	
58	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	貝殻条痕文	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○			○		○3mm以下	

No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土							備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	滑石	砂粒	
59	Ⅲ層	深鉢	頸部	貝殻条痕文・隆起帯文・刺突文	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○					○3mm以下	
60	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文・刺突文	貝殻条痕文	10YR3/1(黒褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○					○5mm以下	
61	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文・沈線文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○		○4mm以下	
62	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○					○2mm以下	
63	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	ナデ	10YR3/2(黒褐)	2.5Y6/2(灰黄)	○	○			○		○4mm以下	スス付着・外面風化剥離多い
64	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○				○		○4mm以下	
65	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文・刺突文	貝殻条痕文	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○					○3mm以下	
66	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○		○4mm以下	
67	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○					○4mm以下	
68	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○4mm以下	
69	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR4/3(褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○		○4mm以下	
70	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文	5Y5/3(灰オリーブ)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○2mm以下	
71	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○		○2mm以下	
72	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○3mm以下	
73	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)			○				○3mm以下	
74	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文	5YR3/2(暗赤褐)	2.5YR4/4(にぶい赤褐)	○	○					○4mm以下	
75	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	貝殻条痕文	10YR4/2(灰黄)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○3mm以下	
76		鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○4mm以下	
77	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR4/1(褐灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○2mm以下	
78	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○6mm以下	
79	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文(キザミ有り)	貝殻条痕文	7.5YR4/1(褐灰)	2.5Y4/1(黄灰)	○						○2mm以下	
80	Ⅲ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○2mm以下	
81	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○		○2mm以下	
82	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい黄褐)	○	○					○4mm以下	
83	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○		○5mm以下	
84	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文・沈線文	貝殻条痕文	7.5YR4/3(褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○			○		○3mm以下	
85	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○		○5mm以下	
86	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	
87	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文	2.5Y4/1(黄灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	
88	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○4mm以下	
89	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○2mm以下	
90	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○		○5mm以下	
91	Ⅲ層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・隆起帯文	貝殻条痕文	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○		○3mm以下	
92	Ⅲ層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	口唇部にキザミを施している
93	Ⅲ層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR3/1(黒褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	口唇部にキザミを施している
94	Ⅲ層	鉢	口縁~胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○8mm以下	口唇部にキザミを施している
95	Ⅲ層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	口唇部にキザミを施している
96	Ⅲ層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	口唇部にキザミを施している
97	Ⅲ層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○		○1mm以下	口唇部にキザミを施している
98	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	スス付着
99	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○		○1mm以下	
100	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○		○			○1mm以下	
101	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	
102	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○		○1mm以下	
103	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○		○	○		○1mm以下	
104	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○		○			○1mm以下	
105		鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○		○1mm以下	
106	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/3(灰黄褐)	○	○			○		○1mm以下	
107	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○1mm以下	
108	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	
109	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○					○1mm以下	
110	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○					○1mm以下	スス付着
111	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○1mm以下	
112	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR3/1(黒褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○		○1mm以下	
113	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○					○1mm以下	
114	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	刺突文・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○6mm以下	口唇部にキザミを施している
115	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	刺突文・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○3mm以下	口唇部にキザミを施している
116	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	刺突文・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	口唇部にキザミを施している

No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土							備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	滑石	砂粒	
117	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	刺突文・ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)						○	○4mm以下	口唇部にキザミを施している
118		深鉢	口縁	刺突文・沈線文	刺突文・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○4mm以下	口唇部にキザミを施している
119	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文・沈線文	刺突文・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)						○	○4mm以下	口唇部にキザミを施している
120	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文・沈線文	刺突文・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○					○	○4mm以下	
121	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文	刺突文・ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	2.5YR4/4(にぶい赤褐)						○	○4mm以下	口唇部にキザミを施している
122	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文	刺突文・ナデ	5YR4/2(灰褐)	2.5YR4/3(にぶい赤褐)						○	○3mm以下	口唇部にキザミを施している
123	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	刺突文・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	口唇部にキザミを施している
124	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文・ナデ	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)						○	○5mm以下	口唇部にキザミを施している
125	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文・ナデ	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○6mm以下	口唇部にキザミを施している
126	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)						○	○3mm以下	口唇部にキザミを施している
127	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文・沈線文・ナデ	ナデ	5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○4mm以下	口唇部にキザミを施している
128	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文	刺突文	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	
129	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文	刺突文・ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○4mm以下	口唇部にキザミを施している
130	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文	刺突文・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)			○			○	○3mm以下	口唇部にキザミを施している
131		深鉢	口縁	刺突文	刺突文・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	口唇部にキザミを施している
132	Ⅲ層	深鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○5mm以下	口唇部に刺突文を施している
133	Ⅲ層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○					○	○3mm以下	口唇部に刺突文を施している
134	Ⅲ層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○					○	○3mm以下	口唇部に刺突文を施している
135	Ⅲ層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○				○	○	○4mm以下	口唇部に刺突文を施している
136	Ⅲ層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	
137	Ⅴ層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○					○	○3mm以下	口唇部にキザミを施している
138	Ⅲ層	鉢	口縁	沈線文・ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○4mm以下	口唇部にキザミを施している
139	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文	刺突文・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	口唇部が破損している
140	Ⅲ層	鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○	○3mm以下	
141	Ⅲ層	鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	
142	Ⅲ層	鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	
143	Ⅲ層	鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○3mm以下	
144	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	口唇部が破損している
145	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ	7.5YR4/1(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○1mm以下	口唇部が破損している・スス付着
146	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	口唇部が破損している
147	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	口唇部が破損している
148	Ⅲ層	鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	2.5YR5/4(灰褐)	○					○	○1mm以下	口唇部が破損している
149	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○3mm以下	
150		鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	
151	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)		○		○		○	○2mm以下	
152	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)		○		○		○	○2mm以下	
153	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)		○		○		○	○2mm以下	
154	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○	○	○2mm以下	
155	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○		○		○	○2mm以下	
156		深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR6/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	
157		深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○			○		○	○1mm以下	
158	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○	○2mm以下	
159	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○		○		○	○2mm以下	
160	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	
161		深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	
162		深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○1mm以下	
163	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○1mm以下	スス付着
164	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	
165	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	
166	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○4mm以下	
167	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○3mm以下	
168	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○3mm以下	
169	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	
170	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	
171	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	
172	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	
173	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○					○	○2mm以下	
174	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○1mm以下	

No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土							備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	滑石	砂粒	
175	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○4mm以下	
176	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	
177	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○	○2mm以下	
178	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○3mm以下	
179	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)		○		○		○	○2mm以下	
180	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	
181	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○1mm以下	
182	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○1mm以下	
183	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○2mm以下	
184	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)						○	○1mm以下	
185	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○			○	○	○2mm以下	
186	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○				○	○1mm以下	
187	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○				○	○2mm以下	
188	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○	○1mm以下	
189	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○	○1mm以下	
190	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○					○	○1mm以下	
191		深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○1mm以下	
192		深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○1mm以下	
193	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)						○	○1mm以下	
194		深鉢	胴部	沈線文	オサエ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/3(褐)						○	○2mm以下	
195	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○					○	○2mm以下	
196	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)		○				○	○1mm以下	
197	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)				○		○	○1mm以下	
198	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	
199	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR6/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	
200	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○2mm以下	
201		深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR6/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)						○	○1mm以下	
202	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)						○	○3mm以下	
203		深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)		○				○	○1mm以下	
204		深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)		○				○	○1mm以下	
205	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)						○	○1mm以下	
206	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)						○	○3mm以下	
207	Ⅲ層	深鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)						○	○1mm以下	
208	Ⅲ層	深鉢	口縁~胴部	刺突文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR3/1(黒褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○	○			○		○2mm以下	
209	Ⅲ層	深鉢	口縁~胴部	刺突文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR3/1(黒褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○		○		○		○3mm以下	
210	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○			○		○1mm以下	
211	Ⅲ層	深鉢	口縁~胴部	沈線文・隆起帯文(キザミ有り)・ナデ	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○		○4mm以下	口唇部にキザミを施している
212	Ⅲ層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○		○3mm以下	口唇部にキザミを施している
213	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○		○3mm以下	口唇部にキザミを施している
214	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○		○			○2mm以下	口唇部にキザミを施している
215	Ⅲ層	深鉢	口縁~胴部	刺突文・沈線文	ナデ・刺突文	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○					○7mm以下	口唇部に刺突文を施している
216	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○4mm以下	口唇部に刺突文を施している
217	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ・沈線文	10YR4/2(灰黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○			○		○1mm以下	口唇部にキザミを施している
218	Ⅲ層	深鉢	口縁~胴部	刺突文・沈線文	ナデ・刺突文	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○		○6mm以下	口唇部に刺突文を施している
219	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	沈線文	2.5YR4/1(黄灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○2mm以下	口唇部に刺突文を施している
220	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ・刺突文	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○		○	○		○3mm以下	口唇部に刺突文を施している
221	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○					○1mm以下	口唇部に刺突文を施している
222	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ・刺突文	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○					○2mm以下	
223		深鉢	口縁	刺突文	ナデ・刺突文	10YR4/2(灰黄褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○					○3mm以下	口唇部に刺突文を施している
224		深鉢	口縁	刺突文・沈線文	ナデ・刺突文	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○						○2mm以下	口唇部に刺突文を施している
225		深鉢	口縁	刺突文	沈線文	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)		○			○		○1mm以下	口唇部にキザミを施している
226	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文	ナデ・沈線文	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○		○2mm以下	口唇部に刺突文を施している
227		深鉢	口縁~胴部	刺突文・沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○			○		○4mm以下	口唇部にキザミを施している
228	Ⅲ層	深鉢	口縁~胴部	刺突文・沈線文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○2mm以下	口唇部にキザミを施している
229	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文	ナデ・刺突文	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○			○		○3mm以下	口唇部にキザミを施している
230	Ⅲ層	深鉢	口縁	刺突文	ナデ・刺突文	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○2mm以下	口唇部に刺突文を施している
231	Ⅲ層	深鉢	口縁	沈線文・隆起帯文・ナデ	貝殻条痕文	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○					○2mm以下	口唇部にキザミを施している
232		深鉢	口縁	沈線文	ナデ	10YR3/1(黒褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○		○3mm以下	

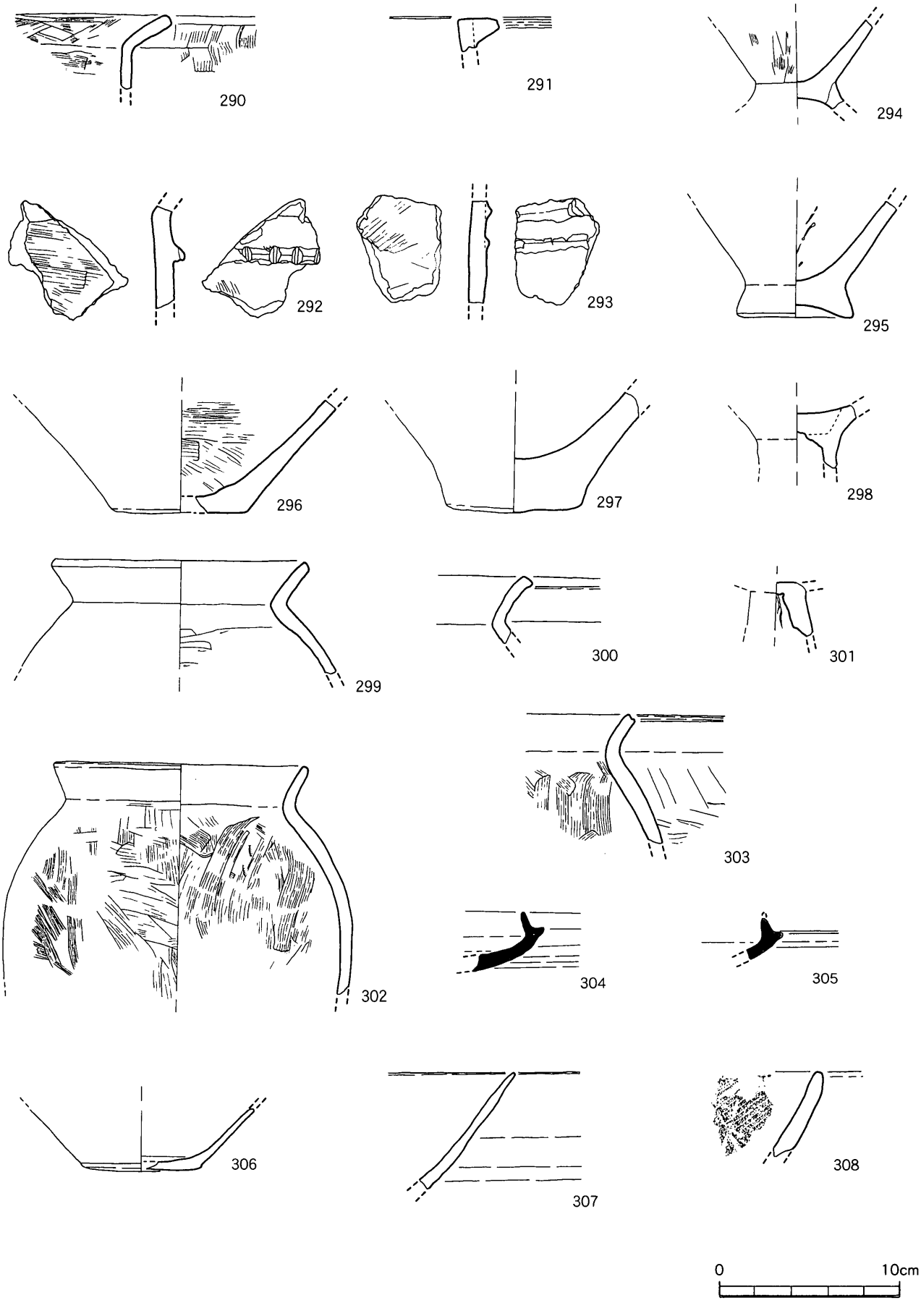
No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土							備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	滑石	砂粒	
233		深鉢	口縁	沈線文	ナデ	10YR3/1(黒褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○		○6mm以下	
234	Ⅲ層	深鉢	口縁	沈線文・刺突文	ナデ	2.5YR4/1(黄灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○5mm以下	口唇部・・・刺突文
235	Ⅲ層	深鉢	口縁~胴	連続刻目・沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○					○4mm以下	口唇部・・・連続刻目
236	Ⅲ層	深鉢	口縁	連続刻目・沈線文	沈線文	7.5YR4/3(褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○		○2mm以下	口唇部・・・連続刻目
237	Ⅲ層	深鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)		○	○				○3mm以下	
238	Ⅲ層	深鉢	口縁	連続刻目・沈線文	沈線文	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○					○6mm以下	口唇部・・・連続刻目
239	Ⅲ層	深鉢	口縁	沈線文	沈線文	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○			○		○6mm以下	
240	Ⅲ層	深鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○		○	○		○2mm以下	
241	Ⅲ層	鉢	胴部	刺突文・沈線文	刺突文・ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○					○1mm以下	
242	Ⅲ層	鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○		○2mm以下	スス付着
243	Ⅲ層	鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○1mm以下	スス付着
244	Ⅲ層	鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○				○		○1mm以下	スス付着
245	Ⅲ層	鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○1mm以下	
246		鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○		○2mm以下	
247	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	条痕文	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)		○			○		○2mm以下	
248		鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○					○1mm以下	
249	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR3/1(黒褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○					○1mm以下	スス付着
250	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○		○1mm以下	
251		鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR6/3(にぶい黄橙)		○					○1mm以下	スス付着
252	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○					○1mm以下	
253	Ⅲ層	鉢	底部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)		○			○		○1mm以下	
254	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○			○		○3mm以下	
255	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○				○		○1mm以下	
256	Ⅲ層	鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○			○		○2mm以下	スス付着
257	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	10YR6/3(にぶい黄橙)		○			○		○1mm以下	
258		鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○		○1mm以下	
259	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR7/2(明褐灰)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○			○		○1mm以下	
260	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	5YR7/2(明褐灰)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○				○		○1mm以下	
261	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/4(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○		○1mm以下	
262		鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○1mm以下	スス付着
263	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○		○1mm以下	スス付着
264	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○1mm以下	
265		鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○1mm以下	
266	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○		○2mm以下	スス付着
267	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○		○2mm以下	スス付着
268	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)		○			○		○1mm以下	スス付着
269		鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○					○1mm以下	
270	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○					○3mm以下	
271		鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○		○			○1mm以下	
272	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	
273	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○					○1mm以下	
274	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○		○1mm以下	スス付着
275	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y4/2(暗灰黄)	10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○					○3mm以下	
276	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○		○2mm以下	
277	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○1mm以下	スス付着
278	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○					○1mm以下	
279	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR4/3(にぶい黄褐)	○	○					○3mm以下	
280	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○		○2mm以下	
281	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○					○2mm以下	
282	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	条痕文	10YR3/1(黒褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○		○2mm以下	
283	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○					○1mm以下	
284	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○					○1mm以下	
285	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR3/1(黒褐)	7.5YR6/3(にぶい褐)	○	○					○1mm以下	スス付着
286	Ⅲ層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○					○1mm以下	
287	Ⅲ層	鉢	胴部	縄文・沈線文・みがき	ナデ・みがき	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰褐)	○	○					○4mm以下	
288		鉢	口縁	刺突文(列点)・刺突文・貝殻条痕文	貝殻条痕⇒ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○			○		○3mm以下	刺突文は未貫通
289		鉢	口縁	刺突文(列点)・刺突文・ナデ	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○					○4mm以下	刺突文は未貫通

2. 弥生時代以降の土器

290～298は弥生時代中期後半～後期に属する土器である。290～295は甕である。290は逆「L」字状を呈する口縁部である。外面調整はハケメ後ナデ、内面調整はハケメである。291は山ノ口式土器の口縁部と思われる。口唇部がわずかにくぼむ。調整は内外面ともにナデである。292は中溝式土器の胴部片である。胴部には突帯を貼り付け、その後ヘラ状工具による刻目を施している。調整は内外面とも頸部がナデ、胴部がハケメである。293は２条の突帯を貼り付けた胴部片である。外面調整はナデ、内面調整はハケメである。294･295は脚台付の底部片である。294の調整は外面がハケメ、内面がナデである。295の調整は外面がナデ・ヨコナデ、内面がケズリである。296・297は壺の底部片で、いずれも平底である。296の調整は外面がナデ、内面がハケメである。297の調整は内外面ともにナデである。298は高坏の脚部片である。断面の状況から円盤充填した様子を観察することができる。調整は内外面ともにナデである。299～301は古墳時代前期に属すると思われる土器である。299は布留式土器を模倣した甕の口縁部片と思われる。布留式土器同様、内面にはケズリを施しているが、器壁は厚い。外面調整も明瞭なハケメを観察することはできない。300は小型壺の口縁部と思われる。調整は内外面ともナデである。301は高坏の脚部である。外面調整はナデ、内面調整はしぼり後ケズリを施している。302～305は古墳時代後期に属すると思われる土器である。302･303は甕である。やや、長胴化の傾向が見られる。調整は内外面とも口縁部がナデ、胴部がハケメである。304･305は須恵器の杯身である。口縁部が短く、やや内傾して立ち上がり、端部は丸くおさめる。受部はほぼ水平につき、断面は三角形である。調整は、底部外面が回転ヘラケズリ、その他の部位は回転ナデである。時期はＴＫ43～209頃と思われる。306～308は古代に属する土器である。306・307は杯である。306は底部片である。調整は内外面ともにナデで、底部は回転ヘラ切りによる切り離し後ナデである。307は口縁部片である。調整は内外面ともナデである。308は布痕土器の口縁部片である。

第11表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器（弥生時代以降）観察表

遺物No	出土層位	器種	残存部位	文様及び調整		色調		法量(cm)			備考	遺物整理No
				外面	内面	外面	内面	口径	底径	器高		
290	Ⅲ層	弥生土器甕	口縁	ハケの後ナデ	ハケメ	10YR5/4 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙					656
291	Ⅲ層	弥生土器甕	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5YR5/6 明赤褐					654
292	Ⅲ層	弥生土器甕	頸部～胴部	刻目突帯･ナデ･ハケメ	ハケメ･ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐				中溝式･外面にスス付着	653
293	Ⅲ層	弥生土器甕	胴部	貼付突帯･ナデ	ハケメ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐					660
294	Ⅲ層	弥生土器甕	底部	ナデ	ハケメ	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR3/1 黒褐				反転復元	661
295	Ⅲ層	弥生土器甕	底部	ナデ･ヨコナデ	ケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/1 褐灰		5.8		反転復元	659
296	Ⅲ層	弥生土器壺	底部	ナデ	ハケメ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰		6.6		底部に黒斑･反転復元	657
297	Ⅲ層	弥生土器壺	底部	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐		7.4			655
298	Ⅲ層	弥生土器高坏	脚部	ナデ	ナデ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/2 暗灰黄				円盤充填	669
299	Ⅲ層	土師器甕	口縁	ナデ	ナデ･ヘラケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	13.5			布留系?･外面にスス付着･反転復元	650
300	Ⅲ層	土師器壺	口縁～頸部	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐					667
301	Ⅲ層	土師器高坏	脚部	ナデ	シボリ後ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR3/2 黒褐					651
302	Ⅲ層	土師器甕	口縁～胴部	ヨコナデ･ハケメ	ヨコナデ･ハケメ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙				外面にスス付着･反転復元	668
303	Ⅲ層	土師器甕	口縁	ハケの後ナデ	ハケメ･ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙				外面にスス付着	658
304	Ⅲ層	須恵器杯身	口縁～底部	回転ナデ･回転ヘラケズリ	回転ナデ	7.5YR5/1 灰色	10YR6/1 褐灰色				TK43～209	673
305	Ⅲ層	須恵器杯身	受部	回転ナデ･回転ヘラケズリ	回転ナデ	5Y5/1 灰	10Y4/1 灰				TK43～209	666
306	Ⅲ層	土師器杯	胴部～底部	ナデ･回転ヘラ切り	ナデ	10YR7/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい橙		3.2			663
307	Ⅲ層	土師器杯	口縁～胴部	ナデ	ナデ	2.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙					662
308	Ⅲ層	土師器鉢	口縁	ナデ	布痕	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐					665



第55図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器（弥生時代以降）実測図（S=1/3）

3. 石器

アカホヤ火山灰層上位遺物包含層からは総数652点の石器が出土した。なお、主要な石器の出土は調査区の南半部に偏在しているという様子がうかがえた。

石鏃（309～334）

総数33点が出土している。抉りのない又は浅いⅠ類（309～319）と抉りの深いⅡ類（320～334）に分類した。また図示していないが頁岩製で刃縁が鋸歯状を呈する局部磨製石鏃が１点出土している。

石錐（335）

２点が出土しており、いずれも姫島産黒曜石製である。335は錐部を欠損するが、つまみ状の頭部を持ち長い錐部を持つものである。もう一点は分厚い不定形剥片の一端に加工を施し短い錐部を作り出したものである。

石匙（336～361）

総数33点が出土している。素材剥片の形状を大きく残してあるものもあり、スクレイパーとの区別しがたいものもあるがつまみ部分を持つものを石匙として取上げた。さらに以下の４つに分類することができた。

Ⅰ類：横型でつまみ部分が小さくの抉りが深いもの（336～344・347・349）。全部で14点出土している。

Ⅱ類：横型でつまみ部分の抉りが浅く、つまみ部分と体部の境が不明瞭なもの（345・346・348）。

Ⅲ類：横型でつまみ部分が体部の半分以上あり、抉りの深いもの（350～352）。

Ⅳ類：縦型のもの（353～361）。13点出土している。

スクレイパー（362～366）

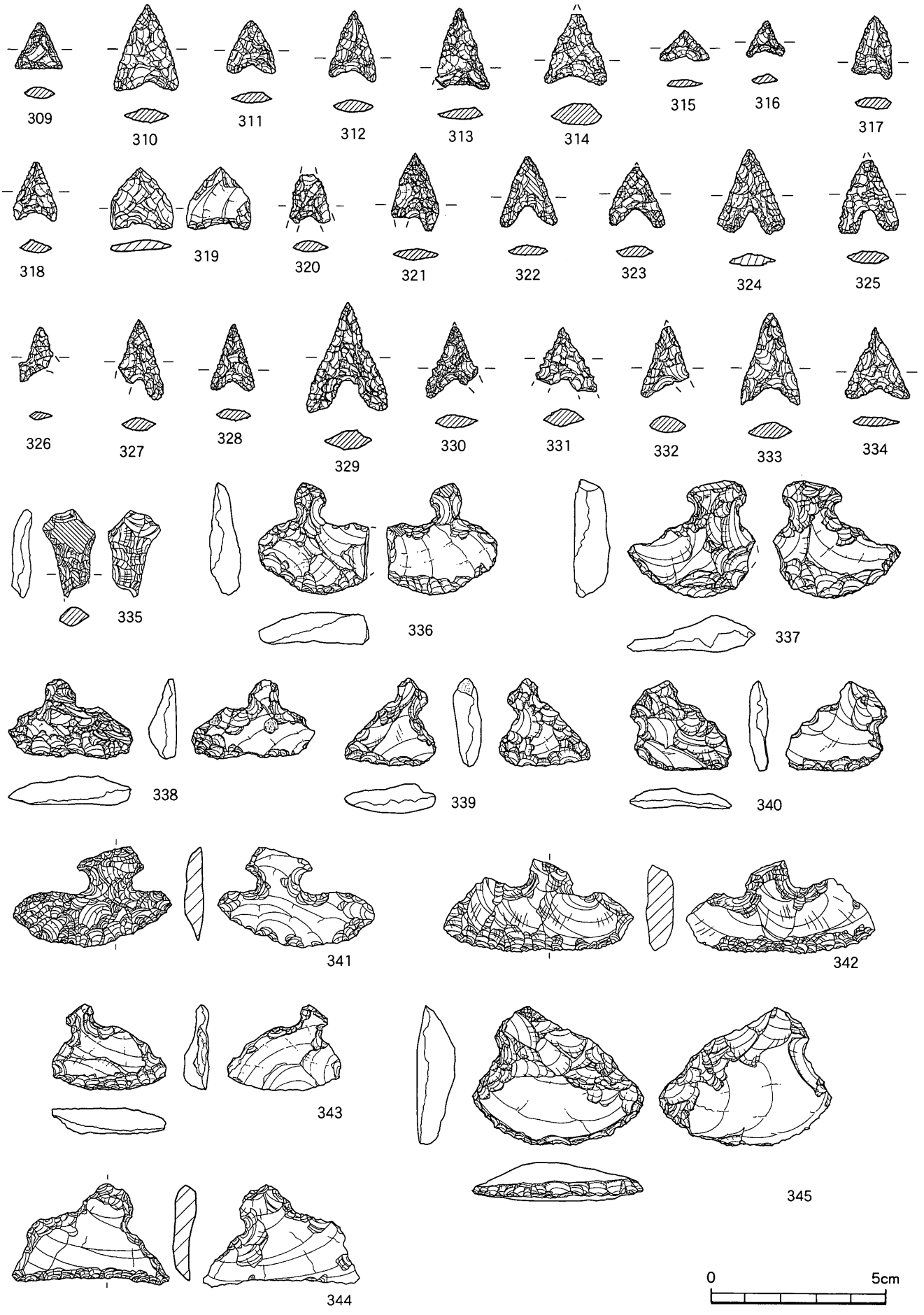
総数で16点出土している。欠損品も有り、一部には石匙の破片も混じっている可能性が考えられる。

第12表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器計測分類表①

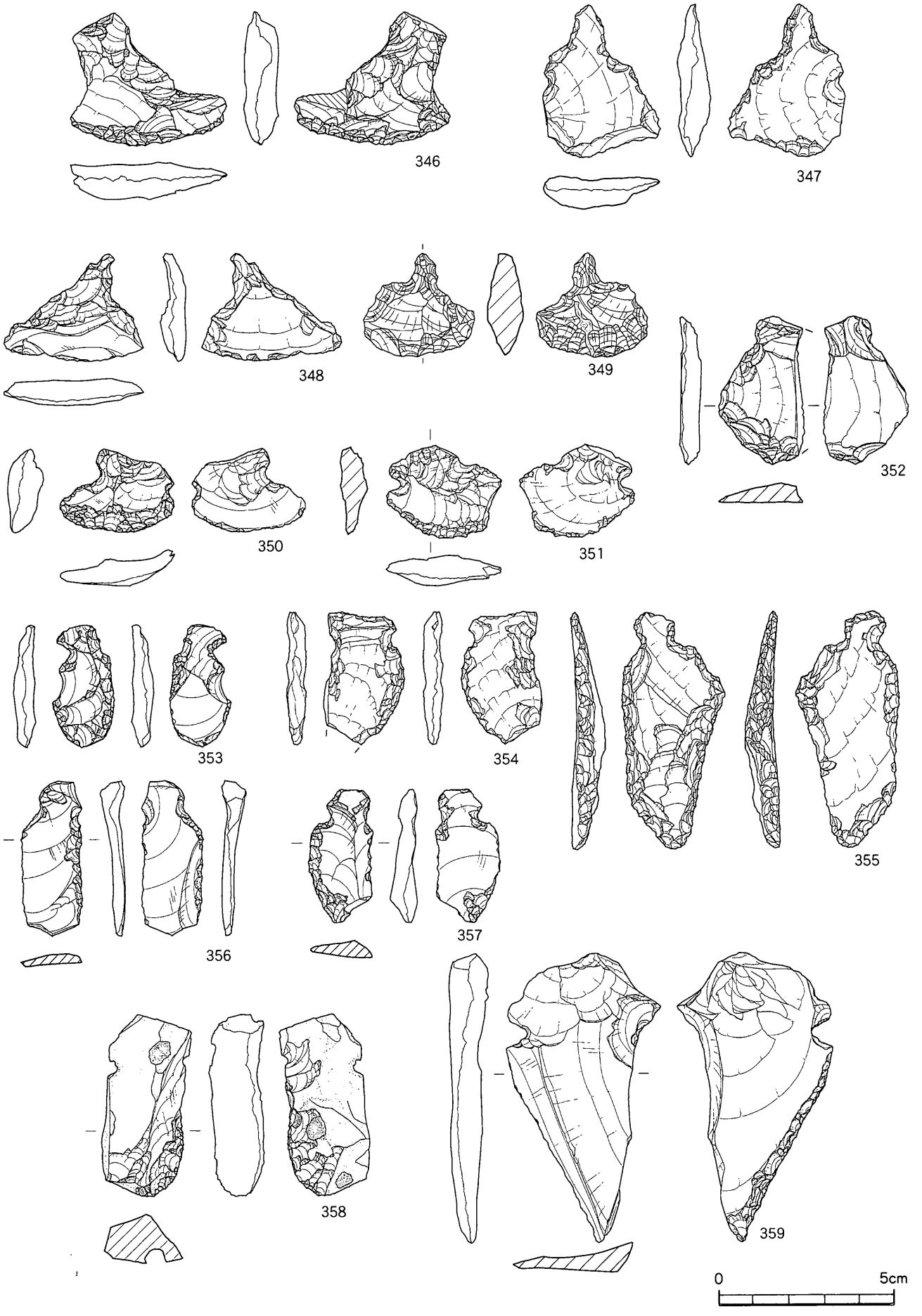
遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
309	9	打製石鏃	－	Ⅲ	チャート	1.30	1.35	0.30	0.40	Ⅰ類
310	42	打製石鏃	E9	Ⅲ	チャート	2.40	1.80	0.40	1.40	Ⅰ類
311	45	打製石鏃	－	Ⅲ	流紋岩	1.50	1.40	0.35	0.50	Ⅰ類
312	38	打製石鏃	F8	－	流紋岩	2.00	1.35	0.30	0.50	Ⅰ類
313	155	打製石鏃	F10	Ⅲ	流紋岩	2.30	(1.55)	0.35	(0.90)	Ⅰ類　脚部欠損
314	41	打製石鏃	F8	Ⅲ	流紋岩	(2.10)	1.80	0.60	(1.60)	Ⅰ類　先端部欠損
315	10	打製石鏃	－	Ⅲ	黒曜石(姫島)	0.90	1.40	0.20	0.20	Ⅰ類
316	44	打製石鏃	－	Ⅲ	黒曜石(姫島)	1.05	1.10	0.30	0.20	Ⅰ類
317	46	打製石鏃	－	Ⅲ	安山岩	1.80	1.10	0.30	0.50	Ⅰ類
318	156	打製石鏃	F11	Ⅲ	安山岩	1.65	1.30	0.40	0.50	Ⅰ類
319	722	打製石鏃	－	Ⅲ	サヌカイト	1.70	1.80	0.30	0.70	Ⅰ類
320	151	打製石鏃	B10	Ⅲ	チャート	(1.40)	(1.25)	0.30	(0.40)	Ⅱ類　先端部・脚部欠損
321	153	打製石鏃	E11	Ⅲ	チャート	2.20	(1.35)	0.30	(0.70)	Ⅱ類　脚部欠損
322	32	打製石鏃	E8	－	流紋岩	2.00	1.60	0.30	0.60	Ⅱ類
323	37	打製石鏃	F8	－	頁岩	(1.70)	1.60	0.30	(0.50)	Ⅱ類　先端部欠損
324	152	打製石鏃	D8	Ⅲ	頁岩	2.40	1.95	0.45	1.00	Ⅱ類
325	34	打製石鏃	E10	－	頁岩	(2.10)	1.70	0.40	(0.90)	Ⅱ類　先端部欠損
326	154	打製石鏃	E12	Ⅲ	黒曜石(姫島)	1.55	(0.95)	0.25	(0.2)	Ⅱ類　脚部欠損
327	40	打製石鏃	E8	Ⅲ	黒曜石(針尾)	2.30	(1.30)	0.40	(0.60)	Ⅱ類　脚部欠損
328	8	打製石鏃	－	Ⅲ	黒曜石(針尾)	1.90	1.30	0.35	0.50	Ⅱ類
329	47	打製石鏃	－	Ⅲ	黒曜石(針尾)	3.10	2.35	0.55	2.00	Ⅱ類
330	7	打製石鏃	F11	Ⅲ	黒曜石(針尾)	(2.00)	(1.50)	0.35	(0.50)	Ⅱ類　先端部・脚部欠損
331	39	打製石鏃	E	Ⅲ	黒曜石(姫島)	(1.80)	(1.75)	0.50	(0.80)	Ⅱ類　脚部欠損
332	31	打製石鏃	E8	－	黒曜石(姫島)	(2.05)	(1.35)	0.45	(0.75)	Ⅱ類　先端部・脚部欠損

（　）の値は残存値を示す

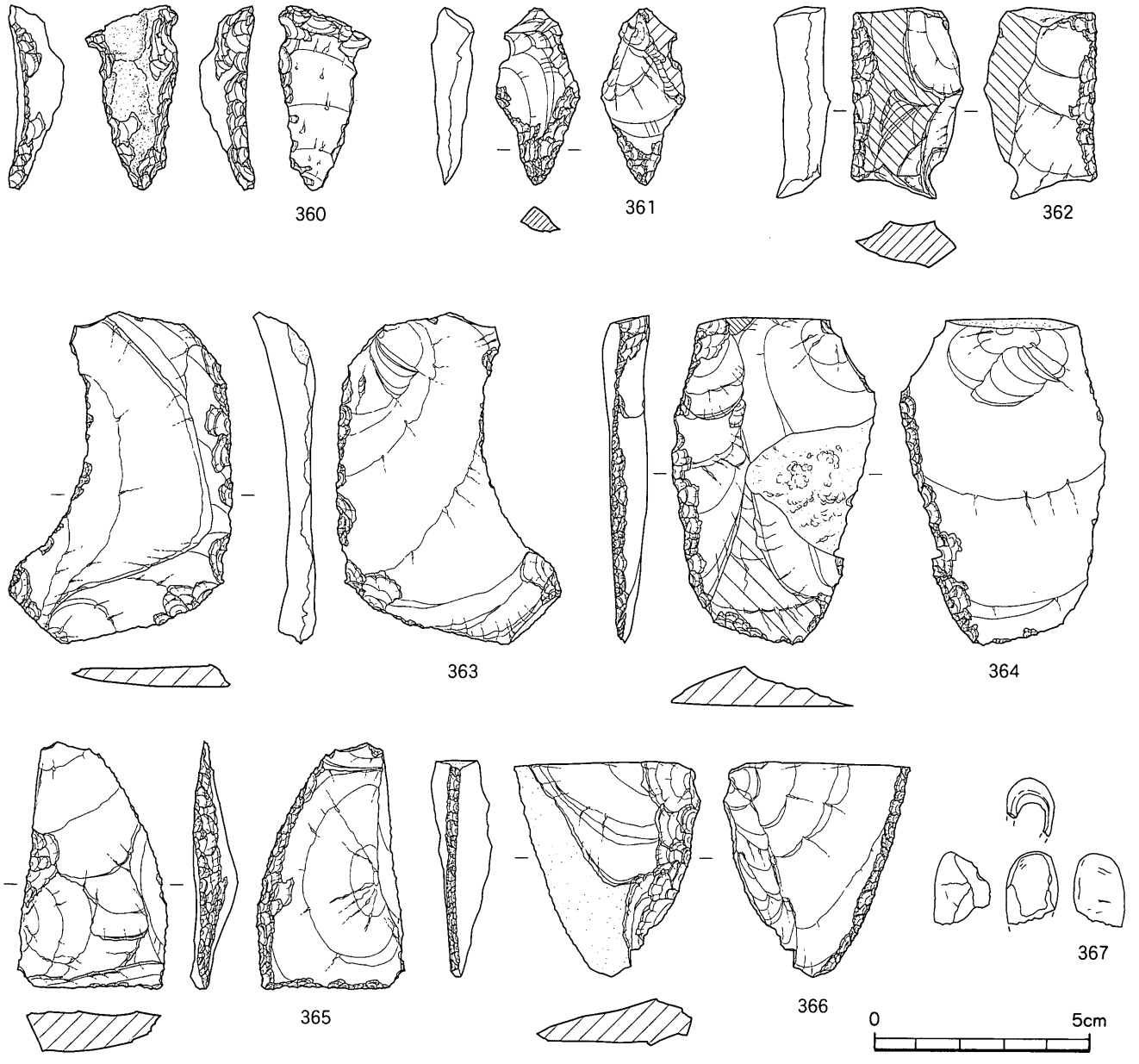
第56図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土主要石器（器種別）分布図（S=1/1200）



第57図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図①（S=2/3）



第58図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図②（S=2/3）



第59図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図③（S=2/3）

装身具？（367）

１点が出土している。滑石製で大部分を欠損しているため全体の形状は不明であるが、端部を斜めに整える管状の形態を推定させる。

姫島産黒曜石製石核（370）

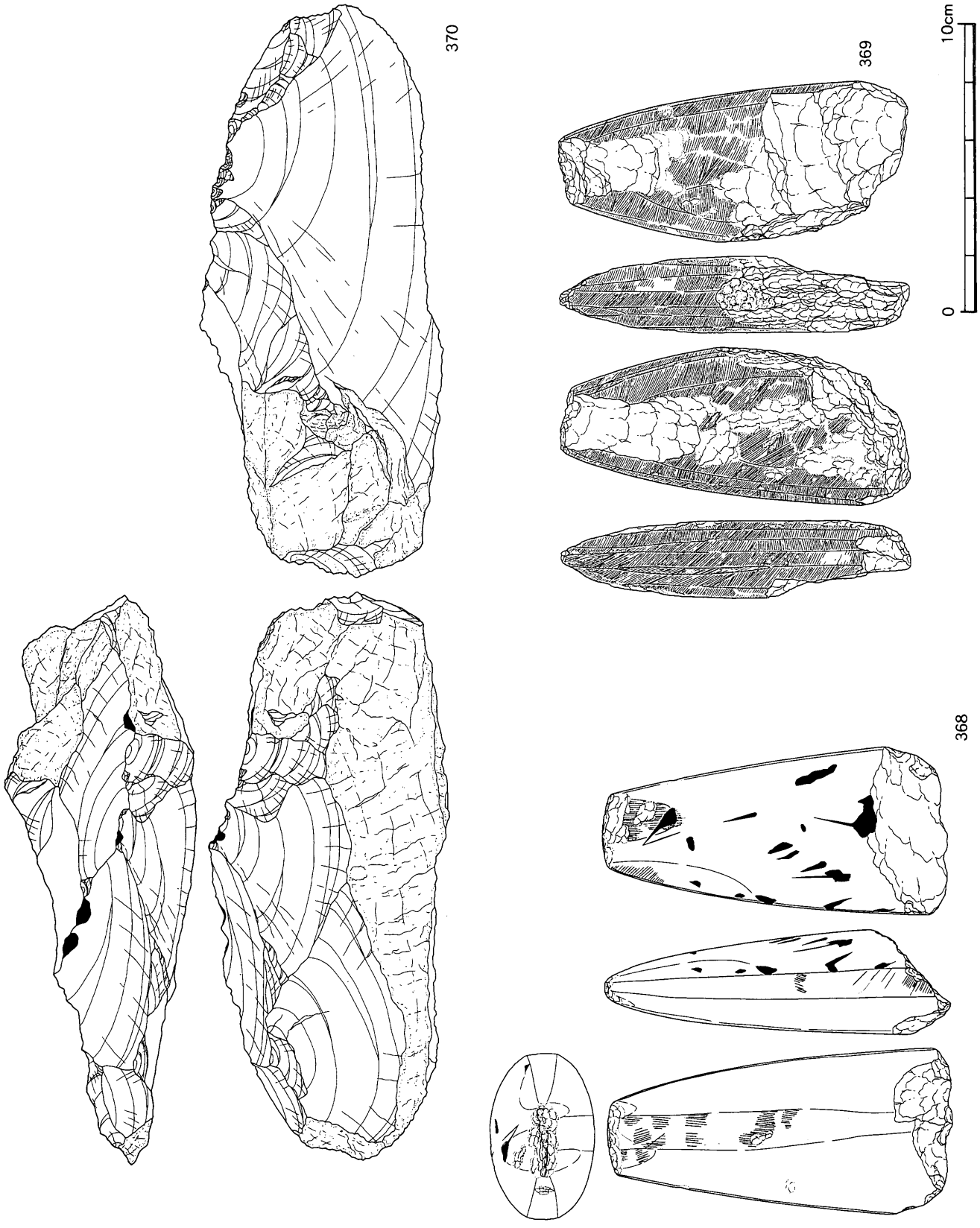
同石材の石器はアカホヤ火山灰層上位にて石核６点を含む総数72点が確認されている。その中で最も大型のものである。重量は825ｇを量り、県内では隣接する滑川第2遺跡の縄文早期遺物包含層から出土した石核に次ぐ規模をもつものである。

磨製石斧（368・369・371～373）

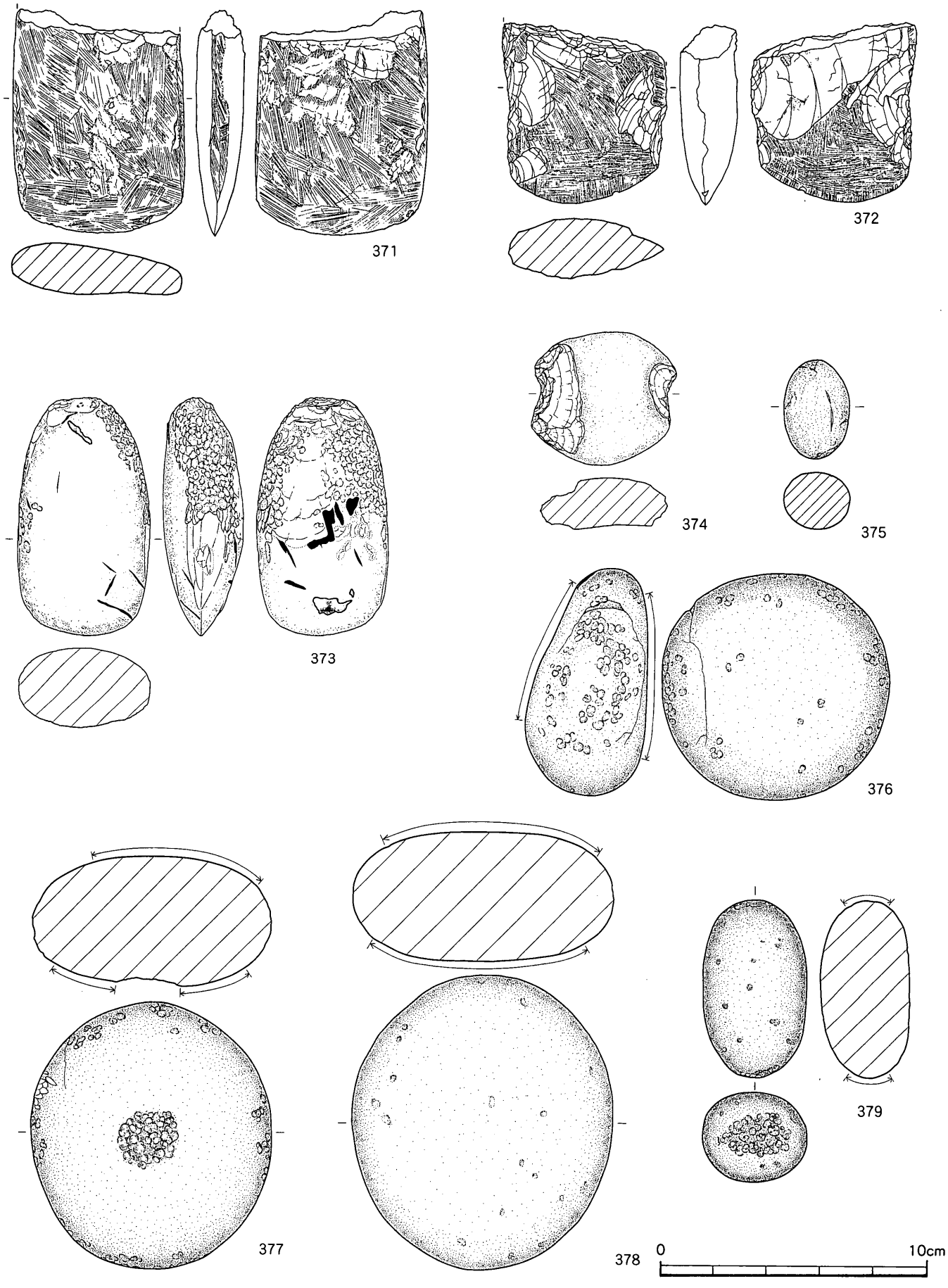
総数で６点が出土している。368・369は定角式磨製石斧の欠損品である。刃部を欠損した後に敲石として使用しており、基部及び側面などに敲打痕が認められる。371･372は蛇紋岩製の石斧でいずれも刃部の破片である。本遺跡では蛇紋岩製の石器はこの2点以外に出土していない。373はホルンフェルス製で側面及び裏面では敲打痕が広く確認されている。また刃部のみの破片であるが同石材の小型品がもう１点確認されている。

石錘（374）

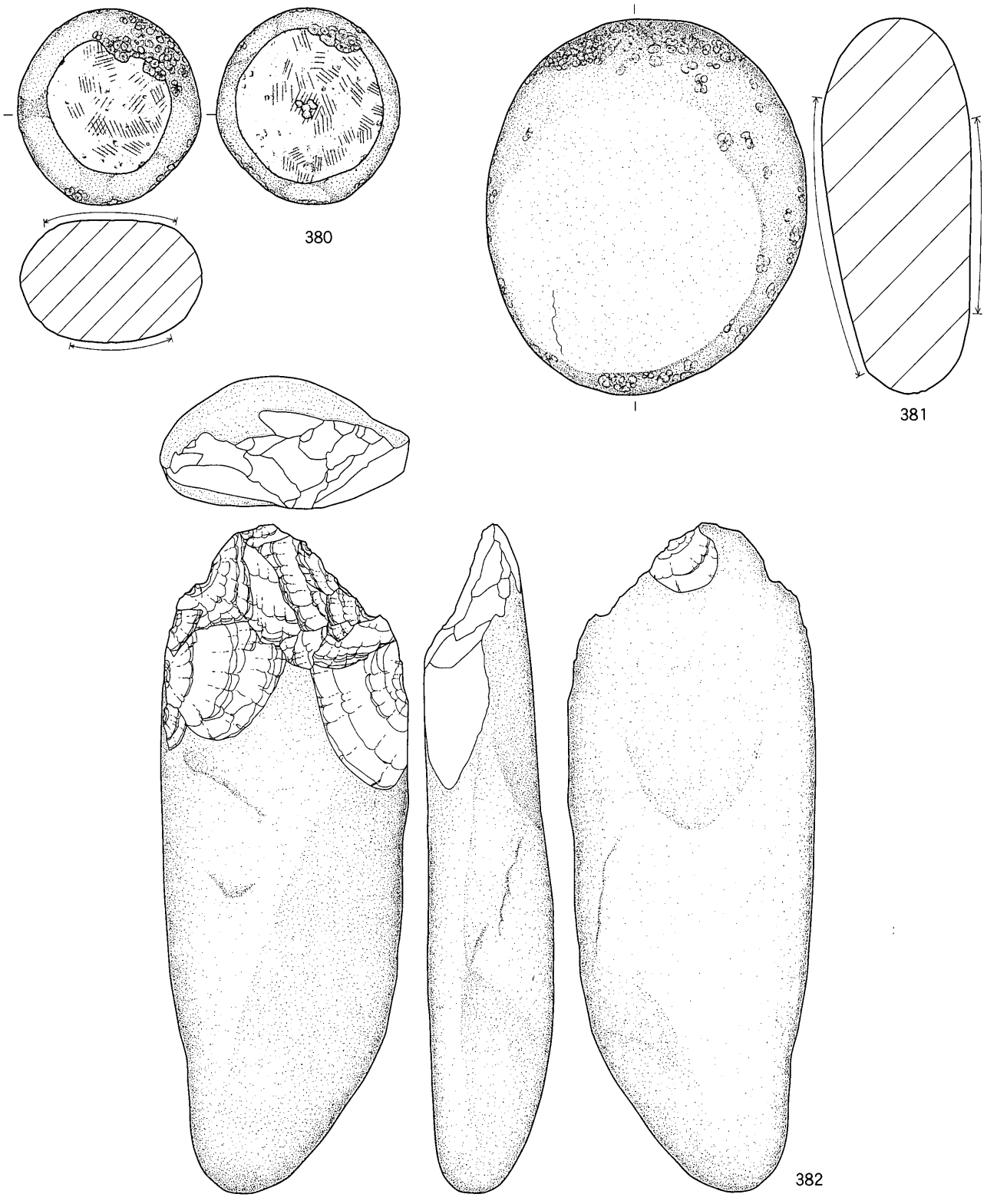
砂岩製で両端を数回の加撃により抉りを作った打ち欠き型の石錘である。１点のみ出土している。



第60図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図④（S=1/2）



第61図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図⑤（S=1/2）



第62図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図⑥（S=1/2）

敲石・磨石・石皿（375～381・写真図版38の下段）

総数で敲石は８点、磨石は30点、石皿は12点が出土している。敲石・石皿は全て砂岩製である。磨石も砂岩製のものが一番多く、尾鈴山酸性岩のものが次ぐ。磨石とも敲石とも使用したもの（377）も見られる。

礫器（382）

１点のみの出土である。大型の楕円形を呈する砂岩礫の一端に打撃を加え片刃の刃部を作り出している。

第13表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器計測分類表②

遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
333	33	打製石鏃	E8	－	安山岩	2.60	1.70	0.45	1.10	Ⅱ類
334	49	打製石鏃	－	－	玉髄	2.10	1.85	0.30	0.70	Ⅱ類
335	718	石錐	E8	Ⅲ	黒曜石(姫島)	(2.45)	1.50	(0.50)	(1.30)	錐部欠損
336	17	石匙	F10	Ⅲ	チャート	3.15	(3.15)	0.90	(6.60)	Ⅰ類　刃部欠損
337	65	石匙	－	－	チャート	3.35	(3.60)	1.00	(8.71)	Ⅰ類　刃部欠損
338	55	石匙	D10	－	黒曜石(桑ノ木津留)	2.30	3.45	0.80	4.34	Ⅰ類
339	63	石匙	－	Ⅲ	黒曜石(姫島)	2.50	2.60	0.80	3.27	Ⅰ類
340	59	石匙	E9	－	黒曜石(姫島)	2.55	2.85	0.50	2.93	Ⅰ類
341	162	石匙	－	Ⅲ	チャート	2.80	4.50	0.55	5.20	Ⅰ類
342	161	石匙	F9	－	黒曜石(姫島)	2.60	5.40	0.80	8.40	Ⅰ類
343	15	石匙	F10	Ⅲ	玉髄	2.45	3.25	0.75	4.30	Ⅰ類
344	160	石匙	F9	Ⅲ	玉髄	2.90	4.50	0.80	5.20	Ⅰ類
345	57	石匙	E8	Ⅲ	チャート	3.90	4.90	1.10	18.40	Ⅱ類
346	64	石匙	－	Ⅲ	チャート	3.70	4.40	1.00	11.82	Ⅱ類
347	11	石匙	B11	Ⅲ	チャート	4.40	3.35	0.90	8.80	Ⅱ類
348	54	石匙	B11	Ⅲ	頁岩	3.00	3.90	0.70	6.08	Ⅱ類
349	163	石匙	F10	Ⅲ	黒曜石(姫島)	2.80	3.20	1.00	5.10	Ⅱ類
350	12	石匙	C11	Ⅲ	チャート	2.35	3.20	1.00	4.70	Ⅲ類
351	14	石匙	F8	Ⅲ	チャート	2.55	3.30	0.85	5.40	Ⅲ類
352	56	石匙	E8	Ⅲ	安山岩	4.20	2.40	0.65	5.85	Ⅲ類　右半部欠損
353	62	石匙	－	Ⅲ	チャート	3.55	1.75	0.65	3.57	Ⅳ類
354	13	石匙	E13	Ⅲ	チャート	(3.70)	(2.30)	0.50	(5.20)	Ⅳ類　刃部欠損
355	60	石匙	E10	Ⅲ	チャート	6.60	2.90	0.90	14.10	Ⅳ類
356	61	石匙	－	Ⅲ	頁岩	4.45	1.80	0.70	3.82	Ⅳ類
357	66	石匙	－	－	黒曜石(針尾)	3.70	1.80	0.80	3.50	Ⅳ類
358	58	石匙	E8	－	黒曜石(腰岳)	5.10	2.50	1.40	17.66	Ⅳ類
359	16	石匙	F10	Ⅲ	安山岩	8.20	4.40	1.15	24.14	Ⅳ類
360	69	石匙	－	Ⅲ	黒曜石(腰岳)	4.20	2.10	1.30	6.35	Ⅳ類
361	67	石匙	－	Ⅲ	黒曜石(姫島)	4.00	1.90	0.90	5.10	Ⅳ類
362	20	スクレイパー	E12	Ⅲ	頁岩	4.30	2.60	1.20	14.00	
363	18	スクレイパー	C14	Ⅲ	流紋岩	7.60	5.20	1.00	26.40	
364	21	スクレイパー	F10	Ⅲ	頁岩	7.50	4.70	1.00	33.30	
365	19	スクレイパー	E8	Ⅲ	安山岩	5.70	3.50	1.00	7.40	
366	68	スクレイパー	－	Ⅲ	ホルンフェルス	4.90	4.30	1.30	25.00	
367	1	装身具?	E9	－	滑石	(1.60)	(1.30)	(1.30)	(2.00)	一部欠損
368	72	磨製石斧	－	－	ホルンフェルス	(13.8)	(6.65)	4.20	(469.80)	刃部欠損
369	73	磨製石斧	－	－	ハンレイ岩	(14.0)	(6.30)	3.00	(388.60)	刃部欠損
370	725	石核	E12	Ⅲ	黒曜石(姫島)	8.6	20	6.9	825.00	
371	717	磨製石斧	E12	Ⅲ	蛇紋岩	(8.30)	6.40	(1.80)	(129.7)	基部欠損
372	157	磨製石斧	E9	Ⅲ	蛇紋岩	(6.60)	(6.20)	2.10	(105.6)	基部欠損
373	23	磨製石斧	D12	Ⅲ	ホルンフェルス	10.00	5.60	3.45	276.70	
374	22	石錘	E9	Ⅲ	砂岩	5.60	6.20	2.15	93.42	
375	79	敲石	E9	－	凝灰岩	3.65	2.45	2.10	25.90	
376	28	磨石	E12	Ⅲ	砂岩	8.60	8.60	4.55	443.30	
377	78	敲石	E8	Ⅲ	砂岩	9.95	9.05	4.80	588.30	磨石としても使用
378	27	磨石	F10	Ⅲ	尾鈴山酸性岩	10.95	9.85	4.75	789.00	
379	25	敲石	－	Ⅲ	尾鈴山酸性岩	6.65	3.90	3.30	128.80	
380	76	磨石	C14	－	尾鈴山酸性岩	6.65	6.35	4.15	249.70	
381	26	磨石	－	Ⅲ	砂岩	12.65	11.05	4.70	998.40	
382	24	礫器	－	Ⅲ	砂岩	22.80	8.60	4.50	1060.70	

(　　)の値は残存値を示す

SI-21《轟B式土器出土》

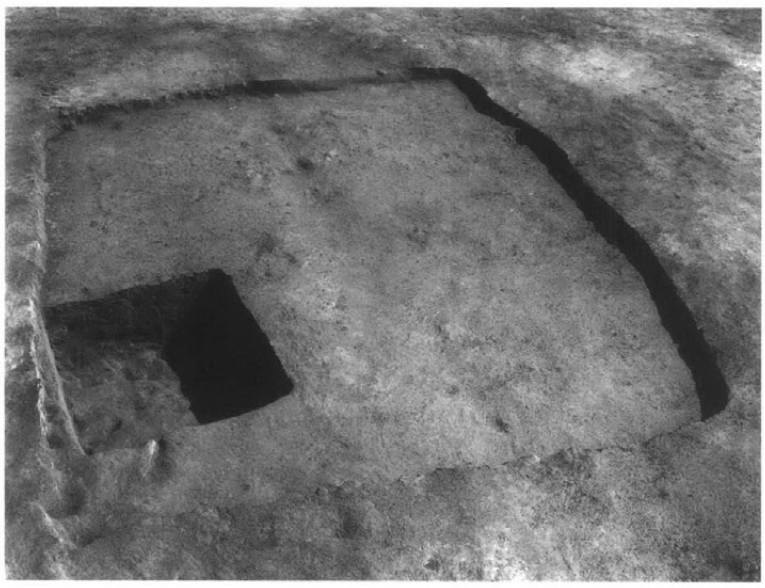
SI-22《^{14}C年代：3460±50年BP》

SC-195《遺物出土状況》

写真図版17　アカホヤ火山灰層上位検出遺構①

SA-1《壁帯溝断面》

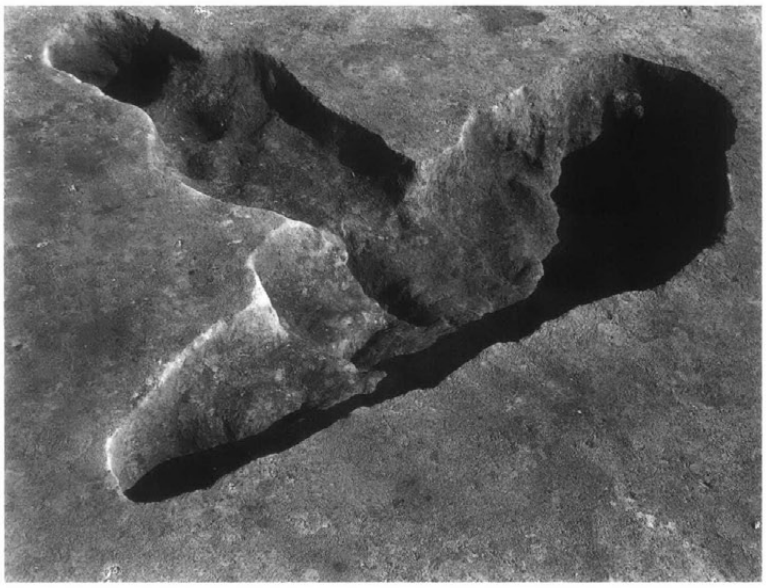
SA-1《完掘状況＝貼床除去》



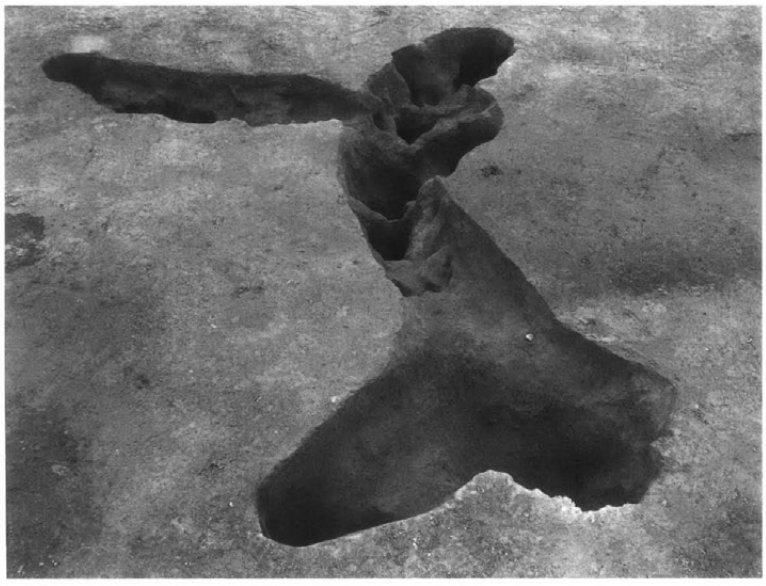
SA-2《完掘状況＝貼床除去》

写真図版18　アカホヤ火山灰層上位検出遺構②

SC-129
《端部にピットを有する土坑①＝単独》

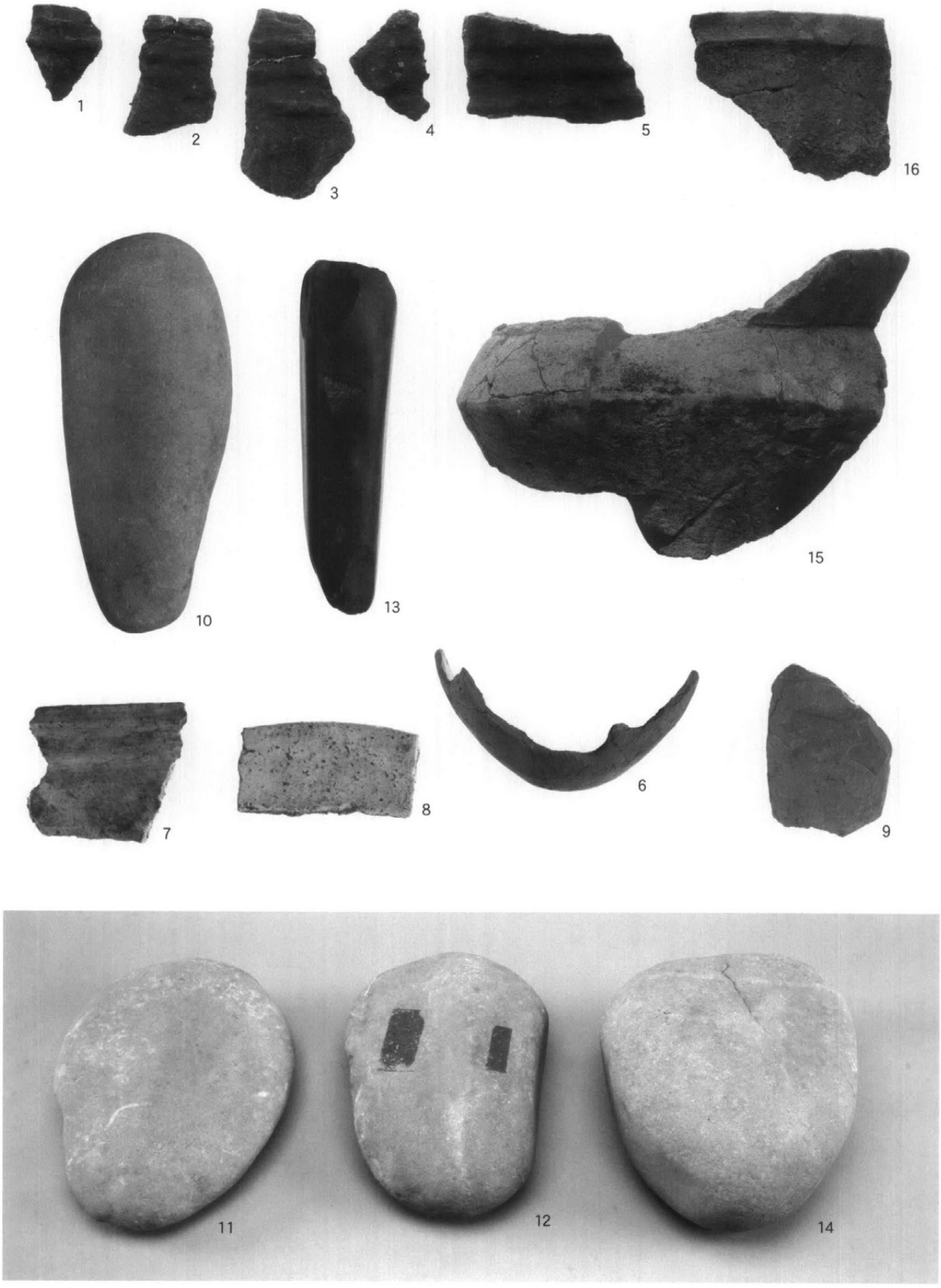


SC-102・103
《端部にピットを有する土坑②＝2基》

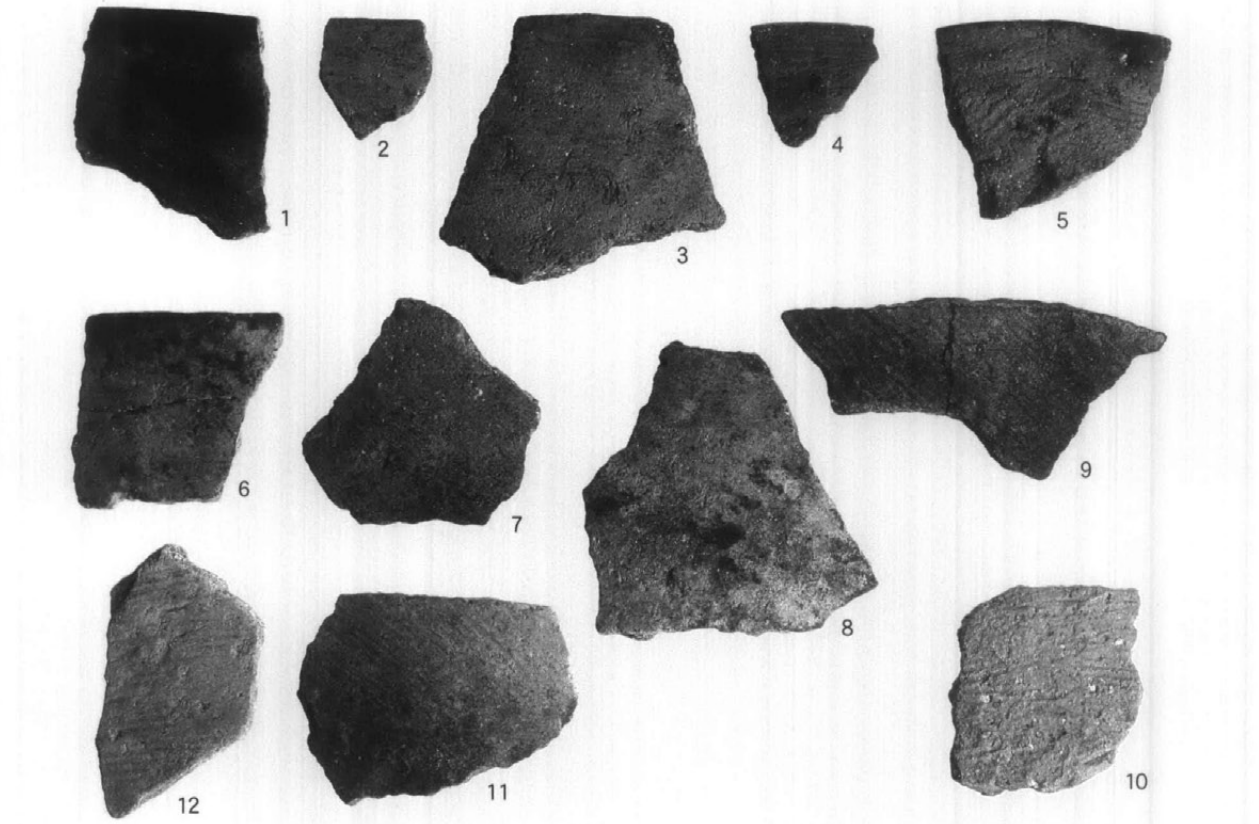


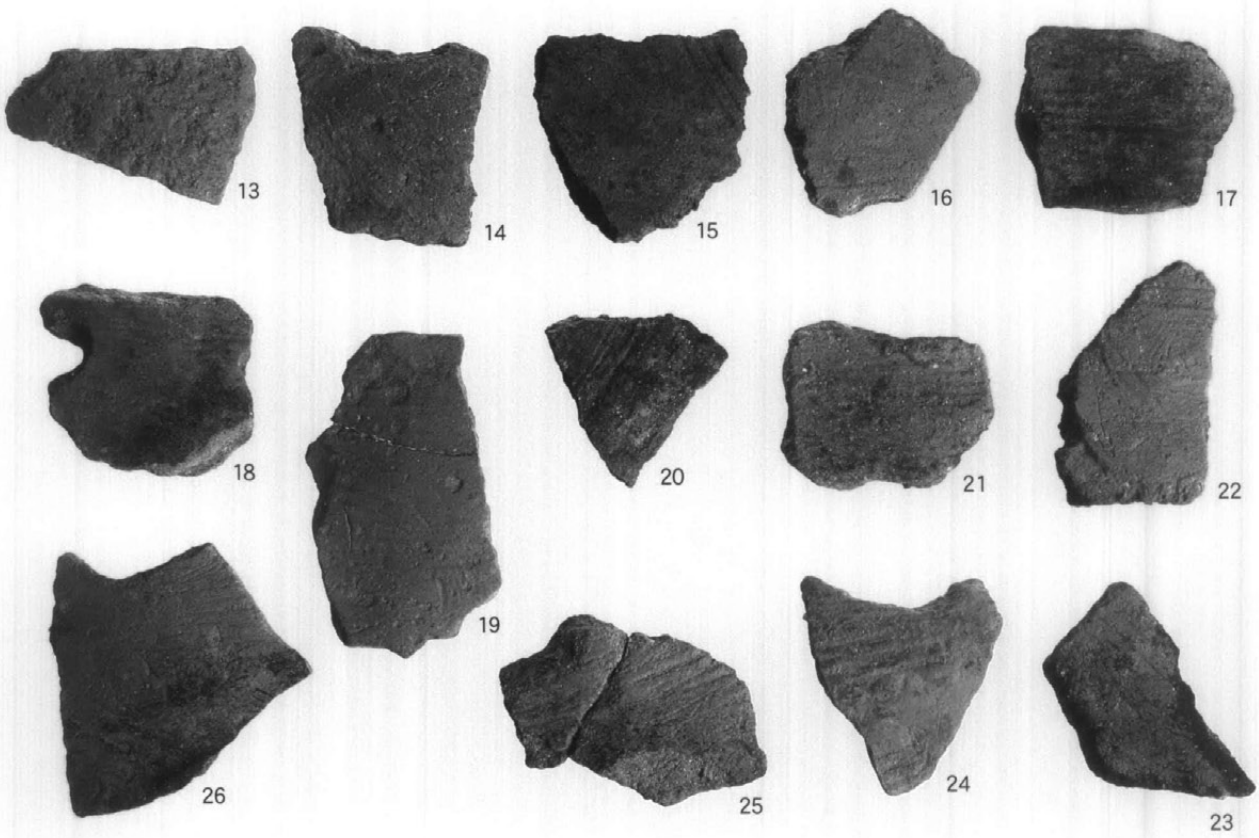
SC-94～99・157・158
《端部にピットを有する土坑③＝複数》

写真図版19　アカホヤ火山灰層上位検出遺構③

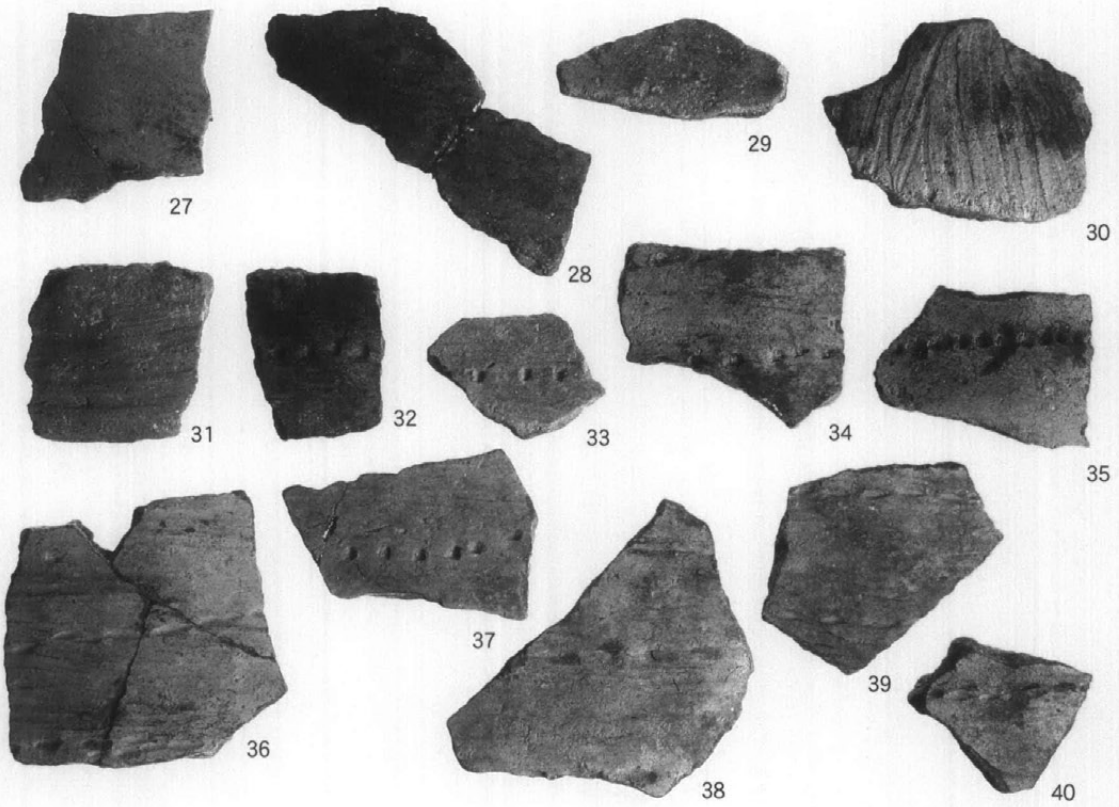


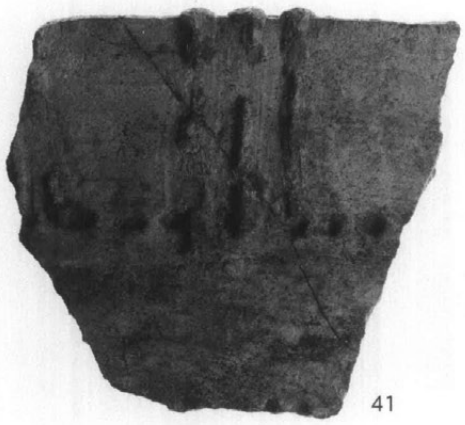
写真図版20　アカホヤ火山灰層上位検出遺構内出土遺物

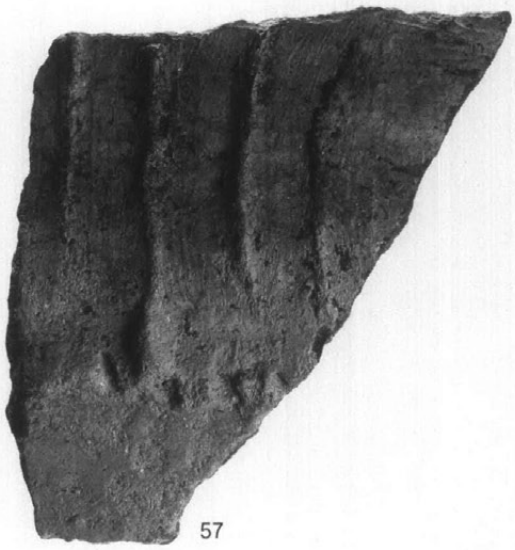




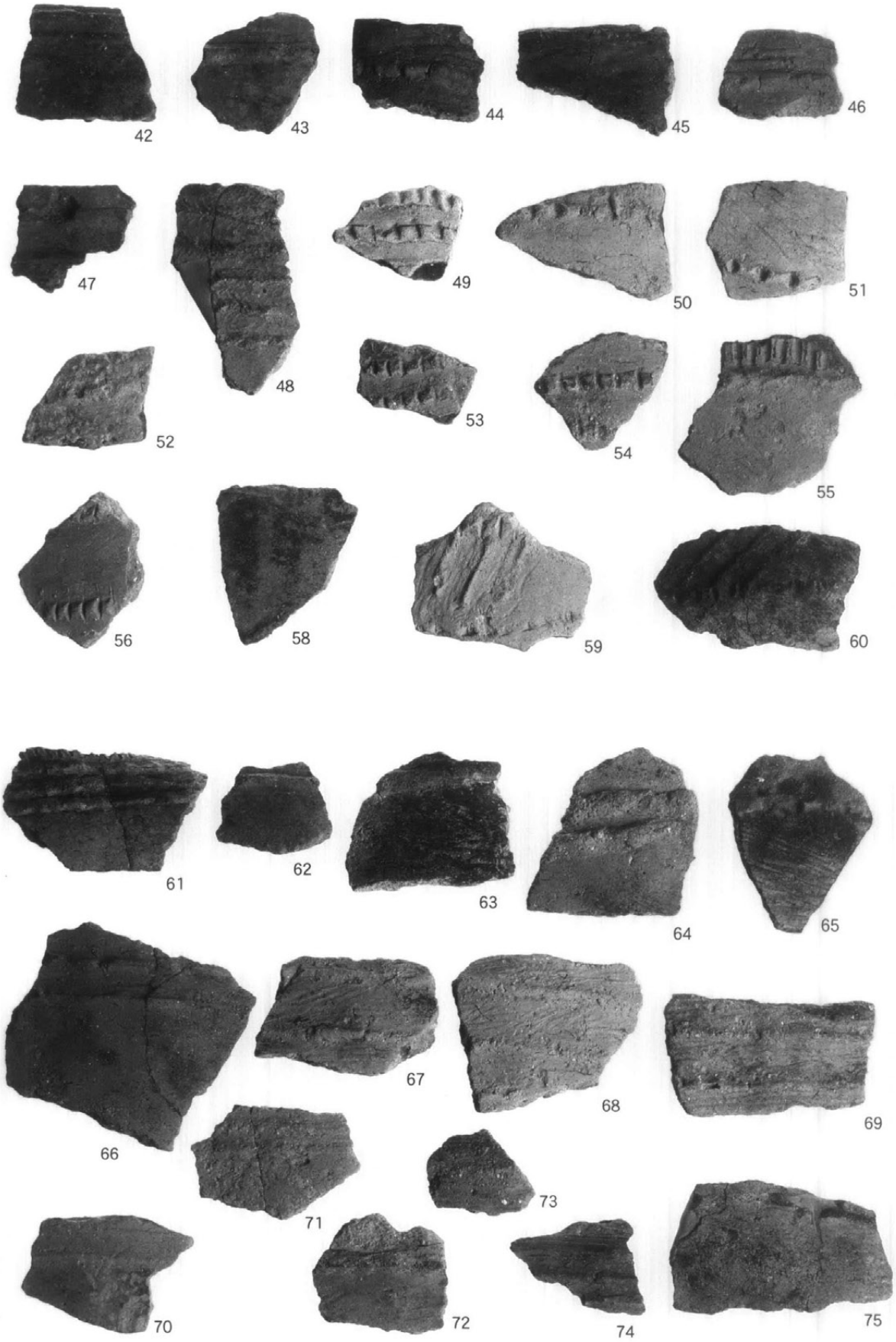
写真図版21　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器①



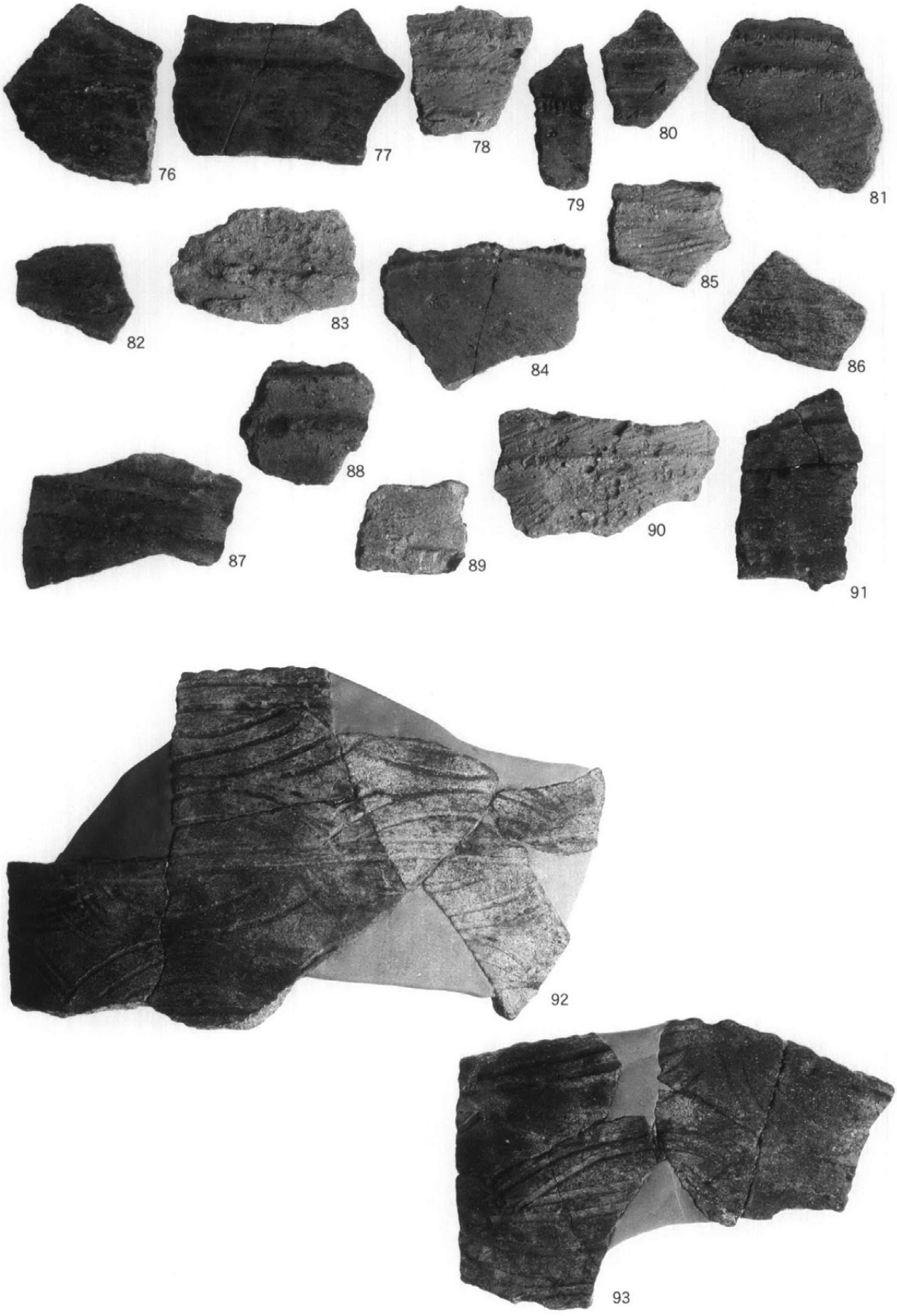




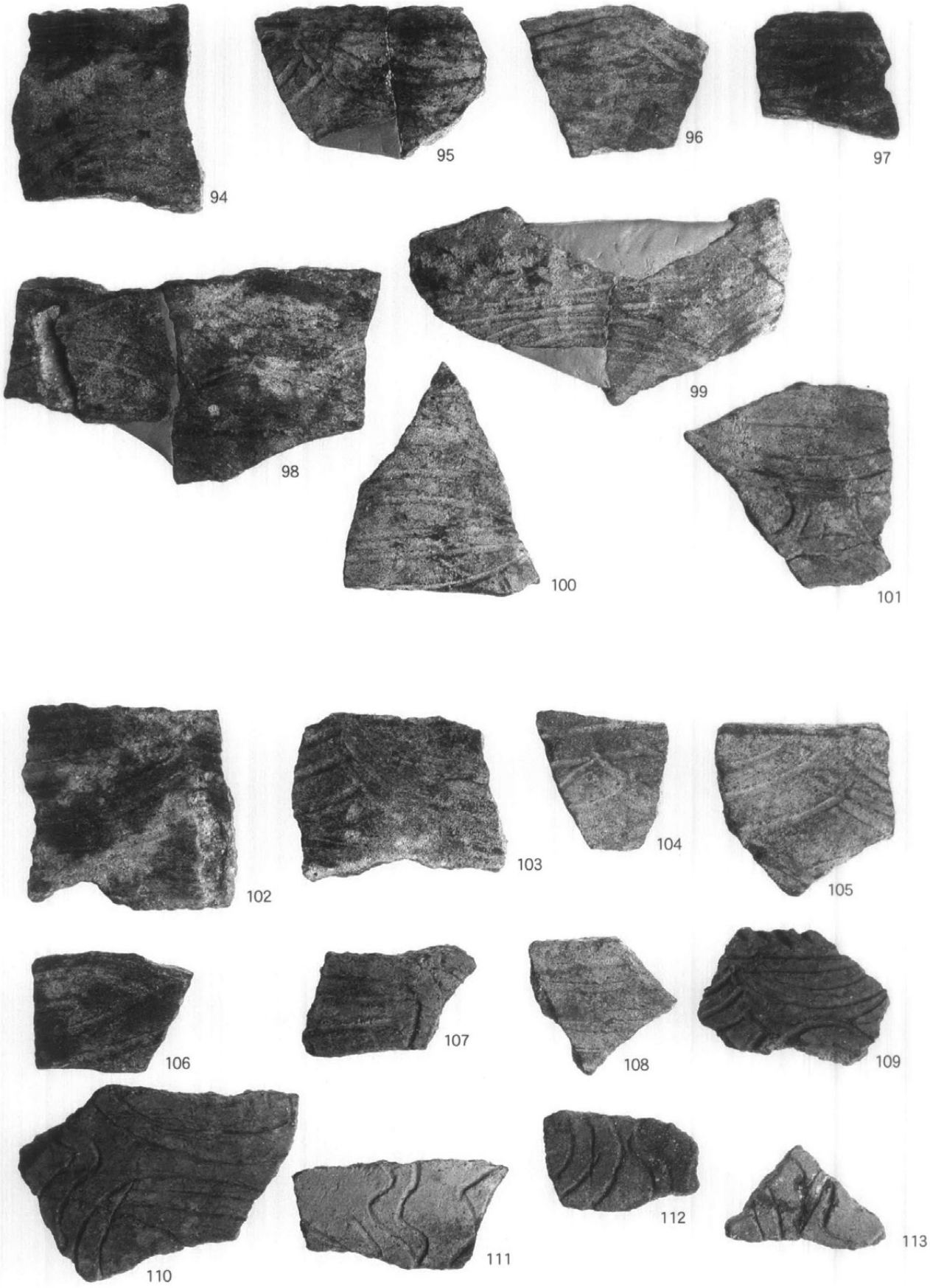
写真図版22　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器②



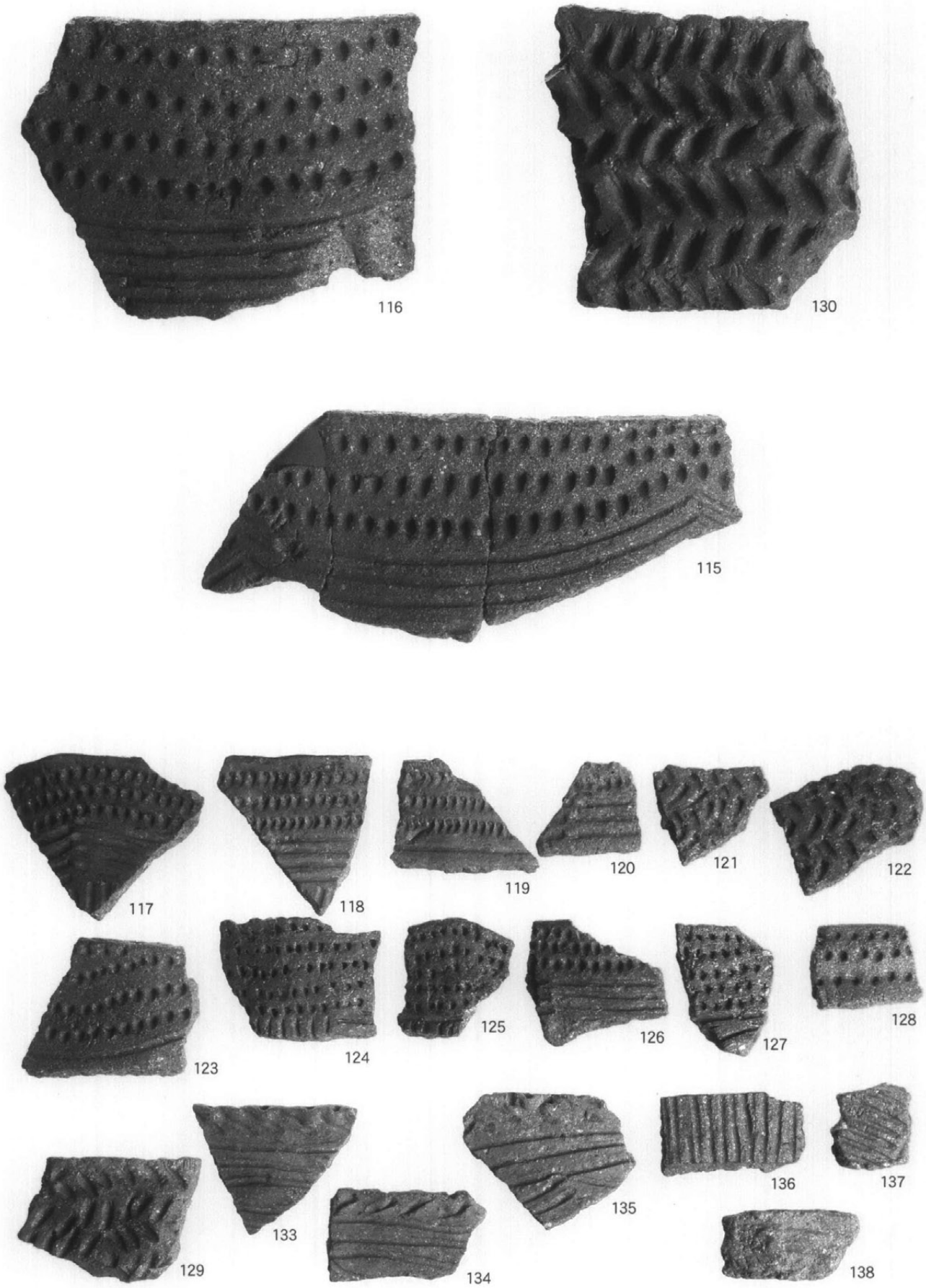
写真図版23　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器③



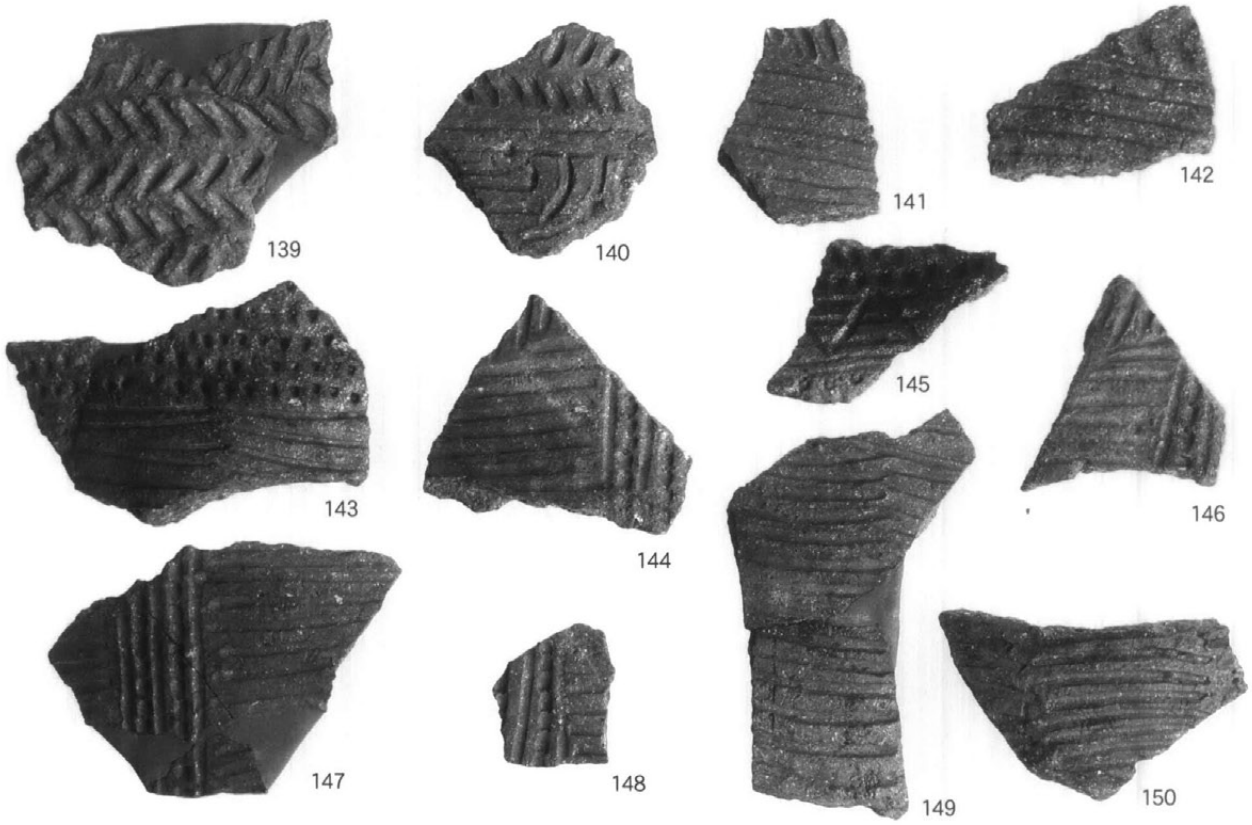
写真図版24　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器④

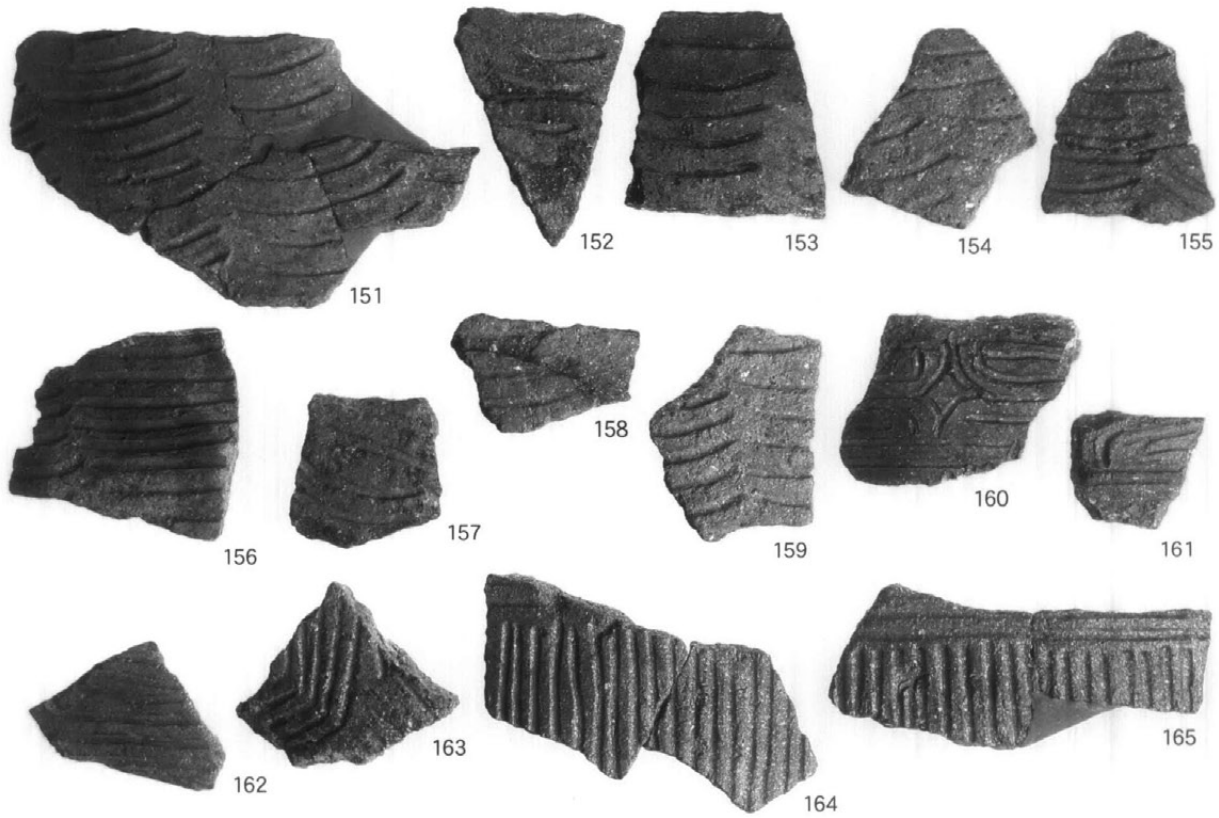


写真図版25　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑤

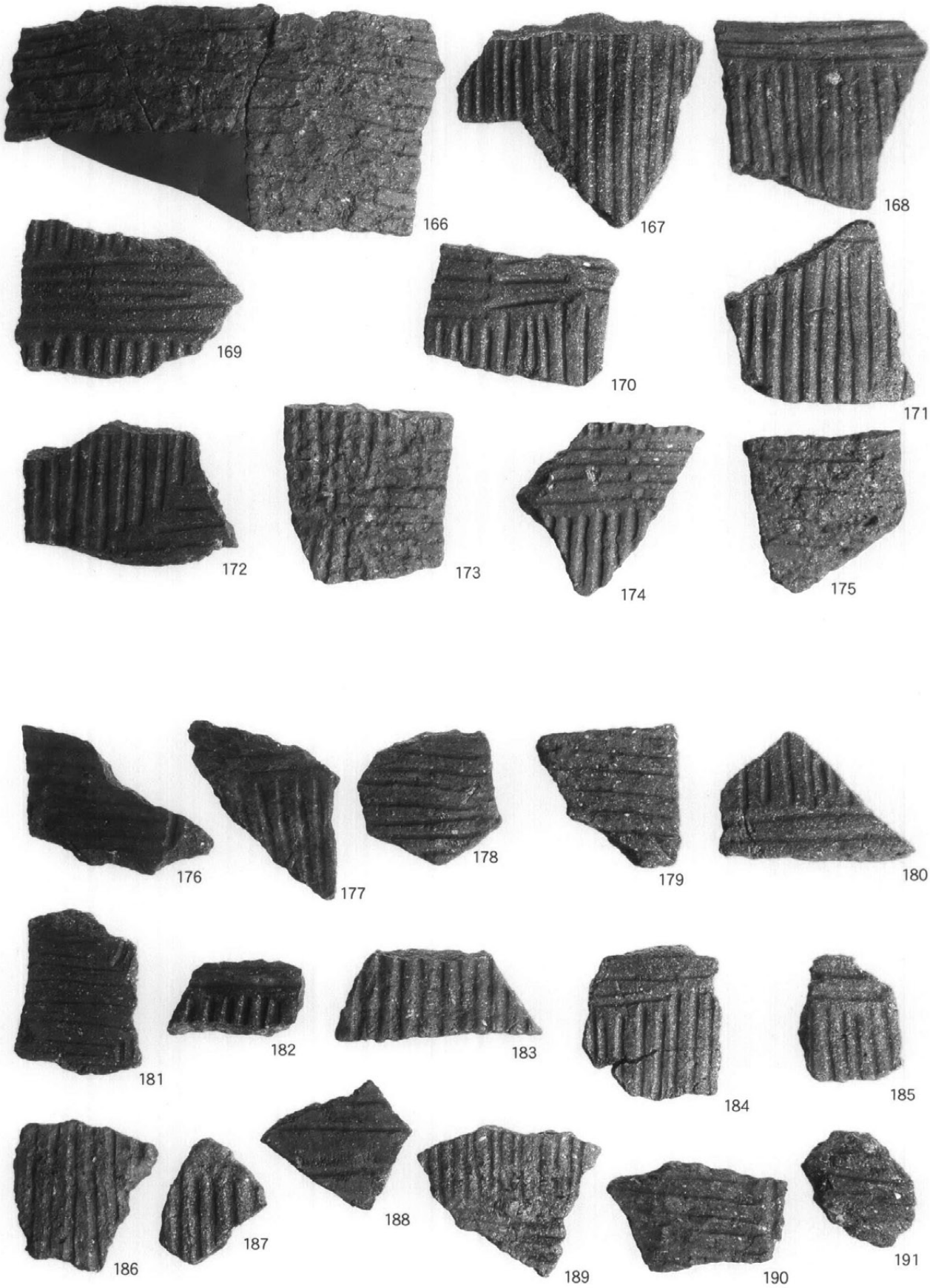


写真図版26　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑥

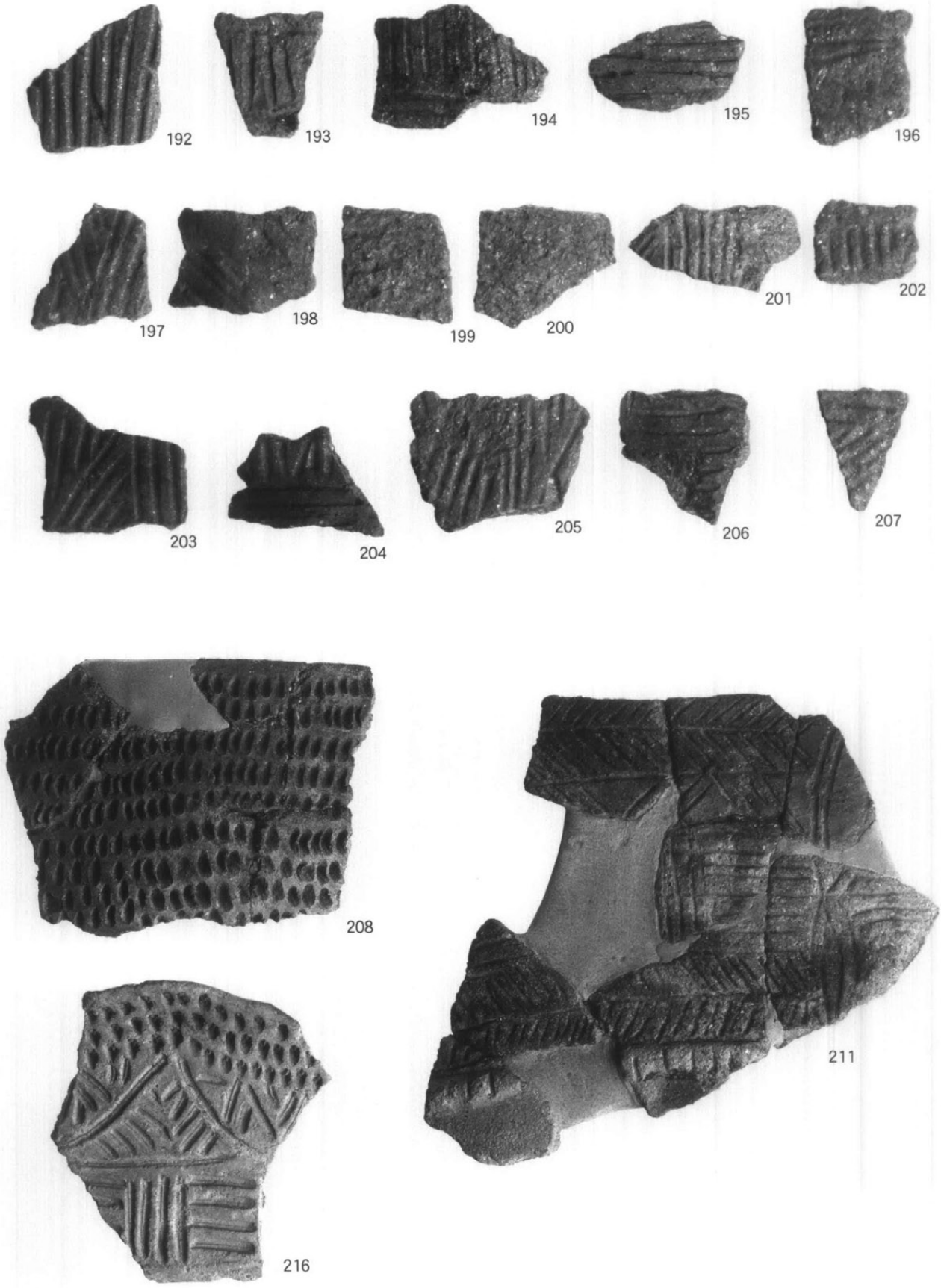




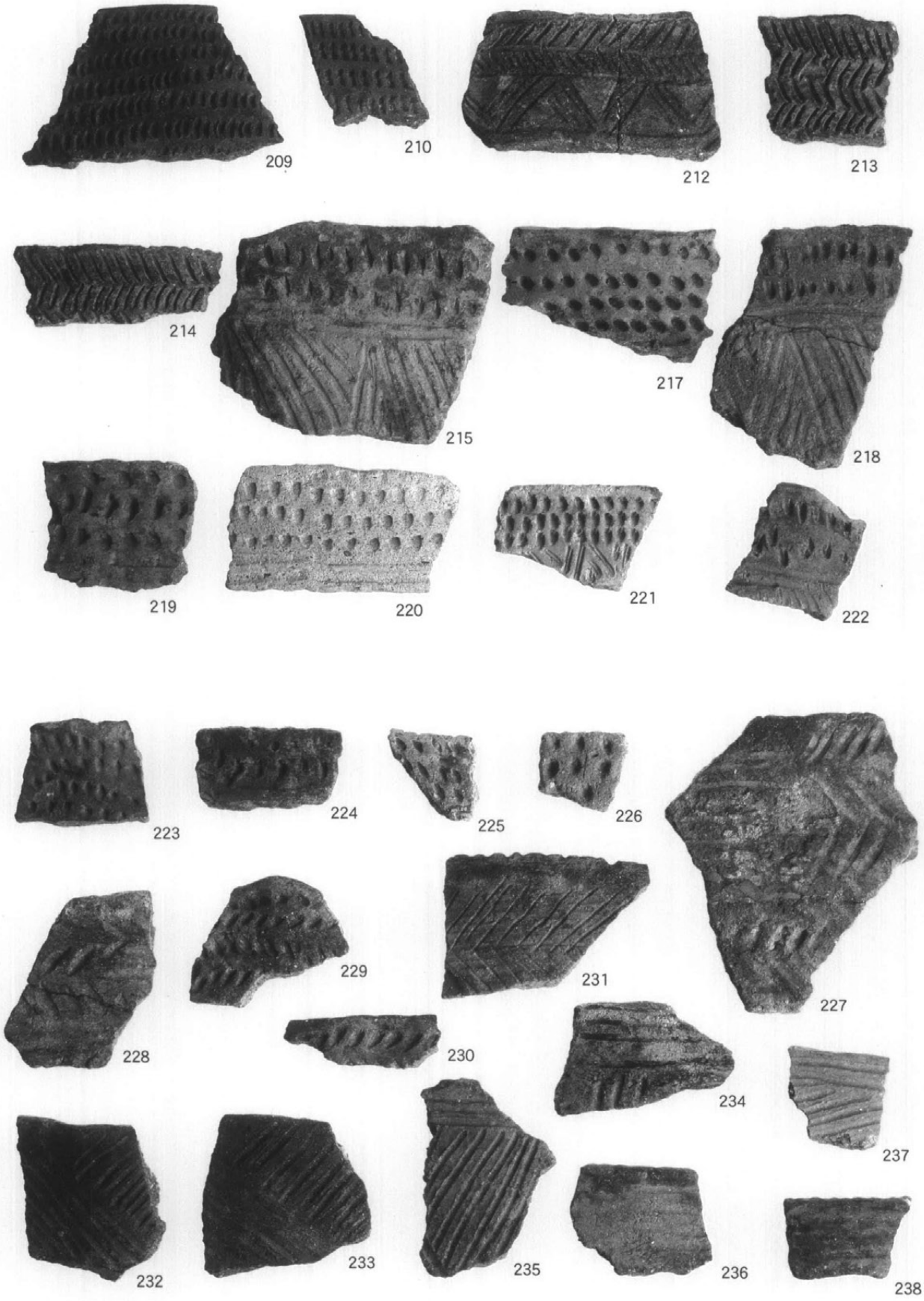
写真図版27　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑦



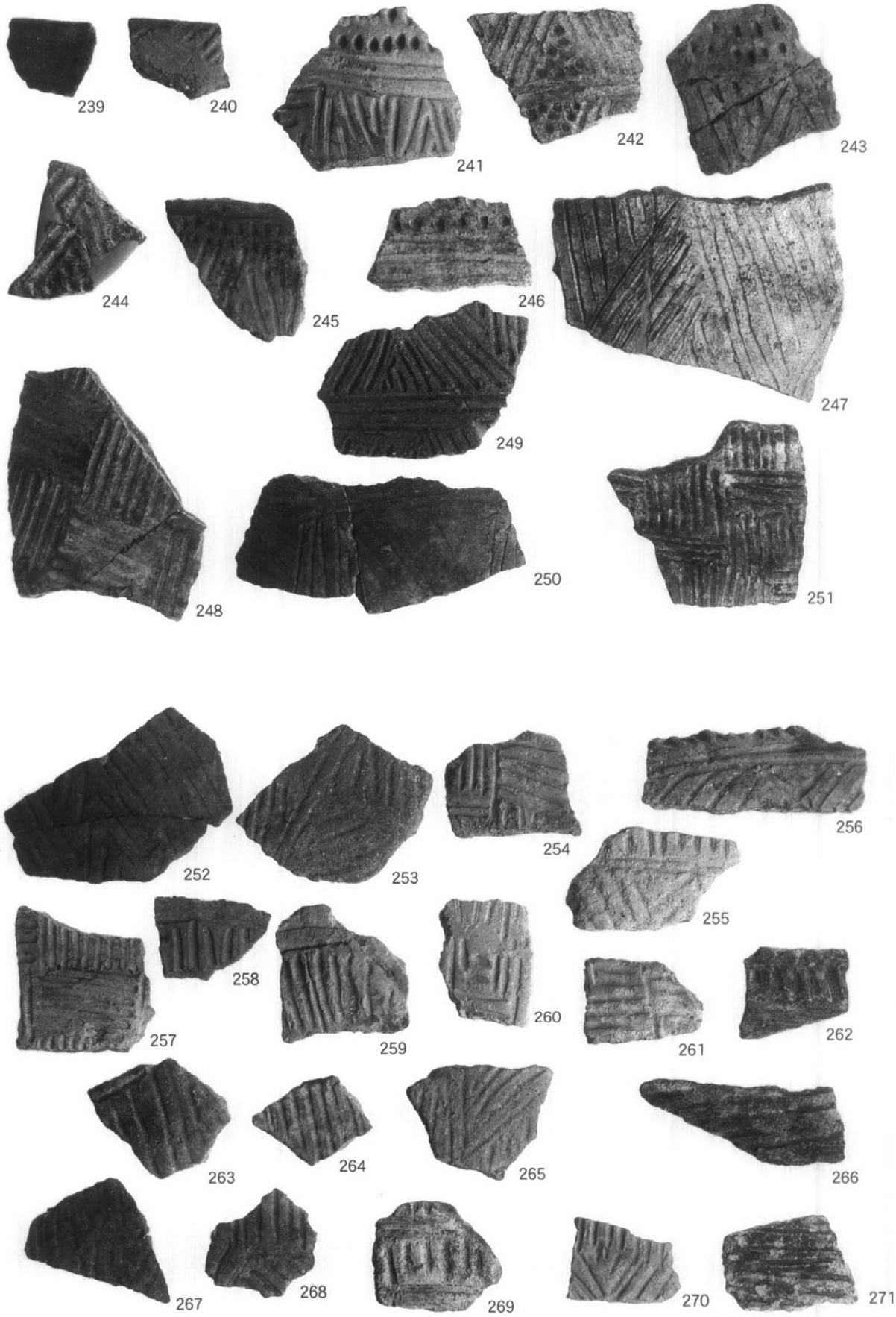
写真図版28　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑧



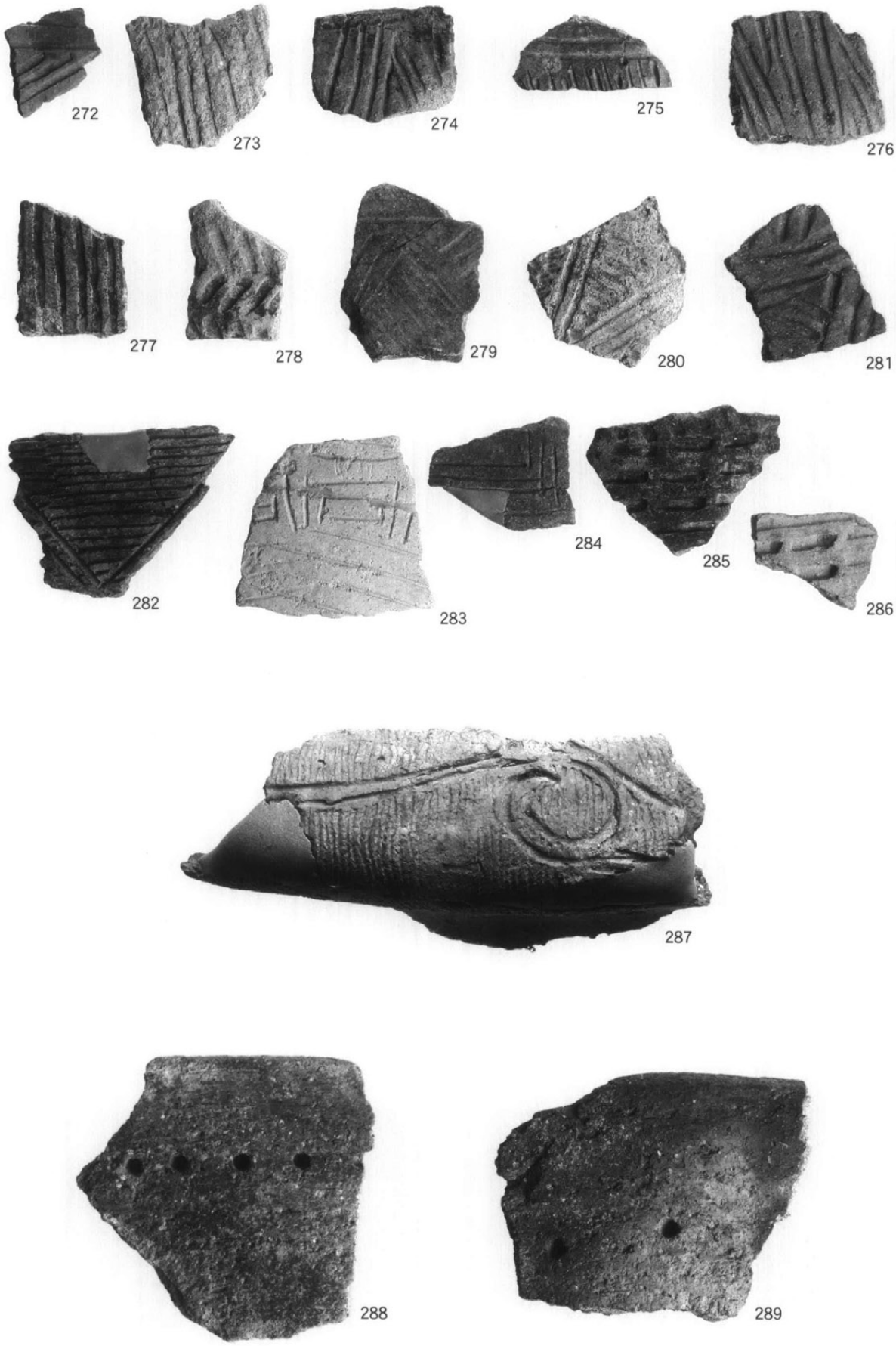
写真図版29　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑨



写真図版30　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑩



写真図版31　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑪



写真図版32　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器⑫